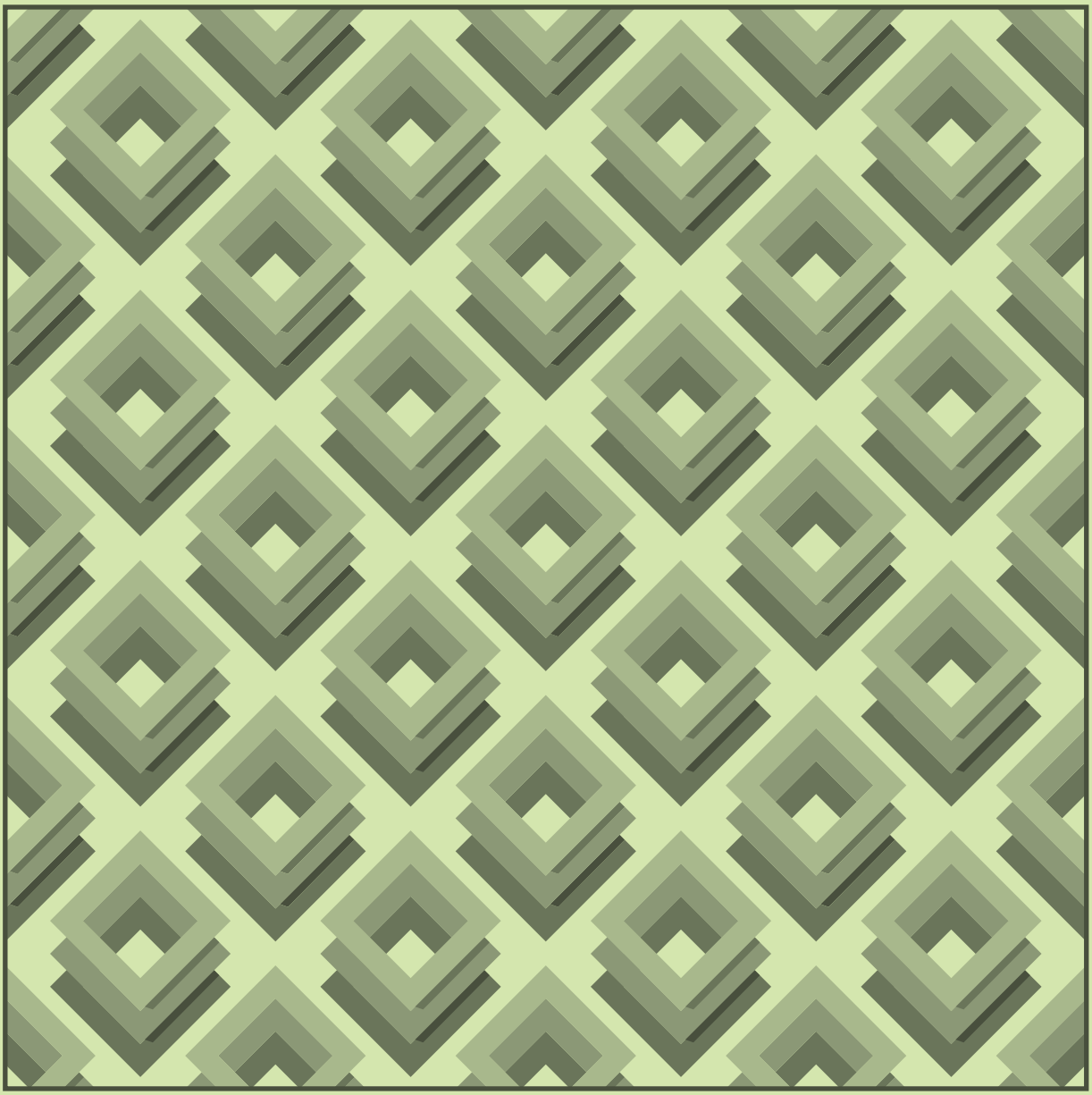
2015年度

シラバス

経済学部



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度

06年度以降‥‥2006年度～2015年度入学者
13年度以降‥‥2013年度～2015年度入学者
12年度以前‥‥2006年度～2012年度入学者

②入学年度に対応した科目名

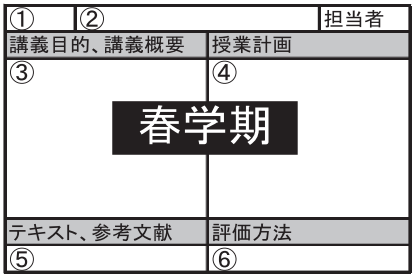
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

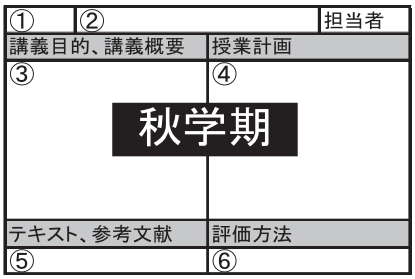
④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法





3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。
各科目の定員は、『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

2006～2012年度入学者用
経 済 学 科

＜＜学科基礎科目＞＞

◇外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	担当教員		外 養 法	28
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	担当教員		外 養 法	28
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外 養 法	29

◇経済・経営入門◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可	ページ
大学入門講座	春	内倉 滋	土2	営 外 養 法	30
クラスセミナー〈08年度以降入学者のみ〉	春	各担当教員	水1	外 養 法	31
クラスセミナー〈08年度以降入学者のみ〉	秋	浜本 光紹	水1	外 養 法	31
経済学a	春	黒木 亮	月1	営 外 養 法	32
経済学b	秋	黒木 亮	月1	営 外 養 法	32
経済学a	春	浜本 光紹	火4	営 外 養 法	33
経済学b	秋	浜本 光紹	火4	営 外 養 法	33
統計学a	春	深江 敬志	金3	営 外 養 法	34
統計学b	秋	深江 敬志	金3	営 外 養 法	34
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外 養 法	35
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外 養 法	35
プレゼンテーション技法	秋	松田 源立	木1		36
経営学a	春	岡部 康弘	水1	営 外 養 法	103
経営学b	秋	有吉 秀樹	水1	営 外 養 法	102
簿記原理a	春	大坪 史治	火1		37
簿記原理b	秋	大坪 史治	火1		37
簿記原理a	春	香取 徹	火1		38
簿記原理b	秋	香取 徹	火1		38
簿記原理a	春	山﨑 尚	火1		39
簿記原理b	秋	山﨑 尚	火1		39
簿記原理a	春	内倉 滋	木2		40
簿記原理b	秋	内倉 滋	木2		40
簿記原理a	春	細田 哲	木2		41
簿記原理b	秋	細田 哲	木2		41
簿記原理a	春	湯田 雅夫	木2		42
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	木2		42

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	金1	外 養 法	44
数学b	秋	高木 悟	金1	外 養 法	44
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1	法	45
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1	法	45
精神衛生論a	春	中野 隆史	火4		46
精神衛生論b	秋	中野 隆史	火4		46
医療・福祉概論a	春	山岡 淳	水2	法	47
医療・福祉概論b	秋	山岡 淳	水2	法	47
現代文化論a	春	柴崎 信三	木2	外 養 法	48
現代文化論b	秋	柴崎 信三	木2	外 養 法	48

＜＜学科専門科目＞＞

◇経済外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可	ページ
経済外国語Ⅰa	春	山越 徳	火2	営 外 養 法	49
経済外国語Ⅰb	秋	山越 徳	火2	営 外 養 法	49

経済外国語Ⅰa	秋	山﨑　尚	火3	営	外	養	法	50
経済外国語Ⅰb	春	山﨑　尚	火3	営	外	養	法	50
外書講読a(中国語)	春	全　載旭	木1		外	養	法	51
外書講読b(中国語)	秋	全　載旭	木1		外	養	法	51

◇経済理論・経済学史◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月1	営			52
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月1	営			52
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	営			53
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	営			53
マクロ経済学a	春	須藤　時仁	火2	営			54
マクロ経済学b	秋	須藤　時仁	火2	営			54
ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月3	営			55
ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月3	営			55
ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火1	営			56
ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火1	営			56
ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	営			57
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	営			57
経済学史a	春	黒木　亮	木2				58
経済学史b	秋	黒木　亮	木2				58
経済変動論a	春	山下　裕歩	月3				59
経済変動論b	秋	山下　裕歩	月3				59
経済社会学a	春	森永　卓郎	火1				60
経済社会学b	秋	森永　卓郎	火1				60
経済哲学a〈07年度以前入学者のみ〉		本年度休講					
経済哲学b〈07年度以前入学者のみ〉		本年度休講					
経済思想a<08～12年度入学者のみ>		本年度休講					
経済思想b<08～12年度入学者のみ>		本年度休講					
ゲーム理論a	春	藤山　英樹	水2				61
ゲーム理論b	秋	藤山　英樹	水2				61

◇経済統計・計量経済◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
経済統計論a	春	深江　敬志	金4				62
経済統計論b	秋	深江　敬志	金4				62
計量経済学a	春	藤山　英樹	月1				63
計量経済学b	秋	藤山　英樹	月1				63

◇経済政策◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
経済政策論a	春	童　適平	火4	営		法	64
経済政策論b	秋	童　適平	火4	営		法	64
経済開発論a	春	高安　健一	火2				65
経済開発論b	秋	高安　健一	火2				65
環境政策論a	春	塩田　尚樹	水1			法	66
環境政策論b	秋	塩田　尚樹	水1			法	66

◇経済史◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
日本経済史a	春	市原　博	月4	営			67
日本経済史b	秋	市原　博	月4	営			67
日本社会史a	春	新井　孝重	火5				68
日本社会史b	秋	新井　孝重	火5				68
東洋経済史a		本年度休講					
東洋経済史b		本年度休講					
西洋経済史a	春	御園生　眞	火1				69
西洋経済史b	秋	御園生　眞	火1				69

◇国際経済◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
国際経済論a	春	益山　光央	火2	営	養	法	70
国際経済論b	秋	益山　光央	火2	営	養	法	70
国際金融論a	春	徳永　潤二	火2			法	71
国際金融論b	秋	徳永　潤二	火2			法	71

◇地域経済◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
日本経済論a	春	須藤　時仁	木5	営	養	法	72
日本経済論b	秋	須藤　時仁	木5	営	養	法	72
アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	月4				73
アメリカ経済論b	秋	宮﨑　礼二	月4				73
ラテンアメリカ経済論a	春	中村　久美	金3				74
ラテンアメリカ経済論b	秋	中村　久美	金3				74
西ヨーロッパ経済論a	春	漆畑　春彦	金4				75
西ヨーロッパ経済論b	秋	漆畑　春彦	金4				75
東ヨーロッパ経済論a		本年度休講					
東ヨーロッパ経済論b		本年度休講					
東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	水2				76
東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	水2				76
オセアニア経済論a	春	加賀爪　優	金4				77
オセアニア経済論b	秋	加賀爪　優	金4				77
アフリカ経済論a	春	佐野　康子	木1				78
アフリカ経済論b	秋	佐野　康子	木1				78
東南アジア経済論a	春	高安　健一	金1		養		79
東南アジア経済論b	秋	高安　健一	金1		養		79
中東経済論a	春	平井　文子	金2				80
中東経済論b	秋	平井　文子	金2				80

◇金融経済◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
金融経済論a	春	西尾　夏雄	水1	営			81
金融経済論b	秋	西尾　夏雄	水1	営			81
金融システム論a	春	漆畑　春彦	金5				82
金融システム論b	秋	漆畑　春彦	金5				82

◇財政◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
財政学a	春	野村　容康	木3	営		法	83
財政学b	秋	野村　容康	木3	営		法	83
公共経済学a	春	高畑　純一郎	木1				84
公共経済学b	秋	高畑　純一郎	木1				84
地方財政論a	春	島村　玲雄	金2			法	85
地方財政論b	秋	島村　玲雄	金2			法	85

◇環境・都市・経済地理◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
環境経済学a	春	浜本　光紹	火2				86
環境経済学b	秋	浜本　光紹	火2				86
都市経済学a	春	倉橋　透	金1			法	87
都市経済学b	秋	倉橋　透	金1			法	87
経済地理学a	春	犬井　正	月2				88
経済地理学b	秋	犬井　正	月2				88
交通経済論a		本年度休講					
交通経済論b		本年度休講					

◇産業経済◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可			ページ
産業政策論a	春	中藤　泉	月2				89
産業政策論b	秋	中藤　泉	月2				89

産業組織論a	春	和久津　尚彦	土2	営		90
産業組織論b	秋	和久津　尚彦	土2	営		90
産業構造論a	春	山越　徳	木1			91
産業構造論b	秋	山越　徳	木1			91

◇労働・社会保障◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可		ページ
社会保障論a	春	山岡　淳	水1			92
社会保障論b	秋	山岡　淳	水1			92
労働経済学a	春	森永　卓郎	木1			93
労働経済学b	秋	森永　卓郎	木1			93

<<関連専門科目>>

◇経営・会計◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可		ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火5	営		94
経営学原理b	秋	黒川　文子	火5	営		94
経営学原理a	春	岡部　康弘	金2	営		95
経営学原理b	秋	岡部　康弘	金2	営		95
企業論a	春	平井　岳哉	金2	営		96
企業論b	秋	河村　徳士	金2	営		96
会計学a	春	内倉　滋	木3	営	法	97
会計学b	秋	内倉　滋	木3	営	法	97

◇統計・情報科学◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可		ページ
応用統計学a	春	樋田　勉	火1	営		135
応用統計学b	秋	樋田　勉	火1	営		135
標本調査論a	春	大床　太郎	金2	営		136
標本調査論b	秋	大床　太郎	金2	営		136
データベース論a※	春	長　慎也	月4	営		137
データベース論b※	秋	長　慎也	月4	営		137
データベース論a※	春	黄　海湘	水3	営		138
データベース論b※	秋	黄　海湘	水3	営		138
コンピュータシミュレーション論a※	春	市川　新	月4	営		139
コンピュータシミュレーション論b※	秋	市川　新	月4	営		139
マルチメディア論a※	春	柏原　賢二	火3	営		140
マルチメディア論b※	秋	柏原　賢二	火3	営		140
マルチメディア論a※	春	立田　ルミ	水2	営		141
マルチメディア論b※	秋	立田　ルミ	水2	営		141
マルチメディア論a※	春	大和田　勇人	金2	営		142
マルチメディア論b※	秋	大和田　勇人	金2	営		142
プログラミング論a※	春	加藤　尚吾	月3	営		145
プログラミング論b※	秋	加藤　尚吾	月3	営		145
プログラミング論a※	春	米谷　雄介	月3	営		146
プログラミング論b※	秋	米谷　雄介	月3	営		146
プログラミング論a※	春	柏原　賢二	火2	営		147
プログラミング論b※	秋	柏原　賢二	火2	営		147
プログラミング論a※	春	立田　ルミ	水1	営		148
プログラミング論b※	秋	立田　ルミ	水1	営		148

※a,bセット履修

◇政治・法律◇

科目名	開講学期	担当教員名		履修不可		ページ
法学a	春	大川　俊	水2	外　養　法		158
法学b	秋	木藤　茂	水2	外　養　法		158
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木2	外　養　法		159
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木2	外　養　法		159
民法a	春	納屋　雅城	金1	外　養　法		160
民法b	秋	納屋　雅城	金1	外　養　法		160
商法a	春	大川　俊	金1		法	161
商法b	秋	大川　俊	金1		法	161

◇総合講座・特殊講義◇

科目名	開講学期	担当教員名	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3	163
総合講座b	秋	経済学部	水3	163
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4	164
特殊講義a(宇宙・深海への旅と生物多様性)	春	山根　一眞	月3	165
特殊講義b(宇宙・深海への旅と生物多様性)	秋	山根　一眞	月3	165
特殊講義a(金融資産運用論)	春	山崎　元	木3	166
特殊講義a(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木3	166
特殊講義b(金融資産運用論)	春	山崎　元	木5	167
特殊講義b(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木5	167
特殊講義a(農業経済学)	春	加賀爪　優	金3	168
特殊講義b(農業経済学)	秋	加賀爪　優	金3	168
特殊講義a(環境ビジネス論)	春	山根　一眞	月2	226
特殊講義b(環境ビジネス論)	秋	山根　一眞	月2	226
特殊講義a(リスク・マネジメント論)	春	岡村　国和	月3	205
特殊講義b(リスク・マネジメント論)	秋	岡村　国和	月3	205
特殊講義a(地球環境論)	春	中村　健治	火1	201
特殊講義b(地球環境論)	秋	中村　健治	火1	201
特殊講義b(地域活性化論)	秋	尾羽沢　信一	水3	215
特殊講義a(ソーシャル・ビジネス論)	春	尾羽沢　信一	水4	223
特殊講義b(ソーシャル・ビジネス論)	秋	尾羽沢　信一	水4	223
特殊講義a(国際公共政策論)	春	木原　隆司	木3	229
特殊講義b(国際公共政策論)	秋	木原　隆司	木3	229
特殊講義a(地域生態論)	春	犬井　正	金2	225
特殊講義b(地域生態論)	秋	犬井　正	金2	225
特殊講義a(国際開発論)	春	木原　隆司	金2	230
特殊講義b(国際開発論)	秋	木原　隆司	金2	230
特殊講義a(国際NPO論)	春	長瀬　理英	金5	232
特殊講義b(国際NPO論)	秋	長瀬　理英	金5	232

◇外国人学生・帰国学生(特別入試入学者)について◇

科目名	開講学期	担当教員名	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生(特別入試入学者)の授業科目履修について				27

2006～2012年度入学者用
経 営 学 科

＜＜学科基礎科目＞＞

◇外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	担当教員		外 養 法	28
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	担当教員		外 養 法	28
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外 養 法	29

◇経営・経済入門◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
大学入門講座	春	内倉 滋	土2	済 外 養 法	30
クラスセミナー〈08年度以降入学者のみ〉	春	各担当教員	水1	外 養 法	31
クラスセミナー〈08年度以降入学者のみ〉	秋	浜本 光紹	水1	外 養 法	31
経営学a	春	陰山 孔貴	火2	済 外 養 法	98
経営学b	秋	陰山 孔貴	火2	済 外 養 法	98
経営学a	春	小林 哲也	火2	済 外 養 法	99
経営学b	秋	小林 哲也	火2	済 外 養 法	99
経営学a	春	鈴木 淳	火2	済 外 養 法	100
経営学b	秋	鈴木 淳	火2	済 外 養 法	100
経営学a	春	平井 岳哉	火2	済 外 養 法	101
経営学b	秋	高橋 清美	火2	済 外 養 法	101
経営学a	春	有吉 秀樹	水1	済 外 養 法	102
経営学b	秋	岡部 康弘	水1	済 外 養 法	103
経営学a	春	上坂 卓郎	水1	済 外 養 法	104
経営学b	秋	上坂 卓郎	水1	済 外 養 法	104
経営学a	春	高松 和幸	水1	済 外 養 法	105
経営学b	秋	高松 和幸	水1	済 外 養 法	105
簿記原理b	春	山﨑 尚	火4		39
簿記原理a	秋	山﨑 尚	火4		39
簿記原理a	春	橋本 尚	火5		43
簿記原理b	秋	橋本 尚	火5		43
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外 養 法	35
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外 養 法	35
プレゼンテーション技法	秋	松田 源立	木1		36
経済学a	春	黒木 亮	月1	済 外 養 法	32
経済学b	秋	黒木 亮	月1	済 外 養 法	32
経済学a	春	浜本 光紹	火4	済 外 養 法	33
経済学b	秋	浜本 光紹	火4	済 外 養 法	33
統計学a	春	深江 敬志	金3		34
統計学b	秋	深江 敬志	金3		34

◇関連科目◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	金1	外 養 法	44
数学b	秋	高木 悟	金1	外 養 法	44
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1	法	45
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1	法	45
精神衛生論a	春	中野 隆史	火4		46
精神衛生論b	秋	中野 隆史	火4		46
医療・福祉概論a	春	山岡 淳	水2	法	47
医療・福祉概論b	秋	山岡 淳	水2	法	47
現代文化論a	春	柴崎 信三	木2	外 養 法	48
現代文化論b	秋	柴崎 信三	木2	外 養 法	48

＜＜学科専門科目＞＞

◇経営外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語Ⅰa	春	山越　徳	火2	済　外　養　法	49
経営外国語Ⅰb	秋	山越　徳	火2	済　外　養　法	49
経営外国語Ⅰa	秋	山﨑　尚	火3	済　外　養　法	50
経営外国語Ⅰb	春	山﨑　尚	火3	済　外　養　法	50
外書講読a(中国語)	春	全　載旭	木1	外　養　法	51
外書講読b(中国語)	秋	全　載旭	木1	外　養　法	51

◇経営◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火5	済	94
経営学原理b	秋	黒川　文子	火5	済	94
経営学原理a	春	岡部　康弘	金2	済	95
経営学原理b	秋	岡部　康弘	金2	済	95
経営戦略論a	春	陰山　孔貴	月2		106
経営戦略論b	秋	陰山　孔貴	月2		106
経営管理論a	春	黒川　文子	木3		107
経営管理論b	秋	黒川　文子	木3		107
経営組織論a	春	高松　和幸	金3		108
経営組織論b	秋	高松　和幸	金3		108
経営財務論a	春	細田　哲	木1		109
経営財務論b	秋	細田　哲	木1		109
人的資源管理論a	春	岡部　康弘	火3		110
人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	火3		110
国際経営論a	春	小林　哲也	火1	法	111
国際経営論b	秋	小林　哲也	火1	法	111

◇経営史◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史a	春	御園生　眞	火4		112
経営史b	秋	御園生　眞	火4		112
日本経営史a	春	平井　岳哉	金3		113
日本経営史b	秋	河村　徳士	金3		113

◇商業◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		114
マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		114
広告論a	春	清水　公一	月3		115
広告論b	秋	清水　公一	月3		115
行動科学論a	春	有吉　秀樹	木4		116
行動科学論b	秋	有吉　秀樹	木4		116
保険論a	春	岡村　国和	木3		117
保険論b	秋	岡村　国和	木3		117
貿易論a	春	米山　昌幸	火2		118
貿易論b	秋	米山　昌幸	火2		118
証券市場論a	春	髙橋　元	木2		119
証券市場論b	秋	髙橋　元	木2		119

◇企業◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井　岳哉	金2	済	96
企業論b	秋	河村　徳士	金2	済	96
企業経済論a	春	和久津　尚彦	土1	済　外　養　法	120
企業経済論b	秋	和久津　尚彦	土1	済　外　養　法	120
ベンチャ-ビジネス論a	春	上坂　卓郎	火1		121
ベンチャ-ビジネス論b	秋	上坂　卓郎	火1		121

非営利組織マネジメント論a	春	高松　和幸	木2		122
非営利組織マネジメント論b	秋	高松　和幸	木2		122
企業文化論a		本年度休講			
企業文化論b		本年度休講			
研究・開発マネジメントa	春	鈴木　淳	金2		123
研究・開発マネジメントb	秋	鈴木　淳	金2		123

◇会計◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理a	春	内倉　滋	月1		124
会計学原理b	秋	内倉　滋	月1		124
財務会計論a	春	山﨑　尚	金2		125
財務会計論b	秋	山﨑　尚	金2		125
管理会計論a	春	香取　徹	火4		126
管理会計論b	秋	香取　徹	火4		126
社会会計論a	春	大坪　史治	火2		127
社会会計論b	秋	大坪　史治	火2		127
原価計算論a	春	大坪　史治	金4		128
原価計算論b	秋	大坪　史治	金4		128
会計監査論a	春	福薗　健	木1		129
会計監査論b	秋	福薗　健	木1		129
税務会計論a	春	平　仁	月4		130
税務会計論b	秋	平　仁	月4		130
経営分析論a		本年度休講			
経営分析論b		本年度休講			
上級簿記(工業)a	春	香取　徹	火3		131
上級簿記(工業)b	秋	香取　徹	火3		131
上級簿記(商業)a	春	細田　哲	金2		132
上級簿記(商業)b	秋	細田　哲	金2		132
国際会計論a	春	橋本　尚	火4		133
国際会計論b	秋	橋本　尚	火4		133

◇情報科学◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学a	春	大床　太郎	金1		134
経営数学b	秋	大床　太郎	金1		134
応用統計学a	春	樋田　勉	火1	済	135
応用統計学b	秋	樋田　勉	火1	済	135
標本調査論a	春	大床　太郎	金2	済	136
標本調査論b	秋	大床　太郎	金2	済	136
データベース論a※	春	長　慎也	月4	済	137
データベース論b※	秋	長　慎也	月4	済	137
データベース論a※	春	黄　海湘	水3	済	138
データベース論b※	秋	黄　海湘	水3	済	138
コンピュータシミュレーション論a※	春	市川　新	月4	済	139
コンピュータシミュレーション論b※	秋	市川　新	月4	済	139
マルチメディア論a※	春	柏原　賢二	火3	済	140
マルチメディア論b※	秋	柏原　賢二	火3	済	140
マルチメディア論a※	春	立田　ルミ	水2	済	141
マルチメディア論b※	秋	立田　ルミ	水2	済	141
マルチメディア論a※	春	大和田　勇人	金2	済	142
マルチメディア論b※	秋	大和田　勇人	金2	済	142
情報検索論a	春	福田　求	火3		143
情報検索論b	秋	福田　求	火3		143
情報検索論a	春	福田　求	水1		143
情報検索論b	秋	福田　求	水1		143
情報システム論a	春	今福　啓	火5		144
情報システム論b	秋	今福　啓	火5		144

プログラミング論a※	春	加藤　尚吾	月3	済		145
プログラミング論b※	秋	加藤　尚吾	月3	済		145
プログラミング論a※	春	米谷　雄介	月3	済		146
プログラミング論b※	秋	米谷　雄介	月3	済		146
プログラミング論a※	春	柏原　賢二	火2	済		147
プログラミング論b※	秋	柏原　賢二	火2	済		147
プログラミング論a※	春	立田　ルミ	水1	済		148
プログラミング論b※	秋	立田　ルミ	水1	済		148
情報社会論a	春	柴崎　信三	水3			149
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3			149
情報通信ネットワークb	春	三宅　真	木4			150
情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	金2			150
コンピュータネットワーク	春	松田　源立	木1			151
コンピュータアーキテクチャ	春	今福　啓	金2			152
情報と職業a	秋	小林　哲也	水2			153
情報と職業b		本年度休講				
アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2			154
アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2			154

※a,bセット履修

◇経営システム工学◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可		ページ
オペレーションズ・リサーチa	春	白井　裕	木1			155
オペレーションズ・リサーチb	秋	白井　裕	木1			155
システムズエンジニアリングa	春	広瀬　啓雄	月2			156
システムズエンジニアリングb	秋	広瀬　啓雄	月2			156
経営システム工学a	春	鈴木　淳	火4			157
経営システム工学b	秋	鈴木　淳	火4			157

<<関連専門科目>>

◇経済理論・経済政策◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可		ページ
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月1	済		52
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月1	済		52
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	済		53
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	済		53
マクロ経済学a	春	須藤　時仁	火2	済		54
マクロ経済学b	秋	須藤　時仁	火2	済		54
ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月3	済		55
ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月3	済		55
ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火1	済		56
ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火1	済		56
ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	済		57
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	済		57
経済政策論a	春	童　適平	火4	済	法	64
経済政策論b	秋	童　適平	火4	済	法	64

◇日本経済・国際経済◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可		ページ
日本経済論a	春	須藤　時仁	木5	済	養　法	72
日本経済論b	秋	須藤　時仁	木5	済	養　法	72
日本経済史a	春	市原　博	月4	済		67
日本経済史b	秋	市原　博	月4	済		67
国際経済論a	春	益山　光央	火2	済	養　法	70
国際経済論b	秋	益山　光央	火2	済	養　法	70

◇金融・財政◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可			ページ
金融経済論a	春	西尾　夏雄	水1	済			81
金融経済論b	秋	西尾　夏雄	水1	済			81
財政学a	春	野村　容康	木3	済		法	83
財政学b	秋	野村　容康	木3	済		法	83

◇政治・法律◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可			ページ
法学a	春	大川　俊	水2	外	養	法	158
法学b	秋	木藤　茂	水2	外	養	法	158
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木2	外	養	法	159
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木2	外	養	法	159
民法a	春	納屋　雅城	金1			法	160
民法b	秋	納屋　雅城	金1			法	160
商法a	春	大川　俊	金1			法	161
商法b	秋	大川　俊	金1			法	161
著作権法a	春	張　睿暎	火2	外	養	法	162
著作権法b	秋	張　睿暎	火2	外	養	法	162

◇総合講座・特殊講義◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		163
総合講座b	秋	経済学部	水3		163
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		164
特殊講義a(宇宙・深海への旅と生物多様性)	春	山根　一眞	月3		165
特殊講義b(宇宙・深海への旅と生物多様性)	秋	山根　一眞	月3		165
特殊講義a(金融資産運用論)	春	山崎　元	木3		166
特殊講義a(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木3		166
特殊講義b(金融資産運用論)	春	山崎　元	木5		167
特殊講義b(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木5		167
特殊講義a(農業経済学)	春	加賀爪　優	金3		168
特殊講義b(農業経済学)	秋	加賀爪　優	金3		168
特殊講義a(環境ビジネス論)	春	山根　一眞	月2		226
特殊講義b(環境ビジネス論)	秋	山根　一眞	月2		226
特殊講義a(リスク・マネジメント論)	春	岡村　国和	月3		205
特殊講義b(リスク・マネジメント論)	秋	岡村　国和	月3		205
特殊講義a(地球環境論)	春	中村　健治	火1		201
特殊講義b(地球環境論)	秋	中村　健治	火1		201
特殊講義b(地域活性化論)	秋	尾羽沢　信一	水3		215
特殊講義a(ソーシャル・ビジネス論)	春	尾羽沢　信一	水4		223
特殊講義b(ソーシャル・ビジネス論)	秋	尾羽沢　信一	水4		223
特殊講義a(国際公共政策論)	春	木原　隆司	木3		229
特殊講義b(国際公共政策論)	秋	木原　隆司	木3		229
特殊講義a(地域生態論)	春	犬井　正	金2		225
特殊講義b(地域生態論)	秋	犬井　正	金2		225
特殊講義a(国際開発論)	春	木原　隆司	金2		230
特殊講義b(国際開発論)	秋	木原　隆司	金2		230
特殊講義a(国際NPO論)	春	長瀬　理英	金5		232
特殊講義b(国際NPO論)	秋	長瀬　理英	金5		232

◇外国人学生・帰国学生(特別入試入学者)について◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生(特別入試入学者)の授業科目履修について					27

2013年度以降入学者用
経　済　学　科

＜＜学部共通科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
クラスセミナー	春	各担当教員	水1	営 環 外 養 法	31
クラスセミナー(再履修者用)	秋	浜本　光紹	水1	外 養 法	31
経済学(ミクロ)	春	倉橋　透	水2	営 環 外 養 法	169
経済学(マクロ)	秋	倉橋　透	水2	営 環 外 養 法	169
経済学(ミクロ)	春	小林　進	水2	営 環 外 養 法	170
経済学(マクロ)	秋	小林　進	水2	営 環 外 養 法	170
経済学(ミクロ)	春	益山　光央	水2	営 環 外 養 法	171
経済学(マクロ)	秋	益山　光央	水2	営 環 外 養 法	171
経済学(ミクロ)(再履修者用)	春	山越　徳	木3	外 養 法	176
経済学(マクロ)(再履修者用)	秋	山越　徳	木3	外 養 法	176
経営学a	春	陰山　孔貴	火2	営 環 外 養 法	98
経営学b	秋	鈴木　淳	火2	営 環 外 養 法	100
経営学a	春	平井　岳哉	火2	営 環 外 養 法	101
経営学b	秋	陰山　孔貴	火2	営 環 外 養 法	98
経営学a	春	小林　哲也	火2	営 環 外 養 法	99
経営学b	秋	高橋　清美	火2	営 環 外 養 法	101
経済経営数学入門	春	陰山　孔貴	火1	営 環 外 養 法	177
統計学入門	秋	陰山　孔貴	火1	営 環 外 養 法	177
経済経営数学入門	春	須藤　時仁	火1	営 環 外 養 法	178
統計学入門	秋	須藤　時仁	火1	営 環 外 養 法	178
経済経営数学入門	春	徳永　潤二	火1	営 環 外 養 法	179
統計学入門	秋	徳永　潤二	火1	営 環 外 養 法	179
統計学入門(再履修者用)	春	塩田　尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	秋	塩田　尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	春	倉橋　透	金2	外 養 法	185
統計学入門(再履修者用)	秋	倉橋　透	金2	外 養 法	185

＜＜学科基礎科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月3	営 外 養 法	55
ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月3	営 外 養 法	55
ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火1	営 外 養 法	56
ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火1	営 外 養 法	56
ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	営 外 養 法	57
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	営 外 養 法	57
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月1	営 外 養 法	52
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月1	営 外 養 法	52
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	営 外 養 法	53
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	営 外 養 法	53
マクロ経済学a	春	須藤　時仁	火2	営 外 養 法	54
マクロ経済学b	秋	須藤　時仁	火2	営	54
統計学a	春	樋田　勉	水2		186
統計学b	秋	樋田　勉	水2		186
統計学a	春	大床　太郎	金4		187
統計学b	秋	大床　太郎	金4		187
経営学原理a	春	黒川　文子	火5	営	94
経営学原理b	秋	黒川　文子	火5	営	94
経営学原理a	春	岡部　康弘	金2	営	95
経営学原理b	秋	岡部　康弘	金2	営	95
会計学a	春	内倉　滋	木3	営 法	97
会計学b	秋	内倉　滋	木3	営 法	97
簿記原理a	春	大坪　史治	火1		37
簿記原理b	秋	大坪　史治	火1		37
簿記原理a	春	香取　徹	火1		38
簿記原理b	秋	香取　徹	火1		38

簿記原理a	春	山﨑　尚	火1		39
簿記原理b	秋	山﨑　尚	火1		39
簿記原理a	春	内倉　滋	木2		40
簿記原理b	秋	内倉　滋	木2		40
簿記原理a	春	細田　哲	木2		41
簿記原理b	秋	細田　哲	木2		41
簿記原理a	春	湯田　雅夫	木2		42
簿記原理b	秋	湯田　雅夫	木2		42
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外　養　法	35
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外　養　法	35
情報社会論a	春	柴崎　信三	水3		149
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3		149
環境学	春	中村　健治	水2		188
サステイナビリティ学	秋	木原　隆司	水2		189

＜＜学科専門科目＞＞

◇専門外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
専門英語a（経済・経営史）	春	黒木　亮	月2		193
専門英語b（経済・経営史）	秋	黒木　亮	月2		193
専門英語a（環境・資源経済学）	春	浜本　光紹	月2		191
専門英語b（環境・資源経済学）	秋	浜本　光紹	月2		191
専門英語a（経済成長戦略の新潮流）	春	中藤　泉	月4		192
専門英語b（経済成長戦略の新潮流）	秋	中藤　泉	月4		192
専門英語a（自動車産業等の企業経営）	春	黒川　文子	水1		190
専門英語b（自動車産業等の企業経営）	秋	黒川　文子	水1		190
専門英語a（持続可能な開発）	春	米山　昌幸	金4		194
専門英語b（持続可能な開発）	秋	米山　昌幸	金4		194
専門英語a(環境と会計)	春	大坪　史治	木2		195
専門英語b（環境と会計）	秋	大坪　史治	木2		195
専門英語a（経済学）	春	小林　進	金1		196
専門英語b（経済学）	秋	小林　進	金1		196
専門英語a（国際資源開発学）	春	加賀爪　優	金2		197
専門英語b（国際資源開発学）	秋	加賀爪　優	金2		197
専門英語a（開発経済学）	春	高安　健一	金2		198
専門英語b（開発経済学）	秋	高安　健一	金2		198
専門中国語a	春	全　載旭	木1		51
専門中国語b	秋	全　載旭	木1		51

◇理論・学史◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済経営数学a	春	大床　太郎	金1		134
経済経営数学b	秋	大床　太郎	金1		134
上級ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火3	環	199
上級ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火3	環	199
上級マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月3	環	59
上級マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月3	環	59
ゲーム理論a	春	藤山　英樹	水2		61
ゲーム理論b	秋	藤山　英樹	水2		61
経済学史a	春	黒木　亮	木2		58
経済学史b	秋	黒木　亮	木2		58

◇経済史◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本社会史a	春	新井　孝重	火5	環	68
日本社会史b	秋	新井　孝重	火5	環	68
日本経済史a	春	市原　博	月4		67
日本経済史b	秋	市原　博	月4		67
外国経済史a	春	御園生　眞	火1	環　法	69
外国経済史b	秋	御園生　眞	火1	環　法	69

社会経済史a	春	新井　孝重	木4	外	養	法	200
社会経済史b	秋	新井　孝重	木4	外	養	法	200

◇統計・計量◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可			ページ
経済統計論a	春	深江　敬志	金4	環			62
経済統計論b	秋	深江　敬志	金4	環			62
計量経済学a	春	藤山　英樹	月1	環			63
計量経済学b	秋	藤山　英樹	月1	環			63
社会調査論a	春	大床　太郎	金2				136
社会調査論b	秋	大床　太郎	金2				136
多変量解析a	春	樋田　勉	火1				135
多変量解析b	秋	樋田　勉	火1				135

◇経済政策・応用経済◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可			ページ
日本経済論a	春	須藤　時仁	木5	環	養	法	72
日本経済論b	秋	須藤　時仁	木5	環	養	法	72
経済政策論a	春	童　適平	火4	環		法	64
経済政策論b	秋	童　適平	火4	環		法	64
公共経済学a	春	高畑　純一郎	木1	環			84
公共経済学b	秋	高畑　純一郎	木1	環			84
金融論a	春	西尾　夏雄	水1				81
金融論b	秋	西尾　夏雄	水1				81
金融システム論a	春	漆畑　春彦	金5				82
金融システム論b	秋	漆畑　春彦	金5				82
財政学a	春	野村　容康	木3			法	83
財政学b	秋	野村　容康	木3			法	83
地方財政論a	春	島村　玲雄	金2			法	85
地方財政論b	秋	島村　玲雄	金2			法	85
環境経済学a	春	浜本　光紹	火2	環			86
環境経済学b	秋	浜本　光紹	火2	環			86
環境政策論a	春	塩田　尚樹	水1	環		法	66
環境政策論b	秋	塩田　尚樹	水1	環		法	66
地球環境論a	春	中村　健治	火1	環			201
地球環境論b	秋	中村　健治	火1	環			201
資源・エネルギー経済論a	春	鈴木　滋	火3	環			202
資源・エネルギー経済論b	秋	鈴木　滋	火3	環			202
都市経済学a	春	倉橋　透	金1	環		法	87
都市経済学b	秋	倉橋　透	金1	環		法	87
経済地理学a	春	犬井　正	月2				88
経済地理学b	秋	犬井　正	月2				88
経済地誌a		本年度休講					
経済地誌b		本年度休講					
労働経済学a	春	森永　卓郎	木1				93
労働経済学b	秋	森永　卓郎	木1				93
経済社会学a	春	森永　卓郎	火1				60
経済社会学b	秋	森永　卓郎	火1				60
産業政策論a	春	中藤　泉	月2				89
産業政策論b	秋	中藤　泉	月2				89
産業組織論a	春	和久津　尚彦	土2	営	環		90
産業組織論b	秋	和久津　尚彦	土2	営	環		90
産業構造論a	春	山越　徳	木1				91
産業構造論b	秋	山越　徳	木1				91

◇国際経済◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可				ページ
国際経済学a	春	益山　光央	火2			養	法	70
国際経済学b	秋	益山　光央	火2			養	法	70
国際貿易論a	春	米山　昌幸	火2					118
国際貿易論b	秋	米山　昌幸	火2					118
国際金融論a	春	徳永　潤二	火2	環			法	71
国際金融論b	秋	徳永　潤二	火2	環			法	71
開発経済学a	春	高安　健一	火2	環				65
開発経済学b	秋	高安　健一	火2	環				65
アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	月4	環				73
アメリカ経済論b	秋	宮﨑　礼二	月4	環				73
ヨ−ロッパ経済論a	春	漆畑　春彦	金4	環				75
ヨ−ロッパ経済論b	秋	漆畑　春彦	金4	環				75
ラテンアメリカ経済論a	春	中村　久美	金3	環				74
ラテンアメリカ経済論b	秋	中村　久美	金3	環				74
東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	水2	環				76
東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	水2	環				76
東南アジア経済論a	春	高安　健一	金1	環		養		79
東南アジア経済論b	秋	高安　健一	金1	環		養		79
南アジア経済論a	春	佐藤　慶子	水3	環				203
南アジア経済論b	秋	佐藤　慶子	水3	環				203
オセアニア経済論a	春	加賀爪　優	金4	環				77
オセアニア経済論b	秋	加賀爪　優	金4	環				77
アフリカ経済論a	春	佐野　康子	木1	環				78
アフリカ経済論b	秋	佐野　康子	木1	環				78
中東経済論a	春	平井　文子	金2	環				80
中東経済論b	秋	平井　文子	金2	環				80

◇人口・保健・医療◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可				ページ
精神保健福祉論a	春	中野　隆史	火4					46
精神保健福祉論b	秋	中野　隆史	火4					46
現代人口論a	春	奥山　正司	月1				法	45
現代人口論b	秋	奥山　正司	月1				法	45
社会保障論a	春	山岡　淳	水1					92
社会保障論b	秋	山岡　淳	水1					92
医療経済学a	春	山岡　淳	水2				法	47
医療経済学b	秋	山岡　淳	水2				法	47

◇政治・法律◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可				ページ
法学a	春	大川　俊	水2	営	外	養	法	158
法学b	秋	木藤　茂	水2	営	外	養	法	158
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木2	営	外	養	法	159
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木2	営	外	養	法	159
国際政治学a	春	岡垣　知子	水1	営	外	養	法	204
国際政治学b	秋	岡垣　知子	水1	営	外	養	法	204
民法a	春	納屋　雅城	金1	営	外	養	法	160
民法b	秋	納屋　雅城	金1	営	外	養	法	160
会社法a	春	大川　俊	金1	営	外	養	法	161
会社法b	秋	大川　俊	金1	営	外	養	法	161
著作権法a	春	張　睿暎	火2	営	外	養	法	162
著作権法b	秋	張　睿暎	火2	営	外	養	法	162

◇総合講座・特殊講義◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		163
総合講座b	秋	経済学部	水3		163
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		164
特殊講義a(宇宙・深海への旅と生物多様性)	春	山根　一眞	月3		165
特殊講義b(宇宙・深海への旅と生物多様性)	秋	山根　一眞	月3		165
特殊講義a(金融資産運用論)	春	山崎　元	木3		166
特殊講義a(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木3		166
特殊講義b(金融資産運用論)	春	山崎　元	木5		167
特殊講義b(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木5		167
特殊講義a(農業経済学)	春	加賀爪　優	金3		168
特殊講義b(農業経済学)	秋	加賀爪　優	金3		168

◇関連専門科目◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本史概説Ⅰ		免許課程シラバスを参照のこと			
日本史概説Ⅱ		免許課程シラバスを参照のこと			
外国史概説Ⅰ		免許課程シラバスを参照のこと			
外国史概説Ⅱ		免許課程シラバスを参照のこと			
地理学概説Ⅰ		免許課程シラバスを参照のこと			
地理学概説Ⅱ		免許課程シラバスを参照のこと			
地誌学概説Ⅰ		免許課程シラバスを参照のこと			
地誌学概説Ⅱ		免許課程シラバスを参照のこと			
社会学概説Ⅰ		免許課程シラバスを参照のこと			
社会学概説Ⅱ		免許課程シラバスを参照のこと			

◇外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）について◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）の授業科目履修について					27

2013年度以降入学者用
経 営 学 科

＜＜学部共通科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
クラスセミナー	春	各担当教員	水1	済 環 外 養 法	31
クラスセミナー(再履修者用)	秋	浜本 光紹	水1	外 養 法	31
経済学(ミクロ)	春	木原 隆司	木1	済 環 外 養 法	172
経済学(マクロ)	秋	木原 隆司	木1	済 環 外 養 法	172
経済学(ミクロ)	春	徳永 潤二	木1	済 環 外 養 法	173
経済学(マクロ)	秋	徳永 潤二	木1	済 環 外 養 法	173
経済学(ミクロ)	春	米山 昌幸	木1	済 環 外 養 法	174
経済学(マクロ)	秋	米山 昌幸	木1	済 環 外 養 法	174
経済学(ミクロ)(再履修者用)	春	山越 徳	木3	外 養 法	176
経済学(マクロ)(再履修者用)	秋	山越 徳	木3	外 養 法	176
経営学a	春	上坂 卓郎	水1	済 環 外 養 法	104
経営学b	秋	高松 和幸	水1	済 環 外 養 法	105
経営学a	春	高松 和幸	水1	済 環 外 養 法	105
経営学b	秋	岡部 康弘	水1	済 環 外 養 法	103
経営学a	春	有吉 秀樹	水1	済 環 外 養 法	102
経営学b	秋	上坂 卓郎	水1	済 環 外 養 法	104
経済経営数学入門	春	山下 裕歩	火2	済 環 外 養 法	180
統計学入門	秋	山下 裕歩	火2	済 環 外 養 法	180
経済経営数学入門	春	中村 健治	火2	済 環 外 養 法	181
統計学入門	秋	中村 健治	火2	済 環 外 養 法	181
経済経営数学入門	春	樋田 勉	火2	済 環 外 養 法	182
統計学入門	秋	樋田 勉	火2	済 環 外 養 法	182
統計学入門(再履修者用)	春	塩田 尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	秋	塩田 尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	春	倉橋 透	金2	外 養 法	185
統計学入門(再履修者用)	秋	倉橋 透	金2	外 養 法	185

＜＜学科基礎科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
簿記原理a	春	大坪 史治	火1		37
簿記原理b	秋	大坪 史治	火1		37
簿記原理a	春	香取 徹	火1		38
簿記原理b	秋	香取 徹	火1		38
簿記原理a	春	山﨑 尚	火1		39
簿記原理b	秋	山﨑 尚	火1		39
簿記原理a	春	内倉 滋	木2		40
簿記原理b	秋	内倉 滋	木2		40
簿記原理a	春	細田 哲	木2		41
簿記原理b	秋	細田 哲	木2		41
簿記原理a	春	湯田 雅夫	木2		42
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	木2		42
簿記原理a(再履修者用)	秋	山﨑 尚	火4		39
簿記原理b(再履修者用)	春	山﨑 尚	火4		39
簿記原理a(再履修者用)	春	橋本 尚	火5		43
簿記原理b(再履修者用)	秋	橋本 尚	火5		43
経営学原理a	春	黒川 文子	火5	済 環 外 養 法	94
経営学原理b	秋	黒川 文子	火5	済 環 外 養 法	94
経営学原理a	春	岡部 康弘	金2	済 環	95
経営学原理b	秋	岡部 康弘	金2	済 環	95
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	月3	済 環	55
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	月3	済 環	55

ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火1	済	環			56
ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火1	済	環			56
ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	済	環			57
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	済	環			57
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月1	済	環			52
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月1	済	環			52
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	済	環			53
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	済	環			53
マクロ経済学a	春	須藤　時仁	火2	済	環			54
マクロ経済学b	秋	須藤　時仁	火2	済	環			54
コンピュータ入門a	春	各担当教員				外	養 法	35
コンピュータ入門b	秋	各担当教員				外	養 法	35
情報社会論a	春	柴崎　信三	水3					149
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3					149
統計学a	春	樋田　勉	水2					186
統計学b	秋	樋田　勉	水2					186
統計学a	春	大床　太郎	金4					187
統計学b	秋	大床　太郎	金4					187
環境学	春	中村　健治	水2					188
サステイナビリティ学	秋	木原　隆司	水2					189

＜＜学科専門科目＞＞

◇専門外国語◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
専門英語a（経済・経営史）	春	黒木　亮	月2		193
専門英語b（経済・経営史）	秋	黒木　亮	月2		193
専門英語a（環境・資源経済学）	春	浜本　光紹	月2		191
専門英語b（環境・資源経済学）	秋	浜本　光紹	月2		191
専門英語a（経済成長戦略の新潮流）	春	中藤　泉	月4		192
専門英語b（経済成長戦略の新潮流）	秋	中藤　泉	月4		192
専門英語a（自動車産業等の企業経営）	春	黒川　文子	水1		190
専門英語b（自動車産業等の企業経営）	秋	黒川　文子	水1		190
専門英語a（持続可能な開発）	春	米山　昌幸	金4		194
専門英語b（持続可能な開発）	秋	米山　昌幸	金4		194
専門英語a(環境と会計)	春	大坪　史治	木2		195
専門英語b（環境と会計）	秋	大坪　史治	木2		195
専門英語a（経済学）	春	小林　進	金1		196
専門英語b（経済学）	秋	小林　進	金1		196
専門英語a（国際資源開発学）	春	加賀爪　優	金2		197
専門英語b（国際資源開発学）	秋	加賀爪　優	金2		197
専門英語a（開発経済学）	春	高安　健一	金2		198
専門英語b（開発経済学）	秋	高安　健一	金2		198
専門中国語a	春	全　載旭	木1		51
専門中国語b	秋	全　載旭	木1		51

◇経営◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営管理論a	春	黒川　文子	木3		107
経営管理論b	秋	黒川　文子	木3		107
経営戦略論a	春	陰山　孔貴	月2		106
経営戦略論b	秋	陰山　孔貴	月2		106
経営組織論a	春	高松　和幸	金3		108
経営組織論b	秋	高松　和幸	金3		108
経営財務論a	春	細田　哲	木1		109
経営財務論b	秋	細田　哲	木1		109
人的資源管理論a	春	岡部　康弘	火3		110
人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	火3		110

国際経営論a	春	小林　哲也	火1	環	法	111
国際経営論b	秋	小林　哲也	火1	環	法	111
NPOマネジメント論a	春	高松　和幸	木2	環		122
NPOマネジメント論b	秋	高松　和幸	木2	環		122
リスク・マネジメント論a	春	岡村　国和	月3			205
リスク・マネジメント論b	秋	岡村　国和	月3			205
研究・開発マネジメントa	春	鈴木　淳	金2			123
研究・開発マネジメントb	秋	鈴木　淳	金2			123
日本経営史a	春	平井　岳哉	金3			113
日本経営史b	秋	河村　徳士	金3			113
外国経営史a	春	御園生　眞	火4			112
外国経営史b	秋	御園生　眞	火4			112

◇ビジネス◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井　岳哉	金2		96
企業論b	秋	河村　徳士	金2		96
ベンチャー企業論a	春	上坂　卓郎	火1		121
ベンチャー企業論b	秋	上坂　卓郎	火1		121
企業文化論a		本年度休講			
企業文化論b		本年度休講			
マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		114
マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		114
広告論a	春	清水　公一	月3		115
広告論b	秋	清水　公一	月3		115
保険論a	春	岡村　国和	木3		117
保険論b	秋	岡村　国和	木3		117
証券市場論a	春	髙橋　元	木2		119
証券市場論b	秋	髙橋　元	木2		119
国際貿易論a	春	米山　昌幸	火2		118
国際貿易論b	秋	米山　昌幸	火2		118
企業経済論a	春	和久津　尚彦	土1		120
企業経済論b	秋	和久津　尚彦	土1		120
行動科学論a	春	有吉　秀樹	木4		116
行動科学論b	秋	有吉　秀樹	木4		116
ゲーム理論a	春	藤山　英樹	水2		61
ゲーム理論b	秋	藤山　英樹	水2		61

◇会計◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
上級簿記(工業)a	春	香取　徹	火3		131
上級簿記(工業)b	秋	香取　徹	火3		131
上級簿記(商業)a	春	細田　哲	金2		132
上級簿記(商業)b	秋	細田　哲	金2		132
会計学原理a	春	内倉　滋	月1		124
会計学原理b	秋	内倉　滋	月1		124
国際会計論a	春	橋本　尚	火4		133
国際会計論b	秋	橋本　尚	火4		133
財務会計論a	春	山﨑　尚	金2		125
財務会計論b	秋	山﨑　尚	金2		125
原価計算論a	春	大坪　史治	金4		128
原価計算論b	秋	大坪　史治	金4		128
管理会計論a	春	香取　徹	火4		126
管理会計論b	秋	香取　徹	火4		126
社会会計論a	春	大坪　史治	火2	環	127
社会会計論b	秋	大坪　史治	火2	環	127

会計監査論a	春	福薗　健	木1		129
会計監査論b	秋	福薗　健	木1		129
税務会計論a	春	平　仁	月4		130
税務会計論b	秋	平　仁	月4		130
経営分析論a		本年度休講			
経営分析論b		本年度休講			

◇情報・統計◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済経営数学a	春	大床　太郎	金1		134
経済経営数学b	秋	大床　太郎	金1		134
社会調査論a	春	大床　太郎	金2		136
社会調査論b	秋	大床　太郎	金2		136
多変量解析a	春	樋田　勉	火1		135
多変量解析b	秋	樋田　勉	火1		135
コンピュータ・アーキテクチャ	春	今福　啓	金2		152
アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2		154
アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2		154
プログラミング論a※	春	加藤　尚吾	月3		145
プログラミング論b※	秋	加藤　尚吾	月3		145
プログラミング論a※	春	米谷　雄介	月3		146
プログラミング論b※	秋	米谷　雄介	月3		146
プログラミング論a※	春	柏原　賢二	火2		147
プログラミング論b※	秋	柏原　賢二	火2		147
プログラミング論a※	春	立田　ルミ	水1		148
プログラミング論b※	秋	立田　ルミ	水1		148
プログラミング応用a※	春	長　慎也	月5		206
プログラミング応用b※	秋	長　慎也	月5		206
情報システム論a	春	今福　啓	火5		144
情報システム論b	秋	今福　啓	火5		144
データベース論a※	春	長　慎也	月4	環	137
データベース論b※	秋	長　慎也	月4	環	137
データベース論a※	春	黄　海湘	水3	環	138
データベース論b※	秋	黄　海湘	水3	環	138
データマイニング論a※	春	松田　源立	木3	環	207
データマイニング論b※	秋	松田　源立	木3	環	207
情報検索論a	春	福田　求	火3		143
情報検索論b	秋	福田　求	火3		143
情報検索論a	春	福田　求	水1		143
情報検索論b	秋	福田　求	水1		143
情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	金2		150
情報通信ネットワークb	春	三宅　真	木4		150
マルチメディア論a※	春	柏原　賢二	火3	環	140
マルチメディア論b※	秋	柏原　賢二	火3	環	140
マルチメディア論a※	春	立田　ルミ	水2	環	141
マルチメディア論b※	秋	立田　ルミ	水2	環	141
マルチメディア論a※	春	大和田　勇人	金2	環	142
マルチメディア論b※	秋	大和田　勇人	金2	環	142
ウェブデザイン論a※	春	立田　ルミ	木2		208
ウェブデザイン論b※	秋	立田　ルミ	木2		208
シミュレーション論a※	春	市川　新	月4		139
シミュレーション論b※	秋	市川　新	月4		139
情報と職業	秋	小林　哲也	水2		153
情報メディア論	秋	福田　求	火4		209
情報メディア論	秋	福田　求	水2		209

◇経営システム◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営意思決定論a	春	鈴木　淳	火4		157
経営意思決定論b	秋	鈴木　淳	火4		157
オペレーションズ・リサーチa	春	白井　裕	木1		155
オペレーションズ・リサーチb	秋	白井　裕	木1		155
システムズ・エンジニアリングa	春	広瀬　啓雄	月2		156
システムズ・エンジニアリングb	秋	広瀬　啓雄	月2		156

※a,bセット履修

◇人口・保健・医療◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神保健福祉論a	春	中野　隆史	火4	法	46
精神保健福祉論b	秋	中野　隆史	火4	法	46
現代人口論a	春	奥山　正司	月1	法	45
現代人口論b	秋	奥山　正司	月1	法	45
社会保障論a	春	山岡　淳	水1		92
社会保障論b	秋	山岡　淳	水1		92
医療経済学a	春	山岡　淳	水2	法	47
医療経済学b	秋	山岡　淳	水2	法	47

◇経済・政治・法律◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史a	春	市原　博	月4		67
日本経済史b	秋	市原　博	月4		67
経済地理学a	春	犬井　正	月2		88
経済地理学b	秋	犬井　正	月2		88
経済地誌a	春	本年度休講			
経済地誌b	秋	本年度休講			
地域調査論	春	秋本　弘章	木1	環	210
地理情報システム論	秋	秋本　弘章	月3	環	211
国際経済学a	春	益山　光央	火2	養　法	70
国際経済学b	秋	益山　光央	火2	養　法	70
法学a	春	大川　俊	水2	済　環　外　養　法	158
法学b	秋	木藤　茂	水2	済　環　外　養　法	158
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木2	済　環　外　養　法	159
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木2	済　環　外　養　法	159
国際政治学a	春	岡垣　知子	水1	済　環　外　養　法	204
国際政治学b	秋	岡垣　知子	水1	済　環　外　養　法	204
民法a	春	納屋　雅城	金1	済　環　外　養　法	160
民法b	秋	納屋　雅城	金1	済　環　外　養　法	160
会社法a	春	大川　俊	金1	済　環　外　養　法	161
会社法b	秋	大川　俊	金1	済　環　外　養　法	161
著作権法a	春	張　睿暎	火2	済　環　外　養　法	162
著作権法b	秋	張　睿暎	火2	済　環　外　養　法	162

◇総合講座・特殊講義◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		163
総合講座b	秋	経済学部	水3		163
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		164
特殊講義a(宇宙・深海への旅と生物多様性)	春	山根　一眞	月3		165
特殊講義b(宇宙・深海への旅と生物多様性)	秋	山根　一眞	月3		165
特殊講義a(金融資産運用論)	春	山崎　元	木3		166
特殊講義a(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木3		166

特殊講義b(金融資産運用論)	春	山崎　元	木5	167
特殊講義b(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木5	167
特殊講義a(農業経済学)	春	加賀爪　優	金3	168
特殊講義b(農業経済学)	秋	加賀爪　優	金3	168

◇関連専門科目◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本史概説Ⅰ	免許課程シラバスを参照のこと				
日本史概説Ⅱ	免許課程シラバスを参照のこと				
外国史概説Ⅰ	免許課程シラバスを参照のこと				
外国史概説Ⅱ	免許課程シラバスを参照のこと				
地理学概説Ⅰ	免許課程シラバスを参照のこと				
地理学概説Ⅱ	免許課程シラバスを参照のこと				
地誌学概説Ⅰ	免許課程シラバスを参照のこと				
地誌学概説Ⅱ	免許課程シラバスを参照のこと				
社会学概説Ⅰ	免許課程シラバスを参照のこと				
社会学概説Ⅱ	免許課程シラバスを参照のこと				

◇留学生◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）の授業科目履修について					27

2013年度以降入学者用
国 際 環 境 経 済 学 科

＜＜学部共通科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
クラスセミナー	春	各担当教員	水1	済 営 外 養 法	31
クラスセミナー(再履修者用)	秋	浜本 光紹	水1	外 養 法	31
経済学(ミクロ)	春	童 適平	木1	済 営 外 養 法	175
経済学(マクロ)	秋	童 適平	木1	済 営 外 養 法	175
経済学(ミクロ)(再履修者用)	春	山越 德	木3	外 養 法	176
経済学(マクロ)(再履修者用)	秋	山越 德	木3	外 養 法	176
経営学a	春	鈴木 淳	火2	済 営 外 養 法	100
経営学b	秋	小林 哲也	火2	済 営 外 養 法	99
経済経営数学入門	春	米山 昌幸	火1	済 営 外 養 法	183
統計学入門	秋	米山 昌幸	火1	済 営 外 養 法	183
統計学入門(再履修者用)	春	塩田 尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	秋	塩田 尚樹	火2	外 養 法	184
経済経営数学入門(再履修者用)	春	倉橋 透	金2	外 養 法	185
統計学入門(再履修者用)	秋	倉橋 透	金2	外 養 法	185

＜＜学科基礎科目＞＞

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境学	春	中村 健治	水2		188
サステイナビリティ学	秋	木原 隆司	水2		189
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	月3	営	55
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	月3	営	55
ミクロ経済学a	春	高畑 純一郎	火1	営	56
ミクロ経済学b	秋	高畑 純一郎	火1	営	56
ミクロ経済学a	春	小林 進	金2	営	57
ミクロ経済学b	秋	小林 進	金2	営	57
マクロ経済学a	春	山下 裕歩	月1	営	52
マクロ経済学b	秋	山下 裕歩	月1	営	52
マクロ経済学a	春	塩田 尚樹	火1	営	53
マクロ経済学b	秋	塩田 尚樹	火1	営	53
マクロ経済学a	春	須藤 時仁	火2	営	54
マクロ経済学b	秋	須藤 時仁	火2	営	54
統計学a	春	樋田 勉	水2		186
統計学b	秋	樋田 勉	水2		186
統計学a	春	大床 太郎	金4		187
統計学b	秋	大床 太郎	金4		187
経営学原理a	春	黒川 文子	火5	営	94
経営学原理b	秋	黒川 文子	火5	営	94
経営学原理a	春	岡部 康弘	金2	営	95
経営学原理b	秋	岡部 康弘	金2	営	95
会計学a	春	内倉 滋	木3	営 法	97
会計学b	秋	内倉 滋	木3	営 法	97
簿記原理a	春	大坪 史治	火1		37
簿記原理b	秋	大坪 史治	火1		37
簿記原理a	春	香取 徹	火1		38
簿記原理b	秋	香取 徹	火1		38
簿記原理a	春	山﨑 尚	火1		39
簿記原理b	秋	山﨑 尚	火1		39
簿記原理a	春	内倉 滋	木2		40
簿記原理b	秋	内倉 滋	木2		40
簿記原理a	春	細田 哲	木2		41
簿記原理b	秋	細田 哲	木2		41
簿記原理a	春	湯田 雅夫	木2		42
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	木2		42

簿記原理a(再履修者用)	秋	山﨑　尚	火4		39
簿記原理b(再履修者用)	春	山﨑　尚	火4		39
簿記原理a(再履修者用)	春	橋本　尚	火5		43
簿記原理b(再履修者用)	秋	橋本　尚	火5		43
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外　養　法	35
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外　養　法	35
情報社会論a	春	柴崎　信三	水3		149
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3		149

＜＜学科専門科目＞＞

◇専門外国語◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可	ページ
Introductory Lectures	春	木原　隆司	水2		212
専門英語a(経済・経営史)	春	黒木　亮	月2		193
専門英語b(経済・経営史)	秋	黒木　亮	月2		193
専門英語a(環境・資源経済学)	春	浜本　光紹	月2		191
専門英語b(環境・資源経済学)	秋	浜本　光紹	月2		191
専門英語a(経済成長戦略の新潮流)	春	中藤　泉	月4		192
専門英語b(経済成長戦略の新潮流)	秋	中藤　泉	月4		192
専門英語a(自動車産業等の企業経営)	春	黒川　文子	水1		190
専門英語b(自動車産業等の企業経営)	秋	黒川　文子	水1		190
専門英語a(持続可能な開発)	春	米山　昌幸	金4		194
専門英語b(持続可能な開発)	秋	米山　昌幸	金4		194
専門英語a(環境と会計)	春	大坪　史治	木2		195
専門英語b(環境と会計)	秋	大坪　史治	木2		195
専門英語a(経済学)	春	小林　進	金1		196
専門英語b(経済学)	秋	小林　進	金1		196
専門英語a(国際資源開発学)	春	加賀爪　優	金2		197
専門英語b(国際資源開発学)	秋	加賀爪　優	金2		197
専門英語a(開発経済学)	春	高安　健一	金2		198
専門英語b(開発経済学)	秋	高安　健一	金2		198
専門中国語a	春	全　載旭	木1		51
専門中国語b	秋	全　載旭	木1		51
英語ビジネス・コミュニケーション	春	信　達郎	月1	外　養　法	216
英語ビジネス・コミュニケーション	秋	信　達郎	月1	外　養　法	216
英語ビジネス・コミュニケーション	春	信　達郎	月2	外　養　法	217
英語ビジネス・コミュニケーション	秋	信　達郎	月2	外　養　法	217
英語ビジネス・コミュニケーション	春	海老沢　達郎	火3	外　養　法	218
英語ビジネス・コミュニケーション	秋	海老沢　達郎	火3	外　養　法	218
英語ビジネス・コミュニケーション	春	海老沢　達郎	水3	外　養　法	219
英語ビジネス・コミュニケーション	秋	海老沢　達郎	水3	外　養　法	219
英語ビジネス・コミュニケーション	春	杉山　晴信	木3	外　養　法	220
英語ビジネス・コミュニケーション	春	杉山　晴信	木4	外　養　法	221
英語ビジネス・コミュニケーション実務	春	杉山　晴信	金1	外　養　法	222
メディア英語	秋	経済学部	火3	外　養　法	224

◇公共経済◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	須藤　時仁	木5	済　営　外　養　法	72
日本経済論b	秋	須藤　時仁	木5	済　営　外　養　法	72
経済政策論a	春	童　適平	火4	済　営　外　養　法	64
経済政策論b	秋	童　適平	火4	済　営　外　養　法	64
公共経済学a	春	高畑　純一郎	木1	済　営　外　養　法	84
公共経済学b	秋	高畑　純一郎	木1	済　営　外　養　法	84
都市経済学a	春	倉橋　透	金1	済　営　外　養　法	87
都市経済学b	秋	倉橋　透	金1	済　営　外　養　法	87
上級ミクロ経済学a	春	高畑　純一郎	火3	済　営　外　養　法	199
上級ミクロ経済学b	秋	高畑　純一郎	火3	済　営　外　養　法	199
上級マクロ経済学a	春	山下　裕歩	月3	済　営　外　養　法	59
上級マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	月3	済　営　外　養　法	59

ゲーム理論a	春	藤山　英樹	水2						61
ゲーム理論b	秋	藤山　英樹	水2						61
産業組織論a	春	和久津　尚彦	土2	済	営	外	養	法	90
産業組織論b	秋	和久津　尚彦	土2	済	営	外	養	法	90

◇環境◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
地球環境論a	春	中村　健治	火1	済	営	外	養	法	201
地球環境論b	秋	中村　健治	火1	済	営	外	養	法	201
経済地理学a	春	犬井　正	月2						88
経済地理学b	秋	犬井　正	月2						88
地域生態論a	春	犬井　正	金2						225
地域生態論b	秋	犬井　正	金2						225
環境経済学a	春	浜本　光紹	火2	済	営	外	養	法	86
環境経済学b	秋	浜本　光紹	火2	済	営	外	養	法	86
環境政策論a	春	塩田　尚樹	水1	済	営	外	養	法	66
環境政策論b	秋	塩田　尚樹	水1	済	営	外	養	法	66
資源・エネルギー経済論a	春	鈴木　滋	火3	済	営	外	養	法	202
資源・エネルギー経済論b	秋	鈴木　滋	火3	済	営	外	養	法	202
環境ビジネス論a	春	山根　一眞	月2						226
環境ビジネス論b	秋	山根　一眞	月2						226
環境マネジメント論a	春	大坪　史治	火2	済	営	外	養	法	127
環境マネジメント論b	秋	大坪　史治	火2	済	営	外	養	法	127
環境法a	春	一之瀬　高博	月1			外	養	法	227
環境法b	秋	一之瀬　高博	月1			外	養	法	227
国際環境法a	春	一之瀬　高博	木2			外	養	法	228
国際環境法b	秋	一之瀬　高博	木2			外	養	法	228

◇国際◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
国際公共政策論a	春	木原　隆司	木3						229
国際公共政策論b	秋	木原　隆司	木3						229
国際経済学a	春	益山　光央	火2				養	法	70
国際経済学b	秋	益山　光央	火2				養	法	70
国際貿易論a	春	米山　昌幸	火2						118
国際貿易論b	秋	米山　昌幸	火2						118
国際金融論a	春	徳永　潤二	火2	済	営	外	養	法	71
国際金融論b	秋	徳永　潤二	火2	済	営	外	養	法	71
開発経済学a	春	高安　健一	火2	済	営	外	養	法	65
開発経済学b	秋	高安　健一	火2	済	営	外	養	法	65
国際経営論a	春	小林　哲也	火1	済	営	外	養	法	111
国際経営論b	秋	小林　哲也	火1	済	営	外	養	法	111
国際開発論a	春	木原　隆司	金2						230
国際開発論b	秋	木原　隆司	金2						230
開発社会学	春	北野　収	金3			外	養	法	231
国際NPO論a	春	長瀬　理英	金5						232
国際NPO論b	秋	長瀬　理英	金5						232
国際経済法a	春	宗田　貴行	金1			外	養	法	233
国際経済法b	秋	宗田　貴行	金1			外	養	法	233
国際政治経済学a	春	中島　晶子	月2			外	養	法	234
国際政治経済学b	秋	中島　晶子	月2			外	養	法	234
国際協力論a	春	片岡　貞治	月2			外	養	法	235
国際協力論b	秋	片岡　貞治	月2			外	養	法	235
国際組織論a	春	鈴木　淳一	月1			外	養	法	236
国際組織論b	秋	鈴木　淳一	月3			外	養	法	236

◇外国経済◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	月4	済	営	外	養	法	73
アメリカ経済論b	秋	宮崎　礼二	月4	済	営	外	養	法	73

ヨ-ロッパ経済論a	春	漆畑　春彦	金4	済	営	外	養	法	75
ヨ-ロッパ経済論b	秋	漆畑　春彦	金4	済	営	外	養	法	75
ラテンアメリカ経済論a	春	中村　久美	金3	済	営	外	養	法	74
ラテンアメリカ経済論b	秋	中村　久美	金3	済	営	外	養	法	74
東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	水2	済	営	外	養	法	76
東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	水2	済	営	外	養	法	76
東南アジア経済論a	春	高安　健一	金1	済	営	外	養	法	79
東南アジア経済論b	秋	高安　健一	金1	済	営	外	養	法	79
南アジア経済論a	春	佐藤　慶子	水3	済	営	外	養	法	203
南アジア経済論b	秋	佐藤　慶子	水3	済	営	外	養	法	203
オセアニア経済論a	春	加賀爪　優	金4	済	営	外	養	法	77
オセアニア経済論b	秋	加賀爪　優	金4	済	営	外	養	法	77
アフリカ経済論a	春	佐野　康子	木1	済	営	外	養	法	78
アフリカ経済論b	秋	佐野　康子	木1	済	営	外	養	法	78
中東経済論a	春	平井　文子	金2	済	営	外	養	法	80
中東経済論b	秋	平井　文子	金2	済	営	外	養	法	80

◇調査・統計分析◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
経済統計論a	春	深江　敬志	金4	済	営	外	養	法	62
経済統計論b	秋	深江　敬志	金4	済	営	外	養	法	62
計量経済学a	春	藤山　英樹	月1	済	営	外	養	法	63
計量経済学b	秋	藤山　英樹	月1	済	営	外	養	法	63
経済経営数学a	春	大床　太郎	金1						134
経済経営数学b	秋	大床　太郎	金1						134
社会調査論a	春	大床　太郎	金2						136
社会調査論b	秋	大床　太郎	金2						136
多変量解析a	春	樋田　勉	火1						135
多変量解析b	秋	樋田　勉	火1						135
地域調査論	春	秋本　弘章	木1	済	営	外	養	法	210
地理情報システム論	秋	秋本　弘章	月3	済	営	外	養	法	211
データベース論a※	春	長　慎也	月4	済	営	外	養	法	137
データベース論b※	秋	長　慎也	月4	済	営	外	養	法	137
データベース論a※	春	黄　海湘	水3	済	営	外	養	法	138
データベース論b※	秋	黄　海湘	水3	済	営	外	養	法	138
データマイニング論a※	春	松田　源立	木3	済	営	外	養	法	207
データマイニング論b※	秋	松田　源立	木3	済	営	外	養	法	207
マルチメディア論a※	春	柏原　賢二	火3	済	営	外	養	法	140
マルチメディア論b※	秋	柏原　賢二	火3	済	営	外	養	法	140
マルチメディア論a※	春	立田　ルミ	水2	済	営	外	養	法	141
マルチメディア論b※	秋	立田　ルミ	水2	済	営	外	養	法	141
マルチメディア論a※	春	大和田　勇人	金2	済	営	外	養	法	142
マルチメディア論b※	秋	大和田　勇人	金2	済	営	外	養	法	142

※a,bセット履修

◇地域・実践◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
NPOマネジメント論a	春	高松　和幸	木2	済	営	外	養	法	122
NPOマネジメント論b	秋	高松　和幸	木2	済	営	外	養	法	122
地域メディア論	秋	岡村　圭子	火2			外	養	法	213
地域づくり論	秋	北野　収	金3			外	養	法	214
地域活性化論	秋	尾羽沢　信一	水3						215
ソーシャル・ビジネス論a	春	尾羽沢　信一	水4						223
ソーシャル・ビジネス論b	秋	尾羽沢　信一	水4						223

◇人口・保健・医療◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可					ページ
精神保健福祉論a	春	中野　隆史	火4						46
精神保健福祉論b	秋	中野　隆史	火4						46

現代人口論a	春	奥山　正司	月1		法	45
現代人口論b	秋	奥山　正司	月1		法	45
社会保障論a	春	山岡　淳	水1			92
社会保障論b	秋	山岡　淳	水1			92
医療経済学a	春	山岡　淳	水2		法	47
医療経済学b	秋	山岡　淳	水2		法	47

◇経済史◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本社会史a	春	新井　孝重	火5	済　営　外　養　法	68
日本社会史b	秋	新井　孝重	火5	済　営　外　養　法	68
日本経済史a	春	市原　博	月4		67
日本経済史b	秋	市原　博	月4		67
外国経済史a	春	御園生　眞	火1	済　営　外　養　法	69
外国経済史b	秋	御園生　眞	火1	済　営　外　養　法	69

◇総合講座・特殊講義◇

科目名		担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		163
総合講座b	秋	経済学部	水3		163
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		164
特殊講義a(宇宙・深海への旅と生物多様性)	春	山根　一眞	月3		165
特殊講義b(宇宙・深海への旅と生物多様性)	秋	山根　一眞	月3		165
特殊講義a(金融資産運用論)	春	山崎　元	木3		166
特殊講義a(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木3		166
特殊講義b(金融資産運用論)	春	山崎　元	木5		167
特殊講義b(金融資産運用論)	秋	山崎　元	木5		167
特殊講義a(農業経済学)	春	加賀爪　優	金3		168
特殊講義b(農業経済学)	秋	加賀爪　優	金3		168

◇外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）について◇

科目名	開講学期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）の授業科目履修について					27

外国人学生・帰国学生（特別入試入学者）の授業科目履修について

外国人学生・帰国学生(特別入試入学者）の授業科目については、「外国人学生の授業科目履修に関する特例」、「帰国学生の授業科目履修に関する特例」により、該当科目を履修する必要があります。
履修の方法や単位集計先などについては、『履修の手引』および『授業時間割表』の該当頁を参照してください。

科目名	単位集計先	担当教員	該当シラバス	該当頁
日本語(総合IAa,b)	−	各担当教員	全学共通授業科目シラバス	−
日本語(総合IBa,b)	−	各担当教員	全学共通授業科目シラバス	−
日本語(総合ICa,b)	−	各担当教員	全学共通授業科目シラバス	−
日本語(総合Ⅱa,b)	−	各担当教員	全学共通授業科目シラバス	−
歴史と文化2（日本事情1,2）	全カリ選択必修科目	守田　逸人	全学共通授業科目シラバス	−
日本経済論a,b	学科専門科目(選択)	須藤　時仁	経済学部シラバス	72
日本経済史a,b	学科専門科目(選択)	市原　博	経済学部シラバス	67
日本経営史a,b	学科専門科目(選択)	平井　岳哉 河村　徳士	経済学部シラバス	113
日本社会史a,b	学科専門科目(選択)	新井　孝重	経済学部シラバス	68

※太枠の「日本事情に関する科目」の中から、4単位選択して卒業までに必ず修得してください。

※太枠の「日本事情に関する科目」は、2012年度以前に入学した学生にも適用されます。

12 年度以前	インターナショナルコミュニケーション Ia(再履修者用)	担当者	担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、経済学部 1 年生のために設けられた英語ネイティブ教員による科目です。 International Communication (IC) とは、TOEIC (Test of English for International Communication) からとったもので、国際的に通用する実用英語の習得を目指すものです。英語による日常のコミュニケーション、つまり話す（Speaking）、書く（Writing）、読む(Reading)、聞く(Listening)という 4 つの能力を高めることを目指す授業です。 講師は英語を母語とするネイティブ教員です。教員および参加者相互でコミュニケーションをとりながら、英語を学習していきます。	1　ガイダンス 2-4　Unit 1 and teacher's own materials 5-8　Unit 2 and teacher's own materials 9-15　Unit 3 and teacher's own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
タイトル：Business Venture: Student Book Pack Elementary level 著者：Roger Barnard, Jeff Cady, Angela Buckingham, Grant Trew 出版社：Oxford Univ. Press, 出版年：2009 年 ISBN: 978-0194578172 上記のテキストを必ず購入すること. （書き込みのある中古本，および旧版(2003 年出版，ISBN: 978-0194573733)を使用しないこと.）	担当教員による。 原則として、欠席 4 回以上した場合には不可となるので、注意すること。

12 年度以前	インターナショナルコミュニケーション Ib(再履修者用)	担当者	担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
インターナショナル・コミュニケーション I a を参照してください。	1-3　Unit 4 and teacher's own materials 4-6　Unit 5 and teacher's own materials 7-9　Unit 6 and teacher's own materials 10-15　Review and teacher's own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
タイトル：Business Venture: Student Book Pack Elementary level 著者：Roger Barnard, Jeff Cady, Angela Buckingham, Grant Trew 出版社：Oxford Univ. Press, 出版年：2009 年 ISBN: 978-0194578172 上記のテキストを必ず購入すること （書き込みのある中古本，および旧版(2003 年出版，ISBN: 978-0194573733)を使用しないこと.）	担当教員による。 原則として、欠席 4 回以上した場合には不可となるので、注意すること。

12 年度以前	インターナショナルコミュニケーションⅡa(再履修者用)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスに従ってください） この授業は、経済学部 2 年生のために設けられた英語ネイティブ教員による科目です。 International Communication（IC）とは、TOEIC（Test of English for International Communication）からとったもので、国際的に通用する実用英語の習得を目指すものです。英語による日常のコミュニケーション、つまり話す（Speaking）、書く（Writing）、読む(Reading)、聞く(Listening)という 4 つの能力を高めることを目指す授業です。 講師はすべて英語を母語とするネイティブ教員です。教員および参加者相互でコミュニケーションをとりながら、英語を学習していきます。	1　ガイダンス 2-4　Unit 7 and teacher's own materials 5-8　Unit 8 and teacher's own materials 9-15　Unit 9 and teacher's own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
タイトル：Business Venture: Student Book Pack Elementary level 著者：Roger Barnard, Jeff Cady, Angela Buckingham, Grant Trew 出版社：Oxford Univ. Press, 出版年：2009 年 ISBN: 978-0194578172 上記のテキストを必ず購入すること （書き込みのある中古本，および旧版(2003 年出版，ISBN: 978-0194573733)を使用しないこと.）	各担当教員による。 原則として、欠席 4 回以上した場合には不可となるので、注意すること。

12 年度以前	インターナショナルコミュニケーションⅡb(再履修者用)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
インターナショナル・コミュニケーションⅡa を参照してください。	1-3　Unit 10 and teacher's own materials 4-6　Unit 11 and teacher's own materials 7-9　Unit 12 and teacher's own materials 10-15　Review and teacher's own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
タイトル：Business Venture: Student Book Pack Elementary level 著者：Roger Barnard, Jeff Cady, Angela Buckingham, Grant Trew 出版社：Oxford Univ. Press, 出版年：2009 年 ISBN: 978-0194578172 上記のテキストを必ず購入すること. （書き込みのある中古本，および旧版(2003 年出版，ISBN: 978-0194573733)を使用しないこと.）	各担当教員による。 原則として、欠席 4 回以上した場合には不可となるので、注意すること。

12 年度以前	大学入門講座	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
なお本講座は 2012 年度以前入学者のためのものであることから、「授業計画」および「講義概要」の内容について、参加者に応じて変更されることがある。 **履修予定のものは、教務課の掲示に注意して、必ず１回目のガイダンスに出席すること。** この講義は、新入生の皆さんがスムーズに大学生活に移行できるよう、大学での勉学や生活について体系的に案内するものです。 大学では、高校までの生活と異なり、皆さんの自主性が尊重されます。授業の選択など、皆さんが自由に選択することができるのです。しかしその反面、皆さんの選択の自由は、責任を伴うものでもあります。学習の進展、サークル選び、友達とのつきあい、就職活動など、これからの大学生活は、すべて皆さんの責任の下で選び取っていく元となります。 この講座では、大学生活を送る上での重要なポイントを説明し、皆さんが実り豊かな大学時代を過ごせるようにお手伝いするものです。	１　科目履修のポイント ２　大学生活のポイント（１） ３　大学生活のポイント（２） ４　外国語学習術　（１） ５　外国語学習術　（２） ６　キャリアガイダンス ７　思考技術入門　（１） ８　思考技術入門　（２） ９　思考技術入門　（３） １０　大学内の情報関連施設 １１　研究調査期間　大学院案内 １２　演習科目の紹介 １３　夏休みの読書　留学案内 １４　経済学部の４年間　（１） １５　経済学部の４年間　（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
A.W.コーンハウザー『大学で勉強する方法』玉川大学出版部　（自分で勉強する動機をつかむことが重要です）	授業への参加度およびレポート。受講生は、必ず第１回目のガイダンスに出席すること。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

15 年度 06 年度以降	クラスセミナー クラスセミナー（再履修者用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、学部共通のテキストに沿って、データを収集・整理し、情報を抽出し、自分の意見を発表するといったアカデミック・スキルを習得することを目的としています。 大学では、広い教養と専門分野の基礎・応用知識を習得することが重要ですが、大学で学問に向き合うときに最も大切なのは、 ・自らの問題意識を醸成し、主体的にテーマ設定する ・先行研究を読み解き、論点を整理・構成する ・データを収集・加工し、情報を抽出する ・自分なりの結論を導き出し、それを発信・議論する という創造的な「知の技巧」を身に付けることです。 しかし、こういった力を身に付けるためには、テキストを読んで「わかった」というだけでは不十分であり、実際に「使える」ようにならなければなりません。そのため、この授業では主体的に授業に参加し、議論したり、課題に取り組むという姿勢が求められます。 学問や研究というと、一人で課題に向き合う個人的な作業のように考えがちですが、クラス、グループ、ゼミといった仲間で議論し、意見を出し合うことが重要です。そのことから生まれる相乗効果こそが、まさに大学が「学問を通じての人間形成の場」となるために必要不可欠なものであるといえます。	１．プレゼンテーション・スキルの基礎 ２．コミュニケーション・スキルを磨く ３．情報探索方法のモデル―キーワードを考える― ４．情報探索方法のモデル―「読む」力をつける１― ５．情報探索方法のモデル―「読む」力をつける２― ６．プレゼンテーション・スキルを磨く１ ７．プレゼンテーション・スキルを磨く２ ８．情報探索方法のモデル―電子情報を見つける― ９．情報探索方法のモデル―「探す」力をつける― １０．学習・研究テーマの選び方１ １１．学習・研究テーマの選び方２ １２．情報の加工 １３．レポートを書く１ １４．レポートを書く２ １５．図書館セミナー なお、上の計画では便宜的に 15 回目に「図書館セミナー」を入れていますが、クラスによって、何週目に入るかが異なります。これについては、担当教員よりお知らせします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済学部で編集したテキスト『クラスセミナーテキスト―知の技巧―』を用います。最初の授業時に配布します。参考文献は、担当教員が適宜紹介します。	受講態度や授業への積極性、課題提出、期末レポートによって総合的に評価する。

06 年度以降	クラスセミナー（再履修者用）	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
大学において講義を受けたりゼミでの活動を行ったりするうえで必要な基礎的スキルを習得することを目的とする。具体的には，文章の読み方やまとめ方，情報収集の仕方，グループで議論したり作業したりするうえでの作法，およびレポート作成の仕方について，実践を通じて学んでいく。	１．　ガイダンス ２．　さまざまな文献の読み方・まとめ方（1） ３．　さまざまな文献の読み方・まとめ方（2） ４．　さまざまな文献の読み方・まとめ方（3） ５．　さまざまな文献の読み方・まとめ方（4） ６．　グループワーク（1） ７．　グループワーク（2） ８．　グループワーク（3） ９．　グループワーク（4） １０．　情報収集の基礎と実践（1） １１．　情報収集の基礎と実践（2） １２．　レポート作成に向けて（1） １３．　レポート作成に向けて（2） １４．　レポート作成に向けて（3） １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
クラスセミナーのテキスト	与えられた課題への対応に基づいて評価する。

12年度以前	経済学ａ	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．ミクロ経済学の基本 Ⅱ．ゲーム理論の考え方 Ⅲ．マクロ経済学の基本 Ⅳ．日本の経済をマクロの視点でとらえる （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅳ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲに対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する Ⅱ． 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か 8. 出店戦略分析 Ⅲ． 9. GDPを中心にマクロ経済を考える 10. 需要と供給で考える 11. マクロ経済のコントロール――財政金融政策の役割 Ⅳ． 12. 日本経済の構造変化――石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化――プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（上）』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

12年度以前	経済学ｂ	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．公共部門の経済学 Ⅱ．金融システムを理解する Ⅲ．国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト下巻の第Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ章に対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 公共部門の三つの機能 3. 財政支出と累進課税 4. 自然独占と公共財 5. 景気対策と日本の財政状況 6. プライマリーバランス――財政の未来を考える Ⅱ． 7. 貨幣のもつ様々な機能 8. マネーストックと金融政策 9. 信用乗数と資産市場の全体像 10. バブルの形成と崩壊が生じるメカニズム Ⅲ． 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位――国際的な自由貿易の恩恵 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（下）』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

12 年度以前	経済学 a	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，様々な経済現象を理論的に考察するための分析道具であるミクロ経済学の基礎を習得し，経済理論に基づいて現実の経済問題を検討する力を養うことを目標とする。 講義では，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。続いて，経済主体の行動と経済の効率性に関する理解に必要な基礎知識の習得を図る。そのうえで，余剰分析について解説し，市場構造のあり方が経済厚生にどのような影響をもたらすかを考察する。また，「市場の失敗」とその諸要因について理解を深めながら，政府の役割と市場の役割のあり方を考える能力を身につける。	１．　ガイダンス ２．　経済学とはどのような学問か ３．　分業の利益 ４．　消費者行動と財の需要（1） ５．　消費者行動と財の需要（2） ６．　企業行動と財の供給（1） ７．　企業行動と財の供給（2） ８．　余剰分析（1） ９．　余剰分析（2） １０．　完全競争と経済の効率性 １１．　不完全競争 １２．　外部効果 １３．　公共財 １４．　ミクロ経済学の応用 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布する資料など	定期試験による。

12 年度以前	経済学 b	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，日本経済に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 講義では，まず国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。これを踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実との対応関係が理解できるように配慮したい。	１．　ガイダンス ２．　マクロ経済学の課題 ３．　家計の消費行動と貯蓄動機 ４．　企業の投資行動 ５．　企業の資金調達と家計の資産選択 ６．　直接金融：株式市場の理論と実際 ７．　間接金融：銀行の役割 ８．　中央銀行の役割と貨幣市場モデル ９．　ケインズ経済学：有効需要の原理 １０．　財市場モデルと乗数効果 １１．　財政政策と金融政策（1） １２．　財政政策と金融政策（2） １３．　労働市場と失業 １４．　開放マクロ経済 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第 4 版），有斐閣	定期試験による。

12 年度以前	統計学 a	担当者	深江　敬志

講義目的、講義概要	授業計画
IT 化の急速な進展によって，情報のひとつの形態であるデータをいかに取り扱うかが重要となっている．つまり，データを扱う統計学に対するニーズが高まっているといえよう．近年，比較的入手が容易になった各種データを単に鵜呑みにするのではなく，批判的にみる事は仕事上，日常生活においても非常に重要である． したがって，本講義では，データや図表の内容を的確に把握し，計算結果を有効なものにするために，統計学の基本的な考え方について学習する事を目的とする． 本講義のスタイルは，各テーマの解説のみならず，理解をより深めるべく計算演習を併せて行う事とする．	１　イントロダクション ２　度数分布表・ヒストグラム ３　ローレンツ曲線・ジニ係数 ４　代表値の種類 ５　平均値計算(1) ６　平均値計算(2) ７　分散・標準偏差(1) ８　分散・標準偏差(2) ９　相関係数(1) １０　相関係数(2) １１　回帰直線 １２　標本調査 １３　確率の考え方(1) １４　確率の考え方(2) １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．講義時に，適宜レジュメおよび参考資料を配布し，それらに沿って講義を進める．	定期試験 70%，小テスト 30%（2～3 回程度）

12 年度以前	統計学 b	担当者	深江　敬志

講義目的、講義概要	授業計画
IT 化の急速な進展によって，情報のひとつの形態であるデータをいかに取り扱うかが重要となっている．つまり，データを扱う統計学に対するニーズが高まっているといえよう．近年，比較的入手が容易になった各種データを単に鵜呑みにするのではなく，批判的にみる事は仕事上，日常生活においても非常に重要である． したがって，本講義では，データや図表の内容を的確に把握し，計算結果を有効なものにするために，統計学の基本的な考え方について学習する事を目的とする． 本講義のスタイルは，各テーマの解説のみならず，理解をより深めるべく計算演習を併せて行う事とする．	１　イントロダクション ２　復習(代表値) ３　復習(散布度) ４　復習(相関関係) ５　復習(確率) ６　離散型確率分布(1) ７　離散型確率分布(2) ８　連続型確率分布(1) ９　連続型確率分布(2) １０　標本分布 １１　母数推定 １２　統計的検定(1) １３　**統計的検定**(2) １４　統計的検定(3) １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．講義時に，適宜レジュメおよび参考資料を配布し，それらに沿って講義を進める．	定期試験 70%，小テスト 30%（2～3 回程度）

06 年度以降	コンピュータ入門 a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでの調査研究において必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 毎回のレポート提出は、ポータルサイトを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。	1. 講義概要と注意 2. 利用のための準備と設定 3. コンピュータの構造 4 インターネットの基礎と利用(ドメイン、情報検索) 5. ワードプロセッサの基礎と応用(表、図) 6. レポート作成 7. 関数を使った計算 1（合計、平均、標準偏差、相対参照と絶対参照） 8. 関数を使った計算 2（IF 関数、AND、OR） 9. 関数を使った計算 3（VLOOKUP、IF 関数との組み合わせ） 10. データの再集計（ピボットテーブル） 11. データの並び替えと目的データの抽出、操作の記録（マクロ） 12. グラフ作成 13. プレゼンテーションソフトの基礎と利用 14. プレゼンテーションソフトで調査資料作成 15. 課題作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ編著、堀江郁美、今福啓『大学で必要な情報基礎』日経ＢＰ社,2015 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経ＢＰ社	レポート-50%、試験-50%

06 年度以降	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数について学ぶとともに、プログラミングの基本についても学ぶ。 表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。 　大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。	1. 講義の進め方について 2. 複利計算とローン返済計画 3. 年金の積み立て 4. 利子率の計算（ソルバー、What-if 分析の使い方） 5. データの特徴を抽出する（移動平均、ヒストグラム、回帰分析） 6. 効率的な作業配分（0-1 整数計画問題） 7. 限られた資源の有効活用（線形計画法） 8. Web ページの仕組み 9. HTML ファイルの作成 10. 画像の表示とリンクの設定 11. JavaScript について 12. JavaScript の繰り返しプログラム 13. JavaScript 場合分けプログラム 14. Web ページの公開とインターネット利用上の注意点 15. 課題の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ編著、堀江郁美、今福啓『大学で必要な情報基礎』日経ＢＰ社,2015 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経ＢＰ社	レポート-50%、試験-50%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

12 年度以前	プレゼンテーション技法	担当者	松田 源立

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 発表資料作成や口頭発表の実践及びディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキルの向上を目指す。 講義概要： プレゼンテーションスキルは、自分の提案や成果を、聴衆に魅力的に伝え、認めてもらうための技術である。大きな成果が期待される素晴らしい提案であっても、それをきちんと伝えることができなければ、他者の協力を得ることは難しい。それゆえ、今後の人生における多くの場において、プレゼンテーションスキルは、非常に重要な能力の一つとなる。本講義では、ロジカル・シンキングに基づくプレゼンテーションの構成について学習する。更に、より実践的にプレゼンテーションスキルを鍛えるために、発表資料を作成し、実際に登壇して発表を行うことを重視する。 前提知識： Microsoft PowerPoint の操作ができることが望ましい。	※ガイダンスには原則として必ず出席すること ※発表の日程や回数は受講者の数により変更する １．ガイダンス ２．プレゼンテーションの基礎 ３．ロジカル・シンキング（1） ４．ロジカル・シンキング（2） ５．ロジカル・シンキング（3） ６．ロジカル・シンキング（4） ７．PowerPoint の概要 ８．発表資料作成実習 ９．発表リハーサル（1） １０．発表リハーサル（2） １１．発表リハーサル（3） １２．発表リハーサル（4） １３．最終登壇発表（1） １４．最終登壇発表（2） １５．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 「ロジカル・シンキング―論理的な思考と構成のスキル」 照屋 華子、岡田 恵子（著）東洋経済新報社	基本的には最終登壇発表の結果に基づいて評価する。その他、講義時の中間課題や学習態度を十分に加味して、総合的に評価する。詳細はガイダンスで説明する。

06年度以降	簿記原理a	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。 簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と基礎知識を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められている。 受講生には、社会に出たときに必ず役に立つ技術・知識であることを強く意識しながら講義を受けてもらいたい。 春学期では、簿記の一連の流れと計算原理の習得を目指す。講義では、わかりやすい説明を心がけ、反復練習と解説をつうじて理解の定着を図る。	1. ガイダンス（講義の進め方、簿記の意義と役立ち） 2. 貸借対照表と損益計算書の構造 3. 簿記の一巡 4. 仕訳と転記（1） 5. 仕訳と転記（2） 6. 試算表の作成 7. ６桁精算表の作成 8. 決算手続（1） 9. 決算手続（2） 10. 決算手続（3） 11. 現金預金取引（1） 12. 現金預金取引（2） 13. 商品売買取引（1） 14. 商品売買取引（2） 15. 春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』（中央経済社）	期末試験により評価します。

06年度以降	簿記原理b	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。 簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と基礎知識を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められている。 受講生には、社会に出たときに必ず役に立つ技術・知識であることを強く意識しながら講義を受けてもらいたい。 秋学期では、様々なケースの取引を処理することをつうじて、記録・計算技術をより一層磨くことを目標とする。また、貸借対照表および損益計算書についての深い理解を到達目標にする。	1. 春学期復習 2. 売掛金と買掛金 3. その他の債権・債務取引 4. 手形取引（1） 5. 手形取引（2） 6. 有価証券取引 7. 固定資産取引 8. 純資産、税金 9. 収益と費用の見越し・繰延べ 10. 決算と財務諸表（1） 11. 決算と財務諸表（2） 12. 決算と財務諸表（3） 13. 伝票会計 14. 帳簿組織 15. 秋学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』（中央経済社）	期末試験により評価します。

06年度以降	簿記原理a	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
簿記は必ず身に付けておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。 簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合せてワークブックで練習します。残った練習問題は自宅で学習してください。 (皆さんの理解に応じて進み方は変更する場合があります。)	1　ガイダンス 2　簿記の基礎 3　日常の手続き1 4　日常の手続き2 5　商品売買1 6　(中間テスト) 7　商品売買 8　現金 9　当座預金 10　小口現金 11　手形1 12　手形2 13　手形 14　練習 15　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
合格テキスト　日商簿記3級　TAC出版 合格トレーニング　日商簿記3級　TAC出版	試験で評価します。出席は取りません。小テストをする場合があります。

06年度以降	簿記原理b	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1　ガイダンス 2　その他の取引 3　その他の取引2 4　その他の取引3 5　試算表1 6　試算表2 7　決算1 8　決算2 9　決算3 10　決算4 11　決算5 12　同上 13　決算6 14　伝票 15　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06年度以降	簿記原理a	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 本講義では、一定期間における企業の儲け（経営成績）と一定時点における企業の財産（財政状態）を明らかにするための記録と計算の原理（複式簿記）について学びます。 講義概要： 前半では、複式簿記の大枠について学びます。具体的には、まず複式簿記の最終的なゴールである損益計算書と貸借対照表の構造について学び、次にそれらを作成するために必要な日々の処理（仕訳帳→総勘定元帳）と決算時の処理（試算表→精算表→本決算手続）について学びます。後半では、具体的な日々の処理について、現金・預金と有価証券に関する処理（仕訳）を中心に学びます。授業ではパワーポイントを使って説明します。	1. オリエンテーション（簿記とは何か） 2. 複式簿記の基礎 3. 貸借対照表と損益計算書の構造 4. 取引（企業の経済活動）の分解 5. 仕訳と転記 6. 仕訳帳と総勘定元帳の記帳 7. 中間試験 8. 試算表と精算表 9. 本決算手続①（損益勘定の締切） 10. 本決算手続②（資産・負債・純資産勘定の締切） 11. 現金・預金の仕訳①（現金過不足の処理） 12. 現金・預金の仕訳②（当座預金の処理） 13. 売買目的有価証券の仕訳 14. 春学期のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將編著『演習 現代簿記（第２版）』中央経済社 ※詳しくは、初回授業で説明します。	授業参加度（25%）、中間試験（25%）、期末試験（50%）

06年度以降	簿記原理b	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 春学期と同様。 講義概要： 秋学期では、春学期に学んだ複式簿記の大枠を基本として、まず具体的な日々の処理について、商品売買取引と有形固定資産に関する仕訳を中心に学びます。次に、日々の処理の結果を損益計算書と貸借対照表にするための決算時の処理について学びます。具体的には、損益計算書と貸借対照表の作成のために必要な決算修正仕訳と８桁精算表について学びます。 春学期と同様、授業ではパワーポイントを使って説明します。	1. オリエンテーション（春学期の復習） 2. 商品売買（仕入・売上）の仕訳（３分法） 3. 仕入帳と売上帳、商品有高帳の記帳 4. 掛け仕入（売上）の仕訳と貸倒引当金の設定 5. 約束手形による仕入（売上）の仕訳 6. 為替手形による仕入（売上）の仕訳 7. その他の債権・債務に関する仕訳 8. 中間試験 9. 有形固定資産の仕訳①（取得と減価償却） 10. 有形固定資産の仕訳②（修繕と売却・廃棄） 11. 決算修正仕訳①（収益と費用の見越し・繰延べ） 12. 決算修正仕訳②（その他の項目） 13. ８桁精算表の作成 14. 秋学期のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様	授業参加度（25%）、中間試験（25%）、期末試験（50%）

06年度以降	簿記原理a	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という１つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的な部分を 純粋に形式的に解明していく分野である、と言うことができよう。 会計という言語は、今日では１つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであろう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ‘最大公約数’の部分だけを、丹念に説明していきたいと考えている。 そのうち「簿記原理 a」では、‘決算整理’を含まない、「分記法」を前提とした、いわゆる「簿記一巡の手続き」までの内容を 取り扱うこととなる。	1 オリエンテイション(本講義の 目的,目標 等) 2 企業の財政状態と貸借対照表 3 企業の経営成績と損益計算書 4 取引と取引の分解……期首B/Sと「取引」記録からのB/S・P/Lの作成；「取引」記録のルール 5 仕訳帳と総勘定元帳 その１：「仕訳」……設例による説明 6 仕訳帳と総勘定元帳 その２：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 7 仕訳帳と総勘定元帳 その３：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳(形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」) 8 試算表と精算表 その１：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 9 試算表と精算表 その２：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 10 勘定の振替えという技法について……具体例による説明 11 決算手続 その１：純損益の振替 12 決算手続 その２：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 13 決算手続についての復習 14 総復習 その１……第2回講義～第13回講義の総復習 15 総復習 その２……期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
現代会計教育研究会 編、『現代基本簿記』(多賀出版)。	春学期は、7～8割を期末試験の結果で,残り2～3割を平常点(講義中の小テスト等)で評価する。その際、相対評価を基本とし、絶対評価を加味する。

06年度以降	簿記原理b	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「簿記原理b」では、「簿記原理a」の知識を前提として、商品売買の処理についての「商品３分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、‘会計言語’の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。	1 オリエンテイション(本講義の 目的,目標 等) 2 現金と預金・有価証券 3 商品の３分法 その１ 4 商品の３分法 その２ 5 仕入と売上の記帳 その１……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 6 仕入と売上の記帳 その２：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法 7 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 8 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 9 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 10 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳 11 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 12 決算整理項目と決算整理仕訳・振替仕訳,精算表の作成 13 帳簿組織と伝票会計…３伝票制；複写式伝票の利用 14 総復習 その１……第2回講義～第13回講義の総復習 15 総復習 その２……期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「簿記原理a」と同じ。	秋学期は、約5割を平常点で、残り5割を期末試験の結果で 評価したい。その際、相対評価を基本とし、絶対評価を加味する。

06 年度以降	簿記原理 a	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。 講義概要 春学期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・　複式簿記とは ・　簿記の仕組み ・　試算表と精算表 ・　決算(Ⅰ)	1.「1.複式簿記とは(1)」　a)簿記の目的と種類 2.「1.複式簿記とは(2)」　b)複式簿記の計算要素 3.「2.簿記の仕組み(1)」 a)取引と勘定、b)勘定記入法 4.「2.簿記の仕組み(2)」 a)取引と勘定、b)勘定記入法 5.「2.簿記の仕組み(3)」 c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 6.「2.簿記の仕組み(4)」 c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 7.「3.試算表と精算表(1)」 a)試算表の作成、b)精算表の作成 8.「3.試算表と精算表(2)」 a)試算表の作成、b)精算表の作成 9.「4.決算(Ⅰ)(1)」a)決算の意味と手続 10.「4.決算(Ⅰ)(2)」b)大陸式決算法、c)英米式決算法 11.「4.決算(Ⅰ)(3)」b)大陸式決算法、c)英米式決算法 12.「4.決算(Ⅰ)(4)」d)損益計算書と貸借対照表の作成、 e)開始記入 13. 決算手続の演習（1） 14. 決算手続の演習（2） 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する。	期末試験の結果による。

06 年度以降	簿記原理 b	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8 桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・　現金・預金取引の記帳 ・　商品売買取引の記帳 ・　手形取引の記帳 ・　その他の取引の記帳 ・　決算(Ⅱ)決算整理 ・　損益計算書と貸借対照表の作成	1.「5.現金･預金取引の記帳」 2.「6.商品売買取引の記帳(1)」　a)分記法、3 分法 3.「6.商品売買取引の記帳(2)」 b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳 4.「6.商品売買取引の記帳(3)」　b)仕入帳と売上帳、 c)商品有高帳、d)掛取引の記帳 5.「7.手形取引の記帳(1)」　a)約束手形と為替手形、 b)受取手形勘定と支払手形勘定、 c)手形の裏書と割引 6.「7.手形取引の記帳(2)」 a)受取手形記入帳と支払手形記入帳 b)不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金 7.「8.その他の取引の記帳」 a)その他の債権、債務取引、b)有価証券取引 c)固定資産取引、d)営業費等の取引 8.「9.決算(Ⅱ)決算整理(1)」 a)決算整理の意味、b)棚卸減耗損及び商品評価損 9.「9.決算(Ⅱ)決算整理(2)」 c)有価証券評価損益、d)固定資産の減価償却 10.「9.決算(Ⅱ)決算整理(3)」 e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 11.「9.決算(Ⅱ)決算整理(4)」 e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 12.「10.損益計算書と貸借対照表の作成」 13. 精算表作成の演習（1） 14. 精算表作成の演習（2） 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する。	期末試験の結果による。

06年度以降	簿記原理a	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第1章　簿記の意義と役立ち 第2章　資産・負債・純資産、収益、費用 4. 第3章　取引 第4章　勘定科目と勘定記入の法則 5. 第5章　仕訳と転記 6. 第6章　貸借平均の原理と試算表 7. 第7章　精算表（6桁） 8. 第8章　簿記一巡の手続　　第9章　帳簿 9. 小テスト 10. 第10章　現金・預金 11. 第11章　商品売買 12. 第11章　商品売買 13. 第12章　有価証券 14. 第13章　売掛金と買掛金 15. 春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
渋谷・湯田編著『ベーシック簿記教室』 中央経済社　2011年	期末試験

06年度以降	簿記原理b	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. 第14章　受取手形と支払手形 2. 第15章　その他の債権・債務 3. 第16章　貸倒れと貸倒引当金 4. 第17章　固定資産と減価償却 第18章　純資産（資本） 第19章　税金 5. 第20章　収益・費用の見越・繰延、消耗品 6. 第21章　伝票会計 7. 第22章　決算予備手続 8. 小テスト 9. 第23章　精算表（8桁） 10. 第24章　決算本手続（帳簿の締め切り） 11. 第25章　決算報告手続（財務諸表の作成） 12. 復習① 13. 復習② 14. 復習③ 15. 講義の終わりにあたりひとこと
テキスト、参考文献	**評価方法**
渋谷・湯田編著『ベーシック簿記教室』 中央経済社　2011年	期末試験

06年度以降	簿記原理ａ（再履修）	担当者	橋本　尚

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記は、「人間の精神が創造した最もすばらしいものの１つである（Ｊ.W.ゲーテ）」と賛美されるように、経済活動を一定のルールに従って記録・計算・整理する技術です。グローバル社会におけるビジネスの共通言語である簿記に関する知識は、今日の経済社会で生活する者にとっては、特別の専門知識というよりも、当然に習得しておかなければならない素養といえます。本講義においては、会計学領域全体の枠組みを概観した上で、今日の経済社会の実情を踏まえつつ、複式簿記の基本的概念と構造を基礎からわかりやすく解説していきます。また、限られた時間内ではありますが、問題演習にも重点をおく予定です。 簿記原理は、会計学関連科目全体の基礎をなす重要な学科目であると同時に、資本主義経済を支える企業の活動状況を正しく理解する上で不可欠な知識です。本講義においては、基礎から解説していくので履修の前提科目は特に問いませんが、学科目の性格上、何よりも継続的な努力を必要とするため、受講者に対しては欠かさず出席することを強く希望します。	第１回 簿記の基礎概念 第２回 簿記上の取引の意義と種類 第３回 勘定の意義と分類、勘定記入の法則 第４回 仕訳、転記、貸借平均の原理 第５回 仕訳の演習問題 第６回 試算表 第７回 ６桁精算表、決算手続 第８回 現金、現金出納帳 第９回 現金過不足 第10回 小口現金、小口現金出納帳 第11回 当座預金・当座借越・当座、当座預金出納帳 第12回 有価証券 第13回 商品売買 第14回 売上高・売上原価・売上総利益の計算 第15回 商品に関する補助簿
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二・橋本　尚『簿記の基本を学ぶ（第３版）』同文舘出版　2011年	講義への取り組み状況などの平常点（30%）と試験の結果（70%）に基づいて総合的に判定する。

06年度以降	簿記原理ｂ（再履修）	担当者	橋本　尚

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記は、「人間の精神が創造した最もすばらしいものの１つである（Ｊ.W.ゲーテ）」と賛美されるように、経済活動を一定のルールに従って記録・計算・整理する技術です。グローバル社会におけるビジネスの共通言語である簿記に関する知識は、今日の経済社会で生活する者にとっては、特別の専門知識というよりも、当然に習得しておかなければならない素養といえます。本講義においては、会計学領域全体の枠組みを概観した上で、今日の経済社会の実情を踏まえつつ、複式簿記の基本的概念と構造を基礎からわかりやすく解説していきます。また、限られた時間内ではありますが、問題演習にも重点をおく予定です。 簿記原理は、会計学関連科目全体の基礎をなす重要な学科目であると同時に、資本主義経済を支える企業の活動状況を正しく理解する上で不可欠な知識です。本講義においては、基礎から解説していくので履修の前提科目は特に問いませんが、学科目の性格上、何よりも継続的な努力を必要とするため、受講者に対しては欠かさず出席することを強く希望します。	第１回 手形（１） 第２回 手形（２） 第３回 その他の債権債務 第４回 固定資産・固定資産台帳 第５回 決算整理事項（１） 第６回 決算整理事項（２） 第７回 決算整理事項（３）、訂正仕訳 第８回 仕訳の総合問題（１） 第９回 仕訳の総合問題（２） 第10回 伝票会計 第11回 試算表の総合問題（１） 第12回 試算表の総合問題（２） 第13回 ８桁精算表（決算整理事項） 第14回 ８桁精算表（推定） 第15回 財務諸表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二・橋本　尚『簿記の基本を学ぶ（第３版）』同文舘出版　2011年	講義への取り組み状況などの平常点（30%）と試験の結果（70%）に基づいて総合的に判定する。

12 年度以前	数学 a	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済学や経営学を学習するうえで必要となる数学のうち，線形代数学（行列・連立１次方程式）について講義する．また，これらを応用した産業連関問題や線形計画問題についても解説する．この講義で得た数学の知識や論理的な思考能力は今後の人生において必ず役に立つのでしっかり勉強してほしい．**<u>最初の授業</u>時にガイダンスとして講義内容や成績評価方法について説明し，下記「授業のページ」の資料を開くためのパスワードを述べるので，<u>必ず出席</u>すること（パスワードをメール等で知らせることはしない）．また，下記教科書も授業で毎回使用するので早めに購入すること（秋学期「数学ｂ」でも引き続き使用する）．** **★授業のページ URL★** http://home.att.ne.jp/air/satorut/lec/ から当該年度・時限の数学ａ「授業のページ」をクリック	１．ガイダンス，数の概念 ２．行列の定義 ３．行列の演算 ４．行列と連立１次方程式 ５．行列の基本変形 ６．行列の簡約化 ７．行列の階数 ８．連立１次方程式の解なし ９．連立１次方程式の不定解 １０．行列式の定義 １１．行列式の性質 １２．逆行列 １３．クラーメルの公式 １４．経済・経営学への応用 １５．期末レポート
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：『経済・経営学のための数学』（高木 悟 著） 獨協大学内「ぶっくぎゃらりぃ DUO」でのみ販売中． 秋学期の「数学ｂ」でも同教科書を引き続き使用する．	授業中または宿題としてときどき出す課題の合計を40%，学期末に実施する期末レポートを 60%として評価する．100 点満点で 60 点以上を合格とする．

12 年度以前	数学 b	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済学や経営学を学習するうえで必要となる数学のうち，解析学（関数・グラフ・微分・偏微分・極値問題）について講義する．また，これらを応用した損益分岐点問題や最適化問題についても解説する．この講義で得た数学の知識や論理的な思考能力は今後の人生において必ず役に立つのでしっかり勉強してほしい．**<u>最初の授業</u>時にガイダンスとして講義内容や成績評価方法について説明し，下記「授業のページ」の資料を開くためのパスワードを述べるので，<u>必ず出席</u>すること（パスワードをメール等で知らせることはしない）．また，下記教科書も授業で毎回使用するので早めに購入すること（春学期「数学ａ」と同じ）．** ※春学期の「数学ａ」を受講していなくても特に問題ない． **★授業のページ URL★** http://home.att.ne.jp/air/satorut/lec/ から当該年度・時限の数学ｂ「授業のページ」をクリック	１．ガイダンス，関数の概念 ２．２次関数 ３．分数関数 ４．指数関数 ５．対数関数 ６．極限と微分の定義 ７．微分の計算 ８．合成関数の微分 ９．関数の増減と凹凸 １０．グラフ描画 １１．問題演習 １２．偏微分の定義と計算 １３．条件付き極値問題 １４．経済・経営学への応用 １５．期末レポート
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：『経済・経営学のための数学』（高木 悟 著） 獨協大学内「ぶっくぎゃらりぃ DUO」でのみ販売中． 春学期の「数学ａ」受講時に購入の場合は再度の購入不要．	授業中または宿題としてときどき出す課題の合計を40%，学期末に実施する期末レポートを 60%として評価する．100 点満点で 60 点以上を合格とする．

13 年度以降 12 年度以前	現代人口論 a 高齢化社会論 a	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
人々がある時点及びある地域に集まって社会を構成するとき、そこに生活している人々の集まりを「人口」という。現代社会は、そうした人口に焦点をあて、日本及び世界的視野から検討すると、先進国及び発展途上国ではさまざまな問題を抱えている。ここでは、こうした課題に接近し、理解を深めることにしたい。 形式人口学（人口統計学）といわれる狭義で扱う人口学的事象の研究は、本来、政治、社会、経済、地理、文化、環境、公衆衛生等他の学問分野と深い関わりを持っており、広義の人口学領域と関連した考察が不可欠である。したがって、ここでは、こうした人口動向を把握する上では統計的指標を把握することが必須である。そのため、基礎的な用語の理解、統計データの見方等を学習し、人口構造の動向とその要因、出生、結婚などの人口問題へのアプローチを紹介し、日本及び世界の動向を概観する。	1．授業の進め方と授業内容 2．現代人口論とは 3．人口属性の概観―世界の動き― 4．人口属性の概観―日本の動き― 5．年少人口、労働力人口、老年人口 6．出生率低下とその要因、 7．死亡率低下とその要因 8．労働供給理論と人口 9．ライフ・サイクルの過程及び高齢者の生活 10．人口高齢化と都市・農村 11．人口高齢化と社会的インパクト 12．人口高齢化と高齢者世帯の所得水準、消費水準 13．高齢者の就業率等と社会活動及び医療行動等 14．諸外国の高齢者生活 15．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書及び参考文献は、授業の中で指示する。	受講条件：b を必ず履修すること。筆記試験（80%）を基礎にして、平常授業のレポート（10%），授業参加点（10%）等を加味して総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	現代人口論 b 高齢化社会論 b	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
人口は、空間的範囲に限定された人間の集合的な表現であるが、その一方では、年齢別、男女別、就業別、高齢者人口のように、非空間的な概念でもあり、社会経済的な属性によって、その性格が大きく異なってくる。 ここでは、日本をはじめ、世界の先進国が抱えている高齢化や少子化の問題を中心に、課題を浮き彫りにし、その問題点を整理した上で人口政策はどうあるべきか、を概観する。 少子化による労働力率の変化や結婚・離婚・配偶関係の変化等人口学的要因が家族や地域社会にどのような影響を与えているのか、都市と農村に分けて検討する。特に、寿命や高齢化に伴う高齢者の問題及びその対応策は、日本を始め、東アジアの中国と韓国、北欧のデンマークやスウェーデン、米国などの国々ではどのようになされているのか、を理解する。特に、後半では、高齢化と要介護高齢者の課題について詳しく説明し、理解を深めることにする。	1．授業の進め方と授業内容 2．結婚・離婚・配偶関係別人口 3．寿命と環境、公衆衛生 4．世帯・家族形態の変化と高齢化 5．人口高齢化と孤立・孤独・孤独死 6．人口構造のアンバランスと世代間扶養 7．人口高齢化と高齢者介護 8．施設及び在宅福祉サービスと高齢化 9．人口高齢化・要介護高齢者と介護保険 10．日本におけるアジア系女性の移民と農村社会 11．東アジアの人口動向と人口政策―中国― 12．アジアの人口動向と人口政策―韓国― 13．西欧及び北欧の人口政策と老齢保障 14．米国の人口政策と老齢保障 15．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書及び参考文献は、授業の中で指示する。	受講条件：a を履修すること。筆記試験（80%）を基礎にして、平常授業のレポート（10%），授業参加点（10%）等を加味して総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	精神保健福祉論 a 精神衛生論 a	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間２万人台から３万人台へと激増した。それから様々な対策がなされ 15 年経過した現在、ようやく年間２万人台への減少がみられた。精神保健（メンタルヘルス）の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえてライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 オリエンテーション；精神保健とは？ 2 精神保健の実践の対象 3 精神医学の基本的知識（1）精神障害の成因・分類 4 精神医学の基本的知識（2）心因性精神障害 5 精神医学の基本的知識（3）気分障害（うつ病ほか） 6 精神医学の基本的知識（4）統合失調症 7 精神医学の基本的知識（5）精神科の治療 8 ライフサイクルから見た精神保健（1）乳幼児期 9 ライフサイクルから見た精神保健（2）児童期・思春期 10 ライフサイクルから見た精神保健（3）青年期 11 ストレスとその対処法 12 ライフサイクルから見た精神保健（4）成人期 13 ライフサイクルから見た精神保健（5）老年期 14 タバコ・アルコール・依存性薬物について 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。 参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。 講義の際の提出物は加点の対象とする。 原則として、再試験・追試験は行わない。

13 年度以降 12 年度以前	精神保健福祉論 b 精神衛生論 b	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
精神保健（メンタルヘルス）や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会（虐待、いじめ、リストラ、非正規雇用‥‥）では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神保健福祉論aを踏まえて(精神保健福祉論bのみを履修することも可能である)、それぞれの生活の場(家族、学校、職場、地域)から見た精神保健を考えていく。さらに、世界とわが国の医療、精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 オリエンテーション；精神保健とは？ 2 生活の場から見た精神保健（1）家族の精神保健(1) 3 生活の場から見た精神保健（2）家族の精神保健(2) 4 生活の場から見た精神保健（3）学校の精神保健（1） 5 生活の場から見た精神保健（4）学校の精神保健（2） 6 ストレスとその対処法 7 生活の場から見た精神保健（5）職場の精神保健（1） 8 生活の場から見た精神保健（6）職場の精神保健（2） 9 生活の場から見た精神保健（7）職場の精神保健（3） 10 生活の場から見た精神保健（8）地域の精神保健（1） 11 生活の場から見た精神保健（9）地域の精神保健（2） 12 わが国の精神科医療の現状 13 医療費の抑制・市場原理の導入・混合診療の解禁の得失 14 タバコ・アルコール・依存性薬物について 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。 参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。 講義の際の提出物は加点の対象とする。 原則として、再試験・追試験は行わない。

13 年度以降 12 年度以前	医療経済学 a 医療・福祉概論 a	担当者	山岡　淳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、財(サービス)としての「医療」が持つ特徴を経済学の理論により説明します。 「医療」という財(サービス)は、一般的な財(サービス)とは異なった性質をもちます。ゆえに医療を利用する個人や、提供する医療機関(病院等)が形成する市場や、経済主体の行動も特徴を有します。こうした財や経済主体の特徴を経済学の理論を用いて説明するのが、医療経済学です。 ただ、現実の問題を読み解くためには、理論だけではなく、歴史的経緯および政治的な力学についても習得する必要があるため、講義の中では、日本や諸外国における医療制度について簡単に解説したうえで、医療経済学の理論について紹介します。 本講義を履修される学生の皆さんには、我が国における現在の医療政策のあゆみと医療経済学の導入部にあたる理論を習得することを目的とします。 講義は授業計画通り進めていきますが、履修者の理解度を考慮しますので、一部の単元の内容が変更されることがあります。 なお、試験には計算問題を含みます。	1. イントロダクション 2. 社会保障の中の医療 3. 明治から戦前までの医療政策 4. 戦後の医療政策と国民皆保険の達成 5. 成長期以降の医療政策と医療費の膨張 6. 高齢化への対応と医療制度の維持 7. 現在の日本の医療保険制度 8. 日本の診療報酬制度 9. 日本の医療提供体制 10. 諸外国の医療保障制度 11. 日本の医療保障制度の本質 12. 医療と経済 13. 医療の需要供給モデルの解法 14. 医療の財・サービスとしての性質 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：印南一路『生命と自由を守る医療政策』東洋経済。	期末試験(80%)および授業への参加度（20%)による評価。出席回数が著しく少ない履修者は期末試験の受験を認めない。詳細な評価方法は授業中に紹介する。

13 年度以降 12 年度以前	医療経済学 b 医療・福祉概論 b	担当者	山岡　淳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、具体的に日本の医療の制度的な特徴や、現場で生じている課題について、医療経済学の理論を用いて解説します。 本講義では、「医師不足」「皆保険」「終末期医療」などといったトピックを取り上げ、それぞれについて医療経済学の理論を用いて解説を行ないます。その上で、現在の医療経済学の成果と限界について、紹介します。 本講義を履修される学生の皆さんには、医療経済学の理論と現実との整合性がどの程度であるか理解することを目的とします。 講義は授業計画通り進めていきますが、履修者の理解度を考慮しますので、一部の単元の内容が変更されることがあります。本講義は医療経済学の理論の応用となりますので、履修を考えている皆さんは前期の医療経済学 a をあらかじめ履修されている事が望まれます。 なお、試験には計算問題を含みます。	1. イントロダクション 2. 日本の医療政策の展開 3. 日本の医療政策の特徴と課題の概要① 4. 日本の医療政策の特徴と課題の概要② 5. 医療サービスと自由競争 6. 医療サービスと市場の失敗 7. 公的保険制度の必要性 8. 病床規制と供給者誘発需要仮説 9. 医療機関の広告規制と情報の非対称 10. 医師不足問題における必要と需要 11. 救急医療体制の現状と課題 12. 医療と介護の境界領域 13. 医療と介護のサービスの代替補完関係 14. 日本人の死生観と終末期医療 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：河口洋行『医療の経済学』日本評論社。	期末試験(80%)および授業への参加度（20%)による評価。出席回数が著しく少ない履修者は期末試験の受験を認めない。詳細な評価方法は授業中に紹介する。

12 年度以前	現代文化論 a	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
20世紀から21世紀にかけて、政治と経済、文化などで世界に強い覇権をもたらしてきた米国の歩みを、その国の成り立ちや発展の足取り、外交や国際社会での力の形成などに見ながら、広い意味での「文化」がグローバリゼーションのなかでどのように国境を越えた影響力を形成してきたのかを考える。 それは9/11のニューヨークのテロとリーマンショックを契機に米国の覇権が翳り、中国など新興国の台頭とともにリーダーのいない混沌のなかにおかれた「Gゼロ」と呼ばれる21世紀の世界を考えることでもある。 「文化」にかかわる領域は言語や宗教、民族、社会システムや人々の価値観など幅広い分野にわたる。歴史の浅い移民国家である米国がグローバルな覇権大国となった理由は、民主主義や市場経済など、編み出した普遍的な社会システムが世界に共有されてきたことが大きい。その統合力と吸引力をソフトパワーとして探る。	1　はじめに 2　文明のかたち 3　「帝国」と覇権国家 4　フランクリン型人間像 5　トクヴィルが見た米国 6　WASP と移民国家 7　ロックフェラーと石油の世紀 8　フォーディズム　大量生産と大量消費 9　冷戦と「豊かな社会」 10　「信頼」と社会 11　「大きな政府」から「小さな政府」へ 12　米国標準とソフトパワーの時代 13　9/11 とリーマンショック 14　米国の覇権の行方－G ゼロの世紀 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。渡辺靖『文化と外交』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績(80%)に加えて、通常の授業で課するリポート(20%)の実績を勘案して評価する。

12 年度以前	現代文化論 b	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションがすすむ世界のなかで〈日本〉という国家とその社会の特性はどのようにものであり、その働きはどのようなものなのかを、文化的な表象や社会システム、技術や人々に共有された固有の価値観などから探る。世界はそれぞれの風土、言語、宗教、民族の下で独自の文化をはぐくんできたが、グローバル化はそれを解体し、世界に共通する同質的な文化に統合してゆく。しかし、それはそれぞれの固有の文化がグローバルな葛藤のなかで普遍化してゆくことでもある。 歴史的に日本は中国文明の影響のもとに、それを独自に洗練させて伝統的な文化を形成してきた。近代に入ってからは「西洋」をモデルにして行政、経済、科学、生活様式に至るまで「脱亜入欧」のスローガンを実現している。異質な文化を風土の中で融合させることにより、ハイブリッド（異種融合）な文化を生み出すことは日本社会の大きな特質である。映像や美術作品などの表象物を通して固有の価値と普遍的な価値の融合というダイナミックな視点から現代の日本文化を考える。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　「蝶々夫人」と武士道 4　日本型システムの起源 5　近代天皇制と日本 6　敗戦とアメリカの影 7　1955 年体制－「戦後」とはなにか 8　MADE　IN　JAPAN 9　高度成長と中流社会 10　ブランドと消費社会 11　日本礼賛と日本たたき 12　表象としての〈日本〉 13　日本文化と現代 14　グローバリゼーションと文化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）などを参考文献とする。	定期試験の成績（80%）にくわえて、通常の授業で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

12年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は外国語を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講義ではニュービジネス、新商品、技術変化、グローバリゼーション、産業集積、地域活性化、雇用問題などの関連文献の中から、幾つかのペーパーを選び出し、それを共に読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れられるよう、一回につき数ページをこなし多くのペーパーに取り組みたい。 なお授業中、関連項目に触れたり、調べたりするので辞書を常に持参すること また関連事項について次回までに調べてきてもらう場合もある。 扱っている事項を理解するために日本語の関連文献を合わせて読むことを望む。	なるべく多くの課題、論文を読み進めるため、一回につき、4～5ページは読み進めていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次、ペーパーのコピーを授業で配布	課題ペーパー（授業で配布）を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および授業参加度と授業の受け答えによる。特に再履修者には授業参加度を重視する。

12年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａの課題の関連ペーパーをさらに読み進めていく。したがってＩａとセットで履修することが望ましい。	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

12 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義では、ビジネスに関する英文を自らの力で読み解くために必要となる、英文の構成を捉える力とテクニカル・ターム（Technical Term）と呼ばれる英語の専門用語に関する知識について学びます。また、英文の読解を通じてビジネスの発想や海外の商慣行などについても学びます。 講義概要： 　右に掲げるテーマ（一例）のなかから、受講生の希望によりいくつかのテーマを選び、それについて輪読していきます。授業は、あらかじめ指定した範囲を受講生に訳してきてもらい、それを講義中に発表してもらう形で進めます。	1. オリエンテーション 2. Rebranding Disney Stores ① 3. Rebranding Disney Stores ② 4. Intel's New Ad Campaign ① 5. Intel's New Ad Campaign ② 6. Making Consumption "Sustainable" ① 7. Making Consumption "Sustainable" ② 8. Balancing Growth and Job Stability ① 9. Balancing Growth and Job Stability ② 10. New Strategies at Starbucks ① 11. New Strategies at Starbucks ② 12. The Power of Global Sports Stars ① 13. The Power of Global Sports Stars ② 14. 春学期のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	評価方法
塩見佳代子・大木久嵩・Richard Silver 編著 『Global Trends in Business』金星堂	授業参加度（25%）、宿題（25%）、期末試験（50%）

12 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　春学期と同様 講義概要： 　春学期と同様	1. オリエンテーション 2. Big Brands and Their Copycats ① 3. Big Brands and Their Copycats ② 4. Getting Women into Boardroom ① 5. Getting Women into Boardroom ② 6. Social Media and Airlines ① 7. Social Media and Airlines ② 8. Health Food Prospects in Asia ① 9. Health Food Prospects in Asia ② 10. Minding Your Manners at Work ① 11. Minding Your Manners at Work ② 12. The New Outsourcing Movement ① 13. The New Outsourcing Movement ② 14. 秋学期のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	評価方法
春学期と同様	授業参加度（25%）、宿題（25%）、期末試験（50%）

13 年度以降 12 年度以前	専門中国語 a 外書講読 a(中国語)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では中国語を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。 ただし中国語を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 中国政治・経済及びアジア経済に関する新聞記事（中国語と日本語）を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義とディスカッションもする。	1 中国語の基礎（1） 2 中国語の基礎（2） 3 中国の教育（1） 4 中国の教育（2） 5 中国の教育（3） 6 中国の社会（1） 7 中国の社会（2） 8 中国の社会（3） 9 中国の生活（1） 10 中国の生活（2） 11 中国の生活（3） 12 中国の生活（4） 13 中国の文化（1） 14 中国の文化（2） 15 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。 必要に応じて資料を配布する。	定期試験　80%、レポート 20%

13 年度以降 12 年度以前	専門中国語 b 外書講読 b(中国語)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。 講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。 中国政治・経済及びアジア経済に関する新聞記事（中国語と日本語）を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義とディスカッションもする。	1 中国の政治（1） 2 中国の政治（2） 3 中国の政治（3） 4 中国の外交（1） 5 中国の外交（2） 6 中国の外交（3） 7 中国の農業（1） 8 中国の農業（2） 9 中国の情報（1） 10 中国の情報（2） 11 中国の経済（1） 12 中国の経済（2） 13 一人っ子政策（1） 14 一人っ子政策（2） 15 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。 必要に応じて資料を配布する。	定期試験　80%、レポート 20%

06年度以降	マクロ経済学ａ	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済学は、国内総生産（GDP)、利子率、失業率、貨幣供給量といったマクロ経済を表す各変数の値やその変化を観察することを通じて、一国の経済活動全体の運動を考察する学問である。特に GDP 水準の決定メカニズムを考察することが主要な目的である。そのためにまず、そもそも生産とは何かといった問題をはじめとして、マクロ経済を表す変数の定義とその意味を理解することが重要である。その上で、この講義では、ケインズ経済学と古典派経済学の対応関係を１つの視点としながら、マクロ経済学の初歩を学んでいく。マクロ経済学を学習することによって、現実の経済で発生する様々な現象やそれに対する経済政策のあり方を体系的に考察できるようになる。	1. マクロ経済学とは？ 2. 内生変数と外生変数 3. 生産と付加価値 4. 三面等価の原則 5. 完全雇用と不完全雇用 6. セイ法則 7. 有効需要原理 8. 消費１ 9. 消費２ 10. 45 度線モデル 11. 投資１ 12. 投資２ 13. 貨幣需要 14. 貨幣供給 15. 貨幣市場均衡
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義ではレジュメを配布し教科書は特に指定しないが、参考書として以下を推薦する。初級：『マクロ経済学・入門』第４版、福田慎一・照山博司著、有斐閣アルマ、中級：『マンキュー経済学・Ⅱマクロ編』、グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社	学期末テストにより評価する。

06年度以降	マクロ経済学ｂ	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済を一般均衡論的立場から考察すること、各モデル間の類似点・相違点を理解すること、この２点が主要な講義目的である。具体的には、最も標準的なケインズ経済学の理論モデルであるIS－LMモデルをはじめとして､AD－AS モデル、古典派モデルを学ぶ。また、財政・金融政策の基本事項を上記のマクロ経済モデルに立脚しながら学習する。一般均衡論体系という首尾一貫した理論体系を学ぶことによって、様々な経済現象をつぎはぎの説明で理解・解釈してしまうという誘惑・失敗から開放され得る。なお、春学期のマクロ経済学ａと合わせて受講することが望ましい。	1. 労働市場 2. 生産物市場 3. 貨幣市場 4. IS－LM モデル１ 5. IS－LM モデル２ 6. 財政・金融政策１ 7. 財政・金融政策２ 8. AD－AS モデル１ 9. AD－AS モデル２ 10. 古典派モデル１ 11. 古典派モデル２ 12. 新古典派総合 13. マクロ経済学の新展開 14. 練習問題の解説 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義ではレジュメを配布し教科書は特に指定しないが、参考書として以下を推薦する。初級：『マクロ経済学・入門』第４版、福田慎一・照山博司著、有斐閣アルマ、中級：『マンキュー経済学・Ⅱマクロ編』、グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社	学期末テストにより評価する。

06年度以降	マクロ経済学a	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
学部中級レベルのマクロ経済学の理解をめざします． 春学期は，マクロ経済学のデータに重点を置きます．まず，「一国全体の経済活動をどのようにとらえるか」という問題からスタートし，GDP・国民所得・物価指数・利子率・失業率・国富のような様々なマクロ経済変数の仕組みと意味について学習します．これらは，新聞・雑誌などの経済記事を読むための基礎知識としても有効でしょう．なお，右の計画は最速の場合を想定しています． 見慣れない記号や用語がたくさん登場すると思います．また内容も，はじめは抽象的に感じられるかもしれません．けれども，一度『ノル』と後は一本調子です．一気に見通しがよくなると思います．そこまで辛抱してください． なお，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. マクロ経済学的な視点の必要性 2. GDPとは？（簡単な計算例） 3. 生産面からとらえたGDP 4. 分配面からとらえたGDP 5. 支出面からとらえたGDP 6. GDP算出の三面等価 7. 算術平均と調和平均 8. ラスパイレス価格指数とCPI 9. パーシェ価格指数とGDPデフレータ 10. 成長率の平均と幾何平均 11. 債券価格と利子率 12. 労働力人口と完全失業率 13. 国民貸借対照表 14. 資金循環統計 15. まとめ
テキスト	**評価方法**
中谷武 他(2009)『新版マクロ経済学』勁草書房	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

06年度以降	マクロ経済学b	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き，学部中級レベルのマクロ経済学の理解をめざします．本年度の「マクロ経済学 a」の内容の理解を前提として進めますので，履修しなかった人は独習が必要です． 秋学期は，マクロ経済学の理論に重点を置きます．春学期に学習したGDPや利子率などの主要なマクロ経済変数間の相互依存関係について学習し，財政政策および金融政策の効果と限界について理解できるようにします． ただし，春学期の進度，および，春学期の定期試験の結果により，授業計画を大幅に変更する場合がありますので気をつけてください．第1回目の授業の際，詳しくお知らせします． なお，春学期同様，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. 春学期の概要と秋学期の授業計画の確認 2. 各経済主体の行動と予算制約 3. ワルラスの法則 4. 有効需要の原理 5. 乗数プロセス 6. 財政政策の効果 7. 増税・減税とその効果 8. 実物投資と資金調達 9. 購買力保存方法の選択 10. GDPと利子率の同時均衡 11. 財政政策の効果の修正 12. 金融政策の効果 13. 生産技術と雇用 14. 失業とインフレのトレードオフ 15. まとめ
参考書	**評価方法**
中谷武 他(2009)『新版マクロ経済学』勁草書房	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

06年度以降	マクロ経済学a	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
個人による消費、企業による生産・投資・輸出入を一国の集計ベースで見たときに、それらはどのような要因で決まるのだろうか。また、それらを合計した一国経済の活動水準はどのように決まるのだろうか。そこには当然、政府や中央銀行による財政・金融政策もかかわってくるが、それらの経済政策は経済活動にどのような影響を及ぼすのだろうか。こうした問題を扱うのがマクロ経済学である。 本講義では、まず、一国経済の全体像を表す国民経済計算を説明する。次いで、家計による消費と貯蓄、企業による設備投資がどのように決まるのかを考える。最後に、こうした家計や企業の経済行動をベースとした時、一国経済の生産規模がどのように決まるのかを示す。 講義ではマクロ経済理論の説明だけでなく、現実の日本経済にも言及しながら進めていく。	1. イントロダクション 2. 国民経済計算とは 3. 三面等価の原則 4. 消費関数 5. ライフサイクル仮説 6. 恒常所得仮説 7. 貯蓄関数と貯蓄率 8. 設備投資と資本ストックの概念 9. 資本ストックと加速度原理 10. 設備投資の決定要因：金利と期待 11. 有効需要の原理 12. 均衡国民所得 13. 乗数の考え方 14. 乗数と経済政策 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

06年度以降	マクロ経済学b	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済学aでは、消費、設備投資といった生産物市場のみを取り上げ、一国経済の生産規模がどのように決定されるのかを考えた。本講義では、さらに貨幣市場、労働市場、海外市場を順次取り込む形で拡張していく。 この拡張によって2つのメリットが生じる。1つは、一国の生産規模だけでなく、利子率、物価、為替レートなどの経済変量がどのように決まるかを分析する枠組みが得られることである。2つ目は、政府による財政政策、中央銀行による金融政策が生産規模や利子率などに及ぼす影響をより精密に分析できるようになることである。 講義ではマクロ経済理論の説明だけでなく、現実の日本経済にも言及しながら進めていく。	1. イントロダクション 2. 貨幣市場とは：貨幣量の概念 3. 貨幣需要 4. 利子率の決定 5. 財市場とIS曲線 6. 貨幣市場とLM曲線 7. IS―LM分析と財政・金融政策 8. 労働市場とは 9. 財・貨幣市場とAD曲線 10. 労働市場とAS曲線 11. AD―AS分析と財政・金融政策 12. 為替レート決定のメカニズム 13. マンデル・フレミングモデルの考え方 14. マンデル・フレミングモデルと財政・金融政策 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

06年度以降	ミクロ経済学ａ	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 市場が社会にどのような結果をもたらすのかという，経済学において最も重要な考え方を習得する． 【概要】 春学期の到達目標は， 完全競争市場の分析，消費者の行動，および生産者の行動の理解である．この理解を通じて，常識ではなかなか到達できない，社会現象への認識・視覚(=エコノミックリテラシー)を身につける． 方針としては， 諸概念の直感的な理解と，グラフや記号を通じての厳密な理解の双方が可能となるように講義をする．１年生配当の「経済学」の既習は前提としたレベルで講義をする．	1　イントロダクション　(ミクロ経済学とは) 2　需要曲線と供給曲線の導出とシフト 3　需要と供給の理論の応用と弾力性 4　弾力性の応用 5　市場均衡と余剰分析 6　余剰分析の応用 7　消費者行動の定式化 8　消費者の最適な行動の特徴づけ(効用最大化) 9　所得効果と代替効果 10　生産者行動の定式化 11　生産者の最適な行動の特徴づけ(利潤最大化) 12　費用最小化という視点 13　費用曲線 14　費用曲線と経済のダイナミクス 15　その他の補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
欠席した授業の補完として最も有用なテキストとして， 『ミクロ経済学　第２版』伊藤元重　日本評論社 を挙げておく．他に， 『マンキュー経済学Ｉミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社 も参考にすると良い．	定期試験で評価する．

06年度以降	ミクロ経済学ｂ	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 市場の想定をより現実的なものに変え，社会への影響がどうに変わるかを理解する．また，各個人が合理的な行動を取ったときにどのような結果が得られるかという考え方を理解する． 【概要】 秋学期の到達目標は， ここで議論されることは不完全競争市場の分析に関連するトピックスである．ここでも，常識ではなかなか到達できない，社会現象への新しい認識・視覚が得られるのでこれを身につける． 方針は，ミクロ経済学ｂと同様である．同じく，１年生配当の「経済学」の既習は前提としたレベルで講義をする．	1　単一市場から複数の市場へ(2財･2主体の交換経済) 2　一般均衡分析(1)　(ボックスダイアグラム) 3　一般均衡分析(2)　(市場の望ましさについて) 4　市場の失敗：外部性について 5　市場の失敗への対処 6　コースの定理 7　外部性と財の特徴（公共財と共有資源） 8　独占市場の理論（数学的準備） 9　完全競争市場と独占市場の比較 10　戦略的関係の分析１：同時に決定する場合 11　戦略的関係の分析２：意思決定の順番あり 12　不確実性と期待値（いつ現実的に妥当的か） 13　リスクと選好（リスク回避と保険の機能） 14　情報の経済学（逆選択，モラルハザード） 15　その他の補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
欠席した授業の補完として最も有用なテキストとして， 『ミクロ経済学　第２版』伊藤元重　日本評論社 を挙げておく．他に， 『マンキュー経済学Ｉミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社 も参考にすると良い．	定期試験で評価する．

06年度以降	ミクロ経済学a	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学では、それぞれの経済主体（個人や企業など）が直面する経済的な問題に個別に注目し、各自がどのように行動するかを学習する。春学期は消費者行動の基本について学ぶ。 ＜講義の目的＞ ミクロ経済学の基礎として、消費者の直面する問題を把握し、それを確実に解けるようになることを目的とする。 ＜講義の方針＞ 1年生配当の「経済学」「経済経営数学入門」履修を前提としたレベルで講義をする。講義内容の理解を深めるため、講義中に課題を解いて提出してもらう。秋学期の講義でも、春学期に学習した内容と重複するため、春学期の内容をよく理解できるよう取り組んでほしい。	1　イントロダクション(ミクロ経済学とは) 2　限界支払い意思額 3　消費者の最適化行動(1)：1財のケース 4　需要曲線とそのシフト 5　予算線と予算制約 6　価格比と客観的評価 7　選好と効用関数 8　微分の意味：関数の接線と傾き 9　無差別曲線 10　限界代替率と主観的評価 11　弾力性と財の分類 12　消費者の最適化行動(2)：2財のケース 13　消費者の最適化行動(3)：一般的なケース 14　所得効果と代替効果 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『ミクロ経済学の力』神取道宏　日本評論社 『ミクロ経済学　第2版』伊藤元重　日本評論社 『マンキュー経済学Ｉミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト受験(20%)、期末試験(40%)とする。

06年度以降	ミクロ経済学b	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学では、それぞれの経済主体（個人や企業など）が直面する経済的な問題に個別に注目し、各自がどのように行動するかを学習する。秋学期は市場の価格メカニズムの性質と、生産者行動の基本について学習する。 ＜講義の目的＞ ミクロ経済学の基礎として、市場でどのように価格と配分が決まり、その配分の性質について理解すること、また生産者の直面する問題を把握し、それを確実に解けるようになることを目的とする。 ＜講義の方針＞ 1年生配当の「経済学」「経済経営数学入門」履修を前提としたレベルで講義をする。講義内容の理解を深めるため、講義中に課題を解いて提出してもらう。春学期の内容と考え方が重複するため、秋学期の受講の前に春学期の内容をよく復習しておくことが望ましい。	1　消費者行動の復習 2　交換経済と生産経済 3　初期保有量とエッジワースボックス 4　交換経済の競争均衡：価格と配分 5　交換経済のパレート効率的配分とその特徴付け 6　厚生経済学の基本定理(1)：交換経済 7　生産者行動：利潤とは 8　収入と限界収入 9　費用関数と限界費用 10　生産者の最適化行動(1)：生産量の決定 11　生産技術と生産要素 12　費用関数と生産関数 13　生産者の最適化行動(2)：要素需要の決定 14　生産経済のパレート効率的配分とその特徴付け 15　厚生経済学の基本定理(2)：生産経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『ミクロ経済学の力』神取道宏　日本評論社 『ミクロ経済学　第2版』伊藤元重　日本評論社 『マンキュー経済学Ｉミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト受験(20%)、期末試験(40%)とする。

06年度以降	ミクロ経済学ａ	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべての人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し､受講者の一層の学習努力を促すようにす　る。	講義中にプリント配布 (完全競争を中心にして講義)
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義中に指示する。	学期末試験を最重視

06年度以降	ミクロ経済学ｂ	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべての人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し､受講者の一層の学習努力を促すようにする。	講義中にプリント配布 (不完全競争を中心にして講義)
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義中に指示する。	学期末試験を最重視

06 年度以降	経済学史 a	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することにある。 講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想から 19 世紀末の経済思想までを通覧する。	1. ガイダンス：　経済学史とはどのような学問か 2. ロックとヒューム 市場社会の成立を支えた思想 3. フランソワ・ケネー 人類最初のエコノミスト 4-5.　アダム・スミス 市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6. ジェレミー・ベンサム 「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7. トーマス・ロバート・マルサス 市場社会における貧困と「人口の原理」 8-9. デイビッド・リカードウ 古典派経済学の体系化 10.　大陸の経済学者たち セー、シスモンディー、リスト 11. ジョン・スチュアート・ミル 功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 12-13. カール・マルクス 資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 14-15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会. 根井雅弘『経済学の歴史』講談社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

06 年度以降	経済学史 b	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することにある。 講義の概要 19 世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、その将来を基礎づけるであろう今日の経済思想までを通覧する。	1. ガイダンス： 春季から秋季への橋渡し 2. グスタフ・シュモラー 新歴史学派の社会政策思想 3. カール・メンガー 主観主義のミクロ経済学 4-5. ジェヴォンズとワルラス 経済学の数理科学化 6-7. アルフレッド・マーシャル 「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 8-9. ソースティン・ヴェブレン 大量生産・大量消費社会の制度分析 10-11. ヨゼフ・シュンペーター 企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 11-12. ジョン・メイナード・ケインズ 貨幣経済のマクロ分析 13-14.　ケインズ以降の経済学 ケインジアン、ポストケインジアン、 シカゴ学派、合理的期待形成学派、ハイエク、 ニューケインジアン etc. 15 ．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会. 根井雅弘『経済学の歴史』講談社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

13 年度以降 12 年度以前	上級マクロ経済学 a 経済変動論 a	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
入門・初級のマクロ経済学では、ケインズ経済学と新古典派経済学の対応関係が中心的な視点である。しかし、1970 年代以降、マクロ経済学は大きく変貌し、主流派の経済学では、ケインズ経済学対新古典派経済学という対応関係を視点とした上でのマクロ経済論争は建設的なものではないというコンセンサスが形成されるに至った。本講義では、マクロ経済学がどのように変わってきたのか、そして何故このような変化が起こったのか、またこのような変化の結果として政策的含意がどのように変化するのかなどを理解することを目的とする。また、様々なマクロ経済政策に対して、その是非を判断する際に、重要な視点を与えると考えられる経済学的論理を学ぶことも主要な目的である。	1. 新古典派総合（短期と長期） 2. マネタリズム 3. 新古典派経済学 4. マクロ経済学のミクロ経済学的基礎 5. 貨幣(1) 6. 貨幣(2) 7. インフレーション 8. 期待形成 9. 資産市場と資産価格 10. ブレトンウッズ体制と IS－LM モデル 11. 新しい IS－LM モデル 12. マクロ経済政策 13. 動学的不整合性と経済政策のルール化 14. 練習問題の解説 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。	学期末テストにより評価する。

13 年度以降 12 年度以前	上級マクロ経済学 b 経済変動論 b	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、マクロ経済的現象としての経済変動を経済成長と景気循環の 2 つの視点から考察する。具体的には、右の講義計画に沿って、マルサス・モデル、ソロー・モデル、ラムゼイ・モデル、内生的成長モデル、実物的景気循環論などの様々な経済成長理論・景気循環理論を学ぶ。経済成長も景気循環も時間の流れを通じた経済現象であり、必然として「時間」という概念が入ってくる。時間の流れを明示的に経済理論に導入することは動学化と呼ばれている。「マクロ経済理論の動学化」という分析視点が何を意味するのか、またこの分析視点により政策的含意等に対して具体的に何がもたらされるのか、これらのことを経済成長理論・景気循環理論を通じて理解することが本講義の主要な目的である。	1. 動学的マクロ経済モデル 2. 生産要素と生産関数 3. 経済成長論の概説 4. マルサス・モデル 5. 経済成長論 1（ソロー・モデル） 6. 経済成長論 2（ラムゼイ・モデル） 7. 経済成長論 3（AK モデル） 8. 経済成長論 4（人的資本モデル） 9. 経済成長論 5（研究開発モデル） 10. 経済成長論 6（統一成長理論） 11. 所得格差と経済成長 12. 景気循環論の概説 13. 景気循環論 1（乗数加速度モデル） 14. 景気循環論 2（実物的景気循環論） 15. 景気循環論 3（不決定性）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。	学期末テストにより評価する。

06年度以降	経済社会学a	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
我々は一人ひとりがより豊かな暮らしをするために社会を作り、経済を発展させてきました。しかし、現実にはいまでも多くの人が貧困と抑圧に苦しんでいます。この講義では、なぜ資本主義社会がすべての人を幸せにできないのかを経済社会の歴史と日本の現状を踏まえて考えていきます。	１．　ガイダンス ２．　人はどうしたら幸せになれるのか ３．　経済社会はどのように発展してきたのか ４．　社会民主主義の興隆と変容 ５．　共産主義社会の失敗と新自由主義の台頭 ６．　遅れてやってきた日本の新自由主義 ７．　新自由主義と戦争 ８．　税制と経済社会 ９．　日本の税制 10.　社会保障とセーフティネット 11.　教育と格差 12.　人はなぜ狂うのか 13.　新自由主義と利権 14.　貧困とは何か. 15.　まとめ ※項目は確定ではありません
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

06年度以降	経済社会学b	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、金融資本主義のもたらした経済社会の問題点を歴史に基づいて明らかにするとともに、我々が真に豊かに暮らすために必要な経済社会のビジョンを考えていきます。	１．　ガイダンス ２．　アメリカ発の金融危機 ３．　日本の金融危機 ４．　小泉構造改革と金融資本主義 ５．　リーマンショックと日本経済 ６．　バブル発生のメカニズム ７．　所得格差拡大とライフスタイルの多様化 ８．　真のIT革命の成果とは ９．　市場構造の変化 10.　インターネットオークション 11.　共同購入とモノ作りのコスト 12.　萌えとは何なのか 13.　萌え市場の規模と方向性 14.　２１世紀の経済社会像 15.　まとめ ※項目は確定ではありません
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

06 年度以降	ゲーム理論 a	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 ゲーム理論とは，戦略的な状況のもとで，合理的に人々が意思決定する場合に，社会全体としてどのような状況が安定となるかを分析する学問である．標準的な内容の習得を通じて，常識ではなかなか到達できない，社会現象への認識・視覚（=エコノミックリテラシー）を身につける． 【概要】 春学期の到達目標は， 各主体が同時に意思決定をするもとで用いられる，均衡概念とその応用を理解・習得することである．具体的な内容は授業計画を参照のこと． 方針としては， 諸概念の直感的な理解と，抽象的な記号による厳密な理解の双方ができるように講義をする． なお，2 年次配当の「ミクロ経済学」，および，微分程度の数学の知識は前提とし講義をする．	1　イントロダクション　(戦略的状況と支配戦略) 2　囚人のジレンマゲーム 3　支配される戦略の繰り返し削除 4　最適反応戦略とナッシュ均衡 5　ナッシュ均衡の応用(1)：調整ゲーム 6　支配戦略均衡とナッシュ均衡の関係 7　ナッシュ均衡の応用(2)：複占市場の分析 8　ナッシュ均衡の応用(3)：立地モデルの分析 9　混合戦略と期待利得 10　混合戦略でのナッシュ均衡の簡便な求め方 11　混合戦略の応用(しつけゲーム)と簡便法の証明 12　進化ゲームの安定性 (ESS) 13　ナッシュ均衡と ESS の関係 14　進化ゲームの応用(確率的進化とネットワーク) 15　その他の補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書：(講義中も適宜，良書を紹介する。) *Strategy: An Introduction to Game Theory*, J. Watson, W.W.Norton & Company	定期試験で評価する． (ただし，受講生の人数をみて，授業内に試験をして，定期試験の代替とすることもある．)

06 年度以降	ゲーム理論 b	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 ゲーム理論とは，戦略的な状況のもとで，合理的に人々が意思決定する場合に，社会全体としてどのような状況が安定となるかを分析する学問である．標準的な内容の習得を通じて，常識ではなかなか到達できない，社会現象への認識・視覚（=エコノミックリテラシー）を身につける． 【概要】 秋学期の到達目標は， 各主体の意思決定に順番がある中で，社会全体としてどのような結果が得られるかを学ぶ．すなわち，それに関連する均衡概念やさまざまな応用について，理解・習得する．具体的な内容は授業計画を参照のこと． 方針は春学期と同様である． なお，2 年次配当の「ミクロ経済学」，および，微分程度の数学の知識は前提とし講義をする．	1　イントロダクション 2　展開形ゲームと解き方(後ろ向き帰納法) 3　応用：後ろ向き帰納法と合理性 4　応用：最後通牒ゲームと交渉 5　戦略形と展開形の関係： 　情報集合の導入と部分ゲーム完全均衡 6　情報集合ごとの合理性と完全ベイジアン均衡 7　不完備情報ゲーム とベイジアンナッシュ均衡： 　相手のタイプがわからない状況の戦略形での解釈 8　不完備情報ゲームへの完全ベイジアン均衡の応用 　展開形表現での解釈と適切な均衡概念 9　応用例：シグナルとしての資格など 10　情報の経済学 1：逆選択 11　情報の経済学 2：Principal-Agent モデル 12　オークションについて 13　繰り返しゲーム：協力の実現 14　その他の補足(1) 15　その他の補足(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書：(講義中も適宜，良書を紹介する。) *Strategy: An Introduction to Game Theory*, J. Watson, W.W.Norton & Company	定期試験で評価する． (ただし，受講生の人数をみて，授業内に試験をして，定期試験の代替とすることもある．)

06 年度以降	経済統計論 a	担当者	深江　敬志

講義目的、講義概要	授業計画
経済統計とは，経済・社会現象を知り，学ぶために必要なデータに関する基礎的な知識とともに，それらを分析するための手法について学習することを目指した学問である． 近年，情報化の進展により，情報の形態のひとつであるデータをどのように取り扱うかが非常に重要となっている．同時にデータを扱う統計学に対する必要性が高まっている．よって，われわれは現在容易に入手可能なデータおよび図表を単純に鵜呑みにするのではなく，それらが意味していることを統計学に基づき正確に理解することが必要不可欠であるといえよう． したがって，本講義では，わが国の統計制度および統計分類など，経済統計の基本を学び，そこで公表されているデータや図表の内容を的確に把握し，かつそれらを有効なものにするために，統計学の基本的な考え方について理解することを目標とする．	1 イントロダクション 2 統計データの読み方 3 統計データの整理(統計調査・統計資料の整理) 4 統計データの整理(統計図表) 5 統計データの特性値(代表値・散布度) 6 統計データの特性値(相関関係) 7 標本と確率分布 8 標本と確率分布 9 標本分布と推定 10 標本分布と推定 11 回帰モデルによる統計的分析 12 回帰モデルによる統計的分析 13 回帰モデルによる統計的分析 14 まとめ 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．講義時に，適宜レジュメおよび参考資料を配布し，それらに沿って講義を進める．	定期試験 70%，小テスト 30%(1～2 回程度)

06 年度以降	経済統計論 b	担当者	深江　敬志

講義目的、講義概要	授業計画
経済統計とは，経済・社会現象を知り，学ぶために必要なデータに関する基礎的な知識とともに，それらを分析するための手法について学習することを目指した学問である． 近年，情報化の進展により，情報の形態のひとつであるデータをどのように取り扱うかが非常に重要となっている．同時にデータを扱う統計学に対する必要性が高まっている．よって，われわれは現在容易に入手可能なデータおよび図表を単純に鵜呑みにするのではなく，それらが意味していることを統計学に基づき正確に理解することが必要不可欠であるといえよう． したがって，本講義では，わが国の統計制度および統計分類など，経済統計の基本を学び，そこで公表されているデータや図表の内容を的確に把握し，かつそれらを有効なものにするために，統計学の基本的な考え方について理解することを目標とする．	1 イントロダクション 2 経済統計と統計データ 3 統計制度と標準統計分類 4 わが国の統計行政 5 人口と労働に関する統計 6 家計に関する統計 7 産業と企業に関する統計 8 個別産業に関する統計 9 財政と金融に関する統計 10 財政と金融に関する統計 11 物価指数と数量指数 12 国民経済計算 13 国民経済計算 14 まとめ 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．講義時に，適宜レジュメおよび参考資料を配布し，それらに沿って講義を進める．	定期試験 70%，小テスト 30%(1～2 回程度)

06年度以降	計量経済学a	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 経済理論とデータとの関係を明らかにする「計量経済学」の基礎を学ぶ. 【概要】 春学期の到達目標は, (1)　計量経済学で最も基本的な考え方である,最小2乗法による推定を理解すること, (2)　秋学期で頻出する複数の確率変数の表現方法(行列)と演算に慣れること, (3)　EXCELで実際に推定ができるようになること, である. 授業方針としては, 自学自習ではなかなか理解できない，理論的な側面を重視し，統計学の基礎から計量経済学を解説してゆく．さらには，EXCEL での計算とあわせて，理解すること・実際に計算をおこなうことの楽しさを重視する．その結果としてより高度な勉強にも対応する基礎力を養成する.	以下のトピックスを順次解説してゆく. 1　イントロダクション 2　データの要約：平均・分散・標準偏差 3　確率変数の要約 4　データと確率変数の関係，データの変換 5　異なるデータの比較と行列表現 6　複数のデータと確率変数（行列表現の応用) 7　複数のデータ・確率変数での分散・共分散 8　複数のデータの変換と相関係数，計量経済学のモデル 9　最小2乗法の考え方　(ぴったりと線を引く方法) 10　係数の導出　(行列の微分・逆行列) 11　決定係数　(モデルの当てはまりの良さについて) 12　正規分布・多変量正規分布について 13　確率モデルと最小2乗法　(係数の推定) 14　推定した係数の期待値（不偏性：望ましい性質1) 15　その他の補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤山英樹『統計学からの計量経済学入門』昭和堂	授業のはじめにおこなう小テスト．ただし，受講生全体の状況をみて，レポートをおこなえばそれも考慮する.

06年度以降	計量経済学b	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 経済理論とデータとの関係を明らかにする「計量経済学」の標準的な内容を学ぶ. 【概要】 秋学期の到達目標は, (1)　推定における最小2乗法の望ましい性質を理解する (2)　Σ記号ではなく，行列による簡明な概念理解, (3)　検定の考え方とその具体的な方法の理解, (4)　推定における実際的な工夫を理解すること, (5)　標準的な仮定が満たされない場合の発見方法と対処方法を学ぶこと, (6)　EXCELで実際に以上の推定・検定が行えること, である. 授業方針は「計量経済学a」と同様である. なお,「計量経済学a」の既習を前提として授業をおこなう.	以下のトピックスを順次解説してゆく. 1　イントロダクション 2　推定した係数の分散　(BLUE：望ましい性質2) 3　検定の考え方 4　検定に使う確率変数の導出 5　F検定について 6　検定についてのまとめとt検定 7　関数形の工夫 8　説明変数の工夫：ダミー変数と構造変化 9　標準的仮定を崩す：不均一分散の発見 10 標準的仮定を崩す：不均一分散への対処 11 標準的仮定を崩す：系列相関の発見と対処 12 説明変数の選択について(過少，過剰，多重共線性) 13 標準的仮定を崩す：説明変数と攪乱項の相関 14 標準的仮定を崩す：説明変数と攪乱項の相関の応用 15 その他の補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤山英樹『統計学からの計量経済学入門』昭和堂	授業のはじめにおこなう小テスト．ただし，受講生全体の状況をみて，レポートをおこなえばそれも考慮する.

06年度以降	経済政策論a	担当者	童　適平

講義目的、講義概要	授業計画
資本主義市場経済において、経済問題は主として市場メカニズムを通じて解決されることになっている。しかし、市場の失敗のように、市場メカニズムですべての経済問題がうまく解決されるわけではないのである。政府は、この市場の失敗を補完するために、資源配分機能、経済安定化機能、富と所得の再分配機能という３つの役割を持っている。本講義は、これら３つの機能を、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を使用して説明することを通じて、受講生の経済学理論への理解を深めるだけでなく、現実の経済問題への分析力を養うことを目的とする。 経済政策論aにおいて、ミクロ経済政策を中心にその理論的背景、経済政策的解決の効果を解説することにする。理論だけでなく現実の経済現象を取上げて説明することによって、受講生に臨場感を与え、理解しやすいように心掛ける。また、経済政策の理解を助けるために、講義中にミクロ経済学の基礎知識を解説することもある。	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　経済システムと経済政策 第 3 回　経済政策のミクロ経済学の基礎(1)-消費者行動 第 4 回　経済政策のミクロ経済学の基礎(2)-生産者行動 第 5 回　資源配分効率の基準-消費者余剰と生産者余剰 第 6 回　自然独占とその対策（1） 第 7 回　自然独占とその対策(2) 第 8 回　外部経済とその対策 第 9 回　公共財と公共財の供給（1） 第10回　公共財と公共財の供給（2） 第11回～第15回　情報の不完全性・非対称性とその解決策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストを指定しない。参考文献：1､岩田規久男・飯田泰之著『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞出版社。 2､横山将義『経済政策』成文堂	期末試験を行う。学期中数回小テストを行う。学期中の練習問題の解答と小テストを考慮して30%、期末試験70%

06年度以降	経済政策論b	担当者	童　適平

講義目的、講義概要	授業計画
資本主義市場経済においては、経済問題は主として市場メカニズムを通じて解決されることになっている。しかし、市場の失敗のように、市場メカニズムですべての経済問題がうまく解決されるわけではないのである。政府は、この市場の失敗を補完するために、資源配分機能、経済安定化機能、富と所得の再分配機能という３つの役割を持っている。本講義は、これら３つの機能を、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を使用して説明することを通じて、各受講生の経済学理論への理解を深めるだけでなく、現実の経済問題への分析力を養うことを目的とする。 経済政策論bにおいて、まず、簡単にマクロ経済学の基礎知識を解説する。続いて、経済成長政策、経済安定政策、所得再分配政策、対外均衡政策の順でマクロ経済政策を理論的な背景、手段とその効果から解説する。同様に、理論だけでなく現実の経済現象を取上げて説明することによって、受講生に臨場感を与え、理解しやすいように心掛ける。	第 1 回　経済政策のマクロ経済学の基礎(1) 第 2 回　経済政策のマクロ経済学の基礎(2) 第 3 回　財政政策 第 4 回　金融政策 第 5 回　財政政策と金融政策の効果(1) 第 6 回　財政政策と金融政策の効果(2) 第 7 回　経済成長政策 第 8 回　経済安定政策 第 9 回　物価変動と経済政策 第10回　所得再分配政策 第11回　中小企業政策（1） 第12回　中小企業政策（2） 第13回　労働政策 第14回　社会保障政策（1） 第15回　社会保障政策（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストを指定しない。参考文献：1､岩田規久男・飯田泰之著『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞出版社。 2､横山将義『経済政策』成文堂	期末試験を行う。学期中数回小テストを行う。学期中の練習問題の解答と小テストを考慮して30%、期末試験70%

13 年度以降 12 年度以前	開発経済学 a 経済開発論 a	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、３つあります。第1は、開発途上国が抱えている貧困問題を理解することです。貧困層の特定、貧困の悪循環、人間開発などに焦点をあてます。 第２は、東アジア諸国を念頭に、経済成長のメカニズムを学ぶことです。直接投資、輸出構造の変化、産業構造の高度化などが主な論点です。 第３は、貧困問題の解決に向けた新しい取り組みについて学習することです。マイクロファイナンス（バングラデシュで農村の女性に金融サービスを提供しているグラミン銀行等）、貧困削減と利益確保の両立を目指すBOPビジネス等を取り上げます。 今年度より、第9回に反転授業、第13回にディベートを実施します。ペーパー（800字程度）の提出と発言が求められます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。開発経済学bも履修してください。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 開発経済学の学説史（アダム・スミスから『最底辺のポートフォリオ』まで） 3. 政策のターゲットとなるべき貧困層とは 4. 東アジアの経済発展再考 5. 直接投資と産業発展 6. 経済発展における金融の役割 7. 情報通信技術と経済発展 8. アジア最貧国バングラデシュの挑戦 9. 全員対話（貧困はなぜ問題なのか） 10. Inclusive Development と企業の役割 11. マイクロファイナンス（グラミン銀行の挑戦） 12. 貧困層向け（BOP）ビジネスの拡大 13. 全員ディベート（Dambisa Moyo: Is China the new idol for emerging economies?） 14-15. 担当教員への質問と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。感想文や授業中の発言による加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第１回の講義で説明）。

13 年度以降 12 年度以前	開発経済学 b 経済開発論 b	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、３つあります。第1は、開発途上国が抱える経済的リスクを把握することです。事例として、ラテンアメリカで深刻化した累積債務問題、重債務貧困国への支援、そして1997年のアジア経済危機を取り上げます。 第２は、日本企業の新興国戦略に直結する人口問題（含む高齢化社会の到来）と消費市場の拡大について理解することです。 第３は、わが国企業と開発途上国（新興国）との関係を考察することです。インフラ整備は近年注目を集めている分野の一つです。多国籍企業は今や、国連ミレニアム開発目標等を意識することなしに、事業を展開できません。 今年度より、第10回と13回にディベートを実施します。ペーパー（800字程度）の提出と発言が求められます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。開発経済学aも履修してください。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 経済のグローバル化と開発途上国 3. リスクについて考える 4. カントリーリスク、ソブリンリスク、格付け 5. 1980 年代の累積債務問題、重債務貧困国 6. アジア経済危機の背景と処方箋 7. 国際通貨基金（ＩＭＦ）と世界銀行の開発戦略 8. 開発途上国における人口問題 9. 人口動態の変化と経済発展 10. 全員ディベート（Yasheng Huang: Does democracy stifle economic growth?） 11. 開発途上国におけるインフラ整備 12. 国連ミレニアム開発目標（MDGs）の意義と限界 13. 全員ディベート（日本は政府開発援助を GNI 比 0.7%に増額すべきか） 14-15. 担当教員への質問と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。感想文や授業中の発言による加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第１回の講義で説明）。

06 年度以降	環境政策論 a	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会が直面する深刻な環境問題である地球温暖化問題と原子力発電に関わる問題について概観した後，環境問題の自発的解決の困難さと公的機関による政策の必要性について経済学的に分析します． 地球温暖化問題については，IPCC の第 5 次評価報告書や気候変動枠組条約および京都議定書に関する基礎知識を整理した後, 2020 年以降の温室効果ガス削減政策にもふれる予定です．原子力発電の問題については，福島第一原発などの原子力事故問題と使用済核燃料などの放射性廃棄物問題に力点をおきます．以上によって環境問題についての具体的なイメージを深めた後，多くの問題に共通する構造を抽象化し，非協力ゲーム理論を使って分析します．「われわれ一人ひとりにとって望ましい行動が，社会にとって望ましい行動と一致しないため，自発的解決が期待できず，政策を講じる必要がある」という環境問題の特徴が，よく理解できると思います． なお，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. 授業のねらいと方針 2. 地球温暖化とその原因物質 3. 地球温暖化に関する議論の経緯 4. 気候変動枠組条約と京都議定書 5. 京都メカニズム 6. 2020 年以降の温室効果ガス削減政策 7. 石炭までのエネルギー利用の歴史 8. 石油・天然ガスの利用 9. 原子力エネルギーとは 10. 原子力事故 11. 放射性廃棄物の処分 12. 環境政策の必要性の判断基準 13. 環境問題のモデル化 14. 合成の誤謬 15. まとめ
参考文献	**評価方法**
環境省ホームページの地球環境・国際環境協力にあげられている行政資料が有用です．	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

06 年度以降	環境政策論 b	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
環境政策の手段の有効性について，ミクロ経済学の立場から考察します．環境問題の具体的なトピックとしては，主に地球温暖化問題を取り上げます． 環境税や排出量取引制度のような汚染物質排出に対して価格づけを行う「経済的」手段と，固定的排出量割当などの「非経済的」手段の，どちらが優れているのかが主要論点となります．ます，生産プロセスから環境汚染物質を排出する企業の利潤最大化行動を丁寧に定式化し，環境税などの環境政策が企業行動にどのような影響を与えるか検討します．その後，汚染物質の総量規制を目的として環境政策を実施する場合に，どの手段が社会的汚染削減費用を最小化するのか確認します． ミクロ経済学のテキストに頻出する微分等の極限概念を全く使用しないで，企業の利潤最大化問題を厳密に展開できるように工夫しています．中学校レベルの数学の知識があれば，講義内容を十分理解できると思います． なお，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. 授業のねらいと方針 2. 経済循環と物質収支 3. 汚染物質排出量の総量規制 4. 企業の生産技術と利潤関数 5. 利潤の平均変化率の導出 6. 利潤の平均変化率の性質 7. 利潤の平均変化率の視覚化 8. 企業の利潤最大化行動 9. 単位税の企業行動への影響 10. 固定的排出量割当 11. 集計的汚染削減費用とその最小化 12. ボーモル・オーツ税 13. 排出量取引制度との関連性 14. 環境政策の手段の評価 15. まとめ
参考文献	**評価方法**
塩田尚樹「環境税の経済学的基礎」（講義支援システムにより配布予定）	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

06年度以降	日本経済史a	担当者	市原　博

講義目的、講義概要	授業計画
明治時代以降のおよそ1世紀の間、日本経済は目覚ましい経済成長を遂げました。それは、「世界史的にも例を見ない」とか、「奇跡」と形容されるほどのものでした。我々の現在の生活はその上に築かれたものです。この講義では、こうした日本経済の成長がどのようにして実現したのかを歴史的に考えます。国際的経済関係、政府の政策、企業の主体的行動、国内市場の条件など、さまざまな要因に目配りし、その歴史過程を総合的に考察します。また、その過程で活躍した企業家の活動も取り上げます。 「現在」は歴史の積み重ねの上に存在します。それは「未来」も歴史の延長上にあることを意味します。経済史の勉強を通じて、現在の日本経済を相対化し、広い視野から「現在」と「未来」を考える力を身につけていただきたいと思います。 この講義が扱う時期は、近代経済成長の前提が形成された徳川時代から、近代経済成長を経て経済構造の変化が求められるようになった1920年代後半までです。	1. イントロダクション－日本経済史の問題関心 2. アーリー・モダンとしての徳川時代 3. 徳川時代の「経済社会」の形成 4. 幕末開港と日本経済の再編 5. 近代日本の経済成長のマクロ的概観 6. 明治新政府の産業政策 7. 松方財政と「松方デフレ」のもたらしたもの ８.「企業勃興」の展開と輸出産業の役割 ９.「日清戦後経営」と金本位制度の確立 10. 日露戦争と国際収支の危機 11. 重工業化と大企業経済の成立 12. 第一次世界大戦ブームと日本経済の構造変化 13. 1920年代「相対的高成長」と都市型消費社会の形成 14. 新型産業における企業者活動 15. 金解禁」問題と金融恐慌の発生
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定せず、毎回レジメと資料を配布します。参考書は、杉山伸也『日本経済史』岩波書店、牛島利明他『日本経ん済史1600－2000』慶應技術大学出版会、三和良一『概説日本経済史』東京大学出版会です。	おおよそ、授業への参加度10%、小テスト・レポート10%、定期試験80%で評価します。

06年度以降	日本経済史b	担当者	市原　博

講義目的、講義概要	授業計画
1929年の世界第恐慌を機に、世界の資本主義経済は、経済活動への政府の介入を前提とする経済構造へと変貌しました。この段階の資本主義経済は「現代資本主義」と呼ばれてきました。本講義は、「日本経済史a」を踏まえて、「現代資本主義」に移行した後の日本経済の成長・発展の過程を考察します。この時期の日本は、経済面のみならず、社会のあらゆる面で大変動を経験しました。政府の財政政策による恐慌からの脱出、第二次世界大戦による戦時統制経済への移行、敗戦後の経済改革と経済復興を経て、日本を根本から変えた高度経済成長が始まり、その終焉後に「経済大国」ともてはやされる時代が到来し、そしてバブル経済とその崩壊後の長期不況を経験しました。講義では、1980年代に日本が経済大国」になり、やがてバブル経済に篤入していくまでを取り上げます。 激動の過程を振り返り、現在の日本経済の問題を歴史的に理解できる幅広い視野を皆さんに持ってもらえるような講義にしたいと思います。	1. イントロダクション－現代資本主義の特徴 2. 「井上財政」と昭和恐慌 3. 昭和恐慌と「高橋財政」の意義 4. 「帝国」の拡大と植民地経営 5. 戦時経済統制による「計画経済」への移行 6. 戦後経済改革の歴史的意義 7. 経済復興政策の展開 8. 高度経済成長のメカニズム（1）投資主導 9. 高度経済成長のメカニズム（2）輸出・政府支出 10. 高度経済成長と日本社会の変容 11. 企業経営の進化１、企業間関係の変化 12. 企業経営の進化2、日本的経営の形成 13. 高度経済成長の終えん 14. ジャパン・アズ・ナンバーワンの時代 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定せず、毎回レジメ・資料を配布します。参考書は、杉山伸也『日本経済史』岩波書店、牛島利明他『日本経済史1600－2000』慶應技術大学出版会、三和良一『概説日本経済史』東京大学出版会です。	おおよそ、授業への参加度10%、小テスト・レポート10%、定期試験80%で評価します。

06年度以降	日本社会史a	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
全長 40 メートルの戦艦、炸裂する火薬兵器、降りそそぐ毒矢、異形の巨大軍隊モンゴル軍に打ちのめされた日本の武者達は、かつてないストレスに悩まされ、蔓延する恐怖の念は、全土を神仏頼りの祈祷列島に変えていく。幕府は直面する危機にどう対処したのか。そして、九州の武士は…。合戦死傷者のその後までを追う。 わが国の中世社会はモンゴル戦争を画期にして大きく変わる。この変化が歴史の発展であるのか、それとも単なる民族史的に日本人の性質が変わったにすぎないのか、日本の歴史学の中では大きな問題である。本講義ではこのことを念頭において、まずはモンゴル戦争（蒙古襲来）の実相に迫っていきたい。	①　授業の説明 ②　モンゴル帝国の「世界」 ③　「世界」の吸引力 ④　「世界」に身構える日本 ⑤　文永合戦・異なる戦争の作法 ⑥　戦力の質的違い ⑦　外征計画の挫折 ⑧　日本の船は外征に耐えたか ⑨　モンゴル帝国の海上軍事力 ⑩　イスラム商人が造った船 ⑪　異国警固と石築地 ⑫　有無を言わせぬ戦時統制 ⑬　モンゴル戦争期の社会状態 ⑭　東大寺僧が見たもの ⑮　本所一円地の住民動員
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館 （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	テストの成績(100%)による。

06年度以降	日本社会史b	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
風濤に砕けるモンゴル艦船、合戦恩賞を要求する武士の訴訟、権力中枢に勃発するクーデタ、中世の日本は確実に不安と流動の時代へ入る。 春学期の講義をうけて秋学期では弘安合戦とそれ以降の、特に日本国内の社会様相を観察する。	①　授業の説明 ②　クビライ、第二次遠征を命ずる ③　艦船、激浪に覆没する ④　三度目の外征計画、悪党を兵力に転用 ⑤　武士の家、討ち死にによる相続争い ⑥　刀創・矢傷の治療法 ⑦　幕府はどのように武士の手柄を認めたか ⑧　農村領主に「国家」はあったか ⑨　弘安徳政の挫折、クーデタと粛清 ⑩　祈祷の防衛体制、敵を図にして祈り倒す ⑪　「軍事」と「神事」の関係 ⑫　時代の変わり目 ⑬　日元貿易が生むバサラの文化 ⑭　帝国主義戦争撃退のパラドックス ⑮　東アジアの住民として
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館 （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	テストの成績(100%)による。

13 年度以降 12 年度以前	外国経済史 a 西洋経済史 a	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
現代経済の起点であるイギリス産業革命を対象とし、その特徴と問題点を多面的に考察する。 （注意事項） ①最新のシラバスを第1回の授業で配布するので、履修希望者は必ず出席すること。 ②出席は第1回より毎回取る。欠席が4回になると単位は認定されない。 ③試験は定期試験期間中に持ち込み無し、論述問題で行う。 ④評価方法は、2年生、3年生、4年生ともに共通である。 ⑤この授業は、a, bの順番で履修することを前提としている。	1.　ガイダンス。序論：産業革命とは何か？ 2.　序論（続） 3.　産業革命の前提条件(1)イギリス農業の発展 4.　（同上）　(2)イギリス家内工業の発展 5.　技術革新と工場制生産の出現 6.　（同上） 7.　動力源の技術革新 8.　製鉄業の技術革新 9.　交通手段の技術革新：鉄道の出現 10.　企業家と事業形態 11.　（同上） 12.　イギリス産業革命と世界市場 13.　（同上） 14.　イギリス産業革命の波及 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	欠席が 4 回以内であることと、定期試験成績 60 点以上の両方の条件を満たすことが単位認定の条件である。

13 年度以降 12 年度以前	外国経済史 b 西洋経済史 b	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスに遅れて産業革命を展開した後発国の事例としてドイツを取り上げ、ドイツ産業革命の特徴と問題点をイギリスと比較しつつ考察する。 （注意事項） 春学期に同じ。	1.　ガイダンス。序論：後発国産業革命の特徴と問題点 2.　序論（続） 3.　産業革命前夜のドイツ経済 4.　産業革命の前提条件の形成(1)プロイセン改革 5.　（同上） 6.　産業革命の前提条件の形成(2)ドイツ関税同盟の成立 7.　（同上） 8.　ドイツ産業革命の展開(1)綿工業 9.　ドイツ産業革命の展開(2)製鉄業 10.　ドイツ産業革命と産業技術教育 11.　（同上） 12.　ドイツ産業革命と鉄道業 13.　（同上） 14.　ドイツ産業革命と銀行業 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

13 年度以降 12 年度以前	国際経済学 a 国際経済論 a	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。	1　国際貿易概観 2　リカード的比較優位説 3　リカード的比較優位説 4　ヘクシャー・オリーン定理 5　ヘクシャー・オリーン定理 6　国際貿易の一般均衡 7　国際貿易の一般均衡 8　経済成長と貿易 9　国際資本移動と移民 １０　国際資本移動と移民 １１　関税・輸入数量制限 １２　関税・輸入数量制限 １３　輸入補助金と輸出自主規制 １４　輸入補助金と輸出自主規制 １５　質問とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店	試験のみで評価

13 年度以降 12 年度以前	国際経済学 b 国際経済論 b	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。	1　国際収支と国民所得勘定 2　国際収支と国民所得勘定 3　外国為替市場 4　外国為替市場 5　外国為替市場 6　固定相場制下の所得決定 7　固定相場制下の所得決定 8　変動相場制下の所得決定 9　変動相場制下の所得決定 １０　国際収支と財政・金融政策 １１　国際収支と財政・金融政策 １２　国際資本移動と財政・金融政策 １３　国際資本移動と財政・金融政策 １４　質問とまとめ １５　質問とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	試験のみで評価

06 年度以降	国際金融論 a	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
「100年に1度」と言われる現在の世界的な経済危機は，「100年に1度」のパラダイム・シフトを感じさせる事態を生じてさせています。それは、ドル基軸通貨体制への揺さぶりが公然となされ，世界経済が「ドル一極支配後」の国際金融システムを模索し始めたことだと言えるでしょう。今こそ、国際金融の知識を学び、世界経済の将来を考えるという姿勢と能力が求められているのです。 本講義では，外国為替及び国際金融の基礎理論について学びます。それによって、国際金融をめぐる現実の様々な動きを理解できるようになりましょう。なお、国際金融情勢において激動が生じた場合は、随時、現実の問題を取り上げます。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めて講義ワークノートをしっかりととって下さい。大規模教室での授業となりますが、授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。 なお、本講義はマクロ経済学の基礎知識が必要です。特に経済学部以外の受講生はこの点に留意し、履修して下さい。	1. イントロダクション 2. 外国為替取引と国際決済 3. 国際収支 4. 債権国と債務国 5. IS バランスと経常収支 6. 国際資本移動 7. 国際収支決定の理論（1）―短期理論― 8. 国際収支決定の理論（2）―中長期理論― 9. 外国為替市場と外国為替相場 10. 外国為替相場決定の理論（1）―長期理論― 11. 外国為替相場決定の理論（2）―超短期理論― 12. 開放経済下の金融・財政政策（1） 13. 開放経済下の金融・財政政策（2） 14. 国際金融市場（1） 15. 国際金融市場（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義用ワークノートを毎回配布するため、特定のテキストは使用しません。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。授業中に課すリアクションペーパーの内容を成績に加味する場合もあります。

06 年度以降	国際金融論 b	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
春季の国際金融論 a に続いて、国際金融の知識について学び，世界経済の将来を考えるという姿勢と能力を付けていくことを目的とします。なお、国際金融情勢において激動が生じた場合は、随時、現実の問題を取り上げます。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めて講義ワークノートをしっかりととって下さい。大規模教室での授業となりますが、授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。 なお、春季の国際金融論 a と同様、本講義はマクロ経済学の基礎知識が必要です。特に経済学部以外の受講生はこの点に留意し、履修して下さい。	1. 国際通貨 2. ポンド体制 3. 再建国際金本位制 4. ブレトン・ウッズ体制 5. ニクソン・ショックと変動相場制への移行 6. ユーロ市場の発展 7. 日本の不動産バブル（1980 年代） 8. 東アジアの通貨危機（1990 年代） 9. アメリカの住宅バブル（2000 年代） 10. シャドウ・バンキング・システムの発展 11. 世界金融危機の発生 12. 欧州通貨統合の歴史 13. ユーロ危機 14. 東アジアにおける通貨金融協力の進展 15. 国際金融システムの将来
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義用ワークノートを毎回配布するため、特定のテキストは使用しません。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。授業中に課すリアクションペーパーの内容を成績に加味する場合もあります。

06年度以降	日本経済論a	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、基礎的な経済理論をベースに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにするものである。講義を通じて、現実の日本経済がどうなっているのか、また実際の経済現象が理論的にどのように説明されるのかについて理解してもらいたい。なお、新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。	1. イントロダクション 2. 国民経済計算とは 3. 三面等価の原則 4. 日本の経済成長 5. 産業構造の変遷 6. 日本の景気循環 7. 個人消費の特徴 8. 消費の決定要因 9. 消費と資産価格 10. 貯蓄率の動向 11. 設備投資の特徴 12. 設備投資の決定要因：資本ストックと金利 13. 設備投資の決定要因：企業経営者の経済見通し 14. 資金調達と設備投資 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

06年度以降	日本経済論b	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、基礎的な経済理論をもとに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにすることを主眼としており、日本経済論aの続編である。この講義では、民間経済主体の行動についての理解を前提として、政府の行動が経済に及ぼす影響、金融市場と実体経済との関係、世界経済と日本経済との相互の関係について理解してもらいたい。なお、本講義でも新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、日本経済論aの場合と同様に、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。	1. イントロダクション 2. 日本の雇用状況 3. 雇用の非正規化 4. 日本の物価動向 5. 日本の物価はなぜ上昇し難いのか 6. 財政とは 7. 財政と国債 8. 日本財政の問題点と展望 9. 金融とは 10. 日本の資金循環 11. 日本の金融システム 12. 国際収支の特徴 13. 外国為替レートの推移 14. 経常収支の決定要因 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

06年度以降	アメリカ経済論a	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ経済の現代的な成り立ちについて、できるだけ分かりやすく説明したいと思います。アメリカ経済は経済学や経済政策論の争点がある程度分かっているととても面白く勉強できますので、講義では、学部レベルで基本的に知っておくべきことをできるだけわかりやすく説明するようにします。 マクロ経済の歴史的発展に焦点を当てて講義します。テキストの該当箇所は、第１部と第２部です。該当箇所をよく読んで講義を聴いて下さい。それ以外にも授業中指示する文献などで自分なりに調べて受講して下さい。	1. はじめに――講義内容、評価方法、注意事項 2. アメリカ経済の段階的発展（概説） 3. 人種問題とアメリカ社会Ⅰ――インディアン 4. 人種問題とアメリカ社会Ⅱ――黒人問題 5. アメリカ経済の発展Ⅰ――Ｔ・ピケティ 6. アメリカ経済の発展Ⅱ――Ｔ・ピケティ 7. アメリカ経済の発展Ⅲ――Ｒ・ゴードン 8. アメリカ経済の発展Ⅳ――Ｗ・ボーモル 9. 大恐慌とニューディールⅠ――大恐慌の発生 10. 大恐慌とニューディールⅠ――壮大な実験 11. 大恐慌とニューディールⅡ――大恐慌の原因をめぐる論争 12. 戦後マクロ経済政策Ⅰ――１９５０年代 13. 戦後マクロ経済政策Ⅱ――１９６０年代 14. 戦後マクロ経済政策Ⅲ――ケインズ政策 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済分析』日本評論社、２０１３年。	最終講義日に行う試験で評価します。

06年度以降	アメリカ経済論b	担当者	宮崎　礼二

講義目的、講義概要	授業計画
世界最大の経済大国であり，国際秩序におけるルール・メイキングを主導してきたアメリカを理解することなく，現代世界を理解することはできない．また，アメリカは第二次世界大戦後の日本ともっとも緊密な政治経済関係を持ち，日本の唯一の同盟国でもある．したがって，アメリカを知ることは，日本の政治や経済を理解するために不可欠な知識である． 本講義は，標準的経済学が前提とする「普遍性」よりも，対象となる国や地域の「特殊性」に焦点を当てる．とりわけアメリカは，「アメリカ合衆国」の理念に移民が結集して建国された人工国家であり，「理念国家」だからである．このアメリカの建国の理念は，今日でもアメリカ社会の根底を貫いている．それゆえに，その歴史と建国の理念を理解することなく，アメリカを知り得ることはない． より具体的には，本講義は，アメリカのマクロ経済の展開と変遷を辿ることで，① 長期的・歴史的に現代アメリカ経済を位置づける；② 政策展開から市場と国家との対話の時代ごとの特徴を明らかにする；③ 政策の背後にある思想の特殊アメリカ性を抽出する． アメリカ経済を学ぶことで日本経済を知り，過去から現代を読み解き，そして未来を展望できる能力を身につけることを目標とする．	１．　講義ガイダンス ＆ イントロダクション ２．　アメリカ合衆国の成り立ちと特殊性 ３．　ニューディールから戦時経済 ４．　自由貿易体制と冷戦 ５．　「ケインズ革命」の完成から「貧困との戦い」へ ６．　レーガノミクス：政策思想の転換　その１ ７．　〃　その２ ８．　クリントン政権：ニューエコノミーの時代 ９．　住宅バブルとリーマンショック　その１ 10.　〃　その２ 11.　オバマ政権の課題：経済格差と貧困 12.　〃　：雇用の劣化 13.　若者と「貧困徴兵制」 14.　TPP：21 世紀の世界戦略　その１ 15.　〃　その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済分析』（日本評論社，2013 年） 参考文献は，授業中に適宜紹介する．	期末試験（100%）

06年度以降	ラテンアメリカ経済論ａ	担当者	中村　久美

講義目的、講義概要	授業計画
本講義のねらいは、ラテンアメリカ地域の政治経済および社会問題を理解することです。 講義の流れとしては、まず、ラテンアメリカ地域の自然条件や地理などの基本分野を理解します。次いで、植民地時代から90年代ごろまでのラテンアメリカの歴史を概観し、各々の国の多様性について理解します。その後、ラテンアメリカ社会が抱える問題とそれぞれの国が試みている様々な社会政策についても考察します。	1. 授業の概要 2. ラテンアメリカ地域の概要（1） 3. ラテンアメリカ地域の概要（2） 4. 植民地時代のラテンアメリカ 5. 輸入代替工業化とポピュリズム 6. 権威主義体制と累積債務問題 7. 民主化と新自由主義 8. 主要国の政治経済（1）メキシコ 9. 主要国の政治経済（2）ブラジル 10. 主要国の政治経済（3）アルゼンチン、チリ 11. 主要国の政治経済（4）コロンビア、ペルー 12. 主要国の政治経済（5）キューバ、ベネズエラ 13. 貧困と都市問題 14. 格差と再分配 15. 社会政策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しません。参考文献は授業で紹介します。	原則として期末試験で評価しますが、授業への参加度を加味する場合があります。

06年度以降	ラテンアメリカ経済論ｂ	担当者	中村　久美

講義目的、講義概要	授業計画
本講義のねらいは、ラテンアメリカ地域の政治経済および社会問題を理解することです。 講義の流れとしては、ラテンアメリカ地域の国際史を概観し、対米関係、域内・域外関係を学びます。そして、90年代以降、グローバル化のなか、同地域の国々が置かれている状況に鑑み、これらの国々が実施した経済政策によって得られた効果を検証し、残された課題について考察します。 最後に、日本との関係についても取り上げます。 なお、本講義の履修にあたっては、春学期の「ラテンアメリカ経済論ａ」の履修を推奨します。	1. 授業の概要 2. ラテンアメリカの国際関係史 3. ラテンアメリカと米国 4. ラテンアメリカの地域統合 5. ラテンアメリカの地域協力 6. ネオリベラリズムの浸透と反発 7. マクロ経済問題と安定化政策 8. 産業と企業 9. 資源ブームと経済成長 10. 農業と農村 11. 開発と環境 12. 経済自由化の進展と政治変化 13. ポストネオリベラリズムの課題 14. 日本との関係① 15. 日本との関係②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しません。参考文献は授業で紹介します。	原則として期末試験で評価しますが、授業への参加度を加味する場合があります。

13 年度以降 12 年度以前	ヨーロッパ経済論 a 西ヨーロッパ経済論 a	担当者	漆畑　春彦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、EU経済の歴史・現状・将来展望について考察する。特に欧州連合（EU）の経済及び通貨統合を、1970～2000年代の欧州経済及び世界経済のあり方を踏まえながら理解することを目指すこととする。第2次世界大戦後、経済統合を基盤に復興・発展をとげた欧州だが、2000年代には、経済統合特有の要因から生じる諸問題が顕在化している。そのことを意識しながら、地域・経済統合の背景、経済・通貨政策、経済・産業、2008年の世界金融危機と欧州債務危機への発展、EU経済の今後の展望までを、統計などに基づきできる限り詳細に検討する。	1. 講義の概要 2. 世界の地域統合と欧州統合 3. 関税同盟と単一市場 4. EU の政治・非政治機関と立法 5. EU の共通政策 6. EU の財政政策 7. EU の通貨協力 8. EU の通貨統合 9. 通貨統合の諸問題 10. EU の経済 11. EU の産業 12. EU 経済の構造的不均衡 13. 欧州の金融システム（1） 14. 欧州の金融システム（2） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治著『現代ヨーロッパ経済（第 3 版）』有斐閣 2011 年　毎回レジュメを配布、参考文献は随時指示する。	授業への参加度・貢献度、平常講義の中で課す小レポート、期末試験により評価。各々のウェイトは、順に 20%、40%、40%とする。

13 年度以降 12 年度以前	ヨーロッパ経済論 b 西ヨーロッパ経済論 b	担当者	漆畑　春彦

講義目的、講義概要	授業計画
EU統合の全体観に重きをおく「ヨーロッパ経済論a」に続き、「ヨーロッパ経済論b」では、EUを形成する各国の経済・産業・金融・政治・政策に目を向けて検討する。できる限り、政府機関等の統計データを用い、EU各国の歴史・現状を把握し、展望が明らかとなるような講義に努めたい。	1. 講義の概要 2. 英国と EU 経済 3. ドイツと EU 経済 4. フランスと EU 経済 5. 北欧諸国と EU 経済 6. 中東欧諸国及びロシアと EU 経済 7. EU の対外通商政策 8. 世界金融危機と EU の経済・金融（1） 9. 世界金融危機と EU の経済・金融（2） 10. 世界金融危機と EU の経済・金融（3） 11. 金融危機後の EU 金融制度改革（1） 12. 金融危機後の EU 金融制度改革（2） 13. ユーロと国際通貨・金融システム 14. EU 経済と統合の展望 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治著『現代ヨーロッパ経済（第 3 版）』有斐閣 2011 年　毎回レジュメを配布、参考文献は随時指示する。	授業への参加度・貢献度、平常講義の中で課す小レポート、期末試験により評価。各々のウェイトは、順に 20%、40%、40%とする。

06年度以降	東アジア・中国経済論a	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。特に 2010 年の中国の名目 GDP が日本を上回り、米国に次ぐ世界第2位の経済大国になった。今後中国の存在感がますます大きくなりそうである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。 日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。 この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。	1　中国経済の全般的な動向(1) 2　中国経済の全般的な動向(2) 3　どのようにGDP世界第2位に到達したか？(1) 4　どのようにGDP世界第2位に到達したか？(2) 5　社会主義市場経済とは何か？(1) 6　社会主義市場経済とは何か？(2) 7　メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(1) 8　メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(2) 9　国有企業改革はどこまで進んだか？(1) 10 国有企業改革はどこまで進んだか？(2) 11 農村はいかに変化したか？(1) 12 農村はいかに変化したか？(2) 13 労働力は本当に不足しているのか？(1) 14 労働力は本当に不足しているのか？(2) 15 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第3版』日本評論社、2012年。 その他必要に応じて資料を配布する。	定期試験と授業への参加度によって評価する。

06年度以降	東アジア・中国経済論b	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
「東アジア・中国経済論b」では、春学期の「東アジア・中国経済論 a」で学んだ中国の国民経済発展の基本的なメカニズムを前提に、国際経済との融合が、中国経済に与えたインパクトについて論じる。そのうえで、経済成長と国際経済との融合が中国の政治・経済・社会にもたらしている諸問題について考察する。 日本にとって中国は2002年より最大輸入相手国となり、輸出においても 2009 年より米国を抜いて最大相手国となっている。中国にとって日本は最大の輸入相手国であり、米国に次ぐ第2位の輸出相手国である。中国は日本にとって、好き嫌いでつきあうかどうかを決められる存在ではなく、いかなる摩擦があろうとも経済面で不可分の関係にあることを理解されたい。 本講義の履修にあたっては、「東アジア・中国経済論a」をすでに履修していることが望ましい。	1　中国は世界最大の資本輸出国であり続けるか (1) 2　中国は世界最大の資本輸出国であり続けるか (2) 3　外需依存型成長からの転換は可能か？(1) 4　外需依存型成長からの転換は可能か？(2) 5　外資は何をもたらしたか？(1) 6　外資は何をもたらしたか？(2) 7　米中両国の経済依存関係は災か福か？(1) 8　米中両国の経済依存関係は災か福か？(2) 9　日中関係はいかにあるべきか？(1) 10 日中関係はいかにあるべきか？(2) 11 持続成長は可能か？(1) 12 持続成長は可能か？(2) 13 成長の果実は誰の手に？(1) 14 成長の果実は誰の手に？(2) 15 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第3版』日本評論社、2012年。 その他必要に応じて資料を配布する。	定期試験と授業への参加度によって評価する。

06年度以降	オセアニア経済論a	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、オセアニアの自然と地理およびその歴史との関係について論じ、今日のオセアニアの政治と経済がこれらの事情に大きく規定されている必然的因果関係について論じる。 オーストラリアは、建国当初は、「羊の背に乗るラッキーカントリー」とか「宗主国イギリスのパン籠」と言われたように、その自然資源の賦存状態を最大限に生かして経済発展を遂げてきた。また、それに規定されて深刻な環境資源問題に直面してきた。 他方、国際市場における一次産品の交易条件が長期的に悪化する中で、その国内産業構造は「ペティの法則」や「コーリンクラークの法則」の例外的状況を呈してきた。その過程で、産業構造と貿易構造が極端に乖離する「２つの顔」を維持してきた。こうした状況の経済的意義と、独特の賃金中央裁定制度が労働市場にもたらした影響、マーケティング・ボードの果たした役割と問題点、州政府と連邦政府の経済運営上の分担関係、環境問題への取組み等について論じていく。	１．　講義の概要 ２．　オセアニアの自然と地理---距離の暴虐--- ３．　オセアニアの歴史と植民地化 ４．　オーストラリアの産業構造 ５．　ニュージーランドの産業構造 ６．　オセアニアの二つの顔--産業構造と貿易構造 ７．　ステープル理論とイギリスのEC加盟 ８．　オランダ病 ９．　ミクロ経済改革 １０．　英連邦特恵--「羊の背に乗るラッキーカントリー」 １１．　中央裁定制度と労働市場 １２．　州政府と連邦政府 １３．　マーケティング・ボードと国家貿易企業 １４．　RASからAAAへ １５．　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布する。　（参）加賀爪優「食糧・資源輸出と経済発展---オーストラリア、ニュージーランドの輸出多角化過程の計量分析---」大明堂	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする

06年度以降	オセアニア経済論a	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係論の枠組みでオセアニア経済を論じる。前期の講義でも論じたように、オセアニアの経済発展過程において、宗主国イギリスの動向が大きく影響したことは言うまでもない。その後、イギリスの国力が次第に衰退し、多くの植民地を維持できなくなるにつれ、「遠くの親戚より近くの隣人」という発想の下にECに加盟するが、この時点でオセアニアにとって、イギリスが果たしてきた役割を、ちょうどこの時期に高度経済成長に突入し食料農業部門を縮小させ、工業化に舵を切った日本が肩代わりすることになる。その日本が安定成長に入ってからは、当時のNIES諸国、続いてアセアンが引継ぎ、近年では専ら中国がその貿易パートナーとしての牽引約を果たしてきた。このようにオセアニア経済の展開過程を論じる時、特にその国際関係が重要となる。いわゆる脱欧入亜に舵を切ったオセアニアに対して、急速な経済発展政策を進めるアジア諸国が逆に脱亜入欧に転じてきたことが両地域の補完性を常に高く維持してきた。このことがオセアニアの経済成長を大きく規定してきた。今日、この経済ドラマの舞台であるアジア太平洋地域がグローバルな地域経済統合の最もホットな地域として注目されており、その中で特にオセアニアが占める国際関係上の意義について論じていく。	１．　講義の概要 ２．　アジア・太平洋共同体構想---３つのシナリオ ３．　TPPとニュージーランド ４．　日豪FTA ５．　WTOとオーストラリア ６．　APECとオーストラリア ７．　ケアンズグループとウルグアイ・ラウンド ８．　米産業の歴史と日豪関係 ９．　移民政策における白豪主義と黄化主義 １０．　京都議定書とオーストラリア １１．　オーストラリアの環境資源政策 １２．　政権交代と環境問題 １３．　政権交代と資源問題 １４．　政権交代と貿易問題 １５．　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布する。　（参）加賀爪優「食糧・資源輸出と経済発展---オーストラリア、ニュージーランドの輸出多角化過程の計量分析---」大明堂	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする

06年度以降	アフリカ経済論 a	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ アフリカ諸国が独立を達成した 1960 年前後から半世紀以上が経過した。グローバリゼーションが加速する中で、アフリカ諸国の位置付けも変化している。世界最後の新興市場として期待を持って語られることの多いアフリカ諸国ではあるが、その一方で独立当初から数多くの苦難に直面し、貧困からの脱却が困難な人たちもいる。 アフリカ諸国の現状を理解するためには、経済的な側面のみならず、歴史、政治、社会などの多方面からの考察が不可欠である。よって、本講義では、経済に重点を置きつつも、アフリカの歴史、政治制度などについても触れる。なお、本講義はサハラ以南アフリカ諸国を対象とする。 〔講義概要〕 春学期は、アフリカ諸国としての歩み、また国際社会におけるアフリカ経済の全体像の把握を目指す。	第 1 回　ガイダンス（多様なアフリカ） 第 2 回　アフリカの経済史：植民地前Ⅰ 第 3 回　アフリカの経済史：植民地前Ⅱ 第 4 回　アフリカの経済史：植民地時代Ⅰ 第 5 回　アフリカの経済史：植民地時代Ⅱ 第 6 回　アフリカの経済史：独立後Ⅰ 第 7 回　アフリカの経済史：独立後Ⅱ 第 8 回　アフリカの経済誌：独立後 Ⅲ 第 9 回　アフリカを取り巻く国際環境Ⅰ 第 10 回　アフリカを取り巻く国際環境Ⅱ 第 11 回　アフリカを取り巻く国際環境Ⅲ 第 12 回　地域経済Ⅰ 第 13 回　地域経済Ⅱ 第 14 回　地域経済Ⅲ 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。	授業への参加度、学期末試験による評価とする。

06年度以降	アフリカ経済論 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ アフリカ諸国が独立を達成した 1960 年前後から半世紀以上が経過した。グローバリゼーションが加速する中で、アフリカ諸国の位置付けも変化している。世界最後の新興市場として期待を持って語られることの多いアフリカ諸国ではあるが、その一方で独立当初から数多くの苦難に直面し、貧困からの脱却が困難な人たちもいる。 アフリカ諸国の現状を理解するためには、経済的な側面のみならず、歴史、政治、社会などの多方面からの考察が不可欠である。よって、本講義では、経済に重点を置きつつも、アフリカの歴史、政治制度などについても触れる。なお、本講義はサハラ以南アフリカ諸国を対象とする。 ［講義概要］ 秋学期は、春学期の講義を踏まえた上で、グローバリゼーションの進展する国際社会におけるアフリカをテーマ別に扱う。	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　アフリカへの国際支援Ⅰ 第 3 回　アフリカへの国際支援Ⅱ 第 4 回　アフリカへの国際支援Ⅲ 第 5 回　日本とアフリカ 第 6 回　累積債務と債務削減 第 7 回　民主化に向けて 第 8 回　農業と食料 第 9 回　製造業 第 10 回　人口と労働 第 11 回　環境問題Ⅰ 第 12 回　環境問題Ⅱ 第 13 回　宗教 第 14 回　アフリカ経済の展望 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。	授業への参加度、学期末試験による評価とする。

06 年度以降	東南アジア経済論 a	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国経済を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。 今年度より、第 8 回と第 14 回の授業で全員参加型のディスカッションを実施します。ペーパー（800 字程度）の提出と発言が求められます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 b も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要 3. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 4. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 5. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 6. シンガポール(2)：産業高度化戦略 7. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 8. 全員ディスカッション（シンガポールの人材戦略） 9. マレーシア：脱工業化の模索 10. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 11. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 12. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 13. ミャンマー：経済再建の胎動 14. 全員ディスカッション（東南アジアで経済的に最も有望な国は？） 15. 教員への質問と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。ディスカッションでの貢献に対する加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。

06 年度以降	東南アジア経済論 b	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は３つあります。第 1 は、1967 年に発足した ASEAN がいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。 第２は、ASEAN における経済発展の担い手である華橋・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。 第３は、わが国が ASEAN のさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 今年度より、第 14 回の授業で学生に東南アジアに関するスピーチを披露してもらいます。ペーパー（800 字程度）の提出と発言が求められます。加えて、全員ディスカッションを行う可能性があります。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 a も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 第 2 次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN 市場に挑む日本企業（NHK スペシャル） 4. 地域経済共同体としての ASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としての ASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としての ASEAN(3)：将来構想 7. 大メコン圏開発とインフラ整備 8. ASEAN の対域外自由貿易協定（FTA）戦略 9. わが国自動車メーカーの東南アジアでの事業展開 10. 邦銀の東南アジアでの事業展開 11. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEAN の視点 13. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 14. 東南アジアに関する学生スピーチ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。ペーパーの提出とスピーチによる加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。

06年度以降	中東経済論ａ	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「アラブの春」から4年たった中東に「イスラム国」なる「怪物」が現れ、それに呼応してヨーロッパでテロを行う欧州育ちの移民２世、３世が現れている。欧米諸国はイスラム国に対しては最新鋭の軍事攻撃で押さえ込もうとしており、欧米社会ではイスラム・フォビア（嫌悪）が拡大している。こうした事態を生んだ政治経済的・文化的・歴史的背景をさぐることが改めて重要であると思われる。 講義概要： 講義計画に従い、独立以後の中東の政治経済的歩みを概観する。中東は地政学的（石油の存在と地理的位置）に重要な場所であり、それがかつては英仏植民地主義の進出をもたらしたが、第２次世界大戦と独立以後は米の世界戦略と各国の権威主義体制とのかかわりで、自立的で民主的な社会発展が阻害されてきたといえる。 小レポートの提出あり。	１．現在の中東をどう見るか ２．中東に関する基礎知識①：中東の国々・民族 ３．中東に関する基礎知識②：歴史、文化、宗教 ４．２つの世界大戦と中東：パレスチナ問題の埋め込み ５．イスラエル建国の経緯とその意味するもの ６．民族独立と「アラブ社会主義」（５０～60年代） ７．第３次中東戦争とイスラエルによるパレスチナ占領 ８．オイルショックと中東経済再編（70年～80年代） ９．アメリカの中東進出とそれへの抵抗：イラン革命 10．アフガニスタン、イラン・イラク戦争 11．湾岸戦争、湾岸産油国の開発と移民労働者 12．新自由主義的グローバル化とイスラム主義運動（90年～2000年代） 13．アラブの春（2011年）の意味するもの 14．「イスラム国」と液状化する中東 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
平井文子著『アラブ革命への視角』（かもがわ出版、2012年）、土生長穂編『グローバリゼーションと開発』（柏書房、2001年）	定期試験と小レポートによる

06年度以降	中東経済論ｂ	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 中東における経済開発・経済成長という点から中東を考える。中東随一の輸出志向経済を成功させたトルコと、豊富な石油・天然ガス生産・輸出によるオイルマネーを梃子に急速な開発路線をとる湾岸諸国の特徴をみる。また、中東石油は誰のものかという問題意識から、中東石油をめぐるオイルメジャーズと OPEC を中心とする産油国の確執と、石油価格変動にあらわれる石油市場の変化を跡付ける。 講義概要： 授業計画に従い、テキスト第４章「トルコモデルに何を倣うか」について学び、次いで、中東石油関係と湾岸諸国の経済開発について、資料（配布プリント）をもとに講義する。必要に応じ、ビデオ鑑賞も行う。 小レポート提出あり。	１．現在の中東をどう見るか ２．中東に関する基礎知識①：中東の国々・民族 ３．中東に関する基礎知識②：歴史、文化、宗教 ４．トルコとはどういう国か ５．公正発展党政権の１２年 ６．MUSIAD の台頭とギュレン運動 ７．中東石油は誰のものか ８．オイルメジャーズ時代 ９．オイルショックと OPEC 時代 10．世界市場連動時代 11．原油高騰とリーマンショック 12．オイルマネーによる湾岸諸国の開発 13．ドバイ・モデルについて 14．湾岸アラブ型エスノクラシー 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
平井文子著『アラブ革命への視角』（かもがわ出版、2012年）、配布プリント	定期試験とレポートによる

06 年度以降	金融論 a	担当者	西尾　夏雄

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的： 受講した学生が金融の基礎を理解し、時事トピックも含め金融市場や金融機関、金融規制の動向や今後の見通しについての知識を得て、議論ができるようになること。 講義の概要： 講義ではまず、経済のインフラストラクチャーとしての「金融」について基礎的な知識を得る。金融とはなにか、商業銀行を中心とする金融機関はどのような業務を行っているのか、中央銀行の役割はなにか、などが主なテーマになる。次に、金融市場はどのように機能するのかを解説し、金融機関が健全に経営され、金融セクターが安全かつ効率的に機能するために必要とされる金融規制について講義する。	１．イントロダクション：講義のテーマと概要 ２．金融取引と貨幣、金融市場 ３．商業銀行の決済機能と金融仲介機能 ４．商業銀行の信用創造機能 ５．商業銀行の信用創造機能と中央銀行 ６．中央銀行の金融政策と現在の政策課題（１） ７．中央銀行の金融政策と現在の政策課題（２） ８．前半の講義のまとめと小テスト ９．証券会社など非預金取扱機関の役割 １０．金融市場の機能：株式市場 １１．金融市場の機能：短期金利・債券市場と為替市場 １２．金融規制・監督（１） １３．金融規制・監督（２） １４．金融セクターにおける新たな動き １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし。各講義の概要や図表などを記したプリントに沿って講義する。 参考文献：講義中に紹介する	期末試験の結果（80%）に加えて、前半の講義についての理解度を確認する小テスト（1 回）の結果（20%）も評価対象とする。

06 年度以降	金融論 b	担当者	西尾　夏雄

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的： 受講した学生が金融の基礎を理解したうえで、近年における日本を含む世界的な金融危機の原因や背景を正しく学び、金融セクターで現在生じている変化や今後の見通しについて議論ができるようになること。 講義の概要： 本講義では金融セクターや金融機関の役割についての基礎的な理解を確認したうえで、近年における深刻な金融不安・危機がなぜ生じたのかを探り、金融危機によってもたらされた非伝統的な金融政策を解説する。また、日本、米国、欧州において生じたそれぞれの金融危機について、その類似点や相違点を解説したうえで、各国・各地域において金融セクターおよび金融規制はどのような変化を遂げたかについて講義する。	１．イントロダクション：講義のテーマと概要 ２．金融論の基礎の確認 ３．日本経済の歩みと「日本型金融」の歴史 ４．バブル経済の崩壊と不良債権問題 ５．日本銀行によるゼロ金利政策と量的金融緩和 ６．時間軸政策と量的・質的金融緩和 ７．日本における金融規制改革と金融機関経営の変化 ８．前半の講義のまとめと小テスト ９．米国の金融危機の歴史と銀行経営・規制の変遷（１） １０．米国の金融危機の歴史と銀行経営・規制の変遷（２） １１．欧州における通貨統合の意義と問題点 １２．欧州における金融危機・債務危機 １３．欧米における中央銀行の対応と金融規制改革 １４．金融セクターの展望：あるべき金融の姿 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし。各講義の概要や図表などを記したプリントに沿って講義する。 参考文献：講義中に紹介する	期末試験の結果（80%）に加えて、前半の講義についての理解度を確認する小テスト（1 回）の結果（20%）も評価対象とする。

06年度以降	金融システム論 a	担当者	漆畑　春彦

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 この講義は、わが国の金融システム、主要な金融市場や金融業態（銀行・証券・保険）を概観し、各々の発展経緯や問題点などを併せて理解することを目的とする。 【概要】 講義は、まず第2次世界大戦後から現代までのわが国金融システムの発展経緯を概観し、次に、主な金融市場、金融機関、金融と経済の関係、金融自由化と金融機関の対応といった項目について解説する。	1. 講義の概要：金融システムとは何か 2. わが国金融システムの発展経緯と特徴（1） 3. わが国金融システムの発展経緯と特徴（2） 4. 金融機関の種類と業務 5. 主要な金融市場の概要（1） 6. 主要な金融市場の概要（2） 7. 証券市場の概要（1） 8. 証券市場の概要（2） 9. 保険市場の概要 10. 貨幣と決済システム 11. 金融取引と資金循環 12. 銀行貸出市場とメインバンク制度 13. 金融自由化の進展と金融機関経営（1） 14. 金融自由化の進展と金融機関経営（2） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清著『金融論をつかむ』有斐閣 2006 年　毎回レジュメを配布、参考文献は随時指示する。	授業への参加度・貢献度、平常講義の中で課す小レポート、期末試験により評価。各々のウェイトは、順に 20%、20%、60%とする。

06年度以降	金融システム論 b	担当者	漆畑　春彦

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 この講義は、欧米の基本的な金融システムを概観し、その仕組みを理解することを主目的とする。また、近年の金融危機後、欧米金融当局を中心に進められている国際金融規制改革を概観し、今後の国際的な金融システムがどうなっていくのかについて考察する。 【概要】 講義は、米国・欧州大陸・英国の金融システムの基本的な仕組みと特徴を明らかにした上で、わが国との比較を行う。これらの議論を踏まえた上で、さらに近年の金融危機後の国際金融規制改革について主要な議論を整理、今後の金融市場や金融機関経営への影響等について検討する。	1. 講義の概要：金融規制改革と金融システム 2. 米国の金融システム（1） 3. 米国の金融システム（2） 4. 米国の金融システム（3） 5. 欧州大陸の金融システム（1）：全般 6. 欧州大陸の金融システム（2）：ドイツ 7. 欧州大陸の金融システム（3）：フランス 8. 英国の金融システム（1） 9. 英国の金融システム（2） 10. 欧米金融システムとわが国の比較 11. 金融危機後の国際金融規制改革（1） 12. 金融危機後の国際金融規制改革（2） 13. 金融危機後の国際金融規制改革（3） 14. 金融危機後の国際金融規制改革（4） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清著『金融論をつかむ』有斐閣 2006 年　毎回レジュメを配布、参考文献は随時指示する。	授業への参加度・貢献度、平常講義の中で課す小レポート、期末試験により評価。各々のウェイトは、順に 20%、20%、60%とする。

06年度以降	財政学a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。 **講義概要** 春学期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。秋学期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。 **受講者への要望** 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。	1．財政とは何か 2．財政学とその変遷 3．資源配分の調整機能 4．財政と所得再分配① 5．財政と所得再分配② 6．財政政策の理論① 7．財政政策の理論② 8．公共財の理論① 9．公共財の理論② 10．補助金の効果 11．わが国財政の現状 12．公債の制度と理論 13．公的老齢年金① 14．公的老齢年金② 15．財政投融資
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 八巻節夫『新財政学』文眞堂 参考書　『図説日本の財政』、『図説日本の税制』	原則として定期試験の成績で評価する。 レポートを加味する場合がある。

06年度以降	財政学b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
（財政学a参照）	1．租税の意義と根拠 2．租税の基礎的概念① 3．租税の基礎的概念② 4．課税の公平性① 5．課税の公平性② 6．課税の中立性① 7．課税の中立性② 8．租税の転嫁と帰着 9．包括的所得税論 10．最近の税制改革論 11．日本の租税体系 12．個人所得課税 13．法人所得課税 14．間接消費課税 15．資産課税
テキスト、参考文献	**評価方法**
（財政学a参照）	（財政学a参照）

06年度以降	公共経済学a	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学の応用科目である。春学期は、市場の失敗と、規範的な政府の活動範囲に関するトピック（公共財と外部性、不完全競争）を学習する。 ＜講義の目的＞ 市場経済における、最低限の政府の存在意義を理解し、政府の在り方に対する自分なりの考え方を持てるようにすることを目指す。 ＜講義の方針＞ 講義中に練習問題を出題するので、手を動かして理解を深めてもらう。2 年次のミクロ経済学に基づいて説明するため、ミクロ経済学を履修した上での履修が望ましい。講義でも復習するが、微分の考え方も使うので、事前によく理解しておくこと。	1　イントロダクション 2　厚生経済学の基本定理 3　市場の失敗と政府 4　政府の役割と機能 5　公共財(1)：私的財と公共財 6　公共財(2)：公共財の自発的供給 7　公共財(3)：社会的最適とサミュエルソン条件 8　公共財(4)：リンダール均衡 9　外部性(1)：外部性とは 10　外部性(2)：コースの定理 11　外部性(3)：ピグー税 12　外部性(4)：排出権取引 13　不完全競争(1)：独占と参入障壁 14　不完全競争(2)：クールノー均衡とベルトラン均衡 15　不完全競争(3)：シュタッケルベルク均衡
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『公共経済学』麻生良文　有斐閣 『公共経済学』林正義・小川光・別所俊一郎　有斐閣	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト(20%)、期末試験(40%)とする。

06年度以降	公共経済学b	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学の応用科目である。秋学期は、政府支出を賄うための財源調達の方法を考えるにあたって、望ましい税制のあり方について学習する。 ＜講義の目的＞ 現実の税制を理解しながら、理想的にはどうあるべきかを自分なりの考えを持てるようになることを目指す。 ＜講義の方針＞ 講義中に練習問題を出題するので、手を動かして理解を深めてもらう。2 年次のミクロ経済学に基づいて説明するため、ミクロ経済学を履修した上での履修が望ましい。講義でも復習するが、微分の考え方も使うので、事前によく理解しておくこと。	1　イントロダクション 2　公平な税制(1)：応能原則と応益原則 3　公平な税制(2)：現実の労働所得税制 4　公平な税制(3)：現実の資本所得税制 5　個別物品税(1)：一括税と死荷重 6　個別物品税(2)：税の帰着と弾力性 7　個別物品税(3)：最適な個別物品税 8　個別物品税(4)：代替効果と死荷重 9　労働所得税(1)：税の生涯負担 10　労働所得税(2)：労働供給の決定 11　労働所得税(3)：代替効果と死荷重 12　労働所得税(4)：生活保護と負の所得税 13　公債発行と課税(1)：消費と貯蓄の決定 14　公債発行と課税(2)：リカード/バローの等価定理 15　公債発行と課税(3)：課税平準化の理論
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『公共経済学』麻生良文　有斐閣 『公共経済学』林正義・小川光・別所俊一郎　有斐閣	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト(20%)、期末試験(40%)とする。

06年度以降	地方財政論 a	担当者	島村　玲雄

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、地方財政に対する基礎的な理解を深め、今日の日本が抱える財政問題について学術的な見方ができるようになることである。特に、地方財政は、地方分権や道州制、大阪都構想など様々な地方財政を強化する議論が行われているが、その重要性は地方財政が住民の生活に密着した機能を担っている経済活動だからである。また自治体が行う活動は、財源を負担し利益を受ける地域住民にとって身近な存在であるがゆえに、民主主義なコントロールが働きやすい。そうした役割を果たす地方財政をより現実の視点から考えていく。地方財政とは何か？現在抱えている地方財政の問題とは何か、そしてどのように対処すべきなのか、ということを考えていくことが本講義のテーマである。 そして地方財政に対する理解を深めることを通じて、それぞれの分野における日本や世界の事例を豊富に学び、学生のみなさんが日本の地方財政を多角的に検討できるようになることを理想としている。	1. ガイダンス：地方財政とはなにか？役割とは？ 2. 日本の地方財政を読み解く① 3. 日本の地方財政を読み解く② 4. 世界の多様な地方財政制度 5. 集権的分散システム 6. 歳出と歳入構造と地方公共サービス 7. 地方の役割①：医療保険 8. 地方の役割②：地方病院と救急医療 9. 地方の役割③：介護と高齢者福祉 10. 地方の役割④：子育てサービスと教育 11. 地方の役割⑤：生活保護とセーフティーネット 12. 地方の役割⑥：福祉サービスと包括ケア 13. 地方の役割⑦：地域経済と雇用 14. 地方の役割⑧：まちづくりとソーシャル・キャピタル 15. まとめ・復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 林　宜嗣（2008）『地方財政〔新版－第3刷－〕』有斐閣 金子　勝、高端正幸(2008)『地域切り捨て―生きていけない現実』岩波書店	授業への参加度および小レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。小レポートについては、授業の進捗状況を見ながら決めるので注意されたい。

06年度以降	地方財政論 b	担当者	島村　玲雄

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、地方財政に対する基礎的な理解を深め、今日の日本が抱える財政問題について学術的な見方ができるようになることである。地方財政は、世界の制度を見てみると、実に多様な制度となっていることがわかる。基本的な論点は中央政府と地方自治体との関係にあり、地方自治体の公共サービスと自主性、中央政府による財源保障と統制がどのように中央と地方の相互に作用しているのか見ていく必要がある。後期は、より学術的に地方財政を検討し、日本の制度を理論的に考察していきたい。地方財政とは何か？今後、どのような地方財政になっていくべきなのか、ということを考えていくことが、本講義のテーマである。 地方財政に対する理解を深めることを通じて、それぞれの分野における日本や世界の事例を豊富に学び、学生のみなさんが日本の地方財政を多角的に検討できるようになることを理想としている。	1. ガイダンス：地方財政論とは？ 2. 地方財政論 a の復習 3. 地方財政の歴史 4. 地方分権改革① 5. 地方分権改革②：国際比較 6. 地方税①：課税自主権と地方税 7. 地方税②：国際比較 8. 財政調整制度と地方格差①：財源保障とモラルハザード 9. 財政調整制度と地方格差②：特定補助金と一般補助金 10. 日本の地方交付税交付金 11. 地方自治体の財政破綻 12. 地方債① 13. 地方債② 14. 地方自治とナショナルミニマム 15. まとめ・復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 神野直彦（1998）『システム改革の政治経済学』岩波書店 金子勝、神野直彦編(1998)『地方に税源を』東洋経済新報社	授業への参加度および小レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。小レポートについては、授業の進捗状況を見ながら決めるので注意されたい。

06 年度以降	環境経済学 a	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
近年の環境問題の深刻化とともに，環境保全と経済活動の調和を求めて，新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では，経済学の立場から，環境破壊が進行する要因を検討し，環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。 「環境経済学a」では，環境経済学の理論的基礎，環境資源の貨幣的評価とその手法，および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。	１．　ガイダンス ２．　イントロダクション ３．　分析道具の解説：ミクロ経済学の基礎（１） ４．　分析道具の解説：ミクロ経済学の基礎（２） ５．　外部不経済論 ６．　費用便益分析（１） ７．　費用便益分析（２） ８．　環境評価手法（１） ９．　環境評価手法（２） １０．　環境評価手法（３） １１．　環境政策の規範的理論 １２．　環境政策（１）：分権的アプローチ １３．　環境政策（２）：地方政府と司法の役割 １４．　環境保全における政府の役割 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
浜本光紹『環境経済学入門講義』創成社	定期試験による。

06 年度以降	環境経済学 b	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
「環境経済学 b」では，日本や米国，欧州における環境政策の諸事例を検討しながら，地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の制度設計はどうあるべきか，ということに関する政策的含意を導き出していく。特に，京都議定書にも盛り込まれた排出権取引制度に対する批判的検討に重点を置きながら講義を進めていく。	１．　ガイダンス ２．　環境政策手段の基礎理論（１） ３．　環境政策手段の基礎理論（２） ４．　環境政策手段の基礎理論（３） ５．　欧州における環境税制改革 ６．　米国における排出権取引制度（１） ７．　米国における排出権取引制度（２） ８．　米国における排出権取引制度（３） ９．　地球温暖化問題と国際協調 １０．　京都議定書と排出権移転メカニズム（１） １１．　京都議定書と排出権移転メカニズム（２） １２．　欧州における排出権取引制度 １３．　地球温暖化対策の国際的枠組をめぐって（１） １４．　地球温暖化対策の国際的枠組をめぐって（２） １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
浜本光紹『環境経済学入門講義』創成社 浜本光紹『排出権取引制度の政治経済学』有斐閣	定期試験による。

06年度以降	都市経済学a	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 現代においては、人間の生活や経済活動はかなりの部分は都市で行われている。一方、人間が集まっていることで様々な問題が生じ、政策的な対応も必要になってくる。そのため、都市という空間を対象とした経済学を扱い、政策的にも都市政策を行う必要がでてくる。 この講義では、都市を経済学の立場から分析するとともに、実際に行われている政策を論じ、合わせてその経済学的な意味合いを検討する。 現在、政府や地方公共団体の行う政策はほとんど市場への働きかけを通じて行われることに鑑みれば、将来政策担当者たらんとする者にとっても、経済学を理解しそれによる現状分析を踏まえて政策を考えることが必要である。 この講義は、ミクロ経済学を用いて進めるので勉強しておくこと。 【講義概要】 春学期は都市総論として都市の定義、都市の存在する理由、中心市街地問題、都市計画制度等を論ずる。	１．講義の概要 ２．都市経済学の目的、意義、特徴、方法 ３．都市の定義 ４．都市の規模 ５．生産者行動の理論 ６．都市の存在する理由 ７．都市の発展段階 ８．中心市街地問題 ９．消費者行動の理論 １０．都市と土地利用（住宅の立地決定メカニズム）（その１） １１．都市と土地利用（住宅の立地決定メカニズム）（その２） １２．都市と土地利用（オフィスの立地決定メカニズム） １３．都市と土地利用（土地利用規制とその経済的影響） １４．都市の面的整備事業（土地区画整理事業） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は高橋孝明『都市経済学』（有斐閣ブックス）、参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。	定期試験による。

06年度以降	都市経済学b	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 都市において特に政策課題になるものとして、土地・住宅問題、交通問題がある。特に土地・住宅市場の動向はマクロ経済全体の不安定要素にもなりうるものであり、2008年秋の世界的な金融危機にも深くかかわっている。この講義では都市の個別的な問題を検討する。ミクロ経済学を用いて議論を行うので勉強しておくこと。 【講義概要】 秋学期は土地・住宅問題及び交通問題を検討する。	１．講義の概要 ２．市場の効率性 ３．市場の失敗 ４．土地サービスの需要 ５．土地サービスの供給 ６．地価の決定 ７．不動産バブルと対策 ８．土地政策（土地保有税） ９．住宅の特質と資産価格 １０．住宅価格とヘドニック・モデル １１．住宅政策（公共住宅供給、家賃補助、一般的な所得補助の比較） １２．住宅政策（家賃規制） １３．交通問題（混雑料金） １４．交通問題（費用逓減産業としての交通事業） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は高橋孝明『都市経済学』（有斐閣ブックス）、参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。	定期試験による。

06年度以降	経済地理学a	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークを実施するとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な姿が把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は与えられた課題に関する小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 本講義のオリエンテーション、講義方法、講義内容等 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用法。 4. 三角ヒストグラムによる産業構造の分析。 5. 農業活動と自然環境。 6. 農業生産と農業労働力。 7. 農業経営規模と土地の保有形態。 8. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 9. 土地利用と土地利用計画・政策。 10. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 11. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。 12. 都市構造と農業地域 13. 都市農業と生産緑地 14. 近郊農業・遠郊農業・都市農業 15. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会	定期試験の結果（80%）、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度（２０%）から判定する。

06年度以降	経済地理学b	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、VTRやスライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実の姿がたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに課題テーマの小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 食と農ーいのちを食べる意味。 2. 国家と農業政策。 3. 食糧自給率とフードマイレージ。 4. 日本の農業の変遷と農業地域の概観。 5. 食糧管理制度と需要供給曲線。 6. 米作地域の農業経営の特色と課題。 7. 農産物の自由化と日本農業の関係を文化、経済の視点からみる。 8. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 9. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察。 10. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 11. イギリスの農産物の過剰生産と農業補助金政策。 12. ＥＵのＣＡＰ政策とイギリス農業地域の対応。 13. 環境保全型農業とデカップリング政策。 14. 食と農と環境のリンケージ。 15. 後期の講義のまとめと評価。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会	定期試験の結果（80%）、およびレポート結果と講義への貢献度（２０%）から判定する。

06年度以降	産業政策論 a	担当者	中藤　泉

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、「産業政策」をテーマに、日本経済の発展の中で、産業政策の果たした役割をレビューするとともに、個別産業の現状や課題を把握したうえで、新たな産業政策の方向を展望する。 具体的には、これまでの産業政策の歴史、関連する諸制度（政策金融、税制、業界集約化、貿易保険、輸出入振興など）の変遷などを整理し、各産業で果たした役割を明らかにする。次いで、経済社会の変化の中で、今後の産業政策の在り方を検討する。 各産業の現状や今後の動向については、『ものづくり白書』『情報通信白書』『通商白書』など各種政府白書等を用いて最新の状況を提供する。 具体的には、各回レジメを配布する。	1.　講義の概要 2.　日本経済の発展と産業政策の歴史的変遷 3.　産業政策を巡る制度と政策手段 4.　食品・繊維・アパレル産業 5.　自動車産業 6.　電機・電子産業 7.　鉄鋼・化学産業 8.　電力・エネルギー産業 9.　商社・住宅産業 10.　銀行業 11.　保険業 12.　携帯電話産業 13.　コンテンツ産業 14.　サービス経済化の進展と産業政策 15.　産業政策の地平線 ※なお、授業の進捗状況により、一部変更もあり得る。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・『会社四季報　業界地図 2015 年版』(東洋経済新報社 2014 年 12 月) ・政府の各種白書	評価方法；期末レポートの実績（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポート（１回）の実績（20%）も評価対象にする。

06年度以降	産業政策論 b	担当者	中藤　泉

講義目的、講義概要	授業計画
「産業政策論a」に続いて、この講義では「産業政策の未来」を展望する。個別産業の観点を離れて、現代日本産業が直面する、様々な課題（国際化、少子化・高齢化、情報化、環境問題、地域活性化、中小企業、物流など）の観点から産業政策の今後の方向性を明らかにする。 これらの諸課題は、例えば、国際化は経済のあらゆる分野に影響及ぼし、地域活性化と中小企業、情報と物流など相互に関連している。 したがって、今後における産業政策は、個別産業の保護・育成から、産業・企業社会全般にわたる、競争力強化、教育・研究環境の整備など社会インフラ的側面に重点が置かれたものになる。 現状の分析や展望にあたっては、各種政府白書などに加えて、国際機関（IMF, ADB,WTOなど）の資料 を用いて最新の状況を提供する。 具体的には、各回レジメを配布する。	1.　講義の概要 2.　変革期の産業政策の課題 3.　国際化時代の産業政策① 4.　国際化時代の産業政策② 5.　少子化・高齢化時代の産業政策① 6.　少子・高齢化時代の産業政策② 7.　情報化時代の産業政策① 8.　情報化時代の産業政策② 9.　環境問題と産業政策 10.　地域活性化と産業政策① 11.　地域活性化と産業政策② 12.　中小企業問題と産業政策① 13.　中小企業問題と産業政策② 14.　物流と産業政策 15.　産業政策のパラダイム転換 ※なお、授業の進捗状況により、一部変更もあり得る。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・橘川武郎・平野創・板垣暁編　『日本の産業と企業』(有斐閣アルマ　2014 年 12 月) ・政府の各種白書、国際機関の報告書等	評価方法；期末レポートの実績（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポート（１回）の実績（20%）も評価対象にする。

06 年度以降	産業組織論 a	担当者	和久津　尚彦

講義目的、講義概要	授業計画
『プラクティカル産業組織論』の著者の泉田成美先生と柳川隆先生は、「産業組織論はエキサイティング！」と語っています。産業組織論がエキサイティングである理由の１つはこの分野が現実の姿を描くことにチャレンジしている所にあると思います。 経済学でよく出てくる完全競争は、売り手と買い手が非常に多く、個々の売り手・買い手は価格を決定する力を持っていないと仮定します。しかし、現実にはそのような市場は稀です。多くの産業で、幾つかの企業は価格決定力を持っています。産業組織論は、必ずしも現実的ではない完全競争の仮定を１つ１つ現実の形に近付けながら、その時の市場問題に取り組んでいきます。 産業組織論 a は、ミクロ経済の基礎をおさらいした後、独占企業の行動、価格支配力の影響、合併などのトピックを扱います。 講義は、図や簡単な数式による説明があります。苦手に思う人もいると思いますが、丁寧に説明していきます。 入門レベルのミクロ経済学の知識があれば役立ちますが、前提とはしません。 トピック別に課題を数回出す予定です。	1. イントロダクション 2. 企業とコスト(1) 3. 企業とコスト(2) 4. 競争と経済厚生(1) 5. 競争と経済厚生(2) 6. 独占企業の行動(1) 7. 独占企業の行動(2) 8. 独占企業の行動(3) 9. 価格差別(1) 10. 価格差別(2) 11. 価格差別(3) 12. 合併、垂直統合と垂直制限(1) 13. 合併、垂直統合と垂直制限(2) 14. 合併、垂直統合と垂直制限(3) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 : 泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣アルマ、2008 年、他、適宜紹介します。	課題(30%)、期末テスト(70%)で総合評価します。

06 年度以降	産業組織論 b	担当者	和久津　尚彦

講義目的、講義概要	授業計画
『プラクティカル産業組織論』の著者の泉田成美先生と柳川隆先生は、「産業組織論はエキサイティング！」と語っています。産業組織論がエキサイティングである理由の１つはこの分野が現実の姿を描くことにチャレンジしている所にあると思います。 経済学でよく出てくる完全競争は、売り手と買い手が非常に多く、個々の売り手・買い手は価格を決定する力を持っていないと仮定します。しかし、現実にはそのような市場は稀です。多くの産業で、幾つかの企業は価格決定力を持っています。産業組織論は、必ずしも現実的ではない完全競争の仮定を１つ１つ現実の形に近付けながら、その時の市場問題に取り組んでいきます。 産業組織論 b は、春学期の産業組織論 a の内容を一部おさらいした後、少数の企業が競争しあう寡占市場の分析、及びこれに関連するトピックを幾つか扱います。 講義は、図や簡単な数式による説明があります。苦手に思う人もいると思いますが、丁寧に説明していきます。 原則、産業組織論 a の履修を前提とします。産業組織論 a を履修していない場合は、初めの授業でその旨を申し出てください。 トピック別に課題を数回出す予定です。	1. イントロダクション 2. 独占企業の行動―復習(1) 3. 独占企業の行動―復習(2) 4. ゲーム理論の初歩(1) 5. ゲーム理論の初歩(2) 6. クールノー競争(1) 7. クールノー競争(2) 8. シュタッケルベルグ競争(1) 9. シュタッケルベルグ競争(2) 10. ベルトラン競争 11. 製品差別化(1) 12. 製品差別化(2) 13. 市場集中度(1) 14. 市場集中度(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 : 泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣アルマ、2008 年、他、適宜紹介します。	課題(30%)、期末テスト(70%)で総合評価します。

06年度以降	産業構造論 a	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要

経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える上で有力な分析道具の一つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についても見ていくことにする。なお第1回目の講義で参考文献の紹介、解説も行う。

授業計画

1. 経済成長、経済発展：経済成長とは、S.クズネッツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
2. 近代的経済発展：一人当たり国民所得、GNP、労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命
3. 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース
4. 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、AMS分類
5. 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成、成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ
6. 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模
7. 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とNIES、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機
8. 産業連関表とはⅠ：新SNA、投入係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、総合依存関係
9. 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関
10. 産業連関表とはⅢ、投入係数の固定性と変化、貿易構造スカイライン分析
11. 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性
12. 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別I-O表
13. 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス
14. 産業連関表による分析ⅳ地域I-O表、国際I-O表、国際分業、公害I-O表
15. まとめ

テキスト、参考文献

宮沢健一『産業の経済学』第2版　東洋経済新報社
米倉誠一郎『経営革命の構造』岩波新書
鶴田俊正、伊藤元重『日本産業構造論』NTT出版
尾崎巌『日本の産業構造』慶應義塾大学出版会

評価方法

レポート（課題は講義の中で提示）と期末テストの両方による。必ず両方とも対応すること。

06年度以降	産業構造論 b	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要

本来は産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方を一緒に考察していく。

授業計画

1. 産業構造の新しい方向：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標
2. 産業構造の新しい指標：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ
3. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：3つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と80年代90年代の生産技術、技術波及
4. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例
5. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピュータ、労働への影響分析
6. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ:ME革命とIT化、何が起きているか
7. 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力
8. 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業
9. 構造変化と就業構造Ⅲ：雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性
10. 構造変化と就業構造Ⅳ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働
11. 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業
12. 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積
13. 産業と地域Ⅲ地域の取り組みの事例、商業集積、商店街まちづくり
14. 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割
15. まとめ

テキスト、参考文献

関満博『フルセット型産業構造を越えて』中公新書
清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』日本経済新聞社　他

評価方法

レポート（課題は講義の中で提示）と期末テスト両方による。必ず両方に対応すること。

06年度以降	社会保障論a	担当者	山岡　淳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、社会保障制度を充実させた国家体制である「福祉国家体制」の前提となる思想や理論の変遷を取り扱います。 近代以降、多くの社会問題は、社会保障政策を中心とした、国家が国民の生活に積極的に関与していく政策によって解決されていきました。その背後には、ただ国家による国民に対する慈悲のみが存在していたわけではなく、時代ごとに、その時代を反映した、経済状況や社会状況、またそこから発した思想や社会組織の影響がありました。そもそも、社会保障制度とこれらの諸要件は不可分な関係です。 学生の皆さんには、本講義を通して、現在の社会保障政策が大きく扱われている福祉国家体制が、どのように成立、成熟していったのか、そして現在至るまでどのような問題や限界を構造的に持っているのか理解していただきます。 講義は授業計画通り進めていきますが、履修者の理解度を考慮しますので、一部の単元の内容が変更されることがあります。	1. イントロダクション 2. 近代社会と経済社会問題① 3. 近代社会と経済社会問題② 4. 経済社会思想と社会政策の展開① 5. 経済社会思想と社会政策の展開② 6. 多元社会化と国家の変質 7. 福祉国家の政策体系① 8. 福祉国家の政策体系② 9. 社会体制と政策思想の諸系譜 10. 福祉国家の諸困難 11. 福祉国家の調整問題① 12. 福祉国家の調整問題② 13. 福祉国家から福祉社会へ① 14. 福祉国家から福祉社会へ② 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会の展望』高菅出版。参考文献：藤岡秀英『社会政策のための経済社会学』高菅出版。	期末試験(80%)および授業への参加度（25%)による評価。出席回数が著しく少ない履修者は期末試験の受験を認めない。詳細な評価方法は授業中に紹介する。

06年度以降	社会保障論b	担当者	山岡　淳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代日本の社会保障制度の具体的な政策の内容と、それぞれの特徴と課題について取り扱います。 社会保障制度の今後のあり方や改革の内容をめぐって、国会が紛糾し、報道でも多く取り上げられていることからも、社会保障制度が国民生活へ大きな影響を持っていることがわかると思います。ただ、社会保障制度が「社会にとって重要な何か」というあいまいなものではなく、より具体的な制度を通して、何がどうして必要とされているのかを紹介していきます。 そのために、まず、日本の社会保障政策の概要を抑えたうえで、年金・医療・介護の制度の紹介をおこなっていきます。本講義を通して、学生の皆さんには、その文脈を理解したうえで、各制度の特徴や課題を経済学の視点を通して理解して頂きます。 講義は授業計画通り進めていきますが、履修者の理解度を考慮しますので、一部の単元の内容が変更されることがあります。	1. イントロダクション 2. 社会保障とは何か？ 3. マクロ統計からみた社会保障 4. 社会保障と国民負担・財政収支 5. 所得格差と所得再分配 6. 日本の医療保障制度の現状 7. 日本の医療保障制度の課題 8. 医療の経済学 9. 日本の介護保険制度の現状と課題 10. 介護保険の経済学 11. 日本の公的年金制度の現状 12. 日本の公的年季制度の課題 13. 公的年金の経済学 14. 近年の社会保障改革 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：小塩隆士『社会保障の経済学』(第3版)日本評論社。椋野美智子・田中耕太郎『初めての社会保障　福祉を学ぶ人へ』(第9版)有斐閣アルマ。	期末試験(80%)および授業への参加度（20%)による評価。出席回数が著しく少ない履修者は期末試験の受験を認めない。詳細な評価方法は授業中に紹介する。

06年度以降	労働経済学ａ	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の基礎理論を学びます。経済学の知識はあったほうが望ましいですが、知識がなくても理解できるように講義を進めます。	１．ガイダンス ２．労働経済学とは何か ３．無差別曲線と就業選択 ４．労働需要 ５．失業 ６．雇用調整 ７．情報の役割 ８．雇用をとりまく構造変化 ９．賃金と労働時間 10．高齢者の就業促進 11．人事と労働インセンティブ 12．労働経済理論と現実の乖離 13．男女共同参画社会 14．若年労働 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

06年度以降	労働経済学ｂ	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の理論を現実の経済・社会に適用して、現代の雇用システムの問題点を探ります。	１．ガイダンス ２．ジニ係数と所得格差の現状 ３．非婚化の進展と少子化 ４．男女雇用均等法と税制 ５．公平な税制とは何か ６．日本的雇用慣行とは何か ７．知的創造性を育む雇用制度とは ８．ＵＦＪ総合研究所の評価システム ９．自由と自己責任の評価がもたらすもの 10．ビジョナリーカンパニーと労働 11．イタリアはなぜ強いのか 12．人はなぜ働くのか 13．雇用安定と流動性の両立：フレクシキュリティの罠 14．金融政策と労働市場 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

06年度以降	経営学原理a	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日的問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等にアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。 講義では、経営学の理論の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理aでは、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。	1　講義の概要 2　企業経営とは何か 3　変貌する現代のビジネス 4　企業とビジネスの関係 5　ニュービジネスの登場と経営革新 6　現代の会社制度と企業経営 7　競争戦略 8　経済のグローバル化と研究開発 9　企業の目的と業績評価 10　業績評価尺度 11　多角化企業と競争環境 12　持続的競争優位とCSR 13　職務とは何か 14　自動車産業の戦略 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒川文子『製品開発の組織能力』（中央経済社、2005年）	期末試験と授業への参加度によって、総合的に評価する。

06年度以降	経営学原理b	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営学原理bでは、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT革新とネットワーク組織」についても見ていく。 次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。	1　講義の概要 2　機能別組織とプロセス組織 3　事業別組織とカンパニー制 4　IT革新とネットワーク組織 5　伝統的な組織間関係 6　日本的な企業グループと系列 7　伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産 8　モジュール組立方式とセル生産 9　トヨタのカンバン方式とリーン生産 10　マーケティング戦略 11　人的資源戦略 12　経営倫理 13　イノベーションとベンチャー 14　コーポレート・ガバナンス 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒川文子『製品開発の組織能力』（中央経済社、2005年）	期末試験と授業への参加度によって、総合的に評価する。

06年度以降	経営学原理a	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は主にマクロ的視点から、企業を取り巻く環境（業界分析等）、社会・経済制度、企業の枠組み（市場取引か垂直統合か、サプライチェーン等）、企業の構成（多角化など）などに焦点を当てる。講義全体のテーマは、企業の活動は真空（Vacuum）の中で行われるのではなく、外部環境の制約を受けるということである。すなわち、企業が属する業界の特徴（完全競争、ニッチ、寡占、独占など）、サプライチェーン上のどこに位置するか、業界の取引慣習（垂直統合型、市場取引型、系列型など）などが、企業の活動をある程度規制する。このような、外部環境が企業の活動にどう影響を与えるかを考える。	１）ガイダンス ２）競争環境と内部資源（春学期の総論） ３）様々な環境分析ツールの紹介 ４）企業の競争優位を決める資源とは何か ５）なぜ業界により収益率に大きな差が出るのか ６）事業の範囲（規模の経済と範囲の経済） ７）市場と組織、市場のコスト、市場の失敗 ８）多角化の要因、多角化の形態 ９）多角化企業でのユニットの自律性と統合 １０）多角化企業での本社の役割とは １１）ブルーオーシャン戦略とは何か １２）ブルーオーシャン戦略の応用 １３）DVD（ヘッジファンド、TOB、プロキシーファイト） １４）復習 １５） Q&A
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回講義資料を配布する。参考文献：コリス・モントゴメリー著（2004）『資源ベースの経営戦略論』	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06年度以降	経営学原理b	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期における外部環境分析を受けて、主にミクロ的視点か企業の活動に焦点を当てる。具体的には、寡占市場やニッチ市場でどのように競争優位を獲得するか、参入障壁をどのように活用するかあるいは乗り越えていくのか、バリューチェーン上の売り手や買い手はどのように交渉力を獲得していくのか、DSIR 市場でデイファクト・スタンダードをどう確立していくのかなどである。企業は、その企業が属する外部環境によってもたらされる制約の中で、どのように自社が競争優位にある強みを生かすかという仕組みを考えないといけない。そのような仕組みの選択肢について考える。	１）ガイダンス ２）事業戦略とは何か（ミッション、ビジョン他） ３）競争優位（ポジションと組織能力） ４）組織設計（ARC 分析） ５）組織のタイプ（「活用型」組織と「探索型」組織） ６）PIE の決定要因、PIE の分割、代替品と補完品 ７）競争のスペクトラムとニッチ市場、水平的差別化と垂直的差別化 ８）寡占市場での競争、戦略的相互作用 ９）既存企業の優位性、参入障壁 １０）買い手と売り手の交渉、ホールドアップ問題 １１）産業のライフサイクル、各期の戦略 １２）DSIR 市場、デイファクト・スタンダード １３）デイファクト・スタンダードの現実 １４）復習 １５）Q&A
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回講義資料を配布する。参考文献：サローナー・ポドルニー ・シェパード著（2002）『戦略経営論』	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06年度以降	企業論a	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
大学卒業後の進路として、就労の場である企業の存在は無視できないものがあります。しかし、学生の企業に対する問題意識は総じて希薄であり、企業に関する情報や知識も断片的・表層的なものでしかないものと考えられます。 本講義では、企業に関係する諸項目の概要説明を通じて、企業の多面的な性格を論じていきたいと思います。特に昨今、日本型経営システムは大きな転換期を迎えていると言われています。今後の方向性についても、最新の企業情報を織りまぜながら、ともに考えていきたいと思います。 春学期は、主として従業員の立場から人事関連の諸制度や勤労環境に焦点を当てます。	1　オリエンテーション 2　終身雇用 3　正規雇用・非正規雇用 4　高齢者雇用・定年 5　女性雇用 6　年功賃金 7　報酬制度全般 8　福利厚生 9　人事異動 10　昇進・キャリアツリー 11　採用 12　教育・研修 13　人事評価 14　労働時間・休暇制度 15　人本主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は特に指定しない。	期末試験の結果(90%)と講義での参加・貢献度(10%)

06年度以降	企業論b	担当者	河村　徳士

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会における企業の役割をともに考えていきましょう。主に大企業を対象として、歴史的な視点も加えながら考察するものとなります。財やサービスの提供機関、株式会社制度、大企業としての特徴、組織、日本的な特徴、社会的な責任といった論点を切り口にしたいと思います。	1　オリエンテーション 2　財やサービスの提供機関 3　取引相手の変遷 4　株式会社化 5　近年の株式会社 6　大企業の登場 7　大企業の特徴 8　大企業の統治 9　現代企業の官僚制 １０　企業組織の諸形態 １１　日本の大企業―戦後のアメリカナイゼーション― １２　日本の大企業―組織と雇用 １３　日本のビジネスシステム １４　日本の企業間競争と市場 １５　２１世紀の企業像
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献は、三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』第３版、有斐閣アルマ、2012年、鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣アルマ、2008年など。	期末試験による

06年度以降	会計学ａ	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学ａ，ｂ」という科目は、複式簿記原理の最低限の知識を前提として、それに内容的な意味付けを試みていくものであり、会計を言語に例えるならば「意味論」に相当するものである。そこで取り扱われる中身は、広義の意味での会計学の全領域ということになる。 そのうち「会計学ａ」では、最初に複式簿記の基本原理をごく簡単に説明した上で、財務会計論の領域の諸問題を順次講義していきたい。具体的には、資産や負債の定義ということから始めて、最終的にはキャッシュフロー計算書や連結財務諸表の作成方法についての説明も予定している。 なお、本講義は、ここ数年 科目登録が抽選制になってしまい、設置学科の学生が希望しても受講できない事態になってしまっていた。そのため本年度については、経営学科には類似科目が設置されていることもあるので、経営学科生の履修を許可しないこととしたい。	1 オリエンテイション(本講義の 目的,目標 等) 2 テキスト第１章 決算書から見える世界(①決算書とは,②会計学の２つの領域) 3 テキスト第２章 会計と決算 その１：複式簿記の基本概念と 貸借対照表,損益計算書 4 テキスト第２章 会計と決算 その２：取引の仕訳 5 テキスト第２章 会計と決算 その３：勘定口座への転記 6 テキスト第２章 会計と決算 その４： 決算修正 7 テキスト第２章 会計と決算 その５：貸借対照表,損益計算書 の中身について 8 テキスト第２章 会計と決算 その５：間接法によるキャッシュフロー計算書 9 テキスト第２章 会計と決算 その６：直接法によるキャッシュフロー計算書 10 テキスト第２章 会計と決算 その７：グループ経営と決算書(連結財務諸表の作成) 11 テキスト第２章 会計と決算 その８：資産,負債 定義とリース取引 12 ①テキスト第２章第４節,②テキスト第３章 第１，２節 13 テキスト第３章 第３節：資産評価の基礎 14 総復習 その１……第２回講義～第13回講義の総復習 15 総復習 その２……期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
山浦久司･廣本敏郎 編著、『ガイダンス企業会計入門［第４版］』（白桃書房）	7～8割は期末試験の結果,残りは平常点(講義中の小テスト等）で評価する。その際、相対評価を基本とし、絶対評価を加味する。

06年度以降	会計学ｂ	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学 b」は、「会計学 a」の知識を前提として、‘会計監査論’，‘管理会計論’，‘経営分析論’，‘税務会計論’といった領域の諸問題を、教科書に沿った形で講義していきたい。 なお、本講義は、ここ数年 科目登録が抽選制になってしまい、設置学科の学生が希望しても受講できない事態になってしまっていた。そのため本年度については、経営学科には類似科目が設置されていることもあるので、経営学科生の履修を許可しないこととしたい。	1 テキスト第３章 決算書のルール その１： 剰余金の額,剰余金の配当 2 テキスト第３章 決算書のルール その２：会計基準の登場,会計基準の国際的調和 3 テキスト第４章 :製造会社の決算書 第１節 4 テキスト第４章 :製造会社の決算書 第２節 その１：総合原価計算 その１ 5 テキスト第４章 :製造会社の決算書 第２節 その２：総合原価計算 その２ 6 テキスト第４章 :製造会社の決算書 第２節 その３：個別原価計算 7 テキスト第４章 :製造会社の決算書 第４節 標準原価計算 8 テキスト第５章 決算書の信頼性を確かめる 9 テキスト第６章 決算書の内部利用 第２節 ＣＶＰ分析 10 テキスト第６章 決算書の内部利用 第４節 機会原価概念,差額原価収益分析 11 テキスト第７章 決算書を読んでみよう 12 テキスト第８章 決算書と税金 13 テキスト第８章の特論：税効果会計 14 総復習 その１……第１回講義～第13回講義の総復習 15 総復習 その２……期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「会計学ａ」と同じ。	「会計学ａ」と同様。

06年度以降	経営学a	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、ビジネスが運営されている仕組みについて学びます。講義のスタイルとしては、極力、私からの一方通行の講義をするのではなく、皆さんとのやりとりを大切にする双方向の講義を行いたいと考えています。 また、この講義は皆さんが将来、行うであろう仕事やキャリアについても考える時間となって欲しいと思っています。 私が経験してきたビジネスの現場の話も時には入れつつ、極力楽しく、皆さんと経営学を学んでいきたいと思っています。	1. 講義概要 2. 企業経営の全体像 3. 企業とインプット市場 4. 企業とアウトプット市場 5. 企業ケース① 6. 競争戦略 7. 多角化戦略 8. 国際化 9. 企業ケース② 10. 組織マネジメント 11. やる気とリーダーシップ 12. キャリア 13. 企業ケース③ 14. 価値づくり 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の講義にて説明します。	授業への貢献度、試験にて総合的に評価します。

06年度以降	経営学b	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、ビジネスが運営されている仕組みについて学びます。講義のスタイルとしては、極力、私からの一方通行の講義をするのではなく、皆さんとのやりとりを大切にする双方向の講義を行いたいと考えています。 また、この講義は皆さんが将来、行うであろう仕事やキャリアについても考える時間となって欲しいと思っています。 私が経験してきたビジネスの現場の話も時には入れつつ、極力楽しく、皆さんと経営学を学んでいきたいと思っています。	1. 講義概要 2. 企業経営の全体像 3. 企業とインプット市場 4. 企業とアウトプット市場 5. 企業ケース① 6. 競争戦略 7. 多角化戦略 8. 国際化 9. 企業ケース② 10. 組織マネジメント 11. やる気とリーダーシップ 12. キャリア 13. 企業ケース③ 14. 価値づくり 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の講義にて説明します。	授業への貢献度、試験にて総合的に評価します。

06年度以降	経営学a	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業の国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な事項の学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。新興諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしているし、IT革命の進展とともに、企業の組織や戦略にも大きな変化が見られる。 本講義では、主として日本経済および日本企業の経験に学びながら、経営学の基礎知識および現代企業の直面する問題を議論していく。日常的な経済に関する知識を養うために、新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。 企業経営に対する理解を深める上では、企業の成功・失敗に関するドキュメンタリーも薦めたい。 立石康則『覇者の誤算　日米コンピュータ戦争の40年』講談社文庫、1997年など、適宜講義中にも紹介していく。	1．経済学と経営学①　ノートの取り方情報の集め方 2．経済学と経営学②　会社とは　経営とは 3．日本的経営とシステムとしての日本企業 4．GEの企業革命 5．日本的生産システムの進化 6．情報技術革命のインパクト 7．暴走する資本主義　「マネー資本主義」 8．技術革新と新しい国際分業 9．日本企業の海外進出 10. 世界の多国籍企業 11. グローバリゼーション 12. グローバリゼーション賛成・反対 13. 日本企業の行方 14. 日本経済の行方 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社 後は、適宜講義中に紹介する。	授業への参加度および定期試験による。

06年度以降	経営学b	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業の国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な事項の学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。新興諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしているし、IT革命の進展とともに、企業の組織や戦略にも大きな変化が見られる。 本講義では、主として日本経済および日本企業の経験に学びながら、経営学の基礎知識および現代企業の直面する問題を議論していく。日常的な経済に関する知識を養うために、新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。 企業経営に対する理解を深める上では、企業の成功・失敗に関するドキュメンタリーも薦めたい。 立石康則『覇者の誤算　日米コンピュータ戦争の40年』講談社文庫、1997年など、適宜講義中にも紹介していく。	1．経済学と経営学①　ノートの取り方情報の集め方 2．経済学と経営学②　会社とは　経営とは 3．日本的経営とシステムとしての日本企業 4．GEの企業革命 5．日本的生産システムの進化 6．情報技術革命のインパクト 7．暴走する資本主義　「マネー資本主義」 8．技術革新と新しい国際分業 9．日本企業の海外進出 10. 世界の多国籍企業 11. グローバリゼーション 12. グローバリゼーション賛成・反対 13. 日本企業の行方 14. 日本経済の行方 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社 後は、適宜講義中に紹介する。	授業への参加度および定期試験による。

06年度以降	経営学a	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
経営学には様々な各論があり、それぞれもまた専門分野として確立していて、これまでの学術的蓄積をもとに大学の経営学のカリキュラムは組まれています。しかし、予備知識なしにいきなり各論の講義を聴いても、それらの意義や重要性を認識するにはたいへんなことかもしれません。 そこでこの講義では、経営学の全体を見渡してどのような内容がどのような用語や表現で扱われているかを学び、専門的な科目を学んでいく上での助けになるように計画しました。 経営学の全体像をつかみ、これから学んでいくいろいろな科目の違いや関連性を理解し、各自の興味の対象や範囲を明らかにしていくことを目的としています。 なお全体として企業の創業から倒産までの「会社の一生」をたどるように講義内容を配列してあります。そういった面からも興味をもってもらえれば幸いです。	1. ガイダンスと序論 2. 企業形態と経営計画 3. 生産管理 4. 職能と組織 5. 人的管理 6. 株式公開 7. 株式会社金融 8. 財務管理 9. 研究開発とマーケティング 10. 事業展開 11. 国際経営 12. 企業統治 13. 社会的責任 14. 経営の失敗と企業の終り 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：小松章『基礎コース[経営学]-1 経営学（第2版）』新世社 2006年。 参考書は随時紹介します。	期末試験（70%程度）と授業への参加状況（30%）を基準とします。

06年度以降	経営学b	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
経営学には様々な各論があり、それぞれもまた専門分野として確立していて、これまでの学術的蓄積をもとに大学の経営学のカリキュラムは組まれています。しかし、予備知識なしにいきなり各論の講義を聴いても、それらの意義や重要性を認識するにはたいへんなことかもしれません。 そこでこの講義では、経営学の全体を見渡してどのような内容がどのような用語や表現で扱われているかを学び、専門的な科目を学んでいく上での助けになるように計画しました。 経営学の全体像をつかみ、これから学んでいくいろいろな科目の違いや関連性を理解し、各自の興味の対象や範囲を明らかにしていくことを目的としています。 なお全体として企業の創業から倒産までの「会社の一生」をたどるように講義内容を配列してあります。そういった面からも興味をもってもらえれば幸いです。	1. ガイダンスと序論 2. 企業形態と経営計画 3. 生産管理 4. 職能と組織 5. 人的管理 6. 株式公開 7. 株式会社金融 8. 財務管理 9. 研究開発とマーケティング 10. 事業展開 11. 国際経営 12. 企業統治 13. 社会的責任 14. 経営の失敗と企業の終り 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：小松章『基礎コース[経営学]-1 経営学（第2版）』新世社 2006年。 参考書は随時紹介します。	期末試験（70%程度）と授業への参加状況（30%）を基準とします。

06年度以降	経営学a	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
経営とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、いい知恵を出して効率的と思われる最善の方法を講じることです。 そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率を高めるための戦略立案などが必要です。 この講義では、経営学全般の事柄について、できるだけわかりやすい事例を使って、基礎的な知識の習得を図ります。	1　オリエンテーション 2　経営と組織 3　分業と協業 4　組織形態 5　モチベーション 6　リーダーシップ 7　組織における競争と協調 8　マーケティング① 9　マーケティング② 10　戦略の考え方 11　戦略理論① 12　戦略理論② 13　戦略理論③ 14　戦略理論④ 15　経済性分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末試験の結果(90%)と講義での参加・貢献度(10%)

06年度以降	経営学b	担当者	高橋　清美

講義目的、講義概要	授業計画
経営学とは、あらゆる組織体が、長期的視点にたって効率的かつ効果的な運営をするための理論構築を研究する学問です。組織体とは、企業、NPO、自治体などをさし、組織はそれぞれの活動に適した形態をとることが求められます。 そこで経営学bでは、組織体を企業に限定し、①経営とは、②組織、③戦略、④財務管理、⑤コーポレートガバナンスなどについて、わかりやすい事例を使って、経営学の基礎的知識の習得を目的として講義します。	1．　オリエンテーション 2．　経営とは 3．　経営理念と企業文化 4．　企業組織と経営管理 5．　日本的経営とグローバリゼーション 6．　経営戦略とは 7．　経営戦略① 8．　経営戦略② 9．　経営戦略③ 10.　経営戦略④ 11.　財務管理 12.　資金調達 13.　コーポレートガバナンス 14.　国際経営 15.　企業倫理
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	レポートの結果（90%）と講義での参加・貢献度（10%）

06年度以降	経営学a	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。企業経営の面白さと難しさを体感することを通じて、今後学ぶ様々な専門科目への理解･興味の橋渡しとなれば幸いである。	1. オリエンテーション 2～14. グループワークによるビジネスプラン作成 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ケーススタディと参考資料を配布する	グループワークへの参加度、貢献度と期末レポートにより評価する

06年度以降	経営学b	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。企業経営の面白さと難しさを体感することを通じて、今後学ぶ様々な専門科目への理解･興味の橋渡しとなれば幸いである。	1. オリエンテーション 2～14. グループワークによるビジネスプラン作成 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ケーススタディと参考資料を配布する。	グループワークへの参加度、貢献度と期末レポートにより評価する。

06年度以降	経営学a	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講義はこれらの中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はパワーポイントを使い、なるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明を行う。後半はグループに別れてケース分析を行い前で発表をする。	１．　ガイダンス ２．　モチベーション ３．　グループの性質 ４．　リーダーシップ ５．　コミュニケーション ６．　紛争と対立 ７．　意思決定 ８．　パワーとポリティクス ９．　人的資源 １０．　企業文化 １１．　組織構造 １２．　組織変革 １３．　ＤＶＤ（フラット化する世界） １４．　復習 １５．　Ｑ＆Ａ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は毎回配布する。	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06年度以降	経営学b	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講義はこれらの中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はパワーポイントを使い、なるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明を行う。後半はグループに別れてケース分析を行い前で発表をする。	１．　ガイダンス ２．　モチベーション ３．　グループの性質 ４．　リーダーシップ ５．　コミュニケーション ６．　紛争と対立 ７．　意思決定 ８．　パワーとポリティクス ９．　人的資源 １０．　企業文化 １１．　組織構造 １２．　組織変革 １３．　ＤＶＤ（フラット化する世界） １４．　復習 １５．　Ｑ＆Ａ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は毎回配布する。	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06年度以降	経営学ａ	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業経営」に関する経営学の基礎的知識を学ぶ。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機になるような講義を意図している。講義はテキスト、ハンドアウトをベースにして進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことを勧める。 出席は不可欠です。また大幅な遅参や途中退出は原則として認めません（交通事情によるものは除く）。	1　変貌する現代企業のビジネス 2　会社制度と企業経営 3　会社の目的と業績評価（1） 4　会社の目的と業績評価（2） 5　会社制度と経営 6　経営戦略の策定（1） 7　経営戦略の策定（2） 8　経営組織 9　マーケティング戦略 10　人的資源戦略 11　財務戦略（1） 12　財務戦略（2） 13　コーポレイト・ガバナンス 14　経営倫理 15　まとめ ※　講義の進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高橋宏幸他『現代経営入門』有斐閣を使用する。また参考資料を適宜配布する。	定期試験による。追試、レポートは行わない（4年生は注意すること）。

06年度以降	経営学ｂ	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経営学ａと同じ	経営学ａと同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高橋宏幸他『現代経営入門』有斐閣を使用する。また参考資料を適宜配布する。	定期試験による。追試、レポートは行わない（4年生は注意すること）。

06年度以降	経営学a	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:マネジメントの基礎概念を理解することとする。概念レベルとしての企業や経営、管理や組織、経営効率性や事業有効性等について、日常的な事例を交えてやさしく説明する。そこから見えてくる、マネジメントとはどのようなものかを一緒に考えてみたい。 講義概要：本講義では、マネジメントで明らかにしようとしている基本的な課題を取り上げる。企業はヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。なぜ大切かというと、組織を構成するマネジメントの要素だからである。それを組み合わせる仕組みが株式会社やNPOなどによる制度である。ものづくりの仕組み、ヒトを動かす仕組み等、システムとしてマネジメントを見ると、カネの動きを統制する財務、社会の器としての企業の新しい視点が学習効果を高める。	1. オリエンテーション・・本講義の全体像を紹介する 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社の仕組みと組織 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. 企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーション 10. イノベーションの仕組み 11. 人的資源としての雇用管理 12. 企業の資金調達 13. BOPビジネス 14. マッチングギフト「企業市民」としての企業 15. マネジメントのフロンティア・・この領域でこれまでに蓄積された知見は非営利組織をはじめ、より広い組織にも適用され、有用な分析用具として活用されている。その動向に注目して説明する
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリント配布 拙著『経営組織論の展開』創成社など	レポート重視（授業中，クイズ等も行う）

06年度以降	経営学b	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:マネジメントの基礎概念を理解することとする。概念レベルとしての企業や経営、管理や組織、経営効率性や事業有効性等について、日常的な事例を交えてやさしく説明する。そこから見えてくる、マネジメントとはどのようなものかを一緒に考えてみたい。 講義概要：本講義では、マネジメントで明らかにしようとしている基本的な課題を取り上げる。企業はヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。なぜ大切かというと、組織を構成するマネジメントの要素だからである。それを組み合わせる仕組みが株式会社やNPOなどによる制度である。ものづくりの仕組み、ヒトを動かす仕組み等、システムとしてマネジメントを見ると、カネの動きを統制する財務、社会の器としての企業の新しい視点が学習効果を高める。	1. オリエンテーション・・本講義の全体像を紹介する 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社の仕組みと組織 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. 企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーション 10. イノベーションの仕組み 11. 人的資源としての雇用管理 12. 企業の資金調達 13. BOPビジネス 14. マッチングギフト「企業市民」としての企業 15. マネジメントのフロンティア・・この領域でこれまでに蓄積された知見は非営利組織をはじめ、より広い組織にも適用され、有用な分析用具として活用されている。その動向に注目して説明する
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリント配布 拙著『経営組織論の展開』創成社など	レポート重視（授業中，クイズ等も行う）

06年度以降	経営戦略論a	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、経営戦略論について学んでいきます。 企業にとって、経営戦略（企業が進む大きな方向性を示した長期的な構想）はとても大切なものです。大きな方向性を間違えた時、企業は危機的な状況となります。ただ、経営戦略には唯一の答えも存在しないため、その方向性を決めることは容易ではありません。そのことを皆さんに理解してもらうだけでも本講義の意味はあるのかと思っています。 講義のスタイルとしては、極力、私からの一方通行の講義をするのではなく、皆さんの発表を含めた双方向の講義を行いたいと考えています。そのため、やる気のある方のみの受講を希望します。 また、本講義では、私が実際に経験してきたビジネスの現場の話も時には入れつつ、みなさんと経営戦略論について学んでいきたいと思っています。	1. 講義概要 2. 企業経営の全体像 3. 経営戦略の大枠 4. 経営戦略の失敗例 5. 経営戦略を実行する人とは 6. 業界の構造分析 7. 外部講師の講義① 8. 戦略グループ 9. ３つの基本戦略 10. 多角化戦略 11. 国際経営 12. 能力基盤の競争 13. 外部講師の講義② 14. 経営資源 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回の講義にて説明します。	授業への貢献度と試験にて総合的に評価します。 (厳しく評価します。やる気のある方のみの受講を希望します。)

06年度以降	経営戦略論b	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、経営戦略論について学んでいきます。 企業にとって、経営戦略（企業が進む大きな方向性を示した長期的な構想）はとても大切なものです。大きな方向性を間違えた時、企業は危機的な状況となります。ただ、経営戦略には唯一の答えも存在しないため、その方向性を決めることは容易ではありません。そのことを皆さんに理解してもらうだけでも本講義の意味はあるのかと思っています。 講義のスタイルとしては、極力、私からの一方通行の講義をするのではなく、皆さんの発表も含めた双方向の講義を行いたいと考えています。そのため、やる気のある方のみの受講を希望します。 また、本講義では、私が実際に経験してきたビジネスの現場の話も時には入れつつ、みなさんと経営戦略論について学んでいきたいと思っています。	1. 講義概要 2. 経営戦略の大枠 3. 事業システム 4. 市場地位別戦略 5. 資源展開 6. 外部講師の講義① 7. ライフサイクル別戦略 8. 製品マネジメント 9. サプライチェーンマネジメント 10. イノベーション 11. 価値づくり 12. 外部講師の講義② 13. 組織構造 14. 組織文化 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回の講義にて説明します。	授業への貢献度と試験にて総合的に評価します。 (厳しく評価します。やる気のある方のみの受講を希望します。)

06年度以降	経営管理論a	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。 経営管理論aでは、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。	1.　講義の概要 2.　今日の企業制度 3.　現代企業のコーポレート・ガバナンス 4.　現代社会の変化と企業経営 5.　企業組織のマネジメント機能について 6.　現代における経営者（CEO）の機能と責任 7.　テイラーの科学的管理法 8.　ファヨールの管理論 9　管理過程学派 10　人間関係論とホーソン実験 11　従来の管理機能論の枠組み 12　バーナード理論 13　管理機能論の新展開 14　知識創造 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と授業への参加度によって、総合的に評価する。

06年度以降	経営管理論b	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営管理論bでは、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。 最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、企業文化やイノベーションに対して果たすべき経営者の役割を再確認していく。	1　講義の概要 2　動機づけの諸理論 3　マグレガーのX理論とY理論 4　マズローの欲求段階論 5　動機づけ―衛生理論 6　期待理論 7　リーダーシップ論の多様な発展 8　オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム 9　リーダーシップのコンティンジェンシー理論 10　企業文化と経営 11　ネットワーク外部性と製品技術の標準化 12　ファミリー・ビジネス 13　産業クラスター 14　イノベーションと知財戦略 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と授業への参加度によって、総合的に評価する。

06 年度以降	経営組織論 a	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として，とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては，組織を取り巻く環境の土台のうえに，個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり，こうした諸問題をとりあげて論述する。 春学期では、伝統的組織論を出発点として，人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ，そのうえで近代組織論として，協働システムとしての組織，意思決定システムとしての組織，生存可能システムとしての組織に重点をおいて，その周辺の諸問題をとりあげる予定である。	1. 伝統的組織論① 2. 伝統的組織論② 3. 伝統的組織論③ 4. 近代組織論① 5. 近代組織論② 6. 経営組織モデルの発展段階① 7. 経営組織モデルの発展段階② 8. 組織とモチベーション理論① 9. 組織とモチベーション理論② 10. 組織とモチベーション理論③ 11. 組織とコンティンジェンシー理論① 12. 協働システム① 13. 協働システム② 14. 意思決定システム① 15. 意思決定システム②：まとめ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『経営組織論の展開』創成社，2009.	受講条件：b も履修すること 評価方法：試験，レポートによる総合評価

06 年度以降	経営組織論 b	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として，とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては，組織を取り巻く環境の土台のうえに，個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり，こうした諸問題をとりあげて論述する。 秋学期では，春学期で取り上げた内容に加味して、モチベーション理論や，近代組織論の協働システム、意思決定の問題、生存可能システムに重点をおいて，その周辺の諸問題をとりあげる予定である。。	1. 組織均衡の理論① 2. 組織均衡の理論② 3. ゴーイング・コンサーン① 4. サステナビリティ② 5. ワーク・モチベーション理論① 6. インセンティブ・モチベーション理論② 7. ワーク・モチベーション理論③ 8. 組織とコンフリクト① 9. 環境のコンフリクト② 10. 組織とサイバネティクス① 11. 組織サイバネティクス② 12. 生存可能システム① 13. 生存可能システム② 14. VSM① 15. VSM②
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『経営組織論の展開』創成社，2009.	受講条件：a も履修すること 評価方法：試験，レポートによる総合評価

06年度以降	経営財務論a	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。	1.「.1.企業の目的と財務政策」 a)企業による市場を通じた価値創造 2.「1.企業の目的と財務政策」 b)資本市場の役割、c)企業の財務的意思決定のフレームワーク 3.「2.資産の価値をどう評価するか」a)現在価値の評価 4.「2.資産の価値をどう評価するか」b)債権の評価 5.「3.株式の価値はどう決まる」a)配当割引モデルの考え方 b)一定成長配当割引モデルと株価収益率 6.「3.株式の価値はどう決まる」　c)配当割引モデルの応用、d)配当割引モデルの使い方 7.「4.リスクをどう測るか」　a)投資リスクの尺度 8.「4.リスクをどう測るか」　b)ポートフォリオのリスク 9.「4.リスクをどう測るか」　c)ベータ値と資本資産評価モデル 10.「5.資本コストとは何か」 a)資本コストとは、b)フリー･キャッシュ･フロー 11.「5.資本コストとは何か」　c)資本コストの推計方法 12.「5.資本コストとは何か」d)日本企業の資本コストの計算例 e)資本コストと資金コスト 13.「5.資本コストとは何か」　f)企業価値の推計 14.「6.完全市場と効率的市場」a)企業の財務行動は価値を生むか、 b)企業の投資行動はなぜ価値を生むのか 15.「6.完全市場と効率的市場」c)市場の効率性と株価形成　d)情報の非対称性とエージェンシー理論
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する。	期末試験の結果による。

06年度以降	経営財務論b	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。	1.「7.投資の決定方法(1)」 2.「7.投資の決定方法(2)」 3.「8.望ましい資本構成とは」 a)完全資本市場における資本構成と企業価値 4.「8.望ましい資本構成とは」 b)法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響 5.「8.望ましい資本構成とは」 c)企業価値の最大化と株価の最大化 d)資本構成決定の現実的な考慮点 e)日本企業の資本構成の動向 6.「9.配当政策の考え方」 a)配当政策の理論、b)配当政策をめぐる問題点 7.「9.配当政策の考え方」 c)株式配当と株式分割、d)日米企業の配当政策 8.「10.自社株取得」 a)自社株取得の本質、b)自社株取得の利用動機 9.「10.自社株取得」 c)自社株取得と株価評価 d)自社株取得をめぐる我が国の現状 10.「11.リスク管理とディリバティブの利用」 a)ディリバティブとは何か 11.「11.リスク管理とディリバティブの利用」 b)ディリバティブを利用した金利リスク管理 c)企業財務とリスク管理 12.「12.企業の合併・買収」 13. 伝統的財務分析とデュポン・システム 14.「13.新しい価値評価尺度(1)」 15.「13.新しい価値評価尺度(2)」
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する。	期末試験の結果による。

06 年度以降	人的資源管理論 a	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
人的資源管理（ＨＲＭ）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を体系的に考えるものである。学生は自分達の側から企業をみるが、講義では、企業の側から見た人材という観点で考えるので、どのような人材が企業に求められているのか、どのように職業人キャリアを形成するべきかを考える示唆となる。前半はＨＲＭの理論的フレームワークから、キャリア計画までを行う。	１．ガイダンス ２．HRM とはなにか ３．戦略的 HRM 環境 ４．法律的環境 ５．グローバル環境 ６．人材計画と職務分析 ７．募集 ８．選別と配置 ９．評価管理 １０．　教育訓練 １１．　キャリア計画と開発 １２．　キャリア計画の例 １３．　ゲストスピーカー １４．　復習 １５．　Q&A
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は毎回配布する。参考文献：DeNish & Griffin (2006) *Human Resource Management*.　Houghton Mifflin Company	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06 年度以降	人的資源管理論 b	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
後半は、報酬から最近のＨＲＭの問題までを扱う。特に現在企業が変化させようとしている雇用制度に焦点を当てる。具体的には、日本企業の特徴であった終身雇用、年功制、企業別労働組合が転換期を迎えていると考えられている。その後に出てきている形態はどのようなものか、それは企業や従業員にどのような影響を与えるのか。日本企業の競争優位の源泉である全員参加型経営はどう変革するのかを考える。	１．ガイダンス ２．基本的な報酬 ３．インセンテイブ ４．福利厚生 ５．労務管理 ６．労働環境の管理 ７．グローバル人事 ８．多様性の管理 ９．新しい労働関係の管理 １０．　日本の成果主義 １１．　HRM の新しい課題１ １２．　HRM の新しい課題２ １３．　DVD（就職面接） １４．　復習 １５．　Q&A
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は毎回配布する。参考文献：DeNish & Griffin (2006) *Human Resource Management*.　Houghton Mifflin Company	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

06 年度以降	国際経営論 a	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションの原動力の一つは、国境を越えて活動する多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売だけでなく、情報や金融の世界でも、グローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など諸分野での新しい技術やビジネスモデルの登場により、新しい形で国際分業が再編成されていると言える。IoT やロボットの登場などにより、技術と人間との関係も、新たな段階を迎えているといってよい。現代では、グローバリゼーションの文明史的な再考が必要となってきているのではないか。 本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。 春学期で主として理論・歴史を取り扱い、秋学期でケーススタディを行うので、通年受講が望ましい。	１．　グローバリゼーション---「フラット化する世界」 ２．　現代経済における多国籍企業 ３．　巨大企業と「豊かな社会」 ４．　コーポレートガバナンス ５．　フォードシステム ６．　日本的生産システム ７．　情報技術革命と企業組織 ８．　企業組織とビジネスのアーキテクチュア ９．　イノベーションと競争優位 １０．　ハイテク産業と経営戦略 １１．　国際的な産業の再編成 １２．　暴走する資本主義 １３．　温暖化・フラット化・過密化 １４．　グローバリゼーションと日本企業 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジェフリー･ジョーンズ『国際経営講義』有斐閣 J.K.ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波書店 K..ポメランツ他『グローバル経済の誕生』筑摩など 適宜講義中に紹介する。	主として、定期試験による

06 年度以降	国際経営論 b	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、グローバリゼーションの現状を分析する。 特に新興国の台頭とともに、国際的な産業の再編成が進行中であること、その主要産業の変遷が 10 年単位から数年単位のスピードになっていること、またビジネスモデルに関しても、重厚長大で垂直統合的なものが変化を迫られているなど、現代の世界経済が大きな転換期に直面していることを、講義では議論していく。 日本企業の動向に関しては、「技術は優れているのにシェアを失っている」という議論が、まま見られる。このような「技術」に対する理解が、イノベーションの議論にとっては大問題であることも、解説してゆく。	１．　日本企業の国際化 ２．　日本企業の海外進出　戦後復興から 90 年代 ３．　日本企業の海外進出　「摩擦」の政治経済学 ４．　日本企業の海外進出　アメリカ ５．　日本企業の海外進出　ヨーロッパ ６．　日本企業の海外進出　アジアへの進出と撤退１ ７．　日本企業の海外進出　アジアへの進出と撤退２ ８．　「世界の工場」中国 ９．　IT 革命と世界的な産業の再編成 １０．　ハイテク産業の動向　その１ １１．　ハイテク産業の動向　その２ １２．　主要産業の未来　自動車産業の再編 １３．　新しいビジネスモデルの登場 １４．　日本企業の課題 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
川島博之『データで読み解く中国経済』東洋経済新報社 湯之上隆『日本型モノづくりの敗北』文春新書など 適宜講義中に紹介する。	主として、定期試験による

13 年度以降 12 年度以前	外国経営史 a 経営史 a	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
19 世紀前半までのイギリスを対象とし、企業経営の歴史を講義する。具体的には、特権会社、問屋制、パートナーシップ、株式会社などをとりあげ、イギリスにおけるビジネスの歴史の特徴と問題点を考察する。 （注意事項） ① 最新のシラバスを第 1 回の授業で配布するので、履修希望者は必ず出席すること。 ② 出席は第 1 回より毎回とる。 ③ 試験は定期試験期間中に、持ち込み無し、論述問題で行う。 ④ 評価方法は、2 年生、3 年生、4 年生ともに共通である。 ⑤ この講義は、a，b の順に履修することを前提としている。	1. ガイダンス 2. イギリスにおける「会社」の誕生 3. 同上 4. イギリスの特権会社：東インド会社を中心として 5. 同上 6. 初期株式会社と南海泡沫事件 7. 同上 8. 問屋制度の発展：繊維業を中心として 9. 同上 10. イギリス産業革命と企業経営：パートナーシップを中心として 11. 同上 12. 同上 13. 株式会社制度の発展 14. 同上 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	欠席が 4 回以内であることと、定期試験成績 60 点以上の両方の条件を満たすことが単位認定の条件である。

13 年度以降 12 年度以前	外国経営史 b 経営史 b	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
19 世紀後半から 20 世紀前半を対象時期とし、企業経営の歴史的展開を講義する。具体的には、対象期における多様な技術革新と大規模企業の成立過程に焦点をあて、ドイツアメリカ、イギリスなどの事例を基に講義を進める。 （注意事項） 春学期に同じ。	1. ガイダンス 2. 序論：19 世紀後半以降の資本主義の変容と企業経営の変化 3. 鉄鋼業の技術革新と企業経営 4. 同上 5. 化学工業の発展と企業経営 6. 同上 7. 電気工業の成立と企業経営 8. 同上 9. 自動車工業の成立と企業経営 10. 同上 11. 石油工業の成立と企業経営 12. 同上 13. 鉄道業におけるビッグ・ビジネスの成立 14. 同上 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

06年度以降	日本経営史a	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
日本経営史として、江戸期から現代に至るまでの日本企業の発展要因を学ぶものです。 過去において、創業、成長、失敗･倒産など激動期を経験した企業を事例に、企業の主体的行動の内容とその背景にある論理･原因について考察するとともに、主としてトップマネジメント層に限定されますが、先人達のとった選択の是非について議論をします。この講義を通じて、時代の変遷に左右されない普遍的な経営システム、あるいは逆に、時代によって変化している経営システムについて、ともに考えていきたいと思います。 歴史を学ぶことによって、皆さんには結果として、現在の企業経営のあり方を時間軸から鳥瞰･遠視できる力を習得してもらいたいと思います。 春学期は江戸期から第2次大戦までを予定しています。	1　オリエンテーション 2　江戸期の商家経営① 3　江戸期の商家経営② 4　明治維新と近代企業の成立、官営工場の払い下げ 5　紡績業の発展 6　財閥① 7　財閥② 8　戦争と産業革命(重化学工業の発展) 9　都市型産業、企業サラリーマンの成立 10　新興財閥 11　総合商社の成長 12　大不況下の企業経営 13　企業合同、産業寡占 14　財閥の巨大化 15　戦時経済下の企業
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮本又郎ほか『日本経営史』有斐閣 1995年 宇田川勝ほか『マテリアル日本経営史』1999年	期末試験の結果(90%)と講義での参加・貢献度(10%)

06年度以降	日本経営史b	担当者	河村　徳士

講義目的、講義概要	授業計画
第二次大戦後から1990年代の長期不況あたりを対象として、日本企業の特徴を、歴史的な視点を重視しながら、つかんでいきましょう。	1　オリエンテーション 2　戦後復興期の経済改革 3　労使関係と民需転換 4　高度成長のエンジン 5　総合商社と企業集団 6　石油化学工業の誕生と産業政策 7　銀行経営 8　長期継続取引 9　自動車産業における組織能力の形成 １０　新日本製鉄の成立 １１　小売業態の転換と流通システム １２　技術革新と技術開発 １３　日本的経営の光と影 １４　バブル経済崩壊後に直面した課題 １５　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献は、宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史［新版］』有斐閣、2013年、下谷政弘・鈴木恒夫編著『講座・日本経営史5「経済大国」への規制』ミネルヴァ書房、2010年など。	期末試験による

06 年度以降	マーケティング論 a	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. ガイダンス～マーケティングとは何か？ 2～4. マーケティング戦略のフレームワーク 5～14. 顧客分析 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要があれば講義中に適宜指示する。	講義への参加度、貢献度と期末の小テストにより評価する。

06 年度以降	マーケティング論 b	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. ガイダンス～マーケティングとは何か？ 2～3. マーケティング戦略のフレームワーク 4～6. 内部環境分析 7～8. 外部環境分析 9. SWOT 分析 10～11. マーケティング戦略の立案 12～14. マーケティング戦略と組織 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要があれば講義中に適宜指示する。	講義への参加度、貢献度と期末の小テストにより評価する。

06年度以降	広告論a	担当者	清水 公一

講義目的、講義概要	授業計画
広告が企業経営の中で果たす役割は大きいものがあります。経済的機能でみても広告は消費を促して、生産量を増やし、コストを引き下げます。また、社会的機能でみてもマスコミを支え、多くのテレビ番組を提供し、安価に社会情報を伝達することができます。就職活動のテクニックも広告戦略で応用することが出来ます。広告論aは、まず世界のＣＭ、広告の歴史、広告取引のしくみ、広告費の国際比較、広告の予算編成などを学習します。 ＶＴＲやパソコンなどを使って、３０分ごとにクライマックスを設け、９０分間興味を持ち続けてもらえる授業を目指します。	１．広告の重要性と世界のＣＭ：学問体系と広告論。 ２．広告の社会的経済的機能：プラス・マイナス機能。 ３．広告の定義：ＡＭＡ、Ｗ．Ｂｏｌｅｎ、清水の定義。 ４．広告の種類：機能別分類など。 ５．広告の発展経緯：起源－中世。 ６．広告の発展経緯：近代。 ７．戦後日本の広告の動向：電波媒体の台頭。 ８．広告と共生マーケティング：4Pから4Cへ ９．コミュミケーションのプロセス：発信～受信。 10．広告組織：広告主､広告会社､媒体社の組織。 11．消費者保護と広告規制：公的・自主規制。 12．ＤＬＤ法：高度論理デザイン法。 I3．広告計画のプロセス：計画、媒体、表現、効果。 14．広告費と広告予算の設定：世界の広告費。 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清水公一著(2014)「広告の理論と戦略」第１８版、創成社。	前期末試験の結果８０％を素点にし、課題、授業態度２０％を加味して評価します。努力した人が報われるような評価をします。

06年度以降	広告論b	担当者	清水 公一

講義目的、講義概要	授業計画
就職活動のテクニックに広告戦略が応用できると言いましたが、広告論bでは、企業や非営利組織の経営や管理にとって重要な「広告コミュニケーション戦略」について具体的に学習することを目的としています。 内容としては広告媒体戦略、インパクトのあるＣＭ制作の方法、広告効果測定法、消費者行動モデル、統合マーケティング・コミュニケーション（ＩＭＣ）などを理解してもらいます。 授業では、パソコンや VTR などの視聴覚機材を効果的に使い、３０分ごとにメリハリを付けて、９０分間、受講生を集中させるようにします。	１．広告媒体の種類：他の媒体。 ２．新聞・雑誌媒体：特性、料金。 ３．ラジオ・テレビ媒体：特性、CMの種類と料金。 ４．広告媒体戦略：到達と頻度、GRP、CPM。 ５．広告表現戦略：コピープラットフォーム。 ６．印刷広告の制作プロセス：サムネイル。 ７．テレビCMの制作（ＶＴＲ放映)。 ８．広告効果測定基準：DAGMAR、ARFモデル。 ９．広告効果測定法：視聴率の測定法、SD法。 10．消費者意思決定プロセス。 11．消費者意思決定：ハワード／シェス・モデル。 12．インボルブメントと新しい効果モデル。 13．統合マーケティング・コミュニケーション。 14．販売促進、ＣＩ、ＰＲ、パブリシティ。 15．広告論の応用。
テキスト、参考文献	**評価方法**
清水公一著(2014)「広告の理論と戦略」第１８版、創成社。	期末試験の点数８０％を素点にし、課題、授業態度２０％をポイントとして加味し、評価します。努力をした人が報われるような評価をします。

06 年度以降	行動科学論 a	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
大量生産大量消費の時代が終わりを告げ、消費者は自分のニーズに合致した商品にのみ関心を示すようになっている。そのような時代における企業が生き残るための術として、消費者の行動に対する理解は必要不可欠なものであろう。本講義では、参加者自身が企業の戦略担当の立場になったつもりで、消費者の行動を論理的・科学的に分析し、戦略を立案する。ロジックを重視し、根拠のある推測から仮説を導き出し、それを検証する力が養えれば、本講義を受講した意義は大きいであろう。 この講義概要を見てもわかるように、本講座はマーケティング論の上位科目として位置付けられている。**マーケティング論に関する基本的な説明は一切行わないので、マーケティング論を受講済みの者でなければ、講義や議論についてゆくのは極めて困難である。登録を避けることを強く勧める！**	1.　ガイダンス（課題発表） 2～7. 分析作業 8. 中間プレゼン（課題の進捗状況による） 9～14. 分析作業 15. 最終プレゼン
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要があれば講義中に適宜指示する	期末（場合によっては中間も）のプレゼンテーションにより評価する。**マーケティング論を受講済みでない学生は、登録を避けることを強く勧める。**

06 年度以降	行動科学論 b	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
大量生産大量消費の時代が終わりを告げ、消費者は自分のニーズに合致した商品にのみ関心を示すようになっている。そのような時代における企業が生き残るための術として、消費者の行動に対する理解は必要不可欠なものであろう。本講義では、参加者自身が企業の戦略担当の立場になったつもりで、消費者の行動を論理的・科学的に分析し、戦略を立案する。ロジックを重視し、根拠のある推測から仮説を導き出し、それを検証する力が養えれば、本講義を受講した意義は大きいであろう。 この講義概要を見てもわかるように、本講座はマーケティング論の上位科目として位置付けられている。**マーケティング論に関する基本的な説明は一切行わないので、マーケティング論を受講済みの者でなければ、講義や議論についてゆくのは極めて困難である。登録を避けることを強く勧める！**	1. ガイダンス（課題発表） 2～7. 分析作業 8. 中間プレゼン（課題の進捗状況による） 9～14. 分析作業 15. 最終プレゼン
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要があれば講義中に適宜指示する。	期末（場合によっては中間も）プレゼンテーションにより評価する。**マーケティング論を受講済みでない学生は、登録を避けることを強く勧める。**

06年度以降	保険論a	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、現実の保険現象を広く理解し、現在進行中の保険事業をめぐる環境変化を分析する能力を収得することにあります。 春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を中心に、保険システムの全体像について講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、隣接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができます。 上記のことを理解する前提として、近代保険業がなぜ生まれたのか、またその性格はいかなるものであるのか、を理解することが重要です。 なるべく丁寧に講義を進めることを心がけますが、進度やトピックスの挿入などによって、右記の授業計画の一部を割愛することがあります。	1　講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど 2　リスク理論と保険理論 3　保険とリスクマネジメントの一般理論について 4　期待効用に基づく保険モデルの解説 5　保険の歴史(1)：原始共済と前近代的保険 6　保険の歴史(2)：近代保険の生成と発展 7　保険の構造(1)：保険の理論的構造 8　保険の構造(2)：「危険負担」「損害填補」の一般原則 9　保険の構造(3)：告知義務と通知義務など 10 保険各論(1)：生命保険の仕組みや機能 11 保険各論(2)：自動車損害賠償責任保険 12 保険各論(3)：火災保険、第3分野保険 13 巨大災害と保険（地震保険・原子力損害賠償保険） 14 補論：保険と金融派生商品の比較 15 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　田畑康人･岡村国和編『読みながら考える保険論　増補改定版』(八千代出版、2013年)	定期試験により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポートを書いていただくことがあります。

06年度以降	保険論b	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は保険会社の経営についての講義を中心に講義を進めます。具体的には保険業の収益構造や保険市場の構造的変化について、日米の保険業を比較検します。 収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であり金融収益が保険収益を上回るという本業と副業の収益面での「ねじれ現象」が発生していたことを確認します。 バブル崩壊後に生命保険も損害保険も保険会社の収益構造が大きく変容しましたが、重要であるにもかかわらず、一般的な教科書には余り記載されていない事実などを中心に解説します。 また、日本の大手生保会社は、「保険業法」に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であると言うことを知らない人が多いと思いますので、これを機会に良く理解してください。	1　秋学期の講義目的や内容について 2　保険経営の一般的特徴 3　保険企業の形態：株式会社と相互会社 4　保険市場の主要な問題 5　保険の販売チャネルについて 6　保険経営の特殊性(1))：保険技術的危険について 7　保険経営の特殊性(2)：保険料の算定について 8　資金調達からみた保険の限界とその拡張 9　保険の価格（保険料率）の構造 10　保険会社の経営戦略 11　損害保険会社の収益構造 12　保険収益のサイクルとコンバインドレシオ 13　生命保険の主力商品の変遷 14　生命保険会社の収益構造 15　秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　田畑康人・岡村国和編『読みながら考える保険論　増補改定版』（八千代出版、2013年）	定期試験により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポートを書いていただくことがあります。

13 年度以降 12 年度以前	国際貿易論 a 貿易論 a	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
国際貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野です。 この講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論や現実の貿易、貿易実務について学んで、現実の国際貿易のテーマを考察するための経済学的な思考方法を手に入れることです。国際貿易のテーマを考察するうえで有用な貿易理論の習得とあわせて、実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていきたいと思います。 春学期は、一般均衡分析を用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義します。国際貿易論でもっとも重要な概念である比較優位をはじめ、貿易パターン、貿易利益、比較優位の決定要因、産業内貿易と規模と経済などを取り上げます。 ミクロ経済学の基礎的なところから国際貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えられるようになってもらいたいと思います。	1. 戦後の日本経済と貿易の歩み 2. 貿易の取引と決済の仕組み(1) 3. 貿易の取引と決済の仕組み(2) 4. リカードの比較生産費説(1) 5. リカードの比較生産費説(2) 6. リカードの比較生産費説(3) 7. ヘクシャー＝オリーン理論(1) 8. ヘクシャー＝オリーン理論(2) 9. ヘクシャー＝オリーン理論(3) 10. 産業内貿易と規模の経済(1) 11. 産業内貿易と規模の経済(2) 12. サービス貿易 13. 貿易と経済活動・経済成長 14. 貿易と経済発展 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ[第 2 版]』有斐閣、2013 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

13 年度以降 12 年度以前	国際貿易論 b 貿易論 b	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、部分均衡分析を用いて貿易政策の基礎理論について学んだのち、実際的なトピックについて講義します。戦略的貿易政策、アンチ･ダンピング措置や緊急輸入制限措置(セーフガード)、WTO と地域貿易協定(RTA)、貿易と環境などのトピックを取り上げたいと思います。 ミクロ経済学の基礎的なところから国際貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えられるようになってもらいたいと思います。	1. 戦後の国際経済体制と世界貿易の発展 2. 貿易政策の目的 3. 貿易政策の手段 4. 部分均衡分析による貿易利益 5. 貿易政策の効果(1)―関税・生産補助金 6. 貿易政策の効果(2)―輸入数量制限・輸出自主規制 7. 保護貿易を擁護する主張 8. 戦略的貿易政策 9. アンチダンピングとセーフガード 10. 国際貿易のルールと貿易交渉 11. 地域貿易協定 12. 多国籍企業と直接投資 13. 国際労働移動 14. 貿易と環境 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ[第 2 版]』有斐閣、2013 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

06 年度以降	証券市場論 a	担当者	髙橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
「貯蓄から投資へ」と言われ、NISA が導入されるなど証券市場が生活者にとって身近な存在になりつつある。グローバリゼーションや自由化の進展に伴い、今日では好むと好まざるとに関わらず、証券や証券市場が内外の経済や個人の生活に多大な影響を与える時代を迎えているのである。 本講義では、こうした時代背景を踏まえて、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう臨みたい。これらを通じて、自己責任原則の下で多様なリスクに曝される個人が、それらを制御するために必要な最低限の知識涵養も目指していく。 証券市場論 a では、貨幣の発展形態としての証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基本的な領域について幅広く学習ながらし、金融リテラシーを身につけていく。講義はスライドを用いた口述と板書を中心に進める。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。	1．講義の概要――進め方、評価方法等のガイダンス 2．日本経済と証券市場 3．証券の意義と種類（その 1） 4．　〃　（その 2） 5．証券市場の機能と沿革（その 1） 6．　〃　（その 2） 7．証券市場の構成者 8．取引所の種類と機能 9．証券業務と証券会社 10．機関投資家と個人投資家 11．投資信託の仕組み 12．証券化の仕組み 13．新しい金融商品の基礎 14．証券市場の現状と課題 15．総括――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『ベーシック証券市場論（改訂版）』福光寛・髙橋元／編、同文館／刊、2007 年	授業中不定期に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。評価ウエイトは前者 30%、後者 70%を目途とする。

06 年度以降	証券市場論 b	担当者	髙橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
「貯蓄から投資へ」と言われ、NISA が導入されるなど証券市場が生活者にとって身近な存在になりつつある。グローバリゼーションや自由化の進展に伴い、今日では好むと好まざるとに関わらず、証券や証券市場が内外の経済や個人の生活に多大な影響を与える時代を迎えているのである。 本講義では、こうした時代背景を踏まえて、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう臨みたい。これらを通じて、自己責任原則の下で多様なリスクに曝される個人が、それらを制御するために必要な最低限の知識涵養も目指していく。 証券市場論 b では、株式を中心に証券価格の評価などに関わる理論的な考察を行い、専門的且つ高度な知識の習得を図る。講義はスライドを用いた口述と板書を中心に進める。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。	1．講義の概要――進め方、評価方法等のガイダンス 2．証券と価格形成 3．証券投資理論の基礎 4．株式と株式会社 5．金利の意義と債券投資理論 6．配当割引モデル（その 1） 7．　〃　（その 2） 8．株式投資尺度（その 1） 9．　〃　（その 2） 10．ポートフォリオ理論の基礎（その 1） 11．　〃　（その 2） 12．ポートフォリオ理論の発展形態 13．デリバティブズ 14．新しい投資理論の展開 15．総括――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『ベーシック証券市場論（改訂版）』福光寛・髙橋元／編、同文館／刊、2007 年	授業中不定期に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。評価ウエイトは前者 30%、後者 70%を目途とする。

06 年度以降	企業経済論 a	担当者	和久津　尚彦

講義目的、講義概要	授業計画
企業はなぜ存在し、どのように行動し、社会や経済にどのような影響を及ぼすのか。企業経済学は、これらの問題を経済学的に解明しようとする分野です。 ミクロ経済学でよく出てくる完全競争は、売り手と買い手が非常に多く、個々の売り手・買い手は価格を決定する力を持っていないと仮定します。しかし、現実にはそのような市場は稀です。多くの産業で、幾つかの企業が価格決定力を持って行動しています。企業経済学は、必ずしも現実的ではない完全競争の仮定を１つ１つ現実の形に近付けながら、企業行動についての様々な問題に取り組んでいきます。 企業経済論 a は、ミクロ経済学の基礎を学んだ後、独占企業の行動、価格支配力の影響、合併などのトピックを扱います。 講義は、図や簡単な数式による説明があります。バックグラウンドの違いから、苦手に思う人もいると思いますが、丁寧に説明していきます。 入門レベルのミクロ経済学の知識があれば役立ちますが、前提とはしません。 トピック別に課題を数回出す予定です。	1. イントロダクション 2. 企業とコスト(1) 3. 企業とコスト(2) 4. 競争と経済厚生(1) 5. 競争と経済厚生(2) 6. 独占企業の行動(1) 7. 独占企業の行動(2) 8. 独占企業の行動(3) 9. 価格差別(1) 10. 価格差別(2) 11. 価格差別(3) 12. 合併、垂直統合と垂直制限(1) 13. 合併、垂直統合と垂直制限(2) 14. 合併、垂直統合と垂直制限(3) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 : 泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣アルマ、2008 年、他、適宜紹介します。	課題(30%)、期末テスト(70%)で総合評価します。

06 年度以降	企業経済論 b	担当者	和久津　尚彦

講義目的、講義概要	授業計画
企業はなぜ存在し、どのように行動し、社会や経済にどのような影響を及ぼすのか。企業経済学は、これらの問題を経済学的に解明しようとする分野です。 ミクロ経済学でよく出てくる完全競争は、売り手と買い手が非常に多く、個々の売り手・買い手は価格を決定する力を持っていないと仮定します。しかし、現実にはそのような市場は稀です。多くの産業で、幾つかの企業が価格決定力を持って行動しています。企業経済学は、必ずしも現実的ではない完全競争の仮定を１つ１つ現実の形に近付けながら、企業行動についての様々な問題に取り組んでいきます。 企業経済論 b は、春学期の企業経済論 a の内容を一部おさらいした後、少数の企業と競争しあう寡占企業の行動、及びこれに関連するトピックを幾つか扱います。 講義は、図や簡単な数式による説明があります。バックグラウンドの違いから、苦手に思う人もいると思いますが、丁寧に説明していきます。 原則、企業経済論 a の履修を前提とします。企業経済論 a を履修していない場合は、初めの授業でその旨を申し出てください。 トピック別に課題を数回出す予定です。	1. イントロダクション 2. 独占企業の行動―復習(1) 3. 独占企業の行動―復習(2) 4. ゲーム理論の初歩(1) 5. ゲーム理論の初歩(2) 6. クールノー競争(1) 7. クールノー競争(2) 8. シュタッケルベルグ競争(1) 9. シュタッケルベルグ競争(2) 10. ベルトラン競争 11. 製品差別化(1) 12. 製品差別化(2) 13. 市場集中度(1) 14. 市場集中度(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 : 泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣アルマ、2008 年、他、適宜紹介します。	課題(30%)、期末テスト(70%)で総合評価します。

13年度以降 12年度以前	ベンチャー企業論a ベンチャービジネス論a	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャー企業とは若いスタートしたばかりの企業で、成長志向の高い企業をいう。Google、Facebook、楽天などに代表されるベンチャー企業に関する固有の経営問題を取り上げつつ、より広く企業の創業プロセスやその本質を理解できるようになることが本科目の狙いである。 講義は会社設立から始まって企業の発展段階に伴って起きる事象を学んでいく。その際具体的な事例研究も取り上げていく。また年一回はベンチャー企業の社長の講義も予定している。 経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にある。各自判断のうえ受講すること。	１　会社とはなにか ２　会社の誕生（１） ３　会社の誕生（２） ４　会社の設立 ５　会社の成長と組織 ６　会社の資金調達 ７　ベンチャー企業支援政策 ８　ベンチャー企業と知財（特許）戦略（１） ９　ベンチャー企業と知財（特許）戦略（２） １０　資本市場の仕組み １１　ベンチャー企業と上場市場の活用 １２　ベンチャー企業の内部管理体制 １３　ベンチャー起業家の講演 １４　起業支援政策の実際 １５　まとめと課題 ※　進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回関連資料を配布する。参考文献：上坂卓郎『日本の起業家精神』文眞堂（2014）。	定期試験による。なお追試、レポートによる評価は行わないので注意すること（特に４年生）

13年度以降 12年度以前	ベンチャー企業論b ベンチャービジネス論b	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャービジネス論aと同様だが、より専門的な話題を盛り込んだ内容とする。ベンチャー企業に特有な金融、ベンチャー企業の価値評価、起業家精神などの内容を取り上げる。また企業買収など組織再編の関連テーマについても、ベンチャー企業の成長政策の一つとして触れていく。 秋学期はビジネススクールで取り扱うベンチャー企業、アントレプレナーシップの論点を平易に解説していくつもりである。	１　創業プロセス、起業家、金融 ２　ベンチャー企業と起業家精神（１） ３　ベンチャー企業と起業家精神（２） ４　ベンチャーキャピタルの役割（１） ５　ベンチャーキャピタルの役割（２） ６　ベンチャー企業評価（１） ７　ベンチャー企業評価（２） ８　起業家にとっての資本政策 ９　ベンチャー企業とビジネスリスク １０　プライベートエクィティとM&Ａ、ＭＢＯ １１　ベンチャー企業の成長戦略 １２　ビジネスエンジェルの役割 １３　ベンチャー投資の実務問題 １４　ベンチャー企業の上場事例研究 １５　まとめと課題 ※　進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：上坂卓郎『日本の起業家精神』文眞堂（2014）。追加して毎回関連資料を配布する	定期試験による。なお追試、レポートによる評価は行わないので注意すること（特に４年生）

13 年度以降 12 年度以前	NPO マネジメント論 a 非営利組織マネジメント論 a	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要：非営利組織（NPO）マネジメント論は、NPO の事業や活動に関して、その運営の多様性について講義する。春学期では、基礎的な知識習得に努める。 　この授業のねらいは、NPO などで期待される人材や組織運営に関する基礎を理解すると同時に、東日本大震災や各地で活躍する NPO 事例を取り上げる。NPO は地域・企業・行政によって支えられているが、その活動も多岐にわたるため、本講義でも多様な内容となる。そのため年間を通じて授業を受けることが望ましい。 講義目標：この講義は、NPO の活動を、マネジメントの視点から取り上げることで、NPO 本来の健全な活動ができることを学ぶことにある。	1.　ＮＰＯとは何か：ボランタリー組織・フィランソロピー・ＮＧＯ・市民セクター 2.　ＮＰＯの成立：ボランティア活動・ＮＰＯの萌芽 3.　ＮＰＯの成立② 4.　ＮＰＯの発展：ボランティア革命 5.　ＮＰＯの規模：構造・分類・公益法人制度 6.　ＮＰＯの規模② 7.　ＮＰＯの形態：制度・市民活動団体 8.　ＮＰＯの成立基盤：制度化・活動資金 9.　ＮＰＯの経営環境：外部環境・政府との関係 10.　ＮＰＯの経営管理：管理機構・意思決定 11.　ＮＰＯの経営管理：管理機構・意思決定 12.　ＮＰＯの管理手法：経営戦略・業績管理 13.　ＮＰＯの会計制度：会計書類・会計基準 14.　ＮＰＯの予算管理：予算制度・収支計算書 15.　ＮＰＯの経営：まとめ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸『マッチングギフトとコミュニティの形成過程』創成社	受講条件：b も履修すること 評価方法：試験，レポートによる総合評価

13 年度以降 12 年度以前	NPO マネジメント論 b 非営利組織マネジメント論 b	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要：非営利組織（NPO）マネジメント論は、非営利組織の事業や活動、評価について取り上げる。 　秋学期では、NPO 活動の事例に基づく学習と共に、NPO と地域・企業・行政との関係や協働について取り上げる。その活動もフィランソロピーやボランティア活動と共に東日本大震災の際には注目された。NPO 活動がテーマを持って地域や社会を変えようと、ボランティア活動の基礎を提供していることや、今後の地域を取り巻く環境を理解するためにも、現在の NPO 活動の理解が欠かせない。 講義目標：春学期と同じ	1.　ＮＰＯの業績評価 2.　ＮＰＯの経営分析 3.　ＮＰＯの業績評価方法 4.　ＮＰＯの業績評価方法 5.　ＮＰＯの財務と非財務情報 6.　ＮＰＯの国際比較：世界のＮＰＯ 7.　アメリカのＮＰＯ 8.　イギリスのＮＰＯ 9.　ドイツのＮＰＯ 10.　フランスのＮＰＯ 11.　中国のＮＰＯ 12.　その他の国のＮＰＯ 13.　ＮＰＯのＩＴ化 14.　ＮＰＯの変化・価値 15.　ＮＰＯの今後：まとめ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸『マッチングギフトとコミュニティの形成過程』創成社	受講条件：a を履修していること 評価方法：試験，レポートによる総合評価

06年度以降	研究・開発マネジメントa	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
企業の事業展開や成長、存続のためには新製品や新サービスの開発が重要です。特に変化の激しい現代では、いかに効果的にそれらの開発と市場投入を行うかが大切です。このような経営活動の一つに研究開発（Research and Development; R&D）があります。 研究開発に直接携わるのはいわゆる理系と呼ばれる研究者や技術者たちですが、事業として成立するためには、経営学の素養を持った人がマネジメントの視点から企業の研究開発の方向性を示したり、研究開発プロジェクトの評価を行ったりすることも必要です。 この講義では、研究・開発と科学技術、商品開発の本質とプロセス・アーキテクチャ、研究・開発と市場、知識マネジメント、組織のマネジメント、拠点立地、イノベーションの主要な概念、ビジネスモデル、アフターマーケット戦略、両利きの経営などを学びます。	1. ガイダンスと序論 2. 研究・開発と科学技術 3. 商品開発の本質とプロセス 4. 商品とアーキテクチャ 5. 研究・開発と市場 6. 研究・開発と知識マネジメント 7. 研究開発組織のマネジメント 8. 研究開発の拠点立地 9. イノベーションの歴史とパターン 10. イノベーションの普及とキャズム 11. イノベーションのジレンマ 12. 研究・開発とビジネスモデル 13. アフターマーケット戦略 14. イノベーションと両利きの経営 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業資料を講義支援システムから配布します。 参考文献は講義の際に随時紹介します。	期末試験（60%）、レポート（25%）、授業への参加状況（15%）程度の基準で評価する予定です。

06年度以降	研究・開発マネジメントb	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
企業の事業展開や成長、存続のためには新製品や新サービスの開発が重要です。特に変化の激しい現代では、いかに効果的にそれらの開発と市場投入を行うかが大切です。このような経営活動の一つに研究開発（Research and Development; R&D）があります。 現代の研究開発は、単に研究所や開発センターで完結するのではなく、生産や流通との連携を重視して、より効果的に消費者へ優れた商品やサービスを提供することが求められます。 この講義では、研究・開発と生産のマネジメントの関連を学びます。扱う内容は、需要予測、生産マネジメントの概念、生産戦略と拠点戦略、商品戦略とマーケティング、調達、原価マネジメント、品質マネジメント、設備投資と信頼性、生産情報システム、研究・開発・生産と環境のマネジメント、サプライチェーン・マネジメント、プロジェクト管理、開発期間と短縮などです。	1. ガイダンスと序論 2. 需要予測 3. 生産マネジメントの概念 4. 生産戦略と拠点戦略 5. 商品戦略とマーケティング 6. 調達：購買と外注 7. 原価のマネジメント 8. 品質のマネジメント 9. 設備投資と信頼性 10. 生産情報システム 11. 研究・開発・生産と環境のマネジメント 12. サプライチェーン・マネジメント 13. プロジェクト管理 14. 開発期間と短縮 15. まとめと展望
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：大場允晶・藤川裕晃編著『生産マネジメント概論　戦略編』文眞堂，2010年 参考文献は講義の際に随時紹介します。	期末試験（70%）、授業への参加状況（30%）程度の基準で評価する予定です。

06年度以降	会計学原理ａ	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、‘制度としての会計’の解明を目的とする。その目的のため、わが国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。 講義計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。 なお、履修に際し次の条件を課すこととしたい： (1) 複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、簿記原理ａ，簿記原理ｂ 両科目を修得していること(または同等の知識のあること)。 (2) 経営学科生以外が履修する場合には、会計学ａ，会計学ｂ 両科目を修得していること。 (3) 2015年度に限っては、「財務会計論ａ」の修得者の履修を認めないことにさせていただきます。	1 オリエンテイション(本講義の 目的,目標 等) 2 会計と会計理論 3 企業会計と関係法規 4 企業会計原則 5 貸借対照表 6 損益計算書 7 間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 8 直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 9 有価証券 10 固定資産 11 固定資産の減損と時価評価 12 繰延資産 13 Topical Issues 14 総復習 その１……第2回～第13回の総復習 15 総復習 その２……同形式の問題により 期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。	7～8割は期末試験の結果,残りは平常点(講義中の小テスト等) で評価する。その際、相対評価を基本とし、絶対評価を加味する。

06年度以降	会計学原理ｂ	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
この「会計学原理ｂ」では、「会計学原理ａ」の伝統的な会計学領域に関する知識を前提として、‘連結財務諸表’，‘税効果会計’，‘リース会計’，‘外貨換算会計’といった 比較的新しい問題(ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域)を講義の対象としたい。数年前に施行された会社法の計算規定の解説にも、ウェイトを置きたいと考えている。 なお、履修に際し次の条件を課すこととしたい： (1) 複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、簿記原理ａ，簿記原理ｂ 両科目を修得していること(または同等の知識のあること)。 (2) 経営学科生以外が履修する場合には、会計学ａ，会計学ｂ 両科目を修得していること。 (3) 2015年度に限っては、「財務会計論ｂ」の修得者の履修を認めないことにさせていただきます。	1 負債 2 引当金 3 資本 その１：株主持分額の中身について 4 資本 その２：株式報酬,ストック・オプション 5 資本 その３：吸収型組織再編行為について 6 資本 その４：剰余金の配当 7 資本 その５：「純資産の部」の表示,株主資本等変動計算書 8 連結会計 その１：‘基本の基’ 9 連結会計 その２：連結精算表,連結株主資本等変動計算書の作成 10 リース会計 11 税務会計 12 外貨換算会計 13 Topical Issues 14 総復習 その１……第1回～第13回の総復習 15 総復習 その２……同形式の問題により 期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「会計学原理ａ」と同じ。	「会計学原理ａ」と同じ。

06年度以降	財務会計論a	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義では、企業が外部向けに公表する会計情報（損益計算書や貸借対照表などの財務諸表）が、いかなる要請により公表されるのか、いかなるルールに従って作成されるのか、なぜそのようなルールが求められるのかという財務会計の知識について学びます。 講義概要： 　前半では、財務会計の意義・役割および関連する法制度など財務会計の大枠について学び、後半では具体的な会計処理について資産と負債に関連する項目を中心に学びます。授業は、パワーポイントを使って行います。また、理解を深めるために新聞記事など企業の事例を取り上げ解説します。なお、受講にあたっては少なくとも日商簿記３級レベルの知識（簿記原理a, bの修得）が必要です。	1. オリエンテーション 2. 財務会計の意義 3. 財務会計の仕組み(1) 4. 財務会計の仕組み(2) 5. 財務会計の仕組み(3) 6. 財務会計の法制度 7. 資産会計(1) 8. 資産会計(2) 9. 資産会計(3) 10. 資産会計(4) 11. 資産会計(5) 12. 負債会計(1) 13. 負債会計(2) 14. 負債会計(3) 15. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光・川村義則著『新版　現代会計学』中央経済社	授業参加度（25%）、中間試験（25%）、期末試験（50%）

06年度以降	財務会計論b	担当者	山﨑　尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　春学期と同様。 講義概要： 　秋学期では、春学期に学んだ財務会計の大枠を基本として、具体的な会計処理について資本（純資産）と損益に関連する項目を中心に学びます。そのうえで、財務諸表の作成方法などについて学びます。授業の進め方は春学期と同様です。なお、受講にあたっては少なくとも日商簿記３級レベルの知識（簿記原理a, bの修得）に加え、財務会計論aの修得が必要です。	1. オリエンテーション（春学期の復習） 2. 資本会計(1) 3. 資本会計(2) 4. 資本会計(3) 5. 資本会計(4) 6. 損益会計(1) 7. 損益会計(2) 8. 損益会計(3) 9. 損益会計(4) 10. 財務諸表の作成(1) 11. 財務諸表の作成(2) 12. 財務諸表の作成(3) 13. 連結財務諸表(1) 14. 連結財務諸表(2) 15. 秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様	授業参加度（25%）、中間試験（25%）、期末試験（50%）

06年度以降	管理会計論a	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
黒字倒産という言葉を知っていますか。会社は利益を出しているのに、倒産してしまうことです。なぜこんなことが起きるのでしょうか。会社が倒産するのは、資金がなくなるから倒産するのです。この資金のことをキャッシュフローといいます。管理会計は、会社の中のキャッシュフローをうまく使って管理することを目的としています。 会社では、将来に向かっていろいろなことが決定されていますが、その意思決定は利益を基準にして行われるのではありません。キャッシュフローによって行われているのです。この講義では、簡単な例題でキャッシュフローをうまく効率的に管理して方法を学びます。春期はすぐに効果が表れる問題、つまり短期的な業務的意思決定について具体的に数値例を用いて解説し，演習を行います。	第1週　ガスダンス、管理会計とは 第2週　キャッシュフローで考える 第3週　失敗すると、いくら損? 第4週　輸出しますか? 第5週　会社が黒字倒産するとき 第6週　取替問題と減価償却 第7週　在庫が増えると、利益も増える? 第8週　カイゼン(改善)と制約 第9週　制約を緩めると 第10週　金額と効率、どちらで選ぶのか? 第11週　キャッシュフローの効率で選ぶ 第12週　キャッシュフローで選ぶ 第13週　複雑な案件で選ぶ 第14週　練習 第15週　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『意思決定の管理会計(仮題)』香取　徹、創成社	課題・宿題(40%)と最終の授業試験(60%)。

06年度以降	管理会計論b	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
秋期は、長期にわたるプロジェクトなどの問題を学びます。どうやって長期的な計画を立てるか、その計画はどのくらい利益をだすのか、などをExcelを使って学びます。そのために、貨幣の時間価値概念を理解して、戦略的意思決定へ進めていきます。理解を深めるために，具体的に数値例を用いて解説し，演習を行います。電卓を持参すること。	第1週　長期のキャッシュフロー問題 第2週　いまの100万円は来年いくら? 第3週　比較の時点をそろえる 第4週　金額か率か期間か 第5週　税引後で考えよう 第6週　投資案を作ろう 第7週　その投資は採算が取れますか? 第8週　独立案の選択問題 第9週　排反案の選択問題 第10週　混合案の選択問題 第11週　寿命の異なる投資案 第12週　不確実性に対して 第13週　Excelの実習 第14週　Excelの実習 第15週　テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06年度以降	社会会計論a・環境マネジメント論a	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「企業」と「社会」の関わりについて会計学のアプローチから学習します。景気後退、雇用問題、地球環境問題、気候変動リスク、企業の不祥事などの社会的課題とそれに対する企業の社会的責任が強く議論されるなか、社会会計は、とても関心が高まっている領域です。最新のデータや企業の実践例を多く紹介し、理論と並行してわかりやすく講義します。 本講義の到達目標は、次の3点である。①現代社会や経済、および企業が抱える課題を認識する、②現代企業の社会的性格を理解し、企業と社会の関係を論理的に説明することができる、③社会に出たときに役立つ確かな知識・教養を養う。 なお、「社会会計論 a」と「社会会計論 b」を連続して履修することが望ましい。	1. オリエンテーション（社会会計の学び方、講義における問題意識） 2. Corporate social Responsibility（CSR）の過去と現在 3. CSR概念の多様な捉え方 4. 国際的に普及するCSRガイドライン・ガイダンス 5. CSRと雇用問題 6. CSR会計の理論 7. CSR会計の実践例 8. 企業の持続可能性とリスクマネジメント（1） 9. 企業の持続可能性とリスクマネジメント（2） 10. 地球環境問題概論（人口、資源、格差、生活水準） 11. 地球環境問題概論（気候変動問題） 12. 気候変動問題に対する国際的取り組み 13. 地球環境問題と企業活動の関わり 14. 企業の利害関係者 15. 春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫、大坪史治『講義ノート』	講義への参加度（30%）と期末試験（70%）により評価する。

06年度以降	社会会計論b・環境マネジメント論b	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「企業」と「社会」の関わりについて会計学のアプローチから学習します。景気後退、雇用問題、地球環境問題、気候変動リスク、企業の不祥事などの社会的課題とそれに対する企業の社会的責任が強く議論されるなか、社会会計は、とても関心が高まっている領域です。最新のデータや企業の実践例を多く紹介し、理論と並行してわかりやすく講義します。 本講義の到達目標は、次の3点である。①現代社会や経済、および企業が抱える課題を認識する、②現代企業の社会的性格を理解し、企業と社会の関係を論理的に説明することができる、③社会に出たときに役立つ確かな知識・教養を養う。 なお、「社会会計論 a」と「社会会計論 b」を連続して履修することが望ましい。	1. 講義概要 2. 環境問題と会計学の接点 3. 環境会計の意義 4. 3つのタイプの環境会計 5. わが国企業における環境会計の実践と課題 6. 環境負荷計算 7. 統合評価手法の活用と事例 8. 伝統的原価計算と環境原価計算 9. 環境に特化した活動基準原価計算 10. 意思決定とフロー原価計算の理論と実践 11. 経済性と環境性を評価するEco-Efficiencyの理論と実践 12. 環境報告書・CSR報告書等の読み方① 13. 環境報告書・CSR報告書ガイドライン 14. 企業の情報開示をめぐる国際的動向 15. 秋学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫、大坪史治『講義ノート』	講義への参加度（30%）と期末試験（70%）により評価する。

06年度以降	原価計算論a	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
原価計算とは、財務諸表の作成や経営管理目的などのために、原価を分類、測定し、集計、分析する技術である。マテリアル・水・エネルギーなどの経営資源を調達し、製造活動をおこなう製造業においては、必要不可欠な仕組みである。 本講義では、原価計算の基礎を確認し、さらにABC、原価企画、フロー原価計算、品質原価計算などの各種原価計算手法の基礎と役立ちについて演習問題を通じて理解を深めていく。 なお、「原価計算a」、「原価計算論b」は、連続して履修することが望ましい。	1. ガイダンス（講義の進め方、原価計算の目的） 2. 原価の概念 3. 原価計算の手続き 4. 費目別計算（材料費） 5. 費目別計算（労務費） 6. 費目別計算（経費） 7. 個別原価計算 8. 製造間接費の実際配賦 9. 製造間接費の予定配賦 10. 部門別個別原価計算（1） 11. 部門別個別原価計算（2） 12. 伝統的原価計算とABC（1） 13. 伝統的原価計算とABC（2） 14.　ABC（演習） 15. 春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
渋谷武夫編著『スタディガイド原価計算』（中央経済社）	小テスト（20%）と期末試験（80%）により評価します。

06年度以降	原価計算論b	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
原価計算とは、財務諸表の作成や経営管理目的などのために、原価を分類、測定し、集計、分析する技術である。マテリアル・水・エネルギーなどの経営資源を調達し、製造活動をおこなう製造業においては、必要不可欠な仕組みである。 本講義では、原価計算の基礎を確認し、さらにABC、原価企画、フロー原価計算、品質原価計算などの各種原価計算手法の基礎と役立ちについて演習問題を通じて理解を深めていく。 なお、秋学期は、「原価計算論a」を履修していることを前提に講義を進める。	1. 総合原価計算の基礎 2. 総合原価計算の基礎（月末仕掛品の評価） 3. 工程別総合原価計算 4. 組別総合原価計算 5. 等級別総合原価計算 6. 標準原価計算の基礎 7. 標準原価計算（原価差異の計算と分析） 8. 直接原価計算の基礎 9. 直接原価計算（演習） 10. CVP分析 11. 伝統的原価計算とフロー原価計算 12. 品質原価計算の基礎 13. 品質原価計算（演習） 14. 原価企画の基礎と演習 15. 秋学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
渋谷武夫編著『スタディガイド原価計算』（中央経済社）	小テスト（20%）と期末試験（80%）により評価します。

06年度以降	会計監査論a	担当者	福薗　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的・概要） 財務諸表監査制度は、財務諸表の適正性についての意見を表明することを通じて、投資家を保護するとともに、証券市場の信頼性を確保することを目的としています。本講義では、大学生にとってはイメージし辛い『監査』というものについて、『理屈』だけでなく『監査現場で起こっている状況』などをお話することによって、監査の現実的な役割をイメージしてもらうことを目的とします。また、関連のある新聞記事、雑誌記事、ＤＶＤなども用いて、会計や監査を通じて、経済社会をイメージできればとも思っています。春学期の講義では、監査の基礎的な考え方から実際の監査手続きなどを中心に学習していく予定です。会計監査論の受講を通じて、『会計監査の基礎』について理解するだけでなく、『経済社会に対しての興味』をもって実社会に出る前の大切な学生生活にプラスになればと思っています。 （講義概要） 本講義は、テキストと補助レジメを利用した講義形式で進めますが、通り一遍の受け身受講では、受講時間が無駄になるため、参加意識を前提として出席してください。	１．監査のイメージ～監査は何のために必要か？ ２．財務諸表監査の前提～会社とはなにか？ ３．財務諸表監査の意義と目的～監査はなぜ必要か？ ４．日本における監査制度の発展～監査はどのように発展したのか？ ５．監査基準、監査の目的と二重責任～監査ルールはどのようになっているか？ ６．監査人の資質と適格性～監査はだれがやるのか？ ７．監査の実施～リスク・アプローチ～監査がどのような発想でやるか？ ８．監査の実施～監査計画と内部統制～監査はどうやって進めるか？ ９．監査の実施～監査手続論１～監査はどうやってやるか（具体例） １０．監査の実施～監査手続論２～同上 １１．監査の実施～監査手続論３～同上 １２．監査の実施～監査判断と監査証拠、監査調書～調べたものをどのように判断してまとめるか？ １３．監査事例研究１～実際の事例を考えてみよう① １４．監査事例研究２～実際の事例を考えてみよう② １５．春学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	
テキスト： 監査論テキスト〈第５版〉山浦久司 (著)中央経済社	評価はレポートが中心としますが、出題が講義の内容が中心となるため、授業への参加度・貢献度も加味します。

06年度以降	会計監査論b	担当者	福薗　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的・概要） 財務諸表監査制度は、財務諸表の適正性についての意見を表明することを通じて、投資家を保護するとともに、証券市場の信頼性を確保することを目的としています。本講義では、大学生にとってはイメージし辛い『監査』というものについて、『理屈』だけでなく『監査現場で起こっている状況』などを交えて講義することによって、監査の現実的な役割をイメージしてもらうことを目的とします。また、関連のある新聞記事、雑誌記事、ＤＶＤなども用いて、会計や監査を通じて、経済社会をイメージできればとも思っています。秋学期の講義では、監査の報告論、内部統制から新たな監査の領域までを幅広く学習していく予定です。会計監査論の受講を通じて、『会計監査の基礎』について理解するだけでなく、『経済社会に対しての興味』をもって実社会に出る前の大切な学生生活にプラスになればと思っています。 （講義概要） 本講義は、テキストと補助レジメを利用した講義形式で進めますが、通り一遍の受け身受講では、受講時間が無駄になるため、参加意識を前提として出席してください。	１．後期開講にあたって～監査のイメージ ２．監査報告：監査意見～監査意見の種類は？ ３．監査報告：監査報告書～監査意見の伝え方は？ ４．監査関連問題：四半期レビュー～四半期決算にどう対応するか？ ５．監査関連問題：内部統制監査～内部統制ってなに？① ６．監査関連問題：内部統制監査～内部統制ってなに？② ７．監査関連問題：継続企業の前提についての監査～会社の継続性について監査するとは？ ８．監査関連問題：会社法監査、連結財務諸表監査～グループ会社の監査とは？ ９．監査関連問題：内部監査と監査役監査～会社内部の監査機関との外部監査の連携関係は？ １０．監査関連問題～環境監査、非営利法人等に関する監査～いろんな監査があります １１．監査関連問題～監査の国際的動向及び監査周辺の職業～会計お よび監査の動向は？ １２．監査からの広がり～コンサルティングと監査はどのように関連するか？ １３．株式公開と会計監査～公開と会計監査の関係は？ １４．関連トピックについて １５．秋学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： 監査論テキスト〈第５版〉山浦久司 (著)中央経済社	評価はレポートが中心としますが、出題が講義の内容が中心となるため、授業への参加度・貢献度も加味します。

06年度以降	税務会計論ａ	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、税法の概要を理解し、強行法規であるが故に会計制度に対して逆基準性を強いることになる税法基準の意味を理解してもらいたい。 特にＩＦＲＳの進展に伴い、企業会計と税法に齟齬を来す場面が増大する可能性が大きいだけに、会計を学ぶ者が税法の本質を学ぶことの意味は小さくない。 本講座では、秋学期の税務会計論ｂで法人税法を学ぶ前に、税法を概観するとともに、所得税・消費税についても簡単に触れていく予定である。 また、本講座では、最初の2～30分を使い、税に限らず、時事問題等につき、書籍等を紹介しつつ、受講生に考えて頂きたいテーマについて話をします。厳しい指摘をすることも多いので、受講する際にはそれなりの覚悟をして頂きたい。 税理士・公認会計士等の会計プロフェッショナルを志望する方はもとより、国税専門官、将来起業を考えている方の積極的な受講を期待したい。	１．ガイダンス、税とは何か？ ２．租税公平主義 ３．租税法律主義 ４．租税回避 ５．納税義務者 ６．課税物件 ７．更正の請求 ８．税務調査 ９．推計課税 １０．源泉徴収制度 １１．税務訴訟 １２．所得税の構造 １３．所得区分 １４．消費税 １５．講義まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト出版準備中のため、講義中に適宜レジュメを配布。参考書として、増田英俊『リーガルマインド租税法（第三版）』、佐藤正勝『租税法』（同文館出版）	定期試験に加えて、加算点レポートを課す。

06年度以降	税務会計論ｂ	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、春学期の税務会計論aで学んだ税法概論を踏まえて、法人税法を講義する。 企業会計のルールとは異なる税法基準が、中小企業における実務指針になっているのが現実であるが、会計監査を要しない中小企業にとって、適正性・適時性を旨とする企業会計に従わずに、強行法規である税法基準に従うことは無理からぬことである。 税法基準の特殊性は別段の定めにあることから、本講座の中心論点は、この別段の定めを検討することにある。 なお、税務会計論ａ同様、最初の2～30分を使い、税に限らず、時事問題等につき、書籍等を紹介しつつ、受講生に考えて頂きたいテーマについて話をします。厳しい指摘をすることも多いので、受講する際にはそれなりの覚悟をして頂きたい。 税理士・公認会計士等の会計プロフェッショナルを志望する方はもとより、国税専門官、将来起業を考えている方の積極的な受講を期待したい。	１．ガイダンス、法人概念 ２．法人税の計算構造 ３．益金概念 ４．工事進行基準 ５．売上原価 ６．減価償却 ７．役員給与 ８．寄付金 ９．交際費 １０．貸倒損失 １１．繰越欠損金、繰戻還付 １２．組織再編税制、連結納税制度等 １３．国際課税 １４．地方法人税 １５．講義まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト出版準備中のため、講義中に適宜レジュメを配布。参考書として、三木義一『よく分かる法人税法入門』（ゆうひかく選書）、酒井克彦『裁判例からみる法人税法』（大蔵財務協会）	定期試験に加えて、加算点レポートを課す。

06年度以降	上級簿記（工業）a	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち**工業簿記**を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。 日商簿記検定の2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。 簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合せてワークブックを練習います。 簿記を始めて学習しようという人には履修を勧めません。 電卓を持参してください。	1　工業簿記の基礎 2　勘定連絡図 3　材料費 1 4　材料費 2 5　労務費 1 6　労務費 2 7　経費 8　個別原価計算 1 9　個別原価計算 2 10　同上 11　部門別個別原価計算 1 12　部門別個別原価計算 2 13　総合原価計算 1 14　総合原価計算 2 15　総合原価計算 4
テキスト、参考文献	**評価方法**
合格テキスト　日商簿記 2 級工業簿記　TAC 出版 合格トレーニング　日商簿記 2 級工業簿記　TAC 出版	毎回プリントを配布して問題解答練習(40%)、最終授業での試験(60%)。

06年度以降	上級簿記（工業）b	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上級簿記(工業)a を履修した人か、すでに簿記を学習した人を対象にしますので、初めて簿記を学習しようという人は履修しないことを勧めます。内容は上と同じです。	1　総合原価計算 3 2　財務諸表 1 3　同上 4　標準原価計算 1 5　標準原価計算 2 6　同上 7　直接原価計算 2 8　直接原価計算 1 9　同上 10　材料副費 11　固定予算 12　相互配賦法 13　仕損 14　組別・等級別原価計算 15　工場会計
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06年度以降	上級簿記（商業）a	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」３級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。 講義概要 春学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○銀行勘定調整表の作成 ○手形取引の記帳 ○特殊商品売買取引に関する記帳 ○株式会社会計 ○本支店会計 ○帳簿組織	1.「1.銀行勘定調整表の作成」 2.「2.手形取引の記帳(1)」 a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 3.「手形取引の記帳(2)」 a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 b)荷為替手形 4.「3.特殊商品売買取引(1)」 a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 5.「3.特殊商品売買取引(2)」 a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 6.「3.特殊商品売買取引(3)」　d)割賦販売 7.「4.株式会社会計(1)」 a)株式会社の資本金、b)資本剰余金、c)利益剰余金 8.「4.株式会社会計(2)」 d)剰余金の配当など e)社債の発行、利払、償還 9.「4.株式会社会計(3) 」 f)繰延資産、g)引当金、h)法人税等、i)会社の合併 10.「5.本支店会計(1)」 a)本支店会計とは b)支店分散会計制度と本店集中計算制度 11.「5.本支店会計(2)」 c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 12.「5.本支店会計(3)」 c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 13.「6.帳簿組織(1)」　a)普通仕訳帳と特殊仕訳帳 14.「6.帳簿組織(2)」　b)伝票式会計 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
TAC 簿記検定講座 『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（TAC 出版）	期末試験の結果による。

06年度以降	上級簿記（商業）b	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○リース会計 ○ディリバティブ取引についての会計 ○退職給付会計 ○外貨換算会計 ○税効果会計 ○純資産（資本）についての会計	1. 「7.リース会計(1)」 2. 「7.リース会計(2)」 3. 「8.ディリバティブ取引についての会計(1)」 4. 「8.ディリバティブ取引についての会計(2)」 5. 「8.ディリバティブ取引についての会計(3)」 6. 「9.退職給付会計(1)」 7. 「9.退職給付会計(2)」 8. 「10.外貨換算会計(1)」 9. 「10.外貨換算会計(2)」 10.「10.外貨換算会計(3)」 11.「11.税効果会計(1)」 12.「11.税効果会計(2)」 13.「11.税効果会計(3)」 14.「12.純資産（資本）についての会計」 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
TAC 簿記検定講座 『合格テキスト　日商簿記 1 級商業簿記会計学Ⅱ』 （TAC 出版）	期末試験の結果による。

06年度以降	国際会計論a	担当者	橋本　尚

講義目的、講義概要	授業計画
国際会計は、企業活動の国際化、資金調達の国際化、多国籍企業の出現などにより新たに展開された企業会計の領域である。会計はビジネス社会における共通言語であり、もともと国という枠に限定される性質のものではないが、社会の制度として定着していく過程で、各国の政治、経済、社会的環境を色濃く反映してきた。こうした会計制度の相違は、財務諸表の国際理解の障害となるものであり、企業活動や資本市場のグローバル化とともに、国際比較可能性を有するグローバル・スタンダードが必要とされるようになった。国際会計基準審議会（IASB）が開発している国際財務報告基準（IFRS）は、質の高い単一のモノサシとして、わが国においても2010年3月期から上場企業（特定会社）の連結財務諸表に任意適用が認められている。 本講義においては、IFRSをめぐる内外の動向を概観するとともに、IFRSの特徴や基本的な内容について、日本の企業会計基準と比較しながら解説していく。	1　オリエンテーション 2　IFRSをめぐる内外の動向 3　IFRS財団の組織 4　IFRSの構成 5　IFRSの特徴 6　財務報告に関する概念フレームワーク 7　公正価値および現在価値の概念 8　IFRSに基づく財務諸表 9　収益 10　棚卸資産 11　有形固定資産① 12　有形固定資産② 13　無形資産 14　減損 15　リース
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：橋本　尚・山田善隆　『IFRS会計学基本テキスト（第4版）』　中央経済社　2015年 参考文献：講義の中で適宜紹介する。	講義への取り組み状況などの平常点（30%）と試験の結果（70%）に基づいて総合的に判定する。

06年度以降	国際会計論b	担当者	橋本　尚

講義目的、講義概要	授業計画
国際会計は、企業活動の国際化、資金調達の国際化、多国籍企業の出現などにより新たに展開された企業会計の領域である。会計はビジネス社会における共通言語であり、もともと国という枠に限定される性質のものではないが、社会の制度として定着していく過程で、各国の政治、経済、社会的環境を色濃く反映してきた。こうした会計制度の相違は、財務諸表の国際理解の障害となるものであり、企業活動や資本市場のグローバル化とともに、国際比較可能性を有するグローバル・スタンダードが必要とされるようになった。国際会計基準審議会（IASB）が開発している国際財務報告基準（IFRS）は、質の高い単一のモノサシとして、わが国においても2010年3月期から上場企業（特定会社）の連結財務諸表に任意適用が認められている。 本講義においては、国際会計論aに引き続いてIFRSの基本的な内容について、日本の企業会計基準と比較しながら解説していく。	1　引当金、偶発負債および偶発資産 2　従業員給付 3　ストック・オプション 4　金融商品① 5　金融商品② 6　法人所得税 7　企業結合 8　連結① 9　連結② 10　連結③ 11　持分法 12　外貨換算 13　セグメント情報 14　IFRSの初度適用 15　IFRSの将来像
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：橋本　尚・山田善隆　『IFRS会計学基本テキスト（第4版）』　中央経済社　2015年 参考文献：講義の中で適宜紹介する。	講義への取り組み状況などの平常点（30%）と試験の結果（70%）に基づいて総合的に判定する。

13 年度以降 12 年度以前	経済経営数学 a 経営数学 a	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 広範な分野にわたっている経済・経営数学のさまざまなキーワードに触れ，少なくとも経済・経営数学に苦手意識を持たないようになることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「経済経営数学入門」の単位を修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 本講義では，例題や演習問題の豊富なテキストを用いて，経済・経営の諸課題における理論分析に必要となる数学の基礎を網羅的に概説します．解法の手引きを講義したのちに，授業参加者それぞれが演習問題を解き進めてもらいます． 秋学期の「経済経営数学b」とセットで開講しますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で，適宜修正しつつ進めます．第 1 回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第 1 回　イントロダクション 第 2 回～第 7 回　偏導関数・ラグランジアン等 第 8 回　小テスト① 第 9 回～第 13 回　行列・逆行列等 第 14 回　小テスト② 第 15 回　調整・質問用
テキスト、参考文献	**評価方法**
エドワード・T. ドウリング著，大住栄治，川島康男訳（1995）『例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉』，シーエーピー出版．	授業貢献（50%）・期末試験（50%）． 詳しくは，第 1 回のイントロダクションで説明します．

13 年度以降 12 年度以前	経済経営数学 b 経営数学 b	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 広範な分野にわたっている経済・経営数学のさまざまなキーワードに触れ，少なくとも経済・経営数学に苦手意識を持たないようになることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「経済経営数学入門」の単位を修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 本講義では，例題や演習問題の豊富なテキストを用いて，経済・経営の諸課題における理論分析に必要となる数学の基礎を網羅的に概説します．解法の手引きを講義したのちに，授業参加者それぞれが演習問題を解き進めてもらいます． 春学期の「経済経営数学a」とセットで開講しますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で，適宜修正しつつ進めます．第 1 回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第 1 回　イントロダクション 第 2 回～第 7 回　ヤコビアン・ヘッシアン等 第 8 回　小テスト① 第 9 回～第 13 回　積分・微分方程式等 第 14 回　小テスト② 第 15 回　調整・質問用
テキスト、参考文献	**評価方法**
エドワード・T. ドウリング著，大住栄治，川島康男訳（1996）『例題で学ぶ入門・経済数学〈下〉』，シーエーピー出版．	授業貢献（50%）・期末試験（50%）． 詳しくは，第 1 回のイントロダクションで説明します．

13 年度以降 12 年度以前	多変量解析 a 応用統計学 a	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
【講義目的】 この講義の目的は，統計的データ解析の基礎を理解し，現実の経済・経営データへの応用方法を習得することにあります。 【講義概要】 講義では，統計的データ解析の理論的な説明と，簡単な数値例の計算，統計解析ソフトウェア R を利用する実習を併用します。これにより，統計的データ解析の理解を深めるとともに応用力を養います。また，必要に応じて数学的な説明を加えます。 【注意】 1. 授業・実習・課題等に対する積極的な取り組みが不可欠である。 2. 統計学に関する基本的な知識を前提とする。原則として統計学 a,b の単位取得者を対象とする。 3. テキストや参考書等について，初回の授業で詳しく説明するので，必ず出席すること。	1. オリエンテーション，R によるデータ分析の基礎 2. 1 次元データの分析（ヒストグラム，記述統計） 3. 2 次元データの分析（散布図，相関係数） 4. 単純回帰分析（最小二乗法，決定係数） 5. 単純回帰分析（残差の検討） 6. 重回帰分析（最小二乗法，自由度修正済み決定係数） 7. 重回帰分析（偏回帰係数，変数選択） 8. 重回帰分析（データ分析 1） 9. 重回帰分析（データ分析 2） 10. 主成分分析（主成分分析の考え方 1） 11. 主成分分析（主成分分析の考え方 2） 12. 主成分分析（主成分分析の考え方 3） 13. 主成分分析（データ分析 1） 14. 主成分分析（データ分析 2） 15. まとめ
テキスト，参考文献	**評価方法**
【参考書】 中村（2009）『多次元データ解析法』共立出版.	レポート・発表（70%），平常点（30%）

13 年度以降 12 年度以前	多変量解析 b 応用統計学 b	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
【講義目的】 この講義の目的は，統計的データ解析の基礎を理解し，現実の経済・経営データへの応用方法を習得することにあります。 【講義概要】 講義では，統計的データ解析の理論的な説明と，簡単な数値例の計算，統計解析ソフトウェア R を利用する実習を併用します。これにより，統計的データ解析の理解を深めるとともに応用力を養います。また，必要に応じて数学的な説明を加えます。 【注意】 1. 授業・実習・課題等に対する積極的な取り組みが不可欠である。 2. 統計学に関する基本的な知識を前提とする。原則として統計学 a,b の単位取得者を対象とする。 3. 原則として応用統計学 a の単位取得者を対象とする。	1. オリエンテーション，R によるデータ分析の復習 2. 判別分析（1 次元データの線形判別分析） 3. 判別分析（多次元データの線形判別分析 1） 4. 判別分析（多次元データの線形判別分析 2） 5. 判別分析（2 次判別関数 1） 6. 判別分析（2 次判別関数 2） 7. 判別分析（データ分析 1） 8. 判別分析（データ分析 2） 9. クラスター分析（階層的方法 1） 10. クラスター分析（階層的方法 2） 11. クラスター分析（非階層的方法 1） 12. クラスター分析（非階層的方法 2） 13. クラスター分析（データ分析 1） 14. クラスター分析（データ分析 2） 15. まとめ
テキスト，参考文献	**評価方法**
【参考書】 中村（2009）『多次元データ解析法』共立出版.	レポート・発表（70%），平常点（30%）

13 年度以降 12 年度以前	社会調査論 a 標本調査論 a	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 アンケート調査の企画～調査票作成までができるようになることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「統計学入門」の単位修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 データの入手方法は様々ですが，社会科学においては社会調査によるデータ入手がとても大切です． 本講義では，グループワークによって，アンケート調査の企画～調査票作成の作業をしてもらいます． 本講義で作成するデータファイルは秋学期の「社会調査論b」にも用いますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で進めます．第 1 回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第 1 回　イントロダクション・グループ分け 第 2 回～第 8 回　アンケート企画 第 9 回～第 10 回　調査企画のプレゼン 第 11 回～第 15 回　調査票作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布します．	授業貢献（50%）・期末レポート（50%）． 詳しくは，第 1 回のイントロダクションで説明します．

13 年度以降 12 年度以前	社会調査論 b 標本調査論 b	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 アンケート調査データの要約と報告ができるようになることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「統計学入門」の単位修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 データの入手方法は様々ですが，社会科学においては社会調査によるデータ入手がとても大切です． 本講義では，グループワークによって，アンケートに関わる分析作業と報告をしてもらいます． 春学期の「社会調査論a」とセットで開講しますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で進めます．第 1 回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第 1 回　イントロダクション・（再）グループ分け 第 2 回～第 5 回　調査の実施と入力 第 6 回～第 13 回　集計・分析 第 14 回・第 15 回　最終報告プレゼン
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布します．	授業貢献（50%）・期末レポート（50%）． 詳しくは，第 1 回のイントロダクションで説明します．

06 年度以降	データベース論 a	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
データベースは、コンピュータ上で大規模なデータを処理する際に必須のものであり、特に Web アプリケーションを作る上で重要な構成要素である。本授業では、データベースの構造、データの操作について学ぶ。 この授業では、まずデータの処理（検索・集計など）のしかたを、Excel を用いて簡単に学び、その後本格的にデータを操作するための言語として、SQL を学ぶ。SQL を用いて、データの検索、集計、追加、変更、削除という基本操作を学ぶ。 SQL の学習は、最初のうちは Web ブラウザから簡単に学習できるシステムを使用するが、最後に実際の Web アプリケーションでも用いられている言語の例として、PHP を用いたアプリケーション構築も行なう 題材として、ショッピングサイトの商品データを用いる。商品を検索したり、集計したりする仕組みを作成する。 また、データベースと密接な関係がある Web アプリケーションについても扱う。ショッピングサイトの仕組みを簡単に実装し、Web アプリケーションの仕組みについて学ぶ。	1.ガイダンス（データベースとは） 2.SQL によるデータの操作: 3.商品データの作成 4.商品データの検索 5.商品データの集計 6.商品データの変更．削除 7.注文データの作成・テーブル同士の結合 8.注文データの正規化 9. Web 画面を利用しての、商品の検索 10. フォームを利用しての、商品の検索 11. Web 画面を利用しての、商品の注文 12. 商品の表示方法の変更 13. 作品製作 14. PHP によるデータベースアプリケーション：基礎 15. PHP によるデータベースアプリケーション：応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、資料を配布する	毎回の課題で評価する

06 年度以降	データベース論 b	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、春学期のデータベース論 a を履修していることを前提とする。 春学期に引き続き、データベースの構造、操作について学ぶ。本授業では、データベースを応用した、Web アプリケーションの構築を通じて、データベースの仕組みを学ぶ。 SQL の学習は、最初のうちは Web ブラウザから簡単に学習できるシステムを使用するが、最後に実際の Web アプリケーションでも用いられている言語の例として、PHP を用いたアプリケーション構築も行なう。 題材として、掲示板などの古典的な Web アプリケーションをまずとりあげる。そこに、ユーザの情報を管理する仕組みを導入し、ユーザ同士のつながりや、書き込みに対する評価などをデータで表現する。最終的には、最近のソーシャルネットワークで用いられているデータ構造を理解できるようにする。	1.前期の復習・掲示板の書き込みデータの作成 2.フォームからの書き込みデータの作成 3.ユーザ情報の作成 4.ユーザ情報の削除 5.ユーザ情報と書き込みデータの結合 6.ユーザの認証 7.セッションの管理 8.ユーザ間の関係の構築： データ構造 9.ユーザ間の関係の構築：表示 10.ユーザ間の関係の構築：編集 11.作品製作(設計) 12.作品製作(実装) 13. PHP によるデータベースアプリケーション：基礎 14. PHP によるデータベースアプリケーション：応用 15.授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、資料を配布する	毎回の課題で評価する

06 年度以降	データベース論 a	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、データベースの歴史を概観し、データベースの仕組みを学習する。 その後、関係データベースのもっとも単純な例として、表計算ソフト(MS-Excel)のデータベース機能を利用し、実習をしながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。実際のデータとして国勢調査の結果の人口情報と、百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。	1　データベース概観 2　データベース歴史 3　データモデル 4　データベースの三層スキーマ 5　データベース管理システム 6　MS-Excel の基礎知識 7　レコードの分類と集計 8　レコードの抽出 9　論理関係、比較・照合関係 10 ワイルドカードと検索 11 条件検索(1) 文字列データの条件設定 12 条件検索(2) 数値データの条件設定 13 条件検索演習 14 クロス集計 15 総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：前田、和高、石田、松山、高柳共著『Windows 7 と情報活用- MS - Office2010 対応』共立出版、2012	授業態度（20%）、試験（60%）、レポート（20%）で評価する。

06 年度以降	データベース論 b	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
現在最も普及している関係データベースに焦点をあて、データベースの理論と実践を学習する。 理論としては、関係データベースの特徴からはじめ、順に、関係代数やデータ構造、問い合わせ言語 SQL について学習する。 実践としては、MS-Access を使用し、「データベース論 a」で MS-Excel 上に作成したデータを用い、データベース作成や問い合わせなどの実際の操作を学ぶ。 なお、この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。	1　関係モデルと SQL 2　キー、関数従属、整合性制約 3　正規化理論 4　正規化演習 5　Access へのインポート 6　主キーの設定、関係間の関連付け 7　QBE による検索 8　関係代数の演算 9　関係代数と SQL 10　SQL の構文と演算子(1) 11　SQL の構文と演算子(2) 12　QBE と SQL 13　SQL による検索 14　データベース定義、更新処理 15　総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業始めで指定する	授業態度（20%）、試験（60%）、レポート（20%）で評価する。

13 年度以降 12 年度以前	シミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論 a	担当者	市川　新

講義目的、講義概要	授業計画
実社会において直面するマネジメント問題に取り組むためには、場面を仮想し演習する思考、すなわち、シミュレーション思考が求められる。この科目では、人間の思考力である脳内情報処理とそれを補完するコンピュータシミュレーションの両方を学ぶことによって、仮想演習思考力の修得をめざす。したがって、人間シミュレーション（ロールプレイ演習）が含まれる。 この科目には演習や実習が多く含まれる教育方法を採用する。一斉授業形式の講義主体ではないので受講にあたり準備すること。EXCELを使った経営意思決定のための分析手法も学習するので、基本機能ハンドブック類（入門書は不要）を携帯することが望ましい。	1. 小売業発注ビジネスゲーム：ガイダンスに代えて 2. 経営環境理解のためのマッピング１ 3. 経営環境理解のためのマッピング２ 4. 経営環境理解のためのマッピング３ 5. 社会情報データの収集法１ 6. 社会情報データの収集法２ 7. 階層分析シミュレーションによる経営問題解決１ 8. 階層分析シミュレーションによる経営問題解決２ 9. 階層分析シミュレーションによる経営問題解決３ 10. 日程管理シミュレーション１ 11. 日程管理シミュレーション２ 12. 日程管理シミュレーション３ 13. 顧客創造マッピングとプレゼン 14. 組織参加マッピングとプレゼン 15. 経営意思決定のためのシミュレーション思考
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回の講義については、プリントを配付する。教材アプリを配付するので、専用の USB メモリを用意することが望ましい。	この科目は能動的学習が必須なので、毎回の課題と作品の提出状況（60%）と内容（40%）によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	シミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論 b	担当者	市川　新

講義目的、講義概要	授業計画
実社会において直面するマネジメント問題に取り組むためには、場面を仮想し演習する思考、すなわち、シミュレーション思考が求められる。この科目では、人間の思考力である脳内情報処理とそれを補完するコンピュータシミュレーションの両方を学ぶことによって、仮想演習思考力の修得をめざす。したがって、人間シミュレーション（ロールプレイ演習）が含まれる。 この科目には演習や実習が多く含まれる教育方法を採用する。一斉授業形式の講義主体ではないので受講にあたり準備すること。EXCEL を使った経営意思決定のための分析手法も学習するので、基本機能ハンドブック類を携帯することが望ましい。 なお、シミュレーション論 a と合わせて受講すると、授業計画の各項目に示すように店長などのミドルマネジメントが遭遇する主要な経営問題を経験的（体験的）に学習することになる。	1. 製造業発注ビジネスゲーム：ガイダンスに代えて 2. 価格戦略ビジネスゲーム１ 3. 価格戦略ビジネスゲーム２ 4. 価格戦略ビジネスゲーム３ 5. サイコロとシミュレーション１ 6. サイコロとシミュレーション２ 7. 流通シミュレーションモデル１ 8. 流通シミュレーションモデル２ 9. 流通シミュレーションモデル３ 10. 流通シミュレーションモデル４ 11. インターネットビジネスゲーム経営演習１ 12. インターネットビジネスゲーム経営分析１ 13. インターネットビジネスゲーム経営演習２ 14. インターネットビジネスゲーム経営分析２ 15. 経営意思決定のためのシミュレーション思考
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回の講義については、プリントを配付する。教材アプリを配付するので、専用の USB メモリを用意することが望ましい。	この科目は能動的学習が必須なので、毎回の課題と作品の提出状況（60%）と内容（40%）によって評価する。

06 年度以降	マルチメディア論 a	担当者	柏原　賢二

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、コンピュータを用いて、マルチメディアコンテンツ作成に関する理論と実習を行う。以下の 3 つが主要な実習内容である。 (I) 第 3 週より第 8 週まで。画像加工ソフト(Paint, Photoshop elements)を用いた静止画像の作成と加工。レイヤーを使った静止画像の加工方法を学ぶ。 (II) 第 9、10 週。ワープロソフト(Word)を用いて、文書にマルチメディアコンテンツを組み込む方法を学ぶ。 (III) 第 11 週から第 15 週まで。 プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーション。PowerPoint でスライドを作成してもらい、実際に教室の前でプレゼンテーションをしてもらう予定である。 実習と平行して、関連する理論を講義する。たとえば、コンピュータ内でディジタル情報がどのように表されているかや、画像のファイル形式などである。	1 マルチメディアとは 2 情報のディジタル表現 3 静止画像の作成(Paint) 4 静止画像の作成(Photoshop Elements) 5 静止画像とレイヤー 6 静止画像とフィルター 7 静止画像のより高度な編集方法 8 静止画像の総合演習 9 マルチメディア文書の作成 10 ベジエ曲線 11 PowerPoint を使ったプレゼンテーションの作成 1 12 PowerPoint を使ったプレゼンテーションの作成 2 13 PowerPoint を使ったプレゼンテーションの発表 1 14 PowerPoint を使ったプレゼンテーションの発表 2 15 PowerPoint を使ったプレゼンテーションの発表 3
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	演習課題 70% 期末試験 30%

06 年度以降	マルチメディア論 b	担当者	柏原　賢二

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、コンピュータを用いて、マルチメディアコンテンツ作成に関する理論と実習をさらに深く行う。 (I) 第 1 週より第 5 週まで。Flash Professional を用いたアニメーションの作成。動くウェブページなどの作成に使われる Flash コンテンツの作成について学ぶ。 (II) 第 6 週より第 10 週まで。 Premiere Elements を使った動画編集の基礎。動画クリップをつなげたり、文字を入れたり、映像に効果をいれる方法を学ぶ。 (III) 第 11 週から第 15 週まで。 総合演習と題して、Flash や Premiere などのソフトウェアを用いて、自由にコンテンツを制作してもらい、最後に制作物を発表してもらう。 実習と平行して、関連する理論を講義する。たとえば、コンピュータにおける音声データの表現法や、映像の規格などについてである。	1 授業の概要と Flash の概要。 2 Flash とレイヤー 3 モーショントゥイーンアニメーション 4 シェイプトゥイーンアニメーション 5 フィルターと写真のアニメーション 6 動画の編集 1 (クリップの連結とフィルター) 7 動画の編集 2 (文字の挿入) 8 動画の編集 3 ([理論]音声のデータについて) 9 動画の編集 4 ([理論]インターネットサービスについて) 10 総合演習 1 11 総合演習 2 ([理論]映像規格について) 12 総合演習 3 ([理論]モバイルと通信) 13 総合演習 4 ([理論]著作権) 14 総合演習発表 1 15 総合演習発表 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	演習課題 70% 期末試験 30%

06年度以降	マルチメディア論a	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、マルチメディアコンテンツ作成のためのアプリケーションを利用して実際にコンテンツを作成することにより、図形作成・画像処理、静止画作成、アニメーションの原理を学ぶことを目的とする。いろいろな種類の図形・画像作成のためのアプリケーションを利用し、画像編集や画像圧縮などの機能を学ぶ。また、アニメーションの原理について講義し、アニメーション作成のためのアプリケーションを用いて実習する。これらで作成したファイルを、紙媒体でも利用する。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法についても実習を行う。また、これらのマルチメディアに対するファイル形式と圧縮方法についても講義を行うとともに実習する。最後に最終レポートとして、マルチメディア作品を制作する。	1　マルチメディアの基礎：講義 2　情報のデジタル表現：講義および実習 3　静止画像の作成：講義および実習 4　画像ソフトとファイル形式：講義および実習 5　静止画の作成：講義および実習 6　写真の加工：講義および実習 7　写真の合成と圧縮：講義および実習 8　スキャナーの原理と画像処理：講義および実習 9　デジカメの原理と画像処理：講義および実習 10　マルチメディアの処理：実習 11　アニメーションの原理と作成：講義および実習 12　文字アニメーションの原理と作成：講義および実習 13　プレゼンテーションツールの利用：講義および実習 14　マルチメディアの統合：講義および実習 15　マルチメディア作品の発表：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』　実教出版	試験 50%、レポート 50%

06年度以降	マルチメディア論b	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、インターネット上でのマルチメディアコンテンツがどのようなものかを実際に作品を作ることで、それらの原理を学ぶことを目的とする。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのアプリケーションを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。3Dに関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングを行なって３Ｄ作品を作成する。また、ビデオの取り込みのために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義と実習を行い、ビデオクリップを用いて動画編集を行なう。最終レポートとして、受講生が独自の作品を制作し、Web上に発表する。このために、サーバーにアップする方法やHTMLについても解説を行う。また、先輩たちの作成したマルチメディア作品を紹介する。	1　インターネットとマルチメディア：講義 2　音声の原理、取り込みと処理：講義および実習 3　音楽作成と編集（テキストファイル）：講義および実習 4　音楽作成と編集（MIDIファイル）：講義および実習 5　Webページの原理と静止画表示：講義および実習 6　Webページの原理と音声：講義および実習 7　Webページへのリンク：講義および実習 8　Webページのレイアウト：講義および実習 9　Flashによる画像アニメーション：講義および実習 10　Flashによるモーフィング：講義および実習 11　アニメーションの組み合わせ：講義および実習 12　映像の原理と編集と圧縮：講義および実習 13　３Ｄの原理と作成：講義および実習 14　Webサーバーへのアップ：講義および実習 15　マルチメディア作品アップ：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』　実教出版	試験 50%、レポート 50%

06年度以降	マルチメディア論a	担当者	大和田　勇人

講義目的、講義概要	授業計画
マルチメディアは従来のコンピュータで扱われていたテキスト、数値に加えて画像、音声、動画などの様々な情報形式を指すが、現在これらはWebページを作る際に統一的に扱うことが可能で、インターネット閲覧ソフトでそうした情報を見たり、聞いたりすることができるようになっている。本講義では、こうした情報をWebページ上に登録・記述していくためのページ記述言語HTMLとページのデザインを決めるスタイルシートCSSを取り上げ、これらの技術をいかに活用してWebページを作成すればよいかを実際にパソコンを使って演習し、習得する。次に、Webページに適したプログラミング言語であるJavaScriptを取り上げ、その概要と機能について説明する。さらに、JavaScriptプログラムであるJQueryやGoogle Mapを使って、魅力的なWebページを作る方法も学ぶ。授業の最後には、自分でWebサイトのテーマを決め、それに従ったサイトを自作してもらう。成績はそうした演習のプロセスでもって評価する。	１　インターネットとマルチメディア：その特徴、利用方法を講義 ２　HTMLとCSSを講義 ３　HTMLとJavaScriptを講義 ４　マルチメディアの実例：インターネット電話、ビジネスにおける実例を講義・実習 ５　ホームページ作成（１）：静止画の掲載方法を講義・実習 ６　ホームページ作成（２）：ページリンクの貼り方を講義・実習 ７　ホームページ作成（３）：ページレイアウトの方法を講義・実習 ８　アニメーション作成（１）：講義と実習 ９　アニメーション作成（２）：講義と実習 １０　JavaScript（１）：講義と実習 １１　JavaScript（２）：講義と実習 １２　Webサーバへのファイル転送を講義・実習 １３　ネット上でのマルチメディア作成（１）：実習 １４　ネット上でのマルチメディア作成（２）：実習 １５　ネット上でのマルチメディア作成（３）：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『Webプログラミング　基礎からのステップアップ』、大和田・金盛著、出版社コロナ社	リポート８０％、プレゼンテーション２０％

06年度以降	マルチメディア論b	担当者	大和田　勇人

講義目的、講義概要	授業計画
マルチメディアは、現在インターネット閲覧ソフトで完全に統合されており、マルチメディアの作成は一見簡単そうに思えるが、実は対象とする情報形式によって様々なソフトウェアやハードウェアを用いていく必要がある。本授業では、インターネット上でのマルチメディアシステムがどのような構成になっており、それをどのように作成していくかを、実例を挙げて講義しながら、それらを作成するために様々なソフトウェアを用いて実習を行う。次に、そうした事例に対応して、動的なWebページを作成するための言語 PHP を利用し、具体例としてショッピングサイトを実際に取り上げ、マルチメディアシステムの構成方法を実習を通じて説明していく。その際、Webページ上での情報統合に焦点を当て、マルチメディア作品を作成していくプロセスを学ぶ。さらに、これらで作成したファイルをインターネット上に載せ、最終的にプレゼンテーションを行う。	１　PHP：その特徴、利用方法を講義 ２　PHPの基本構文を講義 ３　PHPによるデータ送受信を講義 ４　ショッピングサイトを講義 ５　ショッピングサイト作成（仕様作成） ６　ショッピングサイト作成（リンクの貼り方） ７　ショッピングサイト作成（レイアウト方法） ８　アニメーションと動的ページ（１）：講義と実習 ９　アニメーションと動的ページ（２）：講義と実習 １０　JavaScriptによるデータ管理（１）：講義と実習 １１　JavaScriptによるデータ管理（２）：講義と実習 １２　Webサーバへのファイル転送を講義・実習 １３　ネット上でのマルチメディア作成（１）：実習 １４　ネット上でのマルチメディア作成（２）：実習 １５　ネット上でのマルチメディア作成（３）：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『Webプログラミング　基礎からのステップアップ』、大和田・金盛著、出版社コロナ社	リポート８０％、プレゼンテーション２０％

06年度以降	情報検索論a	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。 【概要】情報検索論a（春学期）では，情報検索に関する基礎的な概念について解説し，情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。授業中では，情報検索についての理解を深めるために，教員による講義だけでなく，コンピュータを使った簡単な実習も行う。また，情報検索の「プロ」である図書館員に，「就職に役立つ情報検索」というテーマのもと，学内外のデータベースやその利用テクニックについて教えていただく予定である。	1　オリエンテーション；情報検索の定義；情報検索関連の資格 2　情報検索の種類，歴史 3　データベースの定義，意義，構成要素，種類，歴史 4　情報検索がうまくできないときの対処法 5　索引語；キーワードの選び方 6　シソーラス 7　前半部分のまとめ；質問受付 8　就職に役立つ情報検索 9　情報検索関連作業のプロセス（1） 10　情報検索関連作業のプロセス（2） 11　検索式（1） 12　検索式（2） 13　検索結果の評価 14　学術情報の検索 15　授業全体のまとめ；質問受付
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。

06年度以降	情報検索論b	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。 【概要】情報検索論b（秋学期）では，主にウェブ上の検索エンジン（Google等）の仕組みについて解説する。誰もが何気なく日々使用している検索エンジンであるが，どのようにウェブ上の多様で大量な情報を集め，瞬時に検索できるようにしているのだろうか。また，検索結果では，どのような情報が優先的に表示されるのだろうか。学問の上でも就職活動の上でも情報収集時に皆さんに大きな影響力を持つであろうこの検索エンジンについて，一度立ち止まってじっくり考える機会となるよう，検索エンジンの基本的な要素や動作について説明する。 　また，検索エンジンの解説の合間に，CD-ROMデータベースや商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する予定である。	1　オリエンテーション 2　CD-ROM検索（1） 3　CD-ROM検索（2） 4　学内で行える情報検索（1） 5　ウェブ上の検索エンジン(1)：インターネット／ウェブの基礎 6　ウェブ上の検索エンジン（2）：検索エンジンの種類 7　前半部分のまとめ；質問受付 8　ウェブ上の検索エンジン（3)一般的な検索エンジンの構造 9　ウェブ上の検索エンジン（4）：クロール 10　ウェブ上の検索エンジン（5）：インデックス 11　ウェブ上の検索エンジン（6）：検索結果の表示 12　情報検索という観点からのウェブサイト構築：SEO 13　学内で行える情報検索（2） 14　最新の情報検索サービス 15　授業全体のまとめ；質問受付
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。

06 年度以降	情報システム論 a	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを使ったシステムにより、我々の社会におけるさまざまな問題を解決する手法が数多く編み出されています。しかし、コンピュータの処理手順は人の思考過程と大きく異なり機械的な処理を行う必要があるため、問題の解決方法は人とコンピュータの違いを考慮して作りだす必要があります。 この講義では、最初にコンピュータ内部でのデータ処理の基礎を学びます。その上で、さまざまな問題の解決手法がどのように構築されているのかについての詳細な内容を学びます。 講義を通じて、情報を処理するシステムとしてコンピュータがどのように利用されているのかについての理解を深めることを目標とします。	1. 講義の目的と進め方、評価方法について 2. コンピュータのデータ処理 3. データ形式 1－リスト、スタック、キュー 4. データ形式 2－木、ハッシュ、マップ 5. 数式の表現と処理－ポーランド記法、逆ポーランド記法、二分木 6. つながりを表現する－グラフ、ネットワーク 7. つながりから生じる問題 1－トポロジカル・ソート 8. つながりから生じる問題 2－一筆書き、最短経路問題 9. 解決法 1－深さ優先探索 10. 解決法 2－幅優先探索 11. 解決法 3－動的計画法 12. 具体的な問題を解く 1－8 クイーン問題、15 パズル 13. 具体的な問題を解く 2－コイン問題、ナップサック問題 14. 具体的な問題を解く 3－完全情報ゲームの戦略決定 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　紀平拓男、春日伸弥著：『アルゴリズムとデータ構造』Softbank Creative	講義時間内の課題（20%）と試験（80%）の合計点で判断します

06 年度以降	情報システム論 b	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いてさまざまな問題を解決する際、あらかじめ決められた解決手順にもとづいて処理できるようにシステムを構築することが一般的です。しかし、実社会では問題の構造や性質が時間とともに変化し、解決手順を事前に決められない問題が多く存在します。 このような問題をコンピュータで解くには、時間とともに変化する情報を利用して、コンピュータ自身が問題の解決方法を作り出す必要があります。この講義では、コンピュータが自ら考え、学ぶことで問題解決を行う手法について学びます。	1. 講義の目的と進め方、評価方法について 2. 進化的計算－コンピュータ内部での進化 3. 進化的計算手法 1－遺伝的アルゴリズム 4. 進化的計算手法 2－遺伝的プログラミング 5. 進化的計算手法 3－GRAMMATICAL EVOLUTION 6. 進化的計算手法による問題解決の具体例 7. 学習問題－教師あり学習、教師なし学習 8. 教師あり学習 1－人工ニューロンの構造 9. 教師あり学習 2－人工ニューロンで学習できる問題 10. 教師あり学習 3－人工ニューロンを複数つなげる（ニューラルネットワークの概要） 11. 教師なし学習 1－自己組織化マップ 12. 教師なし学習 2－TD 学習 13. 教師なし学習 3－Q 学習 14. コンピュータを使った実習 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	講義時間内の課題（20%）と試験（80%）の合計点で判断します

06年度以降	プログラミング論a	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic 2010 でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説 2. Visual Basic 2010 の概略 3. 簡単なプログラム作成（1） 4. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）：キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1） 7. 選択のあるプログラム作成（2） 8. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックス 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：Case、While 文 12. 繰り返しのあるプログラム作成（3）：応用 13. 総合問題作成 14. 総合問題作成 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社	授業への積極的な取り組みと演習（40%）、レポート（60%）で総合的に評価する。

06年度以降	プログラミング論b	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習 2. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 3. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 4. 図形の処理（3）：Windows の画像処理 5. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップの利用 6. 音声、動画の処理：音声の録音、音声の再生 7. 配列とコントロール配列：一元配列、コントロール配列の利用 8. プルダウンメニュー：コンボボックス、プルダウンメニューの利用 9. ファイルの利用（1）：テキストファイルの読み込み 10. ファイルの利用（2）：画像ファイルの読み込み 11. ファイルの利用（3）：シーケンスファイルの作成 12. ファイルの利用（4）：シーケンスファイルの読み込みと利用 13. インターネットの利用：Visual Basic 2010 とホームページとのリンク 14. 応用（まとめ1） 15. 応用（まとめ2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社	授業への積極的な取り組みと演習（40%）、レポート（60%）で総合的に評価する。

06 年度以降	プログラミング論 a	担当者	米谷　雄介

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげる。プログラムを実際に作成することで、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行い、これらのことにより、プログラミングとはどういうものかを体得していただく。 ここでは、プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題を自分のポータルサイト（PorTa）から提出してもらう。最後に自分でテーマを決めて、簡単なアプリケーションを作成する。授業の最初では、先輩たちの作成したアプリケーションを紹介する。	1 授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義 2 Visual Basic.の概略：講義および実習 3 文字の表示：講義および実習 4 入力と簡単な計算：講義および実習 5 関数の利用：講義および実習 6 飛び越し命令：講義および実習 7 条件判断による分岐：講義および実習 8 複数判断による分岐：講義および実習 9 選択用コントロールによる分岐：講義および実習 10 回数指定による繰り返し：講義および実習 11 条件指定による繰り返し：講義および実習 12 多重ループ：講義および実習 13 オブジェクトの組み合わせ：講義および実習 14 総合問題作成１：実習 15 総合問題作成２：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010	レポート 50%、試験 50%

06 年度以降	プログラミング論 b	担当者	米谷　雄介

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファ イルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてアプリケーションの製作を行い、最終のリポートとする。	1 プログラムの分割：講義および実習 2 プログラムの構造化：講義および実習 3 配列の処理：講義および実習 4 配列の入出力：講義および実習 5 文字列の処理：講義および実習 6 文字列の演算：講義および実習 7 図形の描画：講義および実習 8 画像の拡大・縮小：講義および実習 9 画像のアニメーション：講義および実習 10 音声の処理：講義および実習 11 ファイルの処理：講義および実習 12 メニューの処理：講義および実習 13 インターネットの利用：講義および実習 14 Visual Basic とホームページ：講義および実習 15 総合問題作成：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010	レポート 50%、試験 50%

06 年度以降	プログラミング論 a	担当者	柏原　賢二

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを使って、初歩的なプログラミングの演習を行なう。それを通じて、コンピュータ上でプログラムの動く仕組みを学ぶ。言語としては、Java を用いる。 具体的には、以下のようなプログラミングの基本の構造を学ぶ。数字の扱い方、結果の出力の仕方、変数の使い方、条件分岐、繰り返し処理の方法とはなにかについて。 プレテストでは、期末試験と同様な形式で、問題を解いてもらう。	1. コンピュータプログラムとは 2. Java のコンパイルの方法 3. 変数の宣言と、結果の出力 4. キーボードからの入力 5. 乱数発生と条件分岐 6. じゃんけんをするプログラム 7. 繰り返し処理 8. 繰り返し処理の応用 9. ループの入れ子 10. ループの入れ子の応用 11. 素数判定 12. 素因数分解 13. 数あてゲーム 14. 総合演習 15. プレテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	演習課題 70%　期末試験 30%

06 年度以降	プログラミング論 b	担当者	柏原　賢二

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、Java を用いた、初歩的なプログラミングの演習をする。そして、オブジェクト指向の基本的な考え方も学ぶ。 具体的には、以下のようなプログラミングの基本の構造を学ぶ。文字の扱い方、配列変数について、メソッド呼び出しについて、オブジェクトとクラスなど。	1. 春学期の授業内容の復習 2. 変数の型について。浮動小数点型。 3. 円周率を求める。 4. 文字列の処理 5. 文字型 6. 配列の宣言 7. 配列の応用 1 8. 配列の応用 2 9. メソッド呼び出し 1 10. メソッド呼び出し 2 11. メソッド呼び出し 3 12. オブジェクトとクラス 13. クラスとコンストラクタ 14. クラスとメソッド 15. 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	演習課題 70%　期末試験 30%

06 年度以降	プログラミング論 a	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげる。プログラムを実際に作成することで、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行い、これらのことにより、プログラミングとはどういうものかを体得していただく。 ここでは、プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題を自分のポータルサイト（PorTa）から提出してもらう。最後に自分でテーマを決めて、簡単なアプリケーションを作成する。授業の最初では、先輩たちの作成したアプリケーションを紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義 2　Visual Basic.の概略：講義および実習 3　文字の表示：講義および実習 4　入力と簡単な計算：講義および実習 5　関数の利用：講義および実習 6　飛び越し命令：講義および実習 7　条件判断による分岐：講義および実習 8　複数判断による分岐：講義および実習 9　選択用コントロールによる分岐：講義および実習 10　回数指定による繰り返し：講義および実習 11　条件指定による繰り返し：講義および実習 12　多重ループ：講義および実習 13　オブジェクトの組み合わせ：講義および実習 14　総合問題作成１：実習 15　総合問題作成２：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010	レポート 50%、試験 50%

06 年度以降	プログラミング論 b	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてアプリケーションの製作を行い、最終のリポートとする。	1　プログラムの分割：講義および実習 2　プログラムの構造化：講義および実習 3　配列の処理：講義および実習 4　配列の入出力：講義および実習 5　文字列の処理：講義および実習 6　文字列の演算：講義および実習 7　図形の描画：講義および実習 8　画像の拡大・縮小：講義および実習 9　画像のアニメーション：講義および実習 10　音声の処理：講義および実習 11　ファイルの処理：講義および実習 12　メニューの処理：講義および実習 13　インターネットの利用：講義および実習 14　Visual Basic とホームページ：講義および実習 15　総合問題作成：実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010	レポート 50%、試験 50%

06年度以降	情報社会論a	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
コンピューターの登場によって、新たな情報技術が動かす経済社会はそれまで大量生産と大量消費による「ものつくり」を中心としてきた産業社会を大きく変えた。それは単に生産と流通と消費という、経済活動の効率化を意味するのではなく、社会を動かす主役が「もの」から「情報」へ変わることに伴って人と企業や社会とのかかわり、お金や知識の市場におけるはたらき、競争のありかたや国の競争力など、社会の枠組みそのものを大きく変えている。 国境を越えて人、もの、カネ、情報が瞬く間に移動することがグローバリゼーションをひときわすすめる一方、地球環境と資源や石油化学エネルギーの限界や人口減少など、経済成長の文明的な制約要因が21世紀の経済社会の大きな課題として広がっている。 そうした与件の下で、情報社会が市場と社会にもたらしている光と影を、競争システム、金融やマネーの流れ、政策や法規範などとのかかわりのなかで考える。	1　はじめに 2　「第三の波」 3　電子商取引と社会 4　ニューエコノミーの虚実 5　バブル経済と情報 6　企業の転換－組織と雇用 7　知的財産と企業経営 8　著作権と特許権－権利保護はどこまで 9　規制緩和と情報社会 10　「エンロン」破綻に見る光と影 11　情報化と国際競争力の変化 12　情報格差と社会 13　グローバリゼーションと世界金融危機 14　メディアの機能の変化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する参考資料をもとに授業をすすめる。佐和隆光『市場主義の終焉』(岩波新書)を参考文献とする。	定期試験の実績(80%)に加えて、通常の授業時間で行うリポートの実績(20%)を勘案して評価する。

06年度以降	情報社会論b	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
情報社会の進展はこれまでの社会を構成してきた制度やルール、システムや規範などの見直しを迫り、これまで人々に共有されてきた価値を転換させている。「表現の自由」など、民主主義社会の根幹をなしてきた個人の権利の拡大が、一方でプライバシーの侵害など個人の人権の侵害のリスクを拡大するなど、民主主義の下で調和的に働いてきた「公」と「私」の関係が見直され、情報空間の広がりの下でネット犯罪など社会的リスクの拡大に対応した監視機能の強化が迫られているのがその一例である。 これまでメディアなどを通して流通してきた情報は、モノに代わる希少性の高い知識としての価値が高まる一方、複製技術による情報の拡散によって限りなくその価値が無償に近づくという、相反した現実がある。また仮想通貨の流通にみるように「国家」の枠組みの下で信用が担保されてきた通貨の仕組みを情報空間が侵食し、無政府的な貨幣流通が一定の支配力をもちはじめていることも、大きな社会秩序の変容のあらわれであろう。 政府と有権者の情報の対称性を高める意味で情報化は民主主義の深化に有効と思われながら、政治の空洞化がすすむなど、そのさまざまな領域への影響を探りたい。	1　はじめに 2　電子政府と個人情報 3　「表現の自由」とプライバシー 4　ネット犯罪と社会リスク 5　情報化と社会規範の変化 6　ビットコイン－貨幣の信用とは何か 7　情報化と民主主義 8　情報の対称性と社会 9　NPOと「互酬」という価値観 10　フラット化する社会と競争原理 11　ソフトパワーが動かす社会 12　無償化する情報とメディア 13　自由の拡大と監視社会の逆説 14　社会関係資本－信頼の行方 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する参考資料で授業をすすめる。ロナルド・ドーア『働くということ』（中公新書）を参考文献とする。	定期試験の実績(80%)に加えて、通常の授業時間で行うリポートの実績(20%)を勘案して評価する。

06年度以降	情報通信ネットワークｂ	担当者	三宅　真

講義目的、講義概要	授業計画
情報通信ネットワークは，知識情報社会を支える重要な社会インフラストラクチャとして発展を続けています。携帯電話・スマートフォンは，第４世代と呼ばれるLTE-Advancedの時代を迎えています。これからも教育，医療，環境など，社会のさまざまな分野において情報通信が活用され，新しいソリューションの提供と新しい価値の創造が続いてゆくでしょう。 情報通信ネットワークの全体像と発展動向を学び，情報通信を正しく，有効に活用するための基礎知識を身に付けることが，この講義の目標です。 講義では，携帯電話・スマートフォンなどの身近な情報通信を中心に，将来の量子情報通信などにも言及しながら，情報通信の全体像をわかりやすく解説します。社会的な側面と人間的な側面にも言及しながら，情報通信のシステムとテクノロジーの基本的なことがらを述べます。加えて，情報を扱う際の課題についても情報理論の視点から考察します。他学部の学生諸君の受講も歓迎します。	１．講義のガイダンス，概論 ２．情報通信ネットワークと社会の発展 ３．情報通信信号（1）：ディジタル信号と２進数 ４．情報通信信号（2）：正弦波信号とフーリエ変換 ５．情報通信信号（3）：電波と周波数 ６．情報通信システムの実際例（1） ７．情報通信システムの実際例（2） ８．情報伝送（1）：ディジタル信号伝送 ９．情報伝送（2）：パケット通信とインターネット 10．情報理論（1）：情報と情報量 11．情報理論（2）：情報と符号 12．情報理論（3）：情報と確率 13．暗号通信 14．量子情報通信 15．講義のまとめ，試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は指定せず，講義中に資料を配布します。参考書は，野村総研『ITロードマップ2015年版』（東洋経済新報），村井 純『インターネット新世代』（岩波新書）です。	授業時間内にテストを行います。レポート（50%），テスト（25%），平常点・授業への参加度（25%）によって総合的に評価します。

06年度以降	情報通信ネットワークａ	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、コンピュータやスマートフォン、タブレット端末といった情報通信機器を使い、ネットワークを通じてデータの送受信を当たり前のように行っています。しかし、それらの機器がどのような手順にもとづきデータの受け渡しを行っているのかを詳しく知るには、通信の方法やネットワークの構造について知る必要があります。 この講義では、ネットワーク上で情報を送受信するための標準的な手順として使用されている TCP/IP とそれに関連する内容を中心に学びます。そしてコンピュータを使った実習を通じて、身につけた知識を実際に利用する方法について学びます。	1. 講義の目的と進め方、評価方法 2. ネットワーク構築に必要なものーネットワークインターフェイスカード、ケーブル、ネットワークOS 3. データ送受信の手順－TCP/IPの概要 4. TCP/IP 1－物理層 5. TCP/IP 2－データリンク層、MACアドレス 6. TCP/IP 3－ネットワーク層、IPアドレス 7. TCP/IP 4－トランスポート層、ポート 8. TCP/IP 5－アプリケーション層 9. DNSの役割と構成 10. ルータを用いた外部ネットワークとの送受信 11. ネットワーク内部と外部のアドレス変換 12. ネットワークのセキュリティー暗号化 13. ネットワークコマンドを使用した機器情報の獲得（実習） 14. P2Pとは 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	講義時間内の課題（20%）と試験（80%）の合計点で判断します。

12年度以前	コンピュータネットワーク	担当者	松田 源立

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 現代社会を支える基礎的なインフラの一つとなったコンピュータネットワーク及びインターネットについて、その機能や社会的な影響だけに留まらず、内部的な仕組みを含む幅広い知識を学習する。更に、実習を通して、コンピュータネットワークに関する基礎的なスキルを身に付ける。 講義概要： コンピュータネットワークを支える基本的な情報技術について、ハードウェアとソフトウェアにまたがる様々な側面から講義を行う。終盤では、応用例として、HTML言語の利用やネットワークの挙動調査に関する実習を行う。 前提知識： 初歩のHTML文書作成の知識があることが望ましい。	※ガイダンスには原則として必ず出席すること １．ガイダンス ２．コンピュータネットワークの基礎 ３．ネットワークモデル(OSI 参照モデル・TCP/IP) ４．物理層 ５．データリンク層 ６．ネットワーク層 ７．トランスポート層 ８．アプリケーション層（１）（DNS・メール等） ９．アプリケーション層（２）（WWW・HTML 等） １０．アプリケーション層（３）（AJAX・動的ページ等） １１．情報セキュリティと暗号 １２．ネットワークと社会 １３．ネットワーク実習（１）（HTML 作成と API の利用） １４．ネットワーク実習（２）（ネットワークの挙動調査） １５．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献: 「コンピュータネットワーク」第 5 版 A・S・タネンバウム、D・S・ウエザロール (著) 日経 BP 社	講義時の提出課題や学習態度、試験結果をもとにして総合的に評価する。詳細はガイダンスで説明する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

06年度以降	コンピュータ・アーキテクチャ	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
市販のソフトウェアを使うことが目的であれば、コンピュータの内部構造について詳しく知る必要はありません。しかし、コンピュータに何が出来るのかを正しく理解するには、ハードウェアの詳細な構造について知ることが不可欠です。 この講義では、コンピュータのおおまかな構成についてから始まり、コンピュータ内部でデータがどのように処理されるのか、コンピュータを構成する要素がどのように作られているのかという詳細な点を学びます。講義を通じて、コンピュータのハードウェアにかんする幅広い知識を身につけることを目標とします。	1. 講義の目的と進め方 2. コンピュータの構成要素－5大装置 3. コンピュータ内部での演算 4. コンピュータ内部での情報の表現－2進数、16進数 5. 演算の詳細1－2進数と算術演算 6. 演算の詳細2－論理演算 7. 演算の詳細3－シフト演算 8. 組み合わせ回路 9. 順序回路 10. 演算装置の構造 11. 記憶装置の構造 12. コンピュータの命令の種類 13. 制御装置－命令による各装置の制御方法 14. 単純なコンピュータをつくる 15. 講義内容のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	講義時間内の課題（20%）と試験（80%）の合計点で判断します

（秋） （秋）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	情報と職業 情報と職業 a	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、高校「情報」教員免許取得のための必修科目である。インターネットをはじめとする情報技術が、社会に与えた影響はどのようなものなのか。その情報社会で、情報に関わる職業および職業倫理がどのようなものなのか。情報社会の現状と歴史的意義を解説した上で、議論を進めていく。 Web2.0 ともいわれる情報社会の新しい意義を理解するには、ある程度ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的な側面にも立ち入って議論する必要がある。また、インターネットの普及にともなって、情報倫理や知的財産権をめぐる制度や法についても新しい解釈が迫られている。 こうした技術的知識や制度的な議論をいとわない学生の参加を望む。参加者は、授業中に情報に関するテーマでのプレゼンテーションが課せられる。	１．　序論：情報と職業について ２．　インターネットの歴史と仕組み ３．　インターネットの分権制と公開性 ４．　IT 革命と企業組織 ５．　国境を越える IT 空間 ６．　クラウド・コンピューティング ７．　Web2.0 ８．　知的財産権をめぐって ９．　知的財産権：ケーススタディ １０．　知的財産権：パブリック・ドメイン １１．　情報化社会の諸問題１　デジタル・デバイド １２．　情報化社会の諸問題２　情報倫理 １３．　プレゼンテーション １４．　プレゼンテーション １５．　プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤勲『情報と職業』丸善 遠藤誉『中国動漫新人類』日経 BP 中山信宏『著作権法』有斐閣 クリス･アンダーソン『Makers21 世紀の産業革命が始まる』NHK 出版など	授業参加（授業への参加度＋プレゼンテーション）およびレポート

06年度以降	アルゴリズム論a	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
アルゴリズムとは、狭い意味ではコンピュータを用いた問題解決のための処理方法のことであり、プログラミングを行う上での前段階のものである。コンピュータによる処理は、必ずしも人間の思考による処理のプロセスとは同一ではなく、コンピュータ特有のものであることが多い。ここでは、比較的処理方法が確立されているコンピュータ科学の基礎をなす決定的アルゴリズムについて学ぶ。 春学期aでは「問題解決とは何か」の考え方から、結果が予測できる問題について、アルゴリズムの視覚化、図示化を行いつつその方法を理解する。基本的アルゴリズムは、大きな問題を扱う上での要素的手法であり、多くの分野に適用できる。授業では余裕があれば一部PCの実習も取り入れ、テーマごとにExcelやJavaScriptの基本的操作程度でアルゴリズムを実現する。	1. コンピュータとアルゴリズムの役割 2. インターネットとアルゴリズム 3. 論理表現とアルゴリズム 4. グラフ表現とアルゴリズム 5. データ構造とアルゴリズム 6. 探索のアルゴリズム 7. 文字列の探索 8. 整列のアルゴリズム（1）バブルソート等 9. 整列のアルゴリズム（2）クイックソート等 10. アルゴリズムと計算量 11. ハッシュ法のアルゴリズム 12. 木構造と索引付け 13. ダイクストラ・アルゴリズム 14. ネットワークとソーシャルグラフ 15. 決定論的アルゴリズムのまとめと補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時にWeb資料などを提示する。	試験または前半・後半レポート60%、およびポータルサイトなどによる各回演習への参加度40%で評価する。

06年度以降	アルゴリズム論b	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
春学期aでは狭い意味での決定的アルゴリズムを扱ったが、秋学期bではやや広い意味での問題解決へのアプローチとして非決定的アルゴリズムを中心に採り上げる。 コンピュータの処理による解決が困難な問題に対しては、処理を適用する以前に問題に対する正しい分析や深い洞察が必要である。こうした例としてゲームの必勝法や現象の将来予測などを採り上げるが、それぞれのルールや条件を深く分析する必要がある。そして困難となる要因とアルゴリズムの関係を明らかにする。問題解決へのアプローチには、分析的手法に加えて、コンピュータ特有の発見法的手法やシミュレーションの方法などが加わる。困難な問題に対して、これらは近似的な方法であるものの、十分に実用的価値を持つことを理解する。また例として経済・経営分野に関連したアルゴリズムの例題を取りあげる。春学期同様に実習も取り入れ、テーマごとにExcelやJavaScriptでアルゴリズムを実現する。	1. 決定的アルゴリズムと非決定的アルゴリズム 2. ゲームにおけるアルゴリズム 3. 最適配置問題と枝刈り探索 4. 囚人のジレンマとゲームの理論 5. 乱数とモンテカルロ法 6. 株価変動の問題とシミュレーション 7. 在庫管理の問題とシミュレーション 8. 待ち行列の問題とシミュレーション 9. ナップザック問題 10. 巡回セールスマン問題 11. .困難な問題とNP完全問題 12. .遺伝的アルゴリズム 13. .現代暗号の問題 14. .複雑な問題とアルゴリズム 15. .非決定論的アルゴリズムのまとめと補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時にWeb資料などを提示する。	試験または前半・後半レポート60%、およびポータルサイトなどによる各回演習への参加度40%で評価する。

06年度以降	オペレーションズ・リサーチa	担当者	白井　裕

義目的、講義概要	授業計画
オペレーションズ・リサーチ(OR)は，計画や管理の数理的側面に焦点をあて，社会や企業の活動の中に内在する法則性を知り，これを意思決定の一助とするものである． 本講義では確率的モデルを中心にして，前半で確率モデルを学ぶための基礎的事項，後半で確率的モデルについて理解を深めることを目的とする． 前半の確率モデルに関する基礎的事項としては，平均や分散などの基本的統計量の計算からはじめ，ヒストグラムの作成，条件付き確率，確率変数，確率変数の期待値と分散そして基本的な確率分布について学習する． 後半では，ORの確率モデルで重要なマルコフ連鎖，シミュレーション，待ち行列理論について学習する． 本講義を受講するものは，高校数学Ⅰ，Ⅱ，A，B等を履修していることが望ましい．	1.　ガイダンス 2.　データの整理 3.　確率と確率変数 4.　確率と確率変数 5.　期待値と分散 6.　確率分布 7.　確率分布 8.　行列の基礎 9.　マルコフ連鎖 10.　マルコフ連鎖 11.　マルコフ連鎖 12.　シミュレーション 13.　待ち行列理論 14.　待ち行列理論 15.　確率モデル全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 森雅夫他，『オペレーションズ・リサーチⅡ』，朝倉書店	期末試験の結果(80%)を主な評価要素とするが，平常授業における課題などの実績(20%)も評価対象とする．

06年度以降	オペレーションズ・リサーチb	担当者	白井　裕

講義目的、講義概要	授業計画
オペレーションズ・リサーチ(OR)は，計画や管理の数理的側面に焦点をあて，社会や企業の活動の中に内在する法則性を知り，これを意思決定の一助とするものである． 本講義では確定的モデルを中心にして，数理計画法およびその応用としての実務的問題に対する解法について理解を深めることを目的とする． 数理計画法に関しては，線形計画問題による定式化やExcelを用いた解法などについて学習する．また，その応用に関しては，実務的に重要な具体的な問題を取り上げ，社会におけるオペレーションズ・リサーチの果たす役割について学習する． 本講義を受講するものは，高校数学Ⅰ，Ⅱ，A，B 等を履修していることが望ましい．	1.　ガイダンス 2.　線形計画法 3.　線形計画法 4.　線形計画法 5.　線形計画法 6.　ネットワーク問題（最短経路問題） 7.　輸送問題 8.　在庫管理 9.　割当問題 10.　日程計画 11.　スケジューリング問題 12.　スケジューリング問題 13.　階層分析法(AHP) 14.　階層分析法(AHP) 15.　確定モデル全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 森雅夫他，『オペレーションズ・リサーチⅠ』，朝倉書店	期末試験の結果(80%)を主な評価要素とするが，平常授業における課題などの実績(20%)も評価対象とする．

13 年度以降 12 年度以前	システムズ・エンジニアリング a システムズエンジニアリング a	担当者	広瀬　啓雄

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済や社会において、企業機密の漏洩や温暖化あるいは非正規雇用労働者の増加や成果主義への移行など、さまざまな現象が現れている。このような現象の本質を把握するためには、現象をひとつの問題として認識し、その本質を明らかにし問題解決へ導くことは大変重要なことであり、企業からも求められている今日の重要な課題の一つでもある。このような問題を解決するためのひとつのアプローチとしてシステム論的なアプローチとそれを支援する方法論がある。 本講義では、問題（現象）の本質を把握するための認識プロセスと、特に、今日企業で活発に活用されている具体的なシステム方法論を学習し、それを実際問題に展開できるようわかりやすく解説する。 尚、理論を実証する意味で、実際問題をJavaプログラミングで解く演習を行い、その報告書を作成する。Javaプログラミングに関しては，基礎から学習するので本講義を受講するための前提となる必修科目はない。	1 オリエンテーション：受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2 ニューデルファイ法(1) 3 ニューデルファイ法(2) 4 Java での実装(1) 5 Java での実装(2) 6 移動平均と予測 7 Java での実装 8 グラフ理論によるシステムモデリング 9 システムモデリングの実際問題への適用 10 システムモデリング演習(1)　Java 11 システムモデリング演習（2）　Java 12 システムモデリング演習（3）　Java 13 システムモデリング演習（4）　Java 14 システムモデリング演習（5）　Java 15 まとめ 授業の総括と理解度の確認
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫・崔冬梅著『経営システム的考え方』創成社、（2009 年）購入は任意	事例演習およびそのレポート（30%）、ならびに期末試験の結果(70%)を考慮して成績評価する。

13 年度以降 12 年度以前	システムズ・エンジニアリング b システムズエンジニアリング b	担当者	広瀬　啓雄

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済や社会において、企業機密の漏洩や温暖化あるいは非正規雇用労働者の増加や成果主義への移行など、さまざまな現象が現れている。このような現象の本質を把握するためには、現象をひとつの問題として認識し、その本質を明らかにし問題解決へ導くことは大変重要なことであり、企業からも求められている今日の重要な課題の一つでもある。 このような問題を解決するためのひとつのアプローチとしてシステム論的なアプローチとそれを支援する方法論がある。 本講義では、問題（現象）の本質を把握するための認識プロセスと、特に、今日企業で活発に活用されている具体的なシステム方法論を学習し、それを実際問題に展開できるようわかりやすく解説する。 尚、理論を実証する意味で、PHP&MySQL により解決策を導く演習を行い、その報告書を作成する。PHP&MySQL による Web プログラミングに関しては，基礎から学習するので本講義を受講するための前提となる必修科目はない。	1 システムと科学的アプローチ システムズエンジニアリング体系と方法論 2 システムの評価と意思決定―効用理論 3 機能分析と価値評価 4 価値評価のための具体的なアプローチ 5 実際問題による価値と評価演習 6 全社的品質管理 7 PHP&M y SQL で実装(1) 8 PHP&M y SQL で実装(2) 9 PHP&M y SQL で実装(3) 10 PHP&M y SQL で実装(4) 11 PHP&M y SQL で実装(5) 12 PHP&M y SQL で実装(6) 13 PHP&M y SQL で実装(7) 14 PHP&M y SQL で実装(8) 15 まとめ 授業の総括と理解度の確認
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫・崔冬梅著『経営システム的考え方』創成社、（2009 年）購入は任意	事例演習およびそのレポート（30%）、ならびに期末試験の結果(70%)を考慮して成績評価する。

13 年度以降 12 年度以前	経営意思決定論 a 経営システム工学 a	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
経営では様々な局面で意思決定が求められます。このとき、考えるべき問題を定量化・モデル化し、数理的な手法を用いて科学的に意思決定を行う経営科学アプローチの適用が効果的である場合が少なくありません。 講義では、経営科学や経営工学の分野で研究されてきた在庫管理手法、ABC分析、シミュレーション、待ち行列、線形計画法、動的計画法、経済性工学、組み合わせ最適化などの手法を紹介します。また、実際に例題を解いてみて、習得することを目指しています。 また、意思決定とは単に意志を強く持って決断することではなく、目的を見極め、目標を設定し、現状の分析をし、代替案の探索を行い、評価を経て最適な案を解決策として選択するプロセスを理解してもらいたいと考えます。そして、そのためのモデル化や手法を把握することが、この講義の目指すところでもあります。	1. ガイダンスと序論 2. 意思決定と経営科学アプローチ 3. 問題解決とモデル化 4. ABC 分析とパレート図 5. 確率を考慮した意思決定（1） 6. 確率を考慮した意思決定（2） 7. 静的な意思決定（1） 8. 静的な意思決定（2） 9. 静的な意思決定（3） 10. 動的な意思決定 11. 経済性を考慮した意思決定（1） 12. 経済性を考慮した意思決定（2） 13. 経済性を考慮した意思決定（3） 14. 組み合わせを考慮した意思決定 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業資料を講義支援システムから配布します。 参考文献：日下泰夫『経営意思決定－価値創造への経営工学アプローチ－』中央経済社，2009 年	期末試験を中心（約 70%）に、授業への参加状況などを加味（約 30%）して評価します。

13 年度以降 12 年度以前	経営意思決定論 b 経営システム工学 b	担当者	鈴木　淳

講義目的、講義概要	授業計画
経営では様々な局面で意思決定が求められます。多くの場合は定量的に問題を表現してモデルを用いて考えることもできますが、春学期に取り上げた経営科学的なアプローチは適用可能ではない場合もあります。そのような場合に、システム的なアプローチをとることで最適性の保証はないものの効果的に意思決定を支援できることがあります。 この講義では、階層分析法、包絡分析法などの手法を紹介し、例題を解くことで理解を深め、習得を目指します。 意思決定をサブシステムとしてもつ問題解決プロセスに着目し、目的と目標、代替案の探索、評価など、意思決定で重要な要素について学びます。 情報技術を利用したエキスパートシステムや意思決定支援システム(DSS)を紹介し、これらの有効性や限界を考えます。 個人や集団の行動における人的な側面を考慮した意思決定の考え方を紹介し、バイアスやヒューリスティクスについて概念を学びます。 最後に、組織と意思決定についてイノベーション的な側面から論じ、イノベーションを起こすための組織と意思決定のあり方について検討します。	1. ガイダンスと序論 2. 多基準評価による意思決定（1） 3. 多基準評価による意思決定（2） 4. 多基準評価による意思決定（3） 5. 多基準評価による意思決定（4） 6. 経営意思決定と問題解決プロセス（1） 7. 経営意思決定と問題解決プロセス（2） 8. 経営意思決定と情報システム（1） 9. 経営意思決定と情報システム（2） 10. 人的な面を考慮した意思決定（1） 11. 人的な面を考慮した意思決定（2） 12. 人的な面を考慮した意思決定（3） 13. イノベーティブな組織と意思決定（1） 14. イノベーティブな組織と意思決定（2） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業資料を講義支援システムから配布します。 参考文献は講義の際に随時紹介します。	期末試験を中心（約 70%）に、授業への参加状況などを加味（約 30%）して評価します。

06年度以降	法学a	担当者	大川　俊

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の「【経】法学a」、「【免】法律学概説Ⅰ」では、法律を大きく二つに分類した場合の公法と私法のうち、後者に焦点を当てます。私法とは、自由・対等な私人間（個人間だけでなく、企業間、あるいは企業と個人間も含まれる）の法律関係を規律する法の総称です。本講はこれらの背後に存する基本的な考え方を理解することを目的とします。 買い物をすれば、取り立てて意識しなくとも、そこでは売買契約が成立するといったように、我々が日常生活を送る上では様々な形で法律が関わってきます。本講では、身の回りの法律関係から、現代の経済社会で主要な役割を果 たす企業を取り巻く法律関係などについて具体的事例を織り交ぜながら解説します。	1. ガイダンス 2. 日常生活と契約(1) 3. 日常生活と契約(2) 4. 日常生活とアクシデント(1) 5. 日常生活とアクシデント(2) 6. 雇用社会のルール(1) 7. 雇用社会のルール(2) 8. 家族関係(1) 9. 家族関係(2) 10. 企業と法(1) 11. 企業と法(2) 12. 企業と法(3) 13. 消費者の保護(1) 14. 消費者の保護(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして、池田真朗ほか著『法の世界へ〔第 5 版〕』(有斐閣、2012 年)を指定します。小型の『六法』も適宜参照しますので、持参してください。	学期末の筆記試験（100%）により評価します。

06年度以降	法学b	担当者	木藤　茂

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の「【経】法学ｂ」、「【免】法律学概説Ⅱ」では、春学期の「【経】法学 a」、「【免】法律学概説Ⅰ」の理解を前提として、以下のような大きく２つの目的を意識しつつ、日本における法と法学について、いくつかの角度から様々な素材をもとに概観を行います。 第１に、日本における法ないし法律をめぐる基本的な事柄・論点等の理解を通して、法学ないし法学を学ぶ意味、あるいは「論理的思考力」「法的思考力」「リーガルマインド」といった言葉の意味を、法学部生ではないみなさんにこそこの機会に実感してもらいたいと思います。 第２に、春学期では「私法」の分野の内容が主に取り上げられてきたことを前提に、秋学期では「公法」の分野におけるいくつかの重要な法制度や法的論点について基礎的な知識・理解を得ることを、内容面での課題とします。 なお、特に第１の点にも関係しますが、この講義では、単なる知識の丸暗記ではなく自らの頭で理解しそれを基に適切な概念を用いて自らの言葉で表現するという、高校までとは違った“大学での学問”というものを意識し実践してもらうことにも重点を置きますので、こうした趣旨を十分に認識した上で講義に臨んでください。 この講義を通じて、法学という学問あるいは法学部生の日々の勉強の一端を垣間見ていただければと思います。	１．ガイダンス ２．日本における法と法学（１） ３．日本における法と法学（２） ４．日本における法と法学（３） ５．日本における法と法学（４） ６．日本における法と法学（５） ７．行政活動と法（１） ８．行政活動と法（２） ９．行政活動と法（３） １０．行政活動と法（４） １１．行政活動と法（５） １２．行政活動と法（６） １３．行政活動と法（７） １４．行政活動と法（８） １５．まとめ ※　講義は、基本的には、教員が作成するレジュメの流れに沿って行います。 レジュメは、「獨協大学ポータルサイト」から各自で予めダウンロード・印刷して教室に持参してもらいますが、詳細はガイダンスで説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は使用しません。他方で、数多くの具体的な法令の条文を随時参照しますが、その準備は各自で行ってもらいます。詳細はガイダンスで説明します。	学期末の筆記試験（100%）により評価します。 ただし、受講人数によっては、学期末試験を受験するための“要件”としてのレポートを課すことも考えています。

06 年度以降	政治学総論 a	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。 以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。 春学期は、民主政治の歴史、国民国家と福祉国家、議院内閣制、選挙、政党、議会の制度と政治過程を講義する。	1. 古代の民主政治 2. 近代の民主政治 3. 自由主義と民主政治 4. 国民国家と民主政治 5. 民主政治への挑戦 6. 民主政治の再定義 7. 福祉国家の成立とその構造 8. 福祉国家をめぐる論争 9. 議院内閣制と大統領制 10. 日本の議院内閣制 11. 多数決型民主政治と合意形成型民主政治 12. 選挙制度と投票行動 13. 日本の選挙 14. 議会 15. 政党と政党制
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：川出良枝・谷口将起(編)『政治学』東京大学出版会, 2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5 参考文献：『現代政治学小事典』（新版）有斐閣, 1999 年	学期末試験による

06 年度以降	政治学総論 b	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。 以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。 秋学期は、政策過程と官僚制、世論とマスメディア、地方自治、グローバル化、政治参加を講義する。	１．戦後日本の政党政治 ２．政策過程 ３．官僚 ４．利益集団 ５．世論形成とマスメディア ６．政治とメディアをめぐる諸問題 ７．地方自治の制度 ８．地方政治の動向 ９．主権国家体制 10. 国際秩序構想の諸相 11. グローバル・イシュー 12. 政治参加の理論 13. アイデンティティと承認をめぐる政治 14. ジェンダーと政治 15. 討議による民主政治の重層化
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：川出良枝・谷口将起編『政治学』東京大学出版会, 2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5 ISBN: 978-4-13—32219-5 参考文献：『現代政治学小事典』（新版）有斐閣, 1999 年	学期末試験による

06年度以降	民法a	担当者	納屋　雅城

講義目的、講義概要	授業計画
民法は、不動産の購入と住宅ローン、借金の連帯保証、マンションの貸し借り、ケガをさせられたときの損害賠償、結婚や相続など、私たちの日常生活に直接に関係してくる身近な法律である。 この授業では、民法を初めて勉強する人たちに、民法の導入部分ともいえる民法典の「第一編　総則」と「第二編　物権」を中心として、民法の全体像を理解してもらうことを目的としている。具体的には、「法律行為の主体」、「法律行為の客体」、そして「法律行為とは何か」という 3 つの大きなテーマに分けて授業を進めていく。 ［注意］ 授業に出席する際には、教科書と2015年版の六法（民法が載っていれば、種類や出版社は問わない）を必ず持参すること。	1. ガイダンス 2. 民法の全体像 3. 自然人の権利能力 4. 失踪宣告 5. 制限行為能力者① 6. 制限行為能力者②、法人 7. 物・所有権 8. 所有権の取得、共同所有 9. 所有権の効力 10. 法律行為 11. 契約の成立、意思表示 12. 虚偽表示、心裡留保 13. 錯誤、詐欺・強迫 14. 無効、取消しほか 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫『民法 総則・物権 第5版（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2012 年）。なお、講義開始日までに改訂版が出版されたときは、改訂版を使用する。	定期試験（100%）によって評価する。

06年度以降	民法b	担当者	納屋　雅城

講義目的、講義概要	授業計画
民法は、不動産の購入と住宅ローン、借金の連帯保証、マンションの貸し借り、ケガをさせられたときの損害賠償、結婚や相続など、私たちの日常生活に直接に関係してくる身近な法律である。 この授業では、民法典の「第一編　総則」の中の「代理（民法 99 条～118 条）」と「時効（民法 144 条～174 条の 2）」、そして「第二編　物権」の中の「物権変動」という 3 つの大きなテーマについて、関連する条文・判例（裁判所の立場）・学説を取り上げて説明をしていく。 ［注意］ 履修登録にあたっては、講義内容を正確に理解するために、（単に「授業に出ていた」というのではなく）「民法入門」の単位を取得済みであることを強く推奨する。 なお授業に出席する際には、教科書と 2015 年版の六法（民法が載っていれば、種類や出版社は問わない）を必ず持参すること。	1. ガイダンス 2. 代理① 3. 代理② 4. 無権代理 5. 表見代理 6. 時効① 7. 時効② 8. 取得時効 9. 消滅時効 10. 物権変動 11. 不動産の物権変動① 12. 不動産の物権変動② 13. 不動産の物権変動③ 14. 動産の物権変動 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫『民法 総則・物権 第5版（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2012 年）。なお、講義開始日までに改訂版が出版されたときは、改訂版を使用する。	定期試験（100%）によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	会社法 a 商法 a	担当者	大川　俊

講義目的、講義概要	授業計画
会社法は、会社の設立、組織、運営及び管理について規整し、企業社会において生じる諸問題に対して法的な解決手段を提供する法律です。 春学期の「会社法 a」では、会社の概念や種類、株式会社の基本的特質等を確認した上で、設立、株式、資金調達に関する諸問題を解説します。 本講義を通じて、会社法が企業社会において果たす役割をイメージし、株式会社制度が受講生の皆さんにとって身近なものとなることを期待します。	1. 会社と基本的意義(1) 2. 会社と基本的意義(2) 3. 株式会社の基本的特質(1) 4. 株式会社の基本的特質(2) 5. 会社設立手続と法的手続の要求(1) 6. 会社設立手続と法的手続の要求(2) 7. 株式の概念とシステム(1) 8. 株式の概念とシステム(2) 9. 株式の概念とシステム(3) 10. 株式の概念とシステム(4) 11. 株式の概念とシステム(5) 12. 株式の概念とシステム(6) 13. 会社の資金調達(1) 14. 会社の資金調達(2) 15. 会社の資金調達(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書として、西脇敏男監修・永田均編著『会社法講義』(八千代出版、2014 年)を指定します。また、適宜補足のレジュメを配布します。その他の参考書は講義中に紹介します。	学期末の筆記試験(100%)により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	会社法 b 商法 b	担当者	大川　俊

講義目的、講義概要	授業計画
会社法は、会社の設立、組織、運営及び管理について規整し、企業社会において生じる諸問題に対して法的な解決手段を提供する法律です。 秋学期の「会社法 b」では、「会社法 a」で解説した内容を前提に、機関、組織再編、計算に関する諸問題を解説します。 本講義を通じて、会社法が企業社会において果たす役割をイメージし、株式会社制度が受講生の皆さんにとって身近なものとなることを期待します。	1. 会社機関の選択と運営システム(1) 2. 会社機関の選択と運営システム(2) 3. 会社機関の選択と運営システム(3) 4. 株主総会の運営をめぐる訴訟(1) 5. 株主総会の運営をめぐる訴訟(2) 6. 会社機関の意思決定・監督(1) 7. 会社機関の意思決定・監督(2) 8. 会社機関の意思決定・監督(3) 9. 会社機関の意思決定・監督(4) 10. 会社機関の意思決定・監督(5) 11. 会社機関の構成員 12. 企業会計と会計帳簿(1) 13. 企業会計と会計帳簿(2) 14. 企業組織再編(1) 15. 企業組織再編(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書として、西脇敏男監修・永田均編著『会社法講義』(八千代出版、2014 年)を指定します。また、適宜補足のレジュメを配布します。その他の参考書は講義中に紹介します。	学期末の筆記試験(100%)により評価します。

06年度以降	著作権法a	担当者	張　睿暎

講義目的、講義概要	授業計画
今どき、著作権という言葉を知らない人はもはや少ない。しかし、著作権を正しく知るには、著作権法を読み、立法意図や条文の解釈をしなければならない。この講義は、著作権法を学びたい初学者のための入門講義であり、著作権に興味のある、あらゆる学生を歓迎する。 講義では教科書に沿って著作権法の体系と内容を理解し、裁判例を数多く見ながら著作権法の解釈と適用を理解していく。また、関連画像・音楽やウェブサイトなど、視聴覚情報も紹介しながら講義を進める。 毎回の講義には教科書と著作権法条文を持参し、あらかじめ予習してきてほしい。初回の授業ガイダンスには講義の詳細な進め方に関する告知等があるので、必ず出席すること。	1　授業のガイダンス 2　知的財産権と著作権、著作権法の体系 3　著作物１ 4　著作物２ 5　著作者と著作権者：共同著作、職務著作 6　著作者の権利１：著作者人格権 7　著作者の権利２：著作権（著作財産権） 8　著作権の制限１：例外規定 9　著作権の制限２：例外規定、保護期間 10 著作物の利用：利用許諾、出版権、譲渡、担保設定 11 著作隣接権 12 権利侵害、みなし侵害 13 権利侵害に対する救済：権利救済制度 14 著作権の登録制度、著作物の利用に関する集中処理・裁定制度 15 総括：質問への回答と復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：伊藤塾『知的財産法（第４版）』（弘文堂・2012年）、参考書： 中山他編『著作権判例百選 第 4 版』（有斐閣・2009年）	定期試験の結果（80%）および授業への参加度（20%）を合わせて評価する。

06年度以降	著作権法b	担当者	張　睿暎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、著作物の種類や利用局面ごとに、著作権とその隣接分野で実際に起こった紛争や新たに台頭してきた問題、法改正に向けてなされている議論等を詳しく解説する。法学部の講義として、著作権法の基礎知識のある学生に向けておこなうため、前期の「【法】法律学特講（初めての著作権法）」、「【経】著作権法 a」を履修していることが前提となる。先修科目を履修せずに受講したい場合には、あらかじめ担当教員に相談すること。 講義では教科書と併用して、裁判例、論文、報告書、関連画像・音楽やウェブサイトなども数多く紹介しながら進める。毎回、次週の予習のための文献が指定され、講義はそれを読んできたことを前提におこなわれる。 毎回の講義には教科書と著作権法条文を持参し、あらかじめ予習してきてほしい。初回の授業ガイダンスには講義の詳細な進め方に関する告知等があるので、必ず出席すること。	1　授業のガイダンス 2　出版 3　音楽と放送 4　キャラクター／漫画 5　デザイン／応用美術 6　映画：映画の著作物の特例、映画の著作権の帰属 7　ゲームソフト 8　インターネット１ 9　インターネット２ 10 インターネット３ 11 パロディ問題 12 フェアユース導入の議論 13 肖像権・パブリシティ権、いわゆる疑似著作権 14 著作権をめぐる時事問題 15 総括：質問への回答と復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：島並良＝上野達弘＝横山久芳『著作権法入門』（有斐閣・2009年）、参考書： 中山他編『著作権判例百選 第 4 版』（有斐閣・2009年）	定期試験の結果（80%）および授業への参加度（20%）を合わせて評価する。

06 年度以降	総合講座 a	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
学外から著名な方々を招き、講義をしていただきます。 総合講座の性質上、社会経済文化など広範なテーマが取り上げられます。それぞれの分野の研究者・専門家・実務家の豊富な経験に基づく知見や最新情報のエッセンスをうかがえる貴重な機会です。 学外からの講師をお招きするので、時間厳守で出席のこと。講義中の私語は厳禁。受講態度の悪いものは退室を命ずることがあります。	第 1 回講義で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献が指示されることがあります。	授業中の態度およびレポートにもとづき総合的に判断します。詳細は第 1 回授業で説明します。

06 年度以降	総合講座 b	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
学外から著名な方々を招き、講義をしていただきます。 総合講座の性質上、社会経済文化など広範なテーマが取り上げられます。それぞれの分野の研究者・専門家・実務家の豊富な経験に基づく知見や最新情報のエッセンスをうかがえる貴重な機会です。 学外からの講師をお招きするので、時間厳守で出席のこと。講義中の私語は厳禁。受講態度の悪いものは退室を命ずることがあります。	第 1 回講義で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献が指示されることがあります。	授業中の態度およびレポートにもとづき総合的に判断します。詳細は第 1 回授業で説明します。

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

06 年度以降	特殊講義 b（資本市場の役割と証券投資）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、毎回「野村證券グループ」の講師陣がリレー方式により、今日の資本市場に求められる役割と証券投資に関する基礎的な事項や考え方について、理論と実務の両面からわかりやすく解説する。証券･金融業界の第一線で活躍する「プロ」の生の声を聞けることは、単なる金融リテラシーの習得にとどまらず、今後の社会人としてのキャリア形成に向けて、自らの職業意識を醸成するうえでもきわめて有用な機会であると考える。	未定

テキスト、参考文献	評価方法
本講義での資料は、毎回受講者自身の手により事前にダウンロード・印刷のうえ持参すること。ダウンロード方法は初回の講義で説明する。	定期試験により評価する。

06年度以降	特殊講義a（宇宙・深海への旅と生物多様性）	担当者	山根　一眞

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的： 　私は潜水艇「しんかい2000」「しんかい6500」で深海底に潜航「驚くべきもの＝地球生命誕生時の世界」を見ました。また、小惑星探査機「はやぶさ」「やはぶさ2」の取材を続けてきましたが、それらの目的は生命起源の探査です。米国の火星探査機「キュリオシティ」の目的も、アンデス山脈の海抜5000mに完成した史上最大の望遠鏡「アルマ」の目的も同じ。生物多様性の重要性が語られるようになった今、深海や宇宙探査の最新成果もふまえながら、生命起源と生物多様性の意味を解説。「はやぶさ2」や金星探査機「あかつき」、月面ローバー「HAKUTO」などの最新取材成果も随時報告します。 授業概要： 　授業では、アマゾン、深海、宇宙取材による成果、また自然界で観察、あるいは飼育・繁殖をしてきた生物の驚くべき生態を、ムービーや写真記録で報告。さらに生きたままの生物も教室に持参し、「実感」をもって生物多様性を学ぶことを目指します。	授業計画： （以下の内容を含める予定ですが最新の取材調査成果を随時、報告、解説します） 【宇宙史】 　宇宙138億年の歴史と「はやぶさ」「はやぶさ2」 【巨大望遠鏡と最先端天文学】 　巨大望遠鏡ALMAが観測した「地球型惑星誕生」 【東日本大震災】 　約50回の被災地取材で知った動き続ける「地球」 【深海探査】 　「しんかい6500」や深海掘削船「ちきゅう」報告 【地球生命の起源】 　NASAが地球生命起源を火星に探る理由 【身近な生物世界】 　200匹のナガコガネグモや吸血ヒルの観察成果 【大蛇の噂の真偽】 　私がアマゾン奥地に探した超巨大ヘビの教訓 【絶滅種・危惧危惧種】 　ニホンオオカミやイリオモテヤマネコのすべて
テキスト、参考文献	**評価方法**
『小惑星探査機はやぶさの大冒険』（山根一眞著・講談社、+α文庫）、『小惑星探査機はやぶさ2の大挑戦』（山根一眞著・講談社・ブルーバックス）、『文庫版・メタルカラーの時代6 ロケットと深海の挑戦者』（山根一眞著・小学館）	レポート

06年度以降	特殊講義b（宇宙・深海への旅と生物多様性）	担当者	山根　一眞

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的： 春学期に準じます。 授業概要： 春学期に準じます。	授業計画： 授業には、最新の取材成果を取り入れているため、 新しいテーマが随時、追加されます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じます。	春学期に準じます。

06 年度以降	特殊講義 a （金融資産運用論）	担当者	山崎　元

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、金融資産の運用について、理論・実際両面の基礎知識と考え方を伝えることを目的とする。 現在、世間的にもアカデミックにも個人の資産運用に関しては、十分な理論的基礎と実際に応用可能な方法とが組み合わせられた方法論が存在しない。残念ながら誤りを含む内容が「投資教育」と称して金融機関などを通じて一般に広まっているのが実態だ。そこで、「正しくて体系的な個人の資産運用の手法と知識」の内容を確立し、伝達することを、本講義の大きな目的としたい。 講義では、受講者が個人として資産運用を理解し、具体的方法論を身に着けられるような内容を柱としつつ、関連する投資の理論や運用ビジネスの現実についてもお伝えしていきたい。 投資に関する理論的な研究は、モダンポートフォリオ理論や金融工学を経て、近年は行動経済学の影響も受けて、現在、流動的で、知的にも非常に面白い局面を迎えている。学生が金融市場をめぐるファイナンス（金融論）の研究に興味を持つようなガイダンスも行いたい。 個人のお金の運用に関心のある方、金融機関への就職を考える方、金融論の一分野としての投資理論に興味のある方などのご参加を期待する。	1. ガイダンス（「金融資産運用論」の概要） 2. 主な金融商品の紹介Ⅰ.（預金・債券） 3. 主な金融商品の紹介Ⅱ.（株式投資） 4. 主な金融商品の紹介Ⅲ.（外国為替、FX） 5. 主な金融商品の紹介Ⅳ.（投資信託・保険） 6. 運用における合理性と「投資と投機」の区別 7. 異時点間の価値比較（割引現在価値、利回り） 8. 「リスク」の意味と扱い方 9. 資産配分（アセットアロケーション）の作成方法 10. 個人の資産運用プロセスと方法（簡便法） 11. モダンポートフォリオ理論の理論構造 12. 「市場の効率性」とアクティブ運用・パッシブ運用 13. 行動ファイナンスの概要と思想 14. ビジネスとしての資産運用 15. まとめ（個人の資産運用再説）及び試験ガイダンス （注 1.　前半で個人の運用入門をカバーしたい 注 2．講義の内容、順番は入れ替えがあり得る）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として『お金の教室』（拙著、NHK 出版）。「全面改定　超簡単お金の運用術」（拙著、朝日新書）、「ウォール街のランダムウォーカー」（バートン・マルキール、日経）	期末試験の結果（100%）による評価を原則とするが、事情によって試験にかえてレポートで評価する場合がある。評価は柔軟に行う。

06 年度以降	特殊講義 a （金融資産運用論）	担当者	山崎　元

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、金融資産の運用について、理論・実際両面の基礎知識と考え方を伝えることを目的とする。 現在、世間的にもアカデミックにも個人の資産運用に関しては、十分な理論的基礎と実際に応用可能な方法とが組み合わせられた方法論が存在しない。残念ながら誤りを含む内容が「投資教育」と称して金融機関などを通じて一般に広まっているのが実態だ。そこで、「正しくて体系的な個人の資産運用の手法と知識」の内容を確立し、伝達することを、本講義の大きな目的としたい。 講義では、受講者が個人として資産運用を理解し、具体的方法論を身に着けられるような内容を柱としつつ、関連する投資の理論や運用ビジネスの現実についてもお伝えしていきたい。 投資に関する理論的な研究は、モダンポートフォリオ理論や金融工学を経て、近年は行動経済学の影響も受けて、現在、流動的で、知的にも非常に面白い局面を迎えている。学生が金融市場をめぐるファイナンス（金融論）の研究に興味を持つようなガイダンスも行いたい。 個人のお金の運用に関心のある方、金融機関への就職を考える方、金融論の一分野としての投資理論に興味のある方などのご参加を期待する。 （基本的に春学期と同内容です）	1. ガイダンス（「金融資産運用論」の概要） 2. 主な金融商品の紹介Ⅰ.（預金・債券） 3. 主な金融商品の紹介Ⅱ.（株式投資） 4. 主な金融商品の紹介Ⅲ.（外国為替、FX） 5. 主な金融商品の紹介Ⅳ.（投資信託・保険） 6. 運用における合理性と「投資と投機」の区別 7. 異時点間の価値比較（割引現在価値、利回り） 8. 「リスク」の意味と扱い方 9. 資産配分（アセットアロケーション）の作成方法 10. 個人の資産運用プロセスと方法（簡便法） 11. モダンポートフォリオ理論の理論構造 12. 「市場の効率性」とアクティブ運用・パッシブ運用 13. 行動ファイナンスの概要と思想 14. ビジネスとしての資産運用 15. まとめ（個人の資産運用再説）及び試験ガイダンス （注 1.　前半で個人の運用入門をカバーしたい。 注 2．講義の内容、順番には入替えがあり得る）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として『お金の教室』（拙著、NHK 出版社）、「全面改定　超簡単お金の運用術」（拙著、朝日新書）。バートン・マルキール「ウォール街のランダムウォーカー」（井手正介訳、日本経済新聞社）	期末試験の結果（100%）による評価を原則とするが、事情によって試験にかえてレポートで評価する場合がある。評価は柔軟に行う。

06年度以降	特殊講義ｂ（金融資産運用論）	担当者	山崎　元

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、投資に関する文献を読み込み、「投資」と「市場」についてじっくり考える。資金の運用者、投資家（機関・個人両方）、あるいは金融・財務マンとして一生にわたり、投資と市場を考える元になる理解の形成を目指したい。 テキストとしては、バートン・マルキール著「ウォール街のランダムウォーカー」（井手正介訳、日本経済新聞社）を主に用いる。同書は、株式市場の歴史、投資のプロの分析手法、モダンポートフォリオ理論、行動ファイナンスなどを網羅しつつ、「では、個人はどう投資したらいいのか」について述べた優れた啓蒙書だ。講師（山崎）は同書の結論の全てに賛成する訳ではないが（明白な「誤り」もあると思う）、投資について現実的な理解を深める手掛かりとして同書を超える本は今のところないと評価している。 テキストは一般向けの啓蒙書であり、専門的な予備知識はなくとも、一定の理解力があれば十分読める。本講義にも予備知識は不要だ。但し、本講義では、学生に、事前に該当箇所を読み込む「予習」と「授業への参加」を求める。 一回の授業は、（前半）学生への質問による内容の振り返りと論点の抽出、(中盤)講師からの解説と内容補足、(後半)質疑応答と議論、といった形で行いたい。学生の活発な授業参加を楽しみにしている。	1. ガイダンス＋テキストの概要説明 2. 投資理論の学説とマルキールの立場（第1章） 3. 過去の「バブル」と日本のバブル（第2、3章） 4. 金融危機とバブルのパターン（第4章） 5. テクニカル分析について（第5章、6章） 6. アナリストとファンダメンタル分析（第7章） 7. リスクとリターンの考え方（第8章） 8. ＣＡＰＭなどの現代ポートフォリオ理論（第9章） 9. 行動ファイナンスと伝統ファイナンス（第10章） 10. 「効率的市場」をいかに考えるか（第11章） 11. デフレ・インフレと資産運用（第12章） 12. ライフサイクルと個人の運用戦略（第13章） 13. 金融のプロの使い方（第14章） 14. J.M.ケインズの市場観と投資哲学（一般理論12章） 15. 全体の総括と試験のガイダンス （上記は、おおまかに予定するテーマを記したもの。予定は流動的で変更があり得る）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとしてバートン・マルキール「ウォール街のランダムウォーカー」（井手正介訳）。ジョン・メイナード・ケインズ「雇用、利子、お金の一般理論」（山形浩生訳、講談社学術新書　※この翻訳をお勧めする）	主に期末試験によって評価する（概ね60%）が、授業への参加・貢献も評価に加える（概ね40%）。評価は柔軟に行う。

06年度以降	特殊講義ｂ（金融資産運用論）	担当者	山崎　元

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、投資に関する文献を読み込み、「投資」と「市場」についてじっくり考える。資金の運用者、投資家（機関・個人両方）、あるいは金融・財務マンとして一生にわたり、投資と市場を考える元になる理解の形成を目指したい。 テキストとしては、バートン・マルキール著「ウォール街のランダムウォーカー」（井手正介訳、日本経済新聞社）を主に用いる。同書は、株式市場の歴史、投資のプロの分析手法、モダンポートフォリオ理論、行動ファイナンスなどを網羅しつつ、「では、個人はどう投資したらいいのか」について述べた優れた啓蒙書だ。講師（山崎）は同書の結論の全てに賛成する訳ではないが（明白な「誤り」もあると思う）、投資について現実的な理解を深める手掛かりとして同書を超える本は今のところないと評価している。 テキストは一般向けの啓蒙書であり、専門的な予備知識はなくとも、一定の理解力があれば十分読める。本講義にも予備知識は不要だ。但し、本講義では、学生に、事前に該当箇所を読み込む「予習」と「授業への参加」を求める。 一回の授業は、（前半）学生への質問による内容の振り返りと論点の抽出、(中盤)講師からの解説と内容補足、(後半)質疑応答と議論、といった形で行いたい。学生の活発な授業参加を楽しみにしている。 （基本的に春学期と同内容）	1. ガイダンス＋テキストの概要説明 2. 投資理論の学説とマルキールの立場（第1章） 3. 過去の「バブル」と日本のバブル（第2、3章） 4. 金融危機とバブルのパターン（第4章） 5. テクニカル分析について（第5章、6章） 6. アナリストとファンダメンタル分析（第7章） 7. リスクとリターンの考え方（第8章） 8. ＣＡＰＭなどの現代ポートフォリオ理論（第9章） 9. 行動ファイナンスと伝統ファイナンス（第10章） 10. 「効率的市場」をいかに考えるか（第11章） 11. デフレ・インフレと資産運用（第12章） 12. ライフサイクルと個人の運用戦略（第13章） 13. 金融のプロの使い方（第14章） 14. J.M.ケインズの市場観と投資哲学（一般理論12章） 15. 全体の総括と試験のガイダンス （上記は、おおまかに予定するテーマを記したもの。予定は流動的で変更があり得る）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとしてバートン・マルキール「ウォール街のランダムウォーカー」（井手正介訳）。ジョン・メイナード・ケインズ「雇用、利子、お金の一般理論」（山形浩生訳、講談社学術新書）	主に期末試験によって評価するが（概ね60%）、授業への参加・貢献も評価に加える（概ね40%）。評価は柔軟に行う。

06 年度以降	特殊講義 a（農業経済学）	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、近代経済学の立場から、農業部門に関わる幅広い経済現象を理論的に論じる。まず、農業部門における経済主体は、言うまでもなく農民であるが、これは通常の経済学でいう消費者とも、生産者とも異なる経済主体である。というのは、消費者であると同時に生産者でもあるという意味で、企業家計複合体という第3の経済主体である、 この特性に由来して、農民行動は一般の経済主体を対象とするミクロ経済理論では説明できない部分がある。それ故、既存の経済理論とは別体系として農業経済理論が存在する。本講義では、この観点から農業経済理論の体系、伝統的ミクロ経済学との類似点と相違点、およびそれらに基づく農業政策、構造政策、経済政策について論じる。特に市場歪曲的な政府介入を極力排した自由な経済運営を可能にしている背景について講述する。	１．講義の概要 ２．農業経済学と近代経済学の理論体系 ３．消費者行動の理論と農民行動 ４．生産者行動の理論と農民行動 ５．第３の経済主体としての農民＜企業家計複合体＞ ６．チャヤノフ「小農経済の理論」と農家主体均衡論 ７．＜農家の与件変動効果＞窮迫販売行動 ８．＜農家の与件変動効果＞窮迫投資行動 ９．＜農家の与件変動効果＞窮迫雇用行動 １０．＜農家の与件変動効果＞窮迫借地行動 １１．農産物市場の特殊性 １２．＜価格反応＞農業生産の特殊性 １３．＜価格反応＞農業消費の特殊性 １４．＜所得反応＞農産物需要と食品安全性 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
速水郵次郎他「農業経済学」岩波書店	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする

06 年度以降	特殊講義 b（農業経済学）	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、開発経済学の視点から、農業経済を論じる。というのは、概して先進国では農業は弱小部門であるが、途上国では、その経済発展を支えているのは食料農業部門であり、経済全体の主要部門をなしているからである。今日、貧困削減問題は国際的にも益々重要性になりつつある。こうした途上国の開発理論の枠組みで食料農業部門を論じる。その際、前期の講義が農業経済学の主にミクロ理論体系に焦点を当てたのに対して、後期の講義は、その応用として、マクロ的視点から、農業政策、自由貿易協定やWTO などの国際農業経済論、持続的農業と環境問題等について論じる。	１．講義の概要 ２．経済成長理論と途上国問題 ３．二重構造論的経済発展モデルの系譜 ４．経済発展理論—古典派マクロモデル ５．ルイス・モデルとその意義 ６．ラニス・フェイモデルとその意義 ７．偽装均衡モデルとその意義 ８．トダローモデルとその意義 ９．新古典派経済発展モデルとその限界 １０．ミクロ経済発展モデル １１．行動経済学、実験経済学と途上国発展理論 １２．ミクロファイナンスと農村の貧困削減 １３．北の飽食と南の飢え １４．国際関係と「食糧＝第３の武器」論 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒崎卓「開発のミクロ経済学」岩波書店	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする

13年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 また受け身でなく、自分の頭で考えることも重要である。 さらに、単に理論を学ぶのではなく、その背景の実体経済がどうなっているかを認識してもらいたい。 【講義内容】 春学期はミクロ経済学の分野を扱う。「市場と価格」がキーワードである。 【注意事項】 自宅での予習、復習が重要である。	１．講義の概要 ２．基礎的数学の復習 ３．ミクロ経済学とは（前提は合理的な人間や企業） ４．需要と供給 ５．価格弾力性 ６．消費者行動と需要曲線 ７．消費者余剰 ８．費用（限界費用、平均費用等）と供給曲線 ９．生産者余剰 １０．市場取引と効率的な資源配分 １１．消費税、関税、家賃規制と余剰分析 １２．市場の失敗（外部性） １３．市場の失敗（公共財） １４．資源配分と所得分配 １５．不確実性と不完全情報、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第４版（日本評論社）	定期試験による。

13年度以降	経済学（マクロ）	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 自分の頭で考えること、実体経済の認識を重視することは春学期と同様である。 【講義内容】 秋学期はマクロ経済学の分野を扱う。キーワードは「GDPと景気」である。 【注意事項】 自宅での予習、復習が重要である。	１．講義の概要 ２．景気の現局面 ３．マクロ経済学とは ４．GDPとは ５．GDPの三面等価 ６．潜在成長力 ７．財・サービス市場の均衡（４５度線分析） ８．貨幣の定義と機能 ９．信用乗数 １０．貨幣需要と貨幣供給、貨幣市場の均衡 １１．貨幣数量説 １２．財政・金融政策のメカニズム：ＩＳ－ＬＭ分析 １３．財政・金融政策のメカニズム：クラウディングアウトと対策 １４．フィリップス曲線 １５．経済成長、まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第４版（日本評論社）	定期試験による。

13年度以降	経済学(ミクロ)	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわら ず、たとえば多数の多重債務者の存在にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、１年生を対象にしたこの講義では価格メカニズムの必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	講義中にプリント配布
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末試験

13年度以降	経済学(マクロ)	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
１年生を対象にしたこの講義では、国内総生産(GDP)の概念の理解から出発して、一国の生産量の決定問題を取り扱う。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	講義中にプリント配布
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末試験

13年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
経済学(ミクロ)ではミクロ経済学を講義します。限られた講義回数でたくさんの事柄を学べるように、講義の進行は速いと思います。受講生にとって経済学は大学ではじめて学ぶ分野なので、戸惑いがあるかもしれませんが、なるべくわかり易い講義を心がけます。受講生には毎回の予習と復習を求めます。私語厳禁。	１　ミクロ経済学概観 ２　消費者行動の理論１ ３　消費者行動の理論２ ４　消費者行動の理論３ ５　生産者行動の理論１ ６　生産者行動の理論２ ７　生産者行動の理論３ ８　生産者行動の理論４ ９　完全競争市場１ １０　完全競争市場２ １１　不完全競争と独占１ １２　不完全競争と独占２ １３　まとめ １４　質問 １５　質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店	試験のみで評価

13年度以降	経済学（マクロ）	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱ったミクロ経済学とともに経済学の大きな柱であるマクロ経済学を学びます。 国民所得の決定というのが大きなテーマです。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の経済学(ミクロ)を履修しているほうがより理解が深まると思います。私語厳禁。	１　マクロ経済学概観 ２　国民所得計算１ ３　国民所得計算２ ４　国民所得決定のメカニズム(消費関数) ５　国民所得決定のメカニズム(投資関数) ６　国民所得決定のメカニズム(乗数効果) ７　貨幣市場(流動性選好 1) ８　貨幣市場(流動性選好 2) ９　貨幣市場(中央銀行と貨幣供給) １０　IS 曲線 １１　LM 曲線 １２　財政・金融政策概観 １３　まとめ １４　まとめ １５　質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	試験のみで評価

13年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）この講義では、消費者や企業の行動、個々の市場の需要と供給・価格決定などについて分析する「ミクロ経済学」の基礎を学びます。 ミクロ経済学は、人々の経済行動を分析する最も基本的な経済学の分野であり、秋学期に学ぶマクロ経済学の基礎にもなるものです。また、環境問題や国際経済の問題を分析するにも、ミクロ経済学の知識は欠かせません。特に、秋学期の「サステナビリティ学」の中で学ぶ環境経済学は、ミクロ経済学を多くの課題に応用しています。 この講義でミクロ経済学の基礎と経済分析の基礎的手法（数学を含む）を身に着けることにより、経済学部での他の講義の理解を促進します。 （講義概要）この講義では、伊藤元重『入門・経済学』）の前半（Part1 ミクロ経済学）をテキストとして用いながら、消費者行動や企業行動、市場や資源配分の基礎理論のみならず、市場の失敗や不完全競争の理論、ゲーム理論や不確実性・情報の経済学まで、幅広く取り上げて解説します。 また、ミクロ経済学を学んでいくためには、ある程度の数学の知識（微分など）が必要です。この講義では、各回の授業で必要となる関数や微分の基礎も一緒に学び、その理解度を確認する小テストを授業中に行う予定です。	1. オリエンテーション・経済学とはどのような学問か 2. 需要と供給 3. 需要曲線と消費者行動 4. 費用の構造と供給行動（1） 5. 費用の構造と供給行動(2) 6. 市場取引と資源配分 7. 独占と競争の理論(1)（独占の理論） 8. 独占と競争の理論(2)（完全競争と独占的競争） 9. 市場の失敗(1)（外部効果） 10. 市場の失敗(2)（公共財など） 11. 不確実性と不完全情報の経済学(1) 12. 不確実性と不完全情報の経済学(2) 13. ゲームの理論入門(1)（囚人のジレンマなど） 14. ゲームの理論入門(2)（協調のメカニズムなど） 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門・経済学』第4版（日本評論社、2015年）	授業への貢献と授業中の小テスト（40%）・定期試験（60%）

13年度以降	経済学（マクロ）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）この講義では、一国全体のGDP・消費・投資・貯蓄などマクロ経済変数の決定要因や物価・雇用・景気循環・経済成長・財政金融政策など経済全体の大きな動きについて分析する「マクロ経済学」の基礎を学びます。 マクロ経済学は、一国・一地域や国際経済全体を巨視的に俯瞰して、景気動向や物価・成長・為替レート変動・経済危機などの要因を探り、政策を提示する経済学の分野であり、新聞等で頻繁に取り上げられる経済問題に理論的な説明を与えます。また、財政金融問題や国際金融の問題を分析するにも、マクロ経済学の知識は欠かせません。 特に、専門科目の「国際金融論」、「国際開発論」、「国際公共政策論」などでは、マクロ経済学を多くの課題に応用しています。この講義でマクロ経済学の基礎と経済分析の基礎的手法（数学を含む）を身に着けることにより、経済学部での他の講義の理解を促進します。 （講義概要）この講義では、伊藤元重『入門・経済学』）の後半（Part2 マクロ経済学）をテキストとして用いながら、マクロの財市場・貨幣市場の均衡や財政金融政策の効果のみならず、ケインジアンと新古典派の考え方の相違、経済成長や為替レートなど国際マクロ経済学まで、幅広く取り上げて解説します。（なお、比較優位と国際貿易の理論はミクロ経済学の応用分野ですが、国際経済学の一分野として秋学期に紹介します） また、マクロ経済学を学んでいくためには、ある程度の数学の知識（微分・数列など）が必要です。この講義では、各回の授業で必要となる関数や微分、数列の基礎も一緒に学び、その理解度を確認する小テストを授業中に行う予定です	1. オリエンテーション・.マクロ経済学とGDP 2. 経済をマクロからとらえる 3. 有効需要と乗数メカニズム(1) 4. 有効需要と乗数メカニズム(2) 5. 貨幣の機能(1) 6. 貨幣の機能(2) 7. IS - LM 分析 8. 総需要・総供給 9. マクロ経済政策 10. インフレと失業 11. 高齢社会の財政運営 12. 経済成長と経済発展 13. 国際経済学(1)（為替レートと国際マクロ経済学） 14. 国際経済学(2)（比較優位と国際貿易） 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門・経済学』第4版（日本評論社、2015年）	授業への貢献と授業中の小テスト（40%）・定期試験（60%）

13年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
ミクロ経済学は、個々の市場や個々人の行動の観点から、経済がどのように動くのかを分析する理論です。具体的には、需要と供給の理論を経済分析の道具として使うことで、経済がどのように動くかを分析し、様々な経済現象を説明しようするものです。 今後、皆さんが経済学のどのような専門分野を学ぶことになっても、ミクロ経済学の知識は、マクロ経済学と並んでとても役立ちますから、しっかりと理解して下さい。 授業計画にあるように、需要曲線と消費者行動、消費者行動の理論・展開、企業行動の理論、一般均衡と資源配分、独占の理論、市場の失敗といったミクロ経済学の重要項目について学びます。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めてしっかりとノートをとって下さい。授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。	1. イントロダクション 2. 需要曲線と消費者行動（1） 3. 需要曲線と消費者行動（2） 4. 供給曲線と生産者行動（1） 5. 供給曲線と生産者行動（2） 6. 消費者行動の理論 7. 消費者行動理論の展開（1） 8. 消費者行動理論の展開（2） 9. 企業行動の理論（1） 10. 企業行動の理論（2） 11. 一般均衡と資源配分 12. 独占の理論（1） 13. 独占の理論（2） 14. 市場の失敗 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示します。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。

13年度以降	経済学（マクロ）	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済学は、一国全体の観点から、経済規模がどのように変動するのかを分析する理論です。具体的には、一国の経済規模がどのように変動し、それに伴って雇用や物価、さらに国際経済がどのような影響を受けるのかを分析するものです。 今後、皆さんが経済学のどのような専門分野を学ぶことになっても、マクロ経済学の知識は、ミクロ経済学と並んでとても役立ちますから、しっかりと理解して下さい。 授業計画にあるように、GDP、GDP の決定、消費と投資、貨幣の需要と供給、IS-LM 分析といったマクロ経済学の最重要項目を学んだあと、国際マクロ経済、労働市場と総需要・総供給、インフレ、デフレ、失業についても講義します。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めてしっかりとノートをとって下さい。授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。	1. イントロダクション 2. GDP とは 3. GDP の決定（1） 4. GDP の決定（2） 5. 消費と投資 6. 貨幣の需要と供給（1） 7. 貨幣の需要と供給（2） 8. IS-LM 分析（1） 9. IS-LM 分析（2） 10. 国際マクロ経済（1） 11. 国際マクロ経済（2） 12. 労働市場と総需要・総供給（1） 13. 労働市場と総需要・総供給（2） 14. インフレ、デフレ、失業 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示します。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。

13 年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
「経済学(ミクロ)、(マクロ)」は皆さんが経済学部のどの専門領域に進んでも支障がないように、学部教育の基礎的な部分を共通化して行う学部共通科目です。経済学を学ぶことで、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解が深まり、さらには問題解決の手掛かりを見出すことができるようになります。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ皆さんに、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。授業では、新聞記事や経済データを提示しながら、経済学的な考え方に慣れてもらえるようにしたいと思います。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。経済学(ミクロ)は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の意思決定について考察しその相互作用を研究するミクロ経済学の入門について講義します。ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学とは 2. 市場競争 3. 競争市場と需要・供給の法則 4. 需給の変化と比較静学 5. 弾力性 6. 消費者余剰と交換の利益 7. 生産者余剰と生産の効率性 8. 市場取引と資源配分の効率性 9. 消費者行動と需要曲線 10. 生産者行動と供給曲線 11. 市場介入の経済効果 12. 外部不経済と市場の失敗 13. 価格支配力と不完全競争 14. 不確実性と不完全情報 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 伊藤元重『入門経済学(第 4 版)』日本評論社、2015 年。 清野一治『ミクロ経済学入門』日本評論社、2006 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

13 年度以降	経済学（マクロ）	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
経済学(マクロ)は、GDP、経済成長率、物価指数といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、生産物市場・資本市場・労働市場の相互作用について研究するマクロ経済学の入門について講義します。景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース、トピックもできるだけ取り上げたいと思います。	1. GDP とは 2. 所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 生産物市場と所得・支出分析(1) 5. 生産物市場と所得・支出分析(2) 6. 資本市場 7. 貨幣と日本銀行 8. 労働市場と失業 9. 総需要と総供給(1) 10. 総需要と総供給(2) 11. 財政政策と金融政策 12. 政府の役割と財政赤字 13. 為替レートと貿易 14. 経済成長と経済発展 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 伊藤元重『入門経済学(第 4 版)』日本評論社、2015 年。 二神孝一『マクロ経済学入門』日本評論社、2006 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

13年度以降	経済学（ミクロ）	担当者	童　適平

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、経済学を専攻として勉強する受講生のために、基礎知識を提供し、更なる経済学の知識を勉強し、経済学的な考え方と分析方法を身につけてもらうことを目的とする。 本講義は、消費者行動や企業行動、完全競争市場や資源配分など基礎理論の解説だけでなく、市場の失敗や不完全競争の理論、ミクロ政策まで、幅広いミクロ経済学の知識を受講者に紹介する。 また、理論の解説だけでなく、その背景の実体経済の現象も取上げて、受講者の理解を深めることに努める。	第 1 回　経済学とは何か 第 2 回　消費と貯蓄 第 3 回　消費行動の理論 第 4 回　弾力性 第 5 回　労働と余暇 第 6 回　企業と生産活動 第 7 回　費用と利潤 第 8 回　完全競争市場 第 9 回　独占市場 第10回　ミクロ市場-完全競争- 第11回　ミクロ市場-寡占- 第12回　ミクロ政策（1） 第13回　ミクロ政策（2） 第14回　ミクロ政策（3） 第15回　ミクロ政策（4）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：井堀利宏『入門経済学』第2版（新世社）	期末試験を行う。学期中数回小テストと練習を行う。小テスト練習の解答を考慮して30%、期末試験70%

13年度以降	経済学（マクロ）	担当者	童　適平

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、経済学を専攻として勉強する受講生のために、基礎知識を提供し、更なる経済学の知識を勉強し、経済学的な考え方と分析方法を身につけてもらうことを目的とする。 本講義は、マクロ経済指標であるGDP、マクロ経済変数である消費、投資、貯蓄などの決定要因、財政金融政策および物価、雇用、景気循環など経済全体の変動について分析するマクロ経済学の基礎を解説する。国際経済の貿易、為替レートおよび資本移動についても触れておき、経済のグローバリゼーションに関する知識を受講者に備えてもらうことを心がける。 また、理論の解説だけでなく、日本経済の実情も取上げて、受講者の理解を深めることに心がける。	第 1 回　政府と政府の役割 第 2 回　公共財の供給 第 3 回　税金 第 4 回　貨幣 第 5 回　貨幣の信用創造 第 6 回　金融取引と金融機関 第 7 回　企業と金融 第 8 回　金融商品 第 9 回　GDP の概念 第10回　GDP の決定 第11回　IS-LM モデル(1) 第12回　IS-LM モデル(2) 第13回　財政政策（1） 第14回　財政政策（2） 第15回　金融政策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：井堀利宏『入門経済学』第2版（新世社）	期末試験を行う。学期中数回小テストを行う。学期中小テストを考慮して30%、期末試験70%

13年度以降	経済学（ミクロ）（再履修者用）	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
経済問題は日々身近に経験するものである。 この講義は、それらを理解し取り組むための経済学の基本的な考え方を紹介し、具体的な経済問題や日本経済の事例にふれ、より身近なものにしていくことを目指す。	1. ガイダンス、経済学とは 、経済主体、理論と実証、経済学の変遷 2. 経験法則、部分均衡と一般均衡、他の条件を一定、短期と長期 3. 経済の変化、消費構造、生産技術、労働力、都市化、人口、環境 4. 消費者行動（1）個人と家計、需要と供給、価格、市場メカニズム、限界概念、競争 5. 消費者行動（2）限界効用均等、無差別曲線、効用極大、所得、弾力性 6. 消費者行動（3）消費理論（諸仮説）、クモの巣理論 7. 生産者行動（1）限界生産力逓減法則、費用曲線、生産関数 8. 生産者行動（2）利潤極大と費用極小、供給曲線、生産水準、規模の経済性 9. 生産技術の変化、変化をどうとらえるか 10. 市場均衡、完全競争、独占、短期と長期、前提条件 11. 労働市場、労働力、性別、年齢、学歴、労働形態、失業 12. 労働供給と労働需要、ダグラスの法則、供給主体、生産の派生需要 13. 日本の労働市場、縁辺労働力と基幹労働力、企業規模別、職業別 14. 労働市場の国際化、外国人労働力、市場開放、技能労働力と単純労働力 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とりあえず井原哲夫他『経済学入門』日本評論社をあげておく、但し絶版の場合はい内に別のテキストを選定する。参考書は授業にて提示する。	課題図書、課題についてのレポート及び期末テストの結果で評価

13年度以降	経済学（マクロ）（再履修者用）	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
秋期は春季の講義を踏まえてマクロ経済学を中心に理解を進めていくことを目指す。	1. マクロ経済学とは、秋期のガイダンス、ミクロとマクロ、国内ベースと国民ベース、GNPとＧＤＰ 2. 国民経済勘定体系、新SNAと旧SNA,人的データと物的データ、産業連関表、三面等価、フロートストック 3. 産業連関表の仕組み（1）、一般均衡体系、閉鎖モデルと開放モデル、競争型と非競争型、生産者価格と購入者価格、中間需要と中間投入、投入係数と産出係数、産業特性、前方連関と後方連関 4. 産業連関表の仕組み（2）、最終需要、粗付加価値、行列、レオンチェフ逆行列、生産波及、相互依存関係、感応度係数と影響度係数 5. 産業連関表の仕組み（3）、内需と外需、スカイライン表 6. 所得の決定（1）、所得、消費、投資、貯蓄、輸入と輸出、政府 7. 所得の決定（2）、45度線、消費性向、投資と貯蓄、 8. 所得の決定（3）、乗数理論、有効需要、失業の存在、景気循環、資金循環 9. 政府の役割、市場経済と政策、経済政策、財政政策、 10. 経済見通しと各種政策、所得政策、減税策 11. 金融政策、中央銀行の役割 12. 労働政策、雇用政策 13. 産業政策、TPP 14. 地域経済と人口減少 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

13年度以降	経済経営数学入門	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、経済経営数学について学んでいきます。 数学というと、過去の経験から、苦手意識がある人が多いのではないでしょうか。ただ、皆さんが、今後、経済学や経営学を学んでいく中で、基礎的な数学の知識があるのとないのでは、その学びの楽しさが変わってきます。 本講義では、実際に皆さんに手を動かしてもらうことにより数学になれ、少しでも数学が楽しくなるような講義ができればと思っています。	1. 講義概要 2. 数学の基礎 3. 1次関数の式とグラフ 4. 2次関数の式とグラフ 5. 練習問題 6. 微分① 7. 微分② 8. 単利と複利の計算 9. 練習問題 10. 割引現在価値① 11. 割引現在価値② 12. 等比数列の和① 13. 等比数列の和② 14. 練習問題 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の講義にて説明します。	授業への貢献度と試験にて総合的に評価します。

13年度以降	統計学入門	担当者	陰山　孔貴

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、統計学について学んでいきます。 統計学というと、難しい学問だとイメージする人が多いのではないでしょうか。ただ、皆さんが、今後、経済学や経営学を学んでいく中で、基礎的な統計学の知識があるのとないのでは、その学びの楽しさが変わってきます。 本講義では、実際に皆さんに手を動かしてもらうことにより統計学になれ、少しでも統計学が楽しくなるような講義ができればと思っています。	1. 講義概要 2. 度数分布表 3. ヒストグラムと累積度数分布① 4. ヒストグラムと累積度数分布② 5. 練習問題 6. 平均値・中央値・最頻値① 7. 平均値・中央値・最頻値② 8. 練習問題 9. ばらつき度① 10. ばらつき度② 11. 練習問題 12. 正規分布① 13. 正規分布② 14. 練習問題 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の講義にて説明します。	授業への貢献度と試験にて総合的に評価します。

13年度以降	経済経営数学入門	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
「数学」というと非常に抽象的な学問であり、経済学や経営学とは無関係と思っている人も多いかもしれない。しかし、数学は、経済学や経営学の分野でも基礎的用具として非常に重要なものとなっている。本講義では、数学を非常に基礎的なレベルから理解することを目的とする。さらに、数学の抽象的な理解にとどまらず、数学が経済学や金融・証券等の分野でどのように利用されているのかについても講義する。 数学は抽象性が高いため、概念の説明を聞くだけではなかなか理解しづらい。講義では、受講生に例題を解いてもらう形で進めていきたい。	1. イントロダクション 2. 基礎知識の確認 3. 基礎的概念：方程式と不等式 4. 基礎的概念：関数 5. 2次方程式の応用：利潤最大化 6. 指数の概念 7. 指数と金利 8. 対数の概念 9. 対数と成長率 10. 数列の概念 11. 等差数列と等比数列 12. 等比数列の和と貯蓄 13. 微分の概念 14. 微分の応用：利潤最大化 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。参考文献については、初回の講義で指示する。	定期試験により評価する。

13年度以降	統計学入門	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
経済学や経営学では様々なデータを扱う。しかし、データを単に眺めているだけでは、そのデータの特徴を理解することは難しい。統計学はデータの特徴を明確にするための非常に重要なツールである。本講義では、統計学の非常に基礎的な部分をわかりやすく説明することを目的とする。 講義の項目は数学ほど抽象性が高いものではないが、それでも概念の説明を聞くだけではなかなか理解し難い。そこで、経済経営数学入門と同様に、受講生に例題を解いてもらう形で進めていきたい。	1. イントロダクション 2. データの整理：度数分布とヒストグラム 3. データの代表値：平均 4. データの代表値：メディアンとモード 5. データの分布の形と平均、メディアン、モードの関係 6. データの散らばり具合：範囲・四分位範囲 7. データの散らばり具合：分散と標準偏差 8. 異なるデータの分布の比較 9. 確率変数と確率分布の概念 10. 平均と分散・標準偏差：離散型確率変数の場合 11. 二項分布・ポアソン分布 12. 正規分布 13. 標準正規分布とその応用 14. ベイズの定理 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。参考文献については、初回の講義で指示する。	定期試験により評価する。

13年度以降	経済経営数学入門	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、経済学を学ぶために必要な経済数学の基礎を習得することを目的とします。 経済学を学ぶにあたって数学が必要であることは分かっているが、すっかり数学の知識が抜け落ちているので、どうやって学べばよいか分からない、という人が多いのではないでしょうか。 本講義では、こうした数学アレルギーを克服するために、中学・高校の数学の基礎にも立ち戻りながら、経済数学の基礎を学んでいきます。経済数学の基礎が習得できれば、経済学の科目は理解しやすくなりますし、それに対する興味がさらに湧いてくるはずです。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めてしっかりとノートをとって下さい。授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。	1. イントロダクション 2. 中学・高校数学の復習（1） 3. 中学・高校数学の復習（2） 4. 連立方程式 5. 1次関数 6. 2次関数 7. 3次関数 8. 微分 9. 偏微分 10. 数列 11. 極限 12. シグマ 13. 単利と複利の計算 14. 割引現在価値と投資 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示します。数学に苦手意識を持っているならば、中学・高校で使用した教科書と参考書も役立ちます。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。

13年度以降	統計学入門	担当者	徳永　潤二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、まず統計学の初歩からスタートし、次に経済学の理解に役立つ統計学の重要項目を習得することを目的とします。 今後、演習をはじめとする様々な講義において経済データに頻繁に接することになります。しかし経済データを漠然と眺めているだけでは、そのデータの意味を正確に理解することは難しいでしょう。 本講義では、記述統計学の基礎知識を習得することによって、経済データを正確に理解できるようになりましょう。 講義ではパワーポイントを用いますので、私の説明も含めてしっかりとノートをとって下さい。授業中の私語や携帯電話の利用は厳禁です。授業に集中して下さい。	1. イントロダクション 2. 統計データの分類 3. 統計データの集計（1） 4. 統計データの集計（2） 5. 統計表のグラフ表現 6. 代表値 7. 分散 8. 標準偏差 9. 標準偏差の考え方の活用例（1） 10. 標準偏差の考え方の活用例（2） 11. 正規分布 12. 変化を表す統計量 13. 相関係数 14. 相関係数の考え方の活用例 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示します。参考文献は適宜紹介します。	学期末テストの結果で評価します。

13 年度以降	経済経営数学入門	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
経済学や経営学を学ぶ上で必要な数学の初歩を講義する。この半期間の講義で経済学・経営学に必要な数学が網羅されるわけではないが、さらなる数学の知識が必要となったときに自学できるような基礎力を修得することがこの講義の目的である。具体的には、右の授業計画に沿って進めて行くが、適宜、小テストを行うことによって理解を着実なものとしていきたい。	1. 経済学・経営学で必要な数学 2. 式の計算（1） 3. 式の計算（2） 4. １次関数と１次方程式：直線のグラフ 5. ２次関数と２次方程式：放物線のグラフ 6. 多変数関数（1） 7. 多変数関数（2） 8. 指数と対数（1） 9. 指数と対数（2） 10. 数列とその和 11. 差分方程式 12. 微分（1） 13. 微分（2） 14. 最大化問題（1） 15. 最大化問題（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。	学期末テスト（50%）と授業中の小テスト（50%）により評価する。

13 年度以降	統計学入門	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
経済学や経営学を学ぶ上で必要な統計学の初歩を講義する。経済学においても経営学においても、統計データを作成・入手し、それを要約・分析することは極めて重要である。この講義は、そのための第一歩という位置づけである。具体的には、右の授業計画に沿って進めて行くが、適宜、小テストを行うことによって理解を着実なものとしていきたい。	1. 記述統計と推測統計 2. 統計データの種類と分類 3. データの整理（1）：様々なグラフ 4. データの整理（2）：度数分布表 5. データの整理（3）：散布図 6. 基本統計量の計算（1）平均値・中央値・最頻値 7. 基本統計量の計算（2）分散・標準偏差・範囲 8. 基本統計量の計算（3）相関係数 9. 確率（1） 10. 確率（2） 11. 確率分布 12. 点推定（1） 13. 点推定（2） 14. 区間推定（1） 15. 区間推定（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。	学期末テスト（50%）と授業中の小テスト（50%）により評価する。

13 年度以降	経済経営数学入門	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
経済学では各種の指標が数値化されて処理されます。このため数学が必須です。本講義では入門として、実数論などの厳密な議論は避け、実際に必要となる数学的処理について理解することを目的とします。このため一部は高校数学のレベルとなりますが、それを発展させて変分法や確率分布などにも触れます。講義では随時演習を含め、また小テストを行います。	1. 授業概要の説明 2. 数の分類、関数について 3. 連立一次方程式、一次不等式、線形計画法の初歩 4. 二次関数、二次不等式 5. 指数関数 6. 対数関数 7. 指数関数、対数関数の使用例 8. 極限、関数の微分、極値 9. 合成関数の微分 10. 関数の積分 11. 一次方程式系と行列列 12. 一次方程式の解法、逆行列 13. 一変数の変分法 14. 多変数の変分法 15. 経済学への応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：中邨良樹『経済学を学ぶための数学的手法』（創成社、2012 年）、藤田渉、福澤勝彦、秋本耕二、中村博和『経済数学』（勁草書房、2000 年）など。	3 回程度行う小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価します。

13 年度以降	統計学入門	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
世の中には様々なデータの統計グラフがあふれています。しかし統計の指標は必ずしも分かり易いものではありません。偏差値もよく使われる指標ですが正確な理解が必要です。本講義は、入門としていろいろな統計のやり方がある、ということを知ってもらうことを主眼とします。 経済の統計図や理科年表などを使ってまず統計図の見方を示し、その後、偏差値、相関係数など各種統計指標の計算の仕方を説明します。その後、統計値のモデルとして様々な確率分布がありますがその概要を述べます。その応用として推定・仮説検定についても触れます。	1. イントロダクション 2. 様々なグラフと統計図 3. 統計の尺度（平均値、偏差値、トレンド、相関係数） 4. 統計図の演習 5. 確率分布（1） 6. 確率分布（2） 7. 確率分布演習 8. 母集団と標本 9. 推定（1） 10. 推定（2） 11. 検定の考え方 12. 仮説検定（1） 13. 仮説検定（2） 14. 仮説検定の演習 15. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：豊田利久、大谷一博、小川一夫、長谷川光、谷崎久志『基本統計学[第 2 版]』（東洋経済新報社、2002 年）など。	3 回程度行う小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価します。

13 年度以降	経済経営数学入門	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
この講義では，経済学を学修するために最低限必要な数学的な知識の習得を目指します。 数学の学修には演習問題を自ら解くことが重要です。講義中の演習問題への積極的な取り組みは必須です。 **注意事項**：テキストと参考文献については第1回の講義で提示するので必ず出席すること。	1. オリエンテーション 2. 数学の初歩（比，変化率） 3. 数学の初歩（方程式，因数分解） 4. 数学の初歩（多項式，指数，累乗根） 5. 数学の初歩（関数のグラフ） 6. 1 次関数 7. 1 次関数，不等式と領域 8. 2 次関数と 3 次関数 9. 微分（微分の考え方） 10. 微分（微分係数，導関数） 11. 微分（接線の計算） 12. 微分（関数の増減，極大，極小） 13. 微分（積の導関数と商の導関数，合成関数の微分） 14. 多変数の関数と偏微分 15. まとめ 講義中に小テストを行います。
テキスト，参考文献	**評価方法**
講義時に紹介する。	期末試験（80%），平常点・小テスト（20%）

13 年度以降	統計学入門	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
現代社会では企業・官公庁によってさまざまな統計データが収集され，意思決定に活用されています。この講義では，統計データを適切に集計・解釈するために必要な基礎的な統計学的手法の修得を目指します。統計学を修得するためには，実習・演習が重要であるため，講義時間中にも計算機を利用して練習問題に取り組み，学んだ知識を実際に利用できるようになることを目指します。講義中の演習問題への積極的な取り組みは必須です。 **注意事項**：テキストと参考文献については第 1 回の講義で提示するので必ず出席すること。	1. オリエンテーション，統計学の目的と役割 2. 度数分布 3. ヒストグラムと幹葉図 4. 平均，メディアン，モード 5. 加重平均，幾何平均 6. 変化率，比率の平均 7. 分散，標準偏差 8. 四分位偏差，箱ひげ図 9. 偏差値，変動係数 10. ローレンツ曲線とジニ係数（1） 11. ローレンツ曲線とジニ係数（2） 12. 散布図と相関係数（1） 13. 散布図と相関係数（2） 14. 指数 15. まとめ 講義中に小テストを行います。
テキスト，参考文献	**評価方法**
【参考書】 大屋幸輔（2011）『コア・テキスト統計学　第 2 版』サイエンス社.	期末試験（80%），平常点・小テスト（20%）

13 年度以降	経済経営数学入門	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、経済・ビジネスの事例を取り上げ、その問題分析や課題解決のためにどのように数学が使われているのかを解説し、数学を使う意味やメリットを知ってもらいながら、数学的素養を育成していきます。 経済学部に入学された皆さんは、経済学・経営学の領域を文系と考えて進学された方が多いと思いますが、経済学・経営学の分野では数学的手法が多用されます。経済の豊かさを測る指標として GDP がありますが、これを人口で割った一人当たり GDP が増えているのかどうか、知らないで経済開発の議論はできません。企業収益の計算や在庫管理のモデル化ができない経営者が会社を大きくしていけるでしょうか。また単利、複利の計算の違いがわからない銀行員がいたら、そんなところに預金したくはないですよね。このように経済学、経営・ビジネスの領域も普通に「数字」を対象としており、数学的素養が必要なのです。 これまで皆さんがどちらかというと嫌いだった数学も、実際の経済・ビジネスの問題を考えるうえで、どのように使われているかを学ぶことで、きっと興味をもってもらえると思います。	1. 算数からの数学復習 2. 1 次関数 3. 2 次関数 4. 3 次関数 5. 指数と対数(1) 6. 指数と対数(2) 7. 微分の意味と計算方法 8. 全微分と偏微分 9. 経済学の最大化問題 10. 単利計算と複利計算、経済成長率 11. 割引現在価値 12. 等比数列とその和(1) 13. 等比数列とその和(2) 14. 意思決定問題の数式表現―モデリング 15. 連立方程式と行列
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 石川秀樹『経済学と(経済学、ビジネスに必要な)数学がイッキにわかる!!』学研教育出版、2015 年。 尾山大輔・安田洋すけ『[改訂版]経済学で出る数学―高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

13 年度以降	統計学入門	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
統計学は、得られたデータを整理する記述統計と一部のサンプルから全体を予測する推測統計に分けられます。この講義では、主に前者に焦点をあてながら、統計学的手法の基礎を学びます。データの取られ方の問題点が意識できるようになる、データに対して適切な代表値をもとめることができるようになる、2 つのデータが得られたときに、その関係性を把握できるようになることを目的とします。 経済学は 2 変数間の関係を積み上げていって、最終的に分析対象としている変数が何に依存していてどう変化するかを分析する学問ですし、経営・ビジネスの領域では売上や企業収益、あるいは企業の競争力といった変数が何によって影響を受けるのかを知りたいのです。統計学は、そのような目的に向けて、必要な判断材料を提供してくれるのです。 経済、経営・ビジネスで統計学がどのように使われているかを解説することで、統計学を使う意味やメリットを知ってもらえればと思います。	1. 統計学とは 2. 度数分布表 3. ヒストグラム 4. 累積相対度数分布とローレンツ曲線 5. 代表値（平均値・中央値・最頻値） 6. データの散らばりの指標―分散と標準偏差 7. 偏差値、変動係数 8. 分布の形 9. 正規分布 10. 標準正規分布 11. 標本分布 12. 推定 13. 仮説検定 14. 相関と回帰 15. 時系列データ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。テキストには次のようなものを予定していますが、第 1 回目の授業で指定します。 森棟公夫『教養 統計学』新世社、2012 年。 白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学』 日本評論社、2009 年。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、練習問題の得点等もサービス点として加算する予定。

13年度以降	統計学入門（再履修者用）	担当者	塩田 尚樹

授業目的、授業概要	授業計画
再履修者を対象として，統計的手法に関する入門的な授業を行います． 近年，『統計学が最強・・・』というタイトルの本がベストセラーとなったり，Evidence-based などという言葉が流行ったりしています．新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどにおいても，統計的手法を用いた現状分析や将来予測が頻繁に行われています．望ましい傾向ではありますが，各データおよび分析手法の意味と限界を理解していないと，統計学的手法を使っているというだけでむやみにありがたがったり，逆に拒絶したりするという残念なことになりかねません．そこでこの授業では，データ分析の基礎知識について，初歩から解説していきます． 実際に自分でデータを集め加工・分析してみることが，統計学を身につける最も効率的な方法ですから，超過負担にならない程度に宿題を出す予定です． なお，『各人の授業を受ける権利』は『他の人の授業を受ける権利』を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人には退出してもらいます．	1. 授業計画の確認 2. 質的変数と量的変数 3. データの集計と視覚化 4. 時系列データ 5. 度数分布とヒストグラム 6. 分布の位置を表す代表値 7. 5数要約 8. 箱ひげ図とその比較 9. 分散と標準偏差 10. 観測値の標準化とはずれ値 11. 相関と散布図 12. 相関係数 13. 移動平均 14. 予測 15. まとめ
テキスト	**評価方法**
使用しない．	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

13年度以降	経済経営数学入門（再履修者用）	担当者	塩田 尚樹

授業目的、授業概要	授業計画
再履修者を対象として，経済学を学ぶうえで有用な数学の入門的な授業を行います． 学生のみなさんの中には，数学という名前を聞くだけで『無理！』と逃げ出したくなる人が，少なからずいるのではないでしょうか？みなさんがこれまで受けてきた数学や算数の授業と同様に，この授業でも毎回のように数・グラフ・式が登場します．よって，『数学が嫌いな人でも全く問題なし』などと安直な気休めは言いません． ただし，次の点は心にとめておいて下さい．この授業の目的は，数学そのものではなく，経済学関連科目を学ぶための基礎体力づくりです．いわゆる受験数学では，計算の正確さ・速さと複雑・怪奇な問題への対応力が要求されたかと思いますが，この授業では，素直な問題や典型的な例を自分が納得するまで考え，論理的思考を身につけることが重要です．したがって，必要なのは『頭の回転の速さ』よりも『知的謙虚さ』，『忍耐力』と『健全な好奇心』です．十分な基礎体力を，一人でも多くの人につけてもらえるように，授業を展開したいと思います． なお，『各人の授業を受ける権利』は『他の人の授業を受ける権利』を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人には退出してもらいます．	1. 授業計画の確認 2. 数と四則演算 3. 式と方程式 4. 座標とグラフ 5. 関数とグラフ 6. 連立方程式 7. 行列とその演算 8. 逆行列 9. 行列式 10. クラメール・ルール 11. 産業連関表 12. 投入係数行列 13. レオンチェフ逆行列 14. ホーキンス・サイモンの条件 15. まとめ
テキスト	**評価方法**
使用しない．	定期試験で評価します．ただし，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

13年度以降	経済経営数学入門（再履修者用）	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この講義で数学を勉強する意味は、論理性を身につけるところにある。直観や感情も大事ではあるけれど、生活するうえで論理的に考えてみることは必須である。 【講義内容】 基礎に立ち返って講義をする。数学的な考え方を経済学に応用できるようになることが重要である。 【注意事項】 自宅で、額に汗して練習問題を自分で解いてみることが不可欠である。	１．講義概要、数学で用いる記号 ２．数とは、分数計算 ３．整式、有理式 ４．１次方程式 ５．連立方程式 ６．２次方程式 ７．１次不等式 ８．連立不等式 ９．１次関数、２次関数のグラフ １０．指数関数 １１．対数関数 １２．微分（関数の極限） １３．微分（関数の微分と導関数） １４．経済学への応用（ケインズの消費関数） １５．経済学への応用（需要の価格弾力性）、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：大川隆夫他『文系数学超入門』（学術図書出版社）	定期試験による。

13年度以降	統計学入門（再履修者用）	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 平均や偏差値など、実社会で使われている統計的な指標は数多い。しかしながら、正確な意味を知らないととんでもない誤解をする。 統計的な指標、およびその背景にある統計学の考え方を理解する。 【講義内容】 統計学の基礎に重点を置くが、推定や検定にも触れる。 【注意事項】 自宅で、額に汗して練習問題を自分で解いてみることが不可欠である。 暗記も必要だが、内容の理解がより重要である。	１．講義概要 ２．統計学の考え方の基礎（確率） ３．統計学の考え方の基礎（標本） ４．統計学の考え方の基礎（ヒストグラム） ５．統計学の考え方の基礎（練習問題） ６．標本分布と平均 ７．標本分布と標準偏差 ８．確率の計算 ９．一様分布と正規分布 １０．一様分布と正規分布（練習問題） １１．「統計的に有意」とは １２．統計的推定の方法 １３．統計的検定の方法 １４．相関分析 １５．回帰分析、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：鳥居泰彦『はじめての統計学』（日本経済新聞出版社）	定期試験による。

13 年度以降	統計学 a	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
今日の高度情報社会では，一国の GDP や物価水準，企業の業績や株価，政党支持率やテレビ番組の視聴率など，様々な統計情報が収集・作成されている。企業や公的機関における業務から日常生活に至るまで，統計情報に触れる機会はますます増えている。このような多様な統計情報を有効に活用するための手法が統計学である。統計学は，統計情報をわかりやすく集計・表現したり，確率的なモデルを用いてデータの背後にある構造を推測・予測したりして，統計情報をさまざまな意思決定に活用するために用いられる。 この講義の目的は，統計情報を適切に分析・解釈するために必要な統計学的手法を習得することにある。統計学を習得するためには，理論の理解だけでなく，実習・演習も重要である。講義時間中に計算機を利用して練習問題に取り組み，学んだ知識を実際に利用できるようになることを目指す。 注意：統計学 a,b を連続して履修してください。	1. オリエンテーション，統計学の目的と役割 2. 度数分布，ヒストグラム 3. 平均，メディアン，モード 4. 分散，標準偏差，偏差値 5. 変動係数，比率 6. 散布図と相関係数 7. 記述統計のまとめ 8. 確率の概念 9. 加法定理と乗法定理 10. 条件付き確率とベイズの定理 11. 確率変数の期待値と分散 12. 離散型確率変数と確率分布関数 13. 一様分布，2 項分布 14. ポアソン分布，超幾何分布 15. 確率のまとめ 小テストを行うことがある。
テキスト，参考文献	**評価方法**
大屋幸輔（2011）『コア・テキスト統計学　第 2 版』サイエンス社.	期末試験（80%），平常点（20%）

13 年度以降	統計学 b	担当者	樋田　勉

講義目的，講義概要	授業計画
今日の高度情報社会では，一国の GDP や物価水準，企業の業績や株価，政党支持率やテレビ番組の視聴率など，様々な統計情報が収集・作成されている。企業や公的機関における業務から日常生活に至るまで，統計情報に触れる機会はますます増えている。このような多様な統計情報を有効に活用するための手法が統計学である。統計学は，統計情報をわかりやすく集計・表現したり，確率的なモデルを用いてデータの背後にある構造を推測・予測したりして，統計情報をさまざまな意思決定に活用するために用いられる。 この講義の目的は，統計情報を適切に分析・解釈するために必要な統計学的手法を習得することにある。統計学を習得するためには，理論の理解だけでなく，実習・演習も重要である。講義時間中に計算機を利用して練習問題に取り組み，学んだ知識を実際に利用できるようになることを目指す。 注意:原則として統計学 a の単位取得者を対象とします。	1. 記述統計と確率の復習 2. 連続型確率変数と確率密度関数 3. 正規分布の性質 4. 母集団，標本，標本抽出 5. 標本分布（1） 6. 標本分布（2） 7. 標本分布（3） 8. 点推定 9. 区間推定（1） 10. 区間推定（2） 11. 推定のまとめ 12. 統計的仮説検定（1） 13. 統計的仮説検定（2） 14. 統計的仮説検定（3） 15. まとめ 小テストを行うことがある。
テキスト，参考文献	**評価方法**
大屋幸輔（2011）『コア・テキスト統計学　第 2 版』サイエンス社.	期末試験（80%），平常点（20%）

13年度以降	統計学a	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に開講されている「統計学入門」で学んだ基本的な統計学の概念について，具体的な例題を解きつつ定着させることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「統計学入門」の単位修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 本講義では，例題や演習問題の豊富なテキストを用いて，経済・経営の諸課題における実証分析に必要となる統計学の基礎を網羅的に概説します．解法の手引きを講義し，いくつか演習問題を解いて見せたのち，授業参加者それぞれが演習問題を解き進めてもらいます． 秋学期の「統計学b」とセットで開講しますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で，適宜修正しつつ進めます．第1回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第1回　イントロダクション・代表値 第2回～第3回　代表値（つづき） 第4回～第7回　ばらつき 第8回　小テスト① 第9回～第14回　確率 第15回　小テスト②
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田耕作（2006）『直感的統計学』，日経BP社．	授業貢献（50%）・小テスト（50%） 詳しくは，第1回のイントロダクションで説明します．

13年度以降	統計学b	担当者	大床　太郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に開講されている「統計学入門」で学んだ基本的な統計学の概念について，具体的な例題を解きつつ定着させることを目的とします．2013年度以降の入学者につきましては，原則，「統計学入門」の単位修得済みの方を対象としています． 【講義概要】 本講義では，例題や演習問題の豊富なテキストを用いて，経済・経営の諸課題における実証分析に必要となる統計学の基礎を網羅的に概説します．解法の手引きを講義し，いくつか演習問題を解いて見せたのち，授業参加者それぞれが演習問題を解き進めてもらいます． 春学期の「統計学a」とセットで開講しますので，原則，春学期から順番に，通年で履修してください．	以下のような予定で，適宜修正しつつ進めます．第1回は，講義の進め方や単位の修得に関わる説明を行いますので，必ず受講してください． 第1回　イントロダクション・正規分布 第2回～第4回　正規分布（つづき） 第5回～第7回　二項分布 第8回　小テスト① 第9回～第14回　仮説検定 第15回　小テスト②
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田耕作（2006）『直感的統計学』，日経BP社．	授業貢献（50%）・小テスト（50%） 詳しくは，第1回のイントロダクションで説明します．

13年度以降	環境学	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
環境学は自然と人間との関わりに関する学問です。人間活動が小さい時は人間活動は自然に大きく制約されてきましたが、人間活動が大きくなると人間と自然との相互の関連が重要となっています。 この環境も現代は地球的規模となり地球環境問題として認識されています。この地球環境問題としては、温暖化、オゾン層、酸性雨、海洋汚染、森林破壊、砂漠化、生物多様性の喪失、などが挙げられています。 本講義では自然環境に関する基礎知識とともに地球環境問題の各項目についての基礎知識を得てもらうことを目的とします。	1. 授業概要 2. 過去の環境問題 3. 我が国の環境問題 4. 地球環境の構造 5. 地球規模の環境問題 6. 地球温暖化（1） 7. 地球温暖化（2） 8. オゾン層（1） 9. オゾン層（2） 10. 酸性雨 11. 海洋汚染 12. 森林破壊 13. 砂漠化 14. 生物多様性の喪失 15. 私たちと環境
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田啓子、北川秀樹『はじめての環境学[第２版]』（法律文化社、2012年）	３回程度行う小テスト（30%）と試験（70%）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	サステイナビリティ学	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目的)「環境学」が自然科学領域から持続可能性（サステイナビリティ）を考えるのに対して、本講義では環境経済学、開発経済学など社会科学領域から環境・経済・社会の持続可能性について考えます。基礎的な経済学のツールを応用して、環境問題の持つ悪影響（外部不経済）を軽減・内部化するための政策（規制、所有権の確定、環境税、排出権取引等）や環境価値の評価手法などを学ぶとともに、資源制約の下で「持続可能な開発」を進め、経済・社会の持続可能性を維持していくための政策・国際協力手法を検討します。地球環境ファシリティー（GEF）などの資金メカニズム、アジアの開発・環境政策や RIO+20 など近年の環境・開発協力についても学びます。 （講義概要）この講義では、栗山・馬奈木（2012）『環境経済学をつかむ』を主なテキストとして用います。各 Unit のトピックについての理解を確実にするために、諸富他（2008）、小宮山他（2011）、OECD（2008）などの参考文献で補足します。 また、担当教員の財務省や国際機関での経験や、わが国や国際機関が行っている持続可能な開発に向けた政策実態を交えた説明をします。	1. オリエンテーション・サステイナビリティと環境経済学・開発経済学（Unit 0）（カッコ内はテキストの該当 Unit） 2. 経済発展と環境/ゴミ問題と循環型社会（Unit 1 、2） 3. 地球温暖化問題/外部性と市場の失敗（Unit 3、4） 4. 共有資源の管理/公共財とただ乗り（Unit 5,6） 5. 環境政策の理論(1)（直接規制･環境税･補助金）（Unit 7、8） 6. 環境政策の理論(2)（コースの定理･排出権取引）（Unit 9、10） 7. 環境政策の実際(1)（政策手段の選択･廃棄物政策）（Unit 11、12） 8. 環境政策の実際(2) （地球温暖化対策）（Unit 13、14） 9. 環境評価(1)（環境の価値、顕示選好法）（Unit 15、16） 10. 環境評価(2)（表明選好法、費用便益分析）（Unit17、18） 11. 企業の環境問題と生態系（環境対策・社会的責任・環境リスク・生物多様性）（Unit19、20、21、22） 12. 国際貿易・技術進歩と環境問題（Unit23、24） 13. 「持続可能な開発」に向けて(1)（理念・定義・環境クズネッツ仮説、エネルギー経済）（Unit25、26） 14. 「持続可能な開発」に向けて(2)（資金メカニズム、アジアの環境政策・開発協力、RIO+20） 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト；栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』（有斐閣、2012 年）/参考文献；諸富徹ほか『環境経済学講義』（有斐閣、2008 年）小宮山宏ほか『サスティナビリティー学』（東大出版会、2011 年)OECD *Sustainable Development* (2008)など	授業への貢献と授業中の小テスト（40%）・定期試験（60%

13年度以降	専門英語a（自動車産業等の企業経営）	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスに関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とします。 経営や経済に関する最新の記事や論文を用いて、その内容を把握していきます。その際、経営や経済で用いられる英語の専門用語を覚えていき、社会に出てからも活用できるようにします。したがって、将来、ビジネスマンとしての英語の素養を身につけることができます。 教材には、最新版の「Harvard Business Review」、「Forbes」、「The Economist」、「Fortune」等の雑誌を使います。授業ではプリントを前もって配布しますので、予習をしてくることが前提となります。	1．講義の概要 2．Harvard Business Review ① 3．Harvard Business Review ② 4．Harvard Business Review ③ 5．The Economist ① 6．The Economist ② 7．The Economist ③ 8．Forbes ① 9．Forbes ② 10. The Economist ④ 11. Forbes ③ 12. Fortune ① 13. Fortune ② 14. Fortune ③ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	期末試験と受講態度により総合的に評価する。

13年度以降	専門英語b（自動車産業等の企業経営）	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスに関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とします。 専門英語aで使う記事や論文よりも、少しレベルアップした経営や経済に関する記事や論文を用いて、その内容を把握していきます。その際、経営や経済で用いられる英語の専門用語を覚えていき、社会に出てからも活用できるようにします。したがって、将来、ビジネスマンとしての英語の素養を身につけることができます。 教材には、最新版の「Harvard Business Review」、「Forbes」、「The Economist」、「Fortune」等の雑誌を使います。授業ではプリントを前もって配布しますので、予習をしてくることが前提となります。	1．講義の概要 2．Harvard Business Review ① 3．Harvard Business Review ② 4．Harvard Business Review ③ 5．The Economist ① 6．The Economist ② 7．The Economist ③ 8．Forbes ① 9．Forbes ② 10. The Economist ④ 11. Forbes ③ 12. Fortune ① 13. Fortune ② 14. Fortune ③ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	期末試験と受講態度により総合的に評価する。

13 年度以降	専門英語 a（環境・資源経済学）	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
環境・エネルギー問題や環境経済学・資源経済学にかかわる英語文献や英文記事などを中心的題材として，現代の資源・環境問題とその対策に関し，学術的アプローチを通して学習する。学生自身による訳出と内容把握に重点を置く。履修学生は毎回英和辞典を持ってくること。	１．　ガイダンス ２．　英文訳出と解説　資源・環境問題（1） ３．　英文訳出と解説　資源・環境問題（2） ４．　英文訳出と解説　資源・環境問題（3） ５．　英文訳出と解説　資源・環境問題（4） ６．　英文訳出と解説　資源・環境問題（5） ７．　英文訳出と解説　資源・環境問題（6） ８．　英文訳出と解説　資源・環境問題（7） ９．　英文訳出と解説　資源・環境問題（8） １０．　英文訳出と解説　資源・環境問題（9） １１．　英文訳出と解説　資源・環境問題（１０） １２．　英文訳出と解説　資源・環境問題（１１） １３．　英文の訳出と要約　資源・環境問題（１２） １４．　英文の訳出と要約　資源・環境問題（１３） １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中でプリントを配布する。	レポート課題によって評価する。

13 年度以降	専門英語 b（環境・資源経済学）	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
環境・エネルギー問題や環境経済学・資源経済学にかかわる英語文献や英文記事などを中心的題材として，現代の資源・環境問題とその対策に関し，学術的アプローチを通して学習する。学生自身による訳出と内容把握に重点を置く。履修学生は毎回英和辞典を持ってくること。	１．　ガイダンス ２．　英文訳出と解説　資源・環境問題（1） ３．　英文訳出と解説　資源・環境問題（2） ４．　英文訳出と解説　資源・環境問題（3） ５．　英文訳出と解説　資源・環境問題（4） ６．　英文訳出と解説　資源・環境問題（5） ７．　英文訳出と解説　資源・環境問題（6） ８．　英文訳出と解説　資源・環境問題（7） ９．　英文訳出と解説　資源・環境問題（8） １０．　英文訳出と解説　資源・環境問題（9） １１．　英文訳出と解説　資源・環境問題（１０） １２．　英文訳出と解説　資源・環境問題（１１） １３．　英文の訳出と要約　資源・環境問題（１２） １４．　英文の訳出と要約　資源・環境問題（１３） １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中でプリントを配布する。	レポート課題によって評価する。

13年度以降	専門英語 a（経済成長戦略の新潮流）	担当者	中藤　泉

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、経済社会の国際化に対応し、専門用語の知識の取得に努めるとともに、英語を通じて、経済社会（個人、企業、政府）の現実の姿や経済社会の直面する様々なテーマについて、ペーパーを共に読み、理解を進めていくことにより、グローバル人材の育成に資することとする。 具体的には、ペーパーについては、政府機関の報告書や白書（月例経済報告、ものづく白書、情報通信白書、通商白書、経済財政白書など）を取り上げる。一連の授業により、政府発表の各種文書を英文で読めるようになることを目指す。	・初回は講義の概要・進め方についてガイダンス ・2回目以降は、あらかじめペーパーを配布し、配布されたペーパーに沿って、授業を行う。 ・取り上げるテーマについては、できるだけ多くのテーマを取り上げる予定であるが、授業参加者の関心分野にも配慮して決める。 ・文章の読み解きだけでなく、図表についても解説を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・2回目以降は、あらかじめレジメを配布 ・参考文献については、適宜授業で紹介	平常の授業への参加度、及び課題レポート（途中段階で1回実施）と期末レポートにより評価する。

13年度以降	専門英語 b（経済成長戦略の新潮流）	担当者	中藤　泉

講義目的、講義概要	授業計画
・専門英語a に続き、ペーパーを読み進める。 ・政府機関に加え、国際機関（IMF、ADB、WTO、COP など）の報告書もテーマに加えることにより、国際的の経済情勢や貿易協議、環境問題等地球規模の課題への取り組みなどを視野に、読み取り能力の向上を目指す。	・初回は講義の概要・進め方についてガイダンス ・2回目以降は、あらかじめペーパーを配布し、配布されたペーパーに沿って、授業を行う。 ・取り上げるテーマについては、できるだけ多くのテーマを取り上げる予定であるが、授業参加者の関心分野にも配慮して決める。 ・文章の読み解きだけでなく、図表についても解説を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・2回目以降は、あらかじめレジメを配布 ・参考文献については、適宜授業で紹介	平常の授業への参加度、及び課題レポート（途中段階で1回実施）と期末レポートにより評価する。

13 年度以降	専門英語 a（経済・経営史）	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 本講義の目的は、経済・経営史に関する下記の著作を講読し、将来にわたり独力で経済・経営書を読み解いていけるだけの英語力を培うことにある。またこの読解作業を通じ、イギリスやアメリカ、ドイツや日本、そして中国における現代的なビジネスの発展・進化の歴史を英語で学ぶと共に、それらの背景にあった政治・経済・文化への理解を深めてもらいたい。 受講者への要望 毎回しっかり――少なくとも 2・3 時間は――予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨むこと。	第 1 回　講義の概説および小テスト 第 2 回～14 回 左記の講義概要に沿って、テキストの序章および第 1 章を読み進めていく。 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、出席者全員に訳出してもらう。 不定期に復習の小テストを行う予定である。 第 15 回　実力テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mansel G. Blackford. *The Rise of Modern Business: Great Britain, the United States, Germany, Japan, and China*; Univ. of North Carolina Press, 2008.	授業への参加度や態度、予習の程度や訳文の出来、不定期に行う小テストおよび期末テスト。

13 年度以降	専門英語 b（経済・経営史）	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 本講義の目的は、経済・経営史に関する下記の著作を講読し、将来にわたり独力で経済・経営書を読み解いていけるだけの英語力を培うことにある。またこの読解作業を通じ、イギリスやアメリカ、ドイツや日本、そして中国における現代的なビジネスの発展・進化の歴史を英語で学ぶと共に、それらの背景にあった政治・経済・文化への理解を深めてもらいたい。 受講者への要望 毎回しっかり――少なくとも 2・3 時間は――予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨むこと。	第 1 回～14 回 左記の講義概要に沿って、テキストの第 1 章および第 2 章を読み進めていく。 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、出席者全員に訳出してもらう。 不定期に復習の小テストを行う予定である。 第 15 回　実力テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mansel G. Blackford. *The Rise of Modern Business: Great Britain, the United States, Germany, Japan, and China*; Univ. of North Carolina Press, 2008.	授業への参加度や態度、予習の程度や訳文の出来、不定期に行う小テストおよび期末テスト

13 年度以降	専門英語 a（持続可能な開発）	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
レポート、ゼミ論、卒業論文などを作成するときには、先行研究の文献研究が欠かせません。その際に、専門英語の読解力がなければ、英字新聞記事、学術論文、著書など英文文献を参照することができません。 そこで、この授業では「持続可能な開発」をテーマにしたテキストを取り上げて、専門分野の語彙力を身に付けながら英文の読み方を学ぶとともに、そのテーマについて考えていきます。 世界銀行 Web Site を参照して関連文献を参照したり、新しいデータを入手しながら、貧困撲滅、貿易や開発と環境を両立させる持続可能な開発について考えていきたいと思いますので、内容に興味のある方に履修をお勧めします。 授業の進め方は次のとおりです。あらかじめ報告者を決めてテキストから読み解く質問を提示します。その質問に解答できるように、報告レジュメを作成して、報告してもらいます。質問の答えを探すことで、英文文献から必要な情報を取り出すことを意識した多読を目指します。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、4 回以上の欠席で不可としますのでご注意ください。	1. ガイダンスと次週の報告分担 2～15. 以下の章から抜粋して読んでいきます。 “1. What is development?” “2. Comparing Levels of Development” “3. World Population Growth” “4. Economic Growth Rates” “5. Income Inequality” “6. Poverty and Hunger” “7. Education” “8. Health and Longevity” Full Text は、世界銀行の DEP(Development Education Program) Web Site からダウンロードできます。 http://www.worldbank.org/depweb/english/beyond/global/beg-en.html
テキスト、参考文献	**評価方法**
Soubbotina, Tatyana P., *Beyond Economic Growth: An Introduction To Sustainable Development, Second Edition.* World Bank, 2004.	基本的には試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明します)に照らして評価します。それに、授業への貢献度を加味して評価します。

13 年度以降	専門英語 b（持続可能な開発）	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
レポート、ゼミ論、卒業論文などを作成するときには、先行研究の文献研究が欠かせません。その際に、専門英語の読解力がなければ、英字新聞記事、学術論文、著書など英文文献を参照することができません。 そこで、この授業では「持続可能な開発」をテーマにしたテキストを取り上げて、専門分野の語彙力を身に付けながら英文の読み方を学ぶとともに、そのテーマについて考えていきます。 世界銀行 Web Site を参照して関連文献を参照したり、新しいデータを入手しながら、貧困撲滅、貿易や開発と環境を両立させる持続可能な開発について考えていきたいと思いますので、内容に興味のある方に履修をお勧めします。 授業の進め方は次のとおりです。あらかじめ報告者を決めてテキストから読み解く質問を提示します。その質問に解答できるように、報告レジュメを作成して、報告してもらいます。質問の答えを探すことで、英文文献から必要な情報を取り出すことを意識した多読を目指します。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、4 回以上の欠席で不可としますのでご注意ください。	1. ガイダンスと次週の報告分担 2～15. 以下の章から抜粋して読んでいきます。 “9. Industrialization and Postindustrialization” “10. Urban Air Pollution” “11. Public and Private Enterprises: Finding the Right Mix” “12. Globalization: International Trade and Migration” “13. Globalization: Foreign Investment and Foreign Aid” “14. The Risk of Global Climate Change” “15. Composite Indicators of Development” “16. Indicators of Development Sustainability” “17. Development Goals and Strategies” Full Text は、世界銀行の DEP(Development Education Program) Web Site からダウンロードできます。 http://www.worldbank.org/depweb/english/beyond/global/beg-en.html
テキスト、参考文献	**評価方法**
Soubbotina, Tatyana P., *Beyond Economic Growth: An Introduction To Sustainable Development, Second Edition.* World Bank, 2004.	基本的には試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明します)に照らして評価します。それに、授業への貢献度を加味して評価します。

13 年度以降	専門英語 a (環境と会計)	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、会計学と社会的課題（雇用問題、地球環境問題、企業の不祥事、企業のリスク、企業の社会的責任など）をテーマにした英文の専門書を読むことで、語学力に磨きをかけるとともに、国や地域によっての捉え方や取り組みの違いを理解することにある。 講義では、受講者にプリントを事前に配布し、分担して翻訳してもらう。そのうえで、専門用語の解説やディスカッションを通じてより深い理解を図る。	以下の文献を使用して講義を進めていく。 1～3　CSR guideline Ⅰ 4～6　CSR guidelineⅡ 7～9　EU white paper, green paper 10～12　Stakeholder concept 13～15　IPCC fifth Assessment Report
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、資料を配布する。	講義への参加度を重視し、発表、討論、期末テストなどを総合して評価する。

13 年度以降	専門英語 b (環境と会計)	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、会計学と社会的課題（雇用問題、地球環境問題、企業の不祥事、企業のリスク、企業の社会的責任など）をテーマにした英文の専門書を読むことで、語学力に磨きをかけるとともに、国や地域によっての捉え方や取り組みの違いを理解することにある。 講義では、受講者にプリントを事前に配布し、分担して翻訳してもらう。そのうえで、専門用語の解説やディスカッションを通じてより深い理解を図る。	以下の文献を使用して講義を進めていく。 1～3　Accounting concept Ⅰ 4～6　Accounting conceptⅡ 7～9　Accounting for Environmental 10～12　Environmental Report, Sustainability Report 13～15　IRRC framework
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、資料を配布する。	講義への参加度を重視し、発表、討論、期末テストなどを総合して評価する。

13年度以降	専門英語a（経済学）	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は、努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習と復習を十分に行うことが大切である。英語の学習に一番必要なのは**忍耐力**である。遅刻をしないで毎回全力で頑張ろう。	受講者のレベルを考慮しながら講義中に述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の受講態度と努力を重視する。さらに期末の 試験(プリント持ち込み可)を幾分加味して評価する。

13年度以降	専門英語b（経済学）	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は、努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習と復習を十分に行うことが大切である。英語の学習に一番必要なのは**忍耐力**である。遅刻をしないで毎回全力で頑張ろう。	受講者のレベルを考えながら講義中に述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の受講態度と努力を重視する。さらに期末の 試験(プリント持ち込み可)を幾分加味して評価する。

13年度以降	専門英語a（国際資源開発学）	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、社会科学、特に経済学における分析方法論について、論じた英文論文をえらび、内容を和訳するとともに、その理解能力と応用能力を高めることを目的とする。 各学生に担当部分を正確に訳させたうえで、その論点を整理させ、その応用方法について、幅広い視点から議論させる。	１．講義の概要 ２．取り上げる英語論文の内容説明と割り当て ３．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ４．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ５．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ６．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ７．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ８．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ９．前半部分の内容を通しての議論とまとめ １０．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １１．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １２．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １３．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １４．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布する。	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13年度以降	専門英語b（国際資源開発学）	担当者	加賀爪　優

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、社会科学、特に経済学における分析方法とその適用結果の考察について、論じた英文論文をえらび、内容を和訳するとともに、その理解能力と応用能力を高めることを目的とする。 各学生に担当部分を正確に訳させたうえで、その論点を整理させ、その応用方法について、幅広い視点から議論させる。	１．講義の概要 ２．取り上げる英語論文の内容説明と割り当て ３．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ４．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ５．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ６．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ７．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ８．担当部分の英文内容の訳とその応用方法について議論 ９．前半部分の内容を通しての議論とまとめ １０．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １１．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １２．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １３．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １４．担当部分の内容の訳とその応用方法について議論 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布する。	期末試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	専門英語 a（開発経済学）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、開発経済学に関する文献や専門家による優れた動画を通して、英文を批判的に読みこなす力（クリティカル・リーディング）を涵養することを目的としています。グループワークを組み合わせた、アウトプット志向の授業です。履修者からリクエストがあれば、授業内容の改善に可能な範囲で対応します。 春学期では、論理、プレゼン、ディベートの基礎を再確認します。アフリカとインドについて異なる主張が展開されている動画をTEDから選び、ディスカッションをします。加えて、英語と日本語のtranscript（原稿）を比較して、より良い和訳を考えます。動画は、授業前に各自視聴して下さい（所謂反転学習）。自分で文献を調べないと、次第に取り残されるので注意のこと。発言が少ない学生は、単位取得が難しくなります。 テキスト輪読のパートでは、開発経済学のトピックスを取り上げて、ディスカッションをします。 春学期の最後に、自分達で設定したテーマについて、グループ毎にプレゼンをします。	1. 講義の目的、成績評価、英語力チェック等 2. 論理の基本（1） 3. 論理の基本（2） 4. プレゼンテーションの基礎 *The Presentation Secrets of Steve Jobs* 使用 5. ディベートの基礎 6. Dambisa Moyo: Is China the new idol for emerging economies? 7. Yasheng Huang: Does democracy stifle economic growth? 8. Nirmalya Kumar: India's invisible innovation 9. Euvin Naidoo: Why invest in Africa 10. Paul Collier: The "bottom billion" 11. テキスト輪読&ディスカッション 12. テキスト輪読&ディスカッション 13. テキスト輪読&ディスカッション 14-15. 学生によるプレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは教員より配布。参考文献として、Giorgio Secondi ed.(2008). *The Development Economic Reader* を使用する予定。	批評＆アイデア（40%）、知的かつ適切なアウトプット（20%）、学期末の確認テスト（40%）

13 年度以降	専門英語 b（開発経済学）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、開発経済学に関する文献や専門家による優れた動画を通して、英文を批判的に読みこなす力（クリティカル・リーディング）を涵養することを目的としています。グループワークを組み合わせた、アウトプット志向の授業です。履修者からリクエストがあれば、授業内容の改善に可能な範囲で対応します。 秋学期は、開発とイノベーション＆アイデアに関する動画をTEDなどから選び、ディスカッションをします。加えて、英語と日本語のtranscript（原稿）を比較して、より良い和訳を考えます。動画は、授業前に各自視聴して下さい（所謂反転学習）。自分で文献を調べないと、次第に取り残されるので注意のこと。発言が少ない学生は、単位取得が難しくなります。 学期の中頃には、Mey JayやTine Seeligの議論に触れ、アイデアを計画に落とし込む方法を学びます。 テキスト輪読では、開発経済学のトピックスについて、ディスカッションをします。 秋学期の最後に、自分達で設定したテーマについて、グループ毎にプレゼンをします。	1. 春学期の振り返り 2. Alex Tabarrok: How ideas trump crises 3. Charles Leadbeater: The era of open innovation 4. Robert Gordon: The death of innovation, the end of growth 5. Meg Jay: Why 30 is not the new 20 6. Tina Seelig (2009). *What I Wish I Knew When I Was 20* より抜粋。 7. Ngozi Okonjo-Iweala: Want to help Africa?　Do business here 8. Jacqueline Novogratz: Patient Capitalism 9. Hans Rosling: New insights on poverty 10. 学生によるプレゼンテーション 11. テキスト輪読&ディスカッション 12. テキスト輪読&ディスカッション 13. テキスト輪読&ディスカッション 14-15. 学生によるプレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは教員より配布。参考文献として、Giorgio Secondi ed.(2008). *The Development Economic Reader* を使用する予定。	批評＆アイデア（40%）、知的かつ適切なアウトプット（20%）、学期末の確認テスト（40%）

13 年度以降	上級ミクロ経済学 a	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学の応用科目である。ミクロ経済学の理解を深め、不確実な事象と絡んだ現実的な問題を考えられるように一から学習する。 ＜講義の目的＞ 市場の失敗の 1 つである不完備市場について理解を深める。上級ミクロ経済学 a では、さまざまなリスクがある場合に、どのように対処すると状態が改善できるかをいくつかの典型例に基づいて考察する。 ＜講義の方針＞ 講義では各トピック毎に具体例を扱い、現実の経済的な問題を経済理論でどのように考えられるのかを学習する。関連した講義としては公共経済学 a,b とゲーム理論 a,b がある。	1. イントロ：ミクロの復習 2. 内点解と端点解 3. 2 期間モデル：貯蓄の決定と消費平準化行動 4. 借入れ制約(1) 5. 確率変数と期待値 6. リスクへの態度と期待効用関数 7. 個体のリスクと全体のリスク 8. 個体のリスク(1)：保険 9. 個体のリスク(2)：宝くじ 10. 個体のリスク(3)：リスクプレミアム 11. 全体のリスク(1)：完備市場と状態依存型債券 12. 全体のリスク(2)：課税平準化とﾌﾟﾗｲﾏﾙ･ｱﾌﾟﾛｰﾁ 13. 全体のリスク(3)：満期構成の異なる債券での対応 14. 全体のリスク(4)：リスクのない債券での対応 15. 借入れ制約(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『ミクロ経済学の力』神取道宏　日本評論社 『ミクロ経済学』林貴志　ミネルヴァ書房	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト受験(20%)、期末試験(40%)とする。

13 年度以降	上級ミクロ経済学 b	担当者	高畑　純一郎

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学の応用科目である。ミクロ経済学の理解を深め、情報の非対称性の問題と絡んだ現実的な問題を考えられるように一から学習する。 ＜講義の目的＞ 消費者理論と、市場の失敗の 1 つである不完備情報について理解を深める。上級ミクロ経済学 b では、個別物品税の望ましい課税方法と、さまざまな非対称情報の問題がある場合に、どのように対処すると状態が改善できるかを、具体的な事例に即して考察する。 ＜講義の方針＞ 講義では各トピック毎に具体例を扱い、現実の経済的な問題を経済理論でどのように考えられるのかを学習する。関連した講義としては公共経済学 a,b とゲーム理論 a,b がある。	1. イントロ：効用最大化と間接効用関数 2. マーシャルの需要関数と補償需要関数 3. 補償変分と等価変分 4. マッケンジーの補題とロワの恒等式 5. ラムゼイ・ルール：最適個別物品税とﾃﾞｭｱﾙ･ｱﾌﾟﾛｰﾁ 6. 情報の非対称性：逆選択とモラルハザード 7. 逆選択(1)：中古車市場 8. 逆選択(2)：シグナリング 9. 逆選択(3)：社会保険制度の役割 10. 逆選択(4)：子育て支援政策 11. 逆選択(5)：最適非線形所得税の考え方 12. モラルハザード(1)：保険とインセンティブ 13. モラルハザード(2)：プリンシパル・エージェント 14. モラルハザード(3)：地方自治体の行動 15. モラルハザード(4)：公的年金制度と出生率の関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業ではテキストは使用しない。参考書として以下を挙げておく； 『ミクロ経済学の力』神取道宏　日本評論社 『ミクロ経済学』林貴志　ミネルヴァ書房	評価の割合は、課題提出(40%)、小テスト受験(20%)、期末試験(40%)とする。

13年度以降	社会経済史a	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1）　東大寺を再建した男 （2）　重源の時代 （3）　信仰と経済	①　炎上する東大寺 ②　誰の力に頼るか ③　重源の業績 ④　木材をどこから運ぶか ⑤　出現した大群衆 ⑥　雨を突いて伊勢へ ⑦　重源の記憶 ⑧　法然と重源 ⑨　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ⑪　源平合戦の余燼 ⑫　聖の社会事業 ⑬　新しい経済社会の出現 ⑭　後生の約束 ⑮　「荘園」外の経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHKブックス)、新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)	試験成績(100%)による。

13年度以降	社会経済史b	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1）　戦乱の中の伊賀 （2）　自立する村 （3）　戦国のコンミューン	①　伊賀国の南北朝内乱 ②　錯綜する地侍の行動 ③　大規模な合戦は続けられない ④　国人領主の出現 ⑤　自立する村 ⑥　南都への志向 ⑦　悪党たち、起請文を提出 ⑧　タテの力とヨコの力 ⑨　惣国のコンミューン ⑩　内部の規律と「平和」 ⑪　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫　崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬　兵農分離と石高制 ⑭　中世民衆の共同体をどうみるか ⑮　荘園史のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHKブックス)、新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)	試験成績(100%)による。

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論 a 特殊講義 a（地球環境論）	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
人間活動を支える自然環境について、自然そのものにある短期、長期、そして広域、局域での変動の様相をとその機構についての基礎知識を得てもらいます。特に気候システムの重要な要素の一つでありかつ人間社会そして生態系にとって重要な水循環の実態とその変動機構について講義します。 地球の歴史から始まり、地球の大気海洋の構造について講義する。次に人間の住む地球の特異性のもとになる水の存在とその循環について述べる。そしてより具体的かつ身近な気象として日本の気象・気候について説明します。	1.　講義概要 2.　地球環境の形成　－宇宙と地球、地球の歴史－ 3.　気候変化と人間の歴史 4.　地球大気の構造 5.　大気の質と人間活動 6.　海洋の構造と汚染問題 7.　アジアモンスーンの自然と人 8.　水の利用 9.　砂漠化問題 10.　地球温暖化への対処（1） 11.　地球温暖化への対処（2） 12.　エネルギー論 13.　オゾンホール（1）－そのメカニズム－ 14.　オゾンホール（2）－その対処－ 15.　天変地異とリスク管理
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。	参加状況（毎回小問題をやってもらいます：30%）と試験（70%）で評価します。

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論 b 特殊講義 b（地球環境論）	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
地球環境の実態とオゾンホールや地球温暖化に現れる人為的気候改変の実態を基礎として地球が有限であることを理解してもらいます。さらに現在の結果がどのような研究から得られているかを理解し、批判的に考える基礎を身につけてもらいます。 実例として土地利用、オゾンホール、地球温暖化について説明します。地球温暖化懐疑論についても述べます。 また地球規模での観測の主力となっている衛星観測について説明し、地球規模での環境の監視の実態について理解してもらいます。	1.　講義概要 2.　地球環境の形成 3.　地球環境の形成 4.　植生と陸面過程　－植生分布、気温、降水量－ 5.　公害と地球環境問題 6.　地球環境問題　－森林減少と砂漠化－ 7.　水問題 8.　大気の質 9.　オゾンホール　－歴史と大気化学－ 10.　オゾンホール　－フロン排出規制－ 11.　地球温暖化　－温暖化の基本と温室効果ガス－ 12.　地球温暖化　－実測と予測、IPCC の活動－ 13.　地球温暖化　－炭酸ガス要因懐疑論、気候エンジニアリング－ 14.　化学物質問題 15..　複雑系としての地球環境　－複雑系とは－
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。	参加状況（毎回小問題をやってもらいます：30%）と試験（70%）で評価します。

13年度以降	資源・エネルギー経済論 a	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
我々人類はこの２１世紀において、地球環境問題に直面し、そして国際社会の持続可能な発展のために、将来に亘って安全で、安定的かつ効率的に供給可能な資源・エネルギーの選択を迫られている。このような状況を踏まえて、資源・エネルギーを経済的に考察し、更に地球環境・国際社会との関連性についても理解と解析する能力を養うことを目的とする。 本講義では、我々の生活と産業の基盤である資源・エネルギーとは何かに論点を置いて、その分類、資源量、コスト、国内外の利用形態・需給事情等について紹介し、基礎的な知識の習得を図る。また、薪炭から石炭、石油、ウラン（原子力）などへのエネルギー資源の変遷や環境配慮型の再生可能エネルギーなどについて検討し、枯渇性資源の環境への影響にも言及する。	1. オリエンテーション：授業概要等の説明 2. 資源・エネルギーとは何か？ 3. 資源とエネルギー資源との相違 4. エネルギー資源等の分類 5. エネルギー資源等の資源量 6. エネルギー資源等のコスト・国内外の利用形態 7. エネルギー資源の変遷 8. エネルギー資源の国内事情（需要と供給等） 9. エネルギー資源の海外事情（需要と供給等） 10. エネルギー利用と地球環境問題 11. エネルギー利用と環境技術・経済 12. 再生可能エネルギーの環境配慮と経済 13. 枯渇性資源と環境・経済 14. 資源・エネルギー経済と国際社会 15. まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験の結果（100%）による。

13年度以降	資源・エネルギー経済論 b	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
我々人類はこの２１世紀において、地球環境問題に直面し、そして国際社会の持続可能な発展のために、将来に亘って安全で、安定的かつ効率的に供給可能な資源・エネルギーの選択を迫られている。このような状況を踏まえて、資源・エネルギーを経済的に考察し、更に地球環境・国際社会との関連性についても理解と解析する能力を養うことを目的とする。 本講義では、資源・エネルギー問題と環境・経済との関係について学習する。資源・エネルギー問題については、国内外の事例を多数紹介すると共に、資源・エネルギーの開発に伴う環境と経済成長、エネルギー資源の選択と配分・市場経済、新エネルギーと社会構造変化・経済予測、さらに、核燃料サイクルと社会的共通資本も含めた経済的側面などについて検討する。	1. オリエンテーション：授業概要等の説明 2. 資源・エネルギー問題各論(1)：薪炭・石炭 3. 資源・エネルギー問題各論(2)：石油・天然ガス等 4. 資源・エネルギー問題各論(3)：原子力 5. 資源・エネルギー問題各論(4)：再生可能エネルギー(I) 6. 資源・エネルギー問題各論(5)：再生可能エネルギー(II) 7. 資源・エネルギー問題各論(6)：省エネルギー 8. 資源・エネルギー問題各論(7)：エネルギー資源以外の主な資源 9. 資源・エネルギー開発と環境・経済成長 10. エネルギー資源の選択と配分 11. エネルギー資源の選択と市場経済 12. 新エネルギーと社会構造変化・経済予測 13. 核燃料サイクルと経済 14. 資源・エネルギー・環境と社会的共通資本 15. まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験の結果（100%）による。

13 年度以降	南アジア経済論 a	担当者	佐藤　慶子

講義目的、講義概要	授業計画
南アジア地域は世界の人口の24%が居住し、GDPでは世界全体の37%を生み出しています。なかでもインドは、GDP、人口、国土面積において、南アジア全体の7割前後を占めています。 南アジアの経済大国であるインドに力点をおき、現在の高度経済成長に至るまでの、開発戦略の変遷と産業発展の特徴を、国際環境の変化を視野に入れながら学びます。講義は次の3部構成です。第1～4回は、南アジア地域およびインド経済に関する、国際経済との比較を含む概説です。第5～11回は、独立以降を中心としたインドの経済政策ならびに農業政策の変遷と経済構造変化を時系列に追って、今後の課題を述べます。第12～14回は、産業と企業経営の視点から経済成長の実態に迫ります。 インドの経済が躍進する上での課題とは？　それは克服されたのでしょうか？　一緒に考えましょう。	1. 南アジア地域の課題 2. 南アジア（インド）経済の入門 3. 国際経済の中のインド経済（中国との比較） 4. インド経済の課題（財政、金融、インフラ） 5. 植民地期から独立期までの経済変動 6. 〈政策〉独立後の重化学工業化と経済政策 7. 〈政策〉経済改革の背景 8. 〈政策〉独立後の農業政策１　農業 9. 〈政策〉独立後の農業政策２　農村改革 10. 〈政策〉経済自由化後の経済 11. まとめ：課題と展望 12. 〈産業〉産業の発展と企業 13. 〈産業〉IT 産業、自動車産業 14. （産業）繊維産業、製薬産業 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布します。以下、本授業の参考文献です。絵所秀紀・佐藤隆広（編）『激動のインド第 3 巻　経済成長のダイナミズム』（日本経済評論社、2014 年）	期末試験（80%）、課題レポート（20%）。

13 年度以降	南アジア経済論 b	担当者	佐藤　慶子

講義目的、講義概要	授業計画
南アジア、なかでもインドの目覚ましい経済成長を下支えし、いまだに多くの人口を抱える農村部の社会構造の変容と地域格差の実態から、産業構造の変化の要因、ひいては経済発展のダイナミズムに迫ります。 まず、格差と貧困の問題に触れます。インドは本当に貧しいと言えるのでしょうか？　この疑問を、農村社会構造に焦点をあてて、現地フィールド調査による最新の研究成果を元に、農村内部の変化を通して考えます。その際、ジェンダーの問題や教育の現状、さらに、貧困削減政策として名高いマイクロファイナンスについても、理解を深めます（第 1～8 回）。 後半は、就業人口の半数以上が従事している農業について考えます。まず、過去 100 年間の農業生産の変容と分岐点に着目し、地域間格差についても、経済的先進州から後進州まで具体的に比較します（第 9～13 回）。第 14 回は、農業と農村に関するまとめです。 インド農村部の人々が、経済成長の波をどのように受け入れ、また、どうやって乗り越えようとしているのか、に思いを馳せてみて下さい。	1. 格差と貧困、不平等 2. ジェンダーと教育制度 3. 〈インド農村部〉農村社会構造の変容 4. 〈インド農村部〉土地改革と階層変動 5. 〈インド農村部〉貧困削減と社会開発 6. 〈インド農村部〉開発行政と農村社会 7. 〈インド農村部〉都市への労働力移動 8. 〈インド農村部〉経済成長と農村市場 9. 農業の概要と農業生産の長期変動 10. 〈インドの地方〉パンジャーブ 11. 〈インドの地方〉タミルナードゥ 12. 〈インドの地方〉ビハール 13. 〈インドの地方〉西ベンガル 14. まとめ：課題と展望 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布します。以下、本授業の参考文献です。柳澤悠・水島司（編）『激動のインド第 4 巻　農業と農村』（日本経済評論社、2014 年）	期末試験（80%）、課題レポート（20%）。

13 年度以降	国際政治学 a	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治学は、他の社会科学および自然科学の知見を取り入れながら、戦争の原因および平和の条件をその中心的課題として、発展してきた学問である。この講義は、複雑化する今日の国際政治事象を体系的に考え、一見アト・ランダムな寄せ集めに見える国際的事件の中に一定のパターンを見出し、分析する力を養うことを目的として、国際政治学の基礎概念や代表的理論を紹介する。	1.　国際政治学とは何か 2.　国際政治の先駆思想 3.　国際政治の歴史 4.　国際政治学の基礎概念（1）集合行為の論理 5.　国際政治学の基礎概念（2）分析のレベル 6.　国際政治学の基礎概念（3）国家とは 7.　国際政治学の基礎概念（4）国際政治の構造と安定性 8.　リアリズムの世界（1）古典的リアリズム 9.　リアリズムの世界（2）構造主義とネオリアリズム 10.　リベラリズムの世界（1）相互依存論 11.　リベラリズムの世界（2）民主主義による平和論 12.　リベラリズムの世界（3）国際制度論 13.　コンストラクティヴィズム、その他の理論 14.　理論と政策 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：適宜紹介する	小テスト：１０％ 宿題：１０％ 中間試験：４０％ 学期末試験：４０％

13 年度以降	国際政治学 b	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治についての体系的なものの見方や主要概念を踏まえたうえで、この講義では、国際政治学と外交史、国際法、経済学、比較政治学、社会学等との学際的接点に注目しながら、今日のさまざまな国際政治事象を詳しく分析する。	1.　国際政治経済学の基礎 2.　国際政治経済学（1）：グローバリゼーションの諸相 3.　国際政治経済学（2）：開発経済学の視点 4.　国際政治経済学（3）地域統合のダイナミクス 5.　国際安全保障論の基礎 6.　国際安全保障論（1）：安全保障概念の変遷 7.　国際安全保障論（2）：安全保障レジーム 8.　国際安全保障論（3）：新しい安全保障問題 9.　今日の課題（1）：環境 10.　今日の課題（2）：人権問題 11.　今日の課題（3）：核拡散 12.　今日の課題（4）：中国の台頭 13.　今日の課題（5）：アメリカと国際社会 14.　国連 15.　世界の中の日本
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：適宜紹介する	小テスト：１０％ 宿題：１０％ 中間試験：４０％ 学期末試験：４０％

13年度以降 12年度以前	リスク・マネジメント論a 特殊講義a（リスク・マネジメント論）	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
リスク（危険）は、個人・企業・国家を取り巻く「最も気になるもの」のうちの最大級のもので、各主体にとって「人生」「環境」「経営」「政治」「戦争」「巨大災害」など、「いつ・どこで・どのように」起きるかは全く不確実な世界の中にあります。 リスクマネジメント（以下ＲＭ）は、1930年代に生成・発展した比較的新しい学問分野です。当初は「企業防衛の科学」として考えられ「保険の派生的存在」（担当者もほとんど保険学者）でした。しかし現在では保険の隣接分野として密接な関係にあり、「リスク」の「管理」と言う形で「経営学」の範疇に入っています。 この講義は「統計学」「経営学」「保険論」とも連携して体系的に学べるように配慮していますので、「単独の科目」として切り離さず、これらの学習の復習（予習）の意味を込めて参加してください。	1 リスクとは　その１（概念・性格・性質） 2 リスクとは　その２（確率分布） 3 リスクとは　その３（定義・分類） 4 リスクの計量化とリスクプレミアム 5 リスクマネジメントとは何か（目的と体系） 6 経営学とリスクマネジメント 7 企業経営におけるリスクマネジメントの位置 8 リスクマネジメントのプロセスの史的展開 9 リスクマネジメントのプロセス 10 保険とリスクに関する研究領域 11 保険とＡＲＴ（Alternative Risk Transfer） 12 金融派生商品の構造と特徴 13 ＥＲＭ（エンタープライズＲＭ　その１） 14 ＥＲＭ（エンタープライズＲＭ　その２） 15 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　田畑康人･岡村国和編『読みながら考える保険論　増補改定版』(八千代出版、2013年)	定期試験により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポートを書いていただくことがあります。

13年度以降 12年度以前	リスク・マネジメント論b 特殊講義b（リスク・マネジメント論）	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
前期で学んだ「リスクの概念」や「リスクマネジメント（ＲＭ）のプロセス」を下敷きにしながら、もう少し発展的・応用的な項目について学びます。 不確実性と利潤の関係を説いたＦ．ナイトを見るまでもなく、企業の死活問題に関わる「経営戦略」はこうした不確実性やリスクとは不可分の関係にあり、ＲＭ無しでは収益獲得のための「戦略」も実行できません。 ＲＭのおおかたは企業経営上の防衛論になりますが、ＢＣＰ(災害後の事業継続計画)等も含まれ、かなり範囲が広いです。それだけ「組織をめぐるリスクの多様性」があると言えます。しかし、近年では経営戦略に従って論積極的にリスクをテイクして収益を得る「ＥＲＭ」が台頭してきています。この分野は「理論」と「ケーススタディ（事例）」の混在が多いため、本題に入る前に事前準備として前期のおさらいをすることもあります。	1 春学期の復習と未履修者への準備 その１ 2 春学期の復習と未履修者への準備 その２ 3 リスク・ファイナンスとは　（類型） 4 リスク・ファイナンスの種類　（資金調達） 5 現代企業におけるリスクマネジメントの役割 6 経営戦略とリスクマネジメント 7 コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメント 8 現代企業経営とＢＣＭ（事業継続管理） 9 ソーシャル・リスクマネジメント 10 家庭生活とリスクマネジメント 11 事例研究１　製造物責任（PL）とＲＭ 12 事例研究２　企業の物的損害とＲＭ 13 事例研究３　家庭のＲＭと社会保障 14 事例研究４　ライフステージ別ＲＭ 15 秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　田畑康人・岡村国和編『読みながら考える保険論　増補改定版』(八千代出版、2013年)	定期試験により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポートを書いていただくことがあります。

13年度以降	プログラミング応用a	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：Javaプログラミング Java言語は、様々な環境のOSや、スマートフォンなどの組み込み機器の上でも動作するため、応用範囲が広い。 本授業では、Java言語の基礎的な概念である、変数・制御構造・オブジェクト指向などを、図形の描画やゲームの作成などを通じて学ぶ。 最終的に、ACM ICPC（大学対抗プログラミングコンテスト）　の予選問題を解ける程度のプログラミング能力を身に付ける。	1　[1-2章] Javaの基本型、オブジェクト 2　[3章] 絵を描く 3　[4章] 繰り返し 4　[5章] アニメーション 5　[6章] クラス 6　[7章-1] 配列 7　[7章-2] Vector 8　[8章] 継承 9　[9章] イベント 10　[10章]　ゲームの作成：プレイヤー・弾 11　[11章] ゲームの作成：敵 12　[12章] ゲームの作成：衝突判定 13　[13章] ゲームの作成：全体の流れ 14　模擬コンテスト 15　模擬コンテスト解説
テキスト、参考文献	**評価方法**
実教出版「初級Java　～やさしいJava」筧　捷彦、　長慎也、飯塚康至	毎回出題する課題の提出状況とその内容により評価する

13年度以降	プログラミング応用b	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：JavaScriptプログラミング JavaScriptは、Javaと似た文法をもちつつ、Webアプリケーションの開発を目的にした言語であるが、最近ではWebサーバやスマートフォンのアプリケーション開発にも用いられており、応用範囲が広い。 また、Webとの親和性があり、Webブラウザのみで作成もでき、作ったコードをすぐに公開したり、他のユーザのコードを改変したりできるサイトも用意されている（http://jsdo.it/等） 本授業では、JavaScript言語の基礎的な概念である、変数・制御構造・オブジェクト指向などを、図形の描画やゲームの作成などを通じて学ぶ。 コードは公開を前提として、一般のユーザから（お気に入り等）の評価をもらうことを目指す。 最終的に、実際のWebアプリケーションで利用されているJavascriptのコードが組める程度のプログラミング能力を身に付ける	1　JavaScript入門 － 絵を描く 2　JavaScriptの変数 3　JavaScriptの繰り返し 4　JavaScriptの関数定義 5　アニメーション 6　マウス・タッチで検知 7　オブジェクト・データをまとめる 8　クラス・　動作をまとめる 9　UI部品の操作 10　ページの動的書き換え 11　文字列操作・検索 12　文字列操作・置換 13　作品制作　・作品構想 14　作品制作 15　作品発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する	毎回出題する課題の提出状況とその内容により評価する

13 年度以降	データマイニング論 a	担当者	松田　源立

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 収集された膨大なデータにひそむ、構造や関係、規則などを発見する手法を学びます。更に、演習・実習を通し、実際のデータを用い自分で分析を行えるようにします。 講義概要： 現在、電子的に扱われるデータの量が急激に増え、データを管理するだけでなく、データから重要な意味を抜き出す（発掘する＝マイニング）ことが重要になってきました。そこで、この授業では、様々なデータマイニング手法を、理論の解説及び演習を通して学びます。演習では、手法の感覚をつかむために、手計算を重視します。 前提知識： 統計学に関する基礎的な知識があることが望ましい。	※ガイダンスには原則として必ず出席すること 第１回： ガイダンス 第２回： データマイニング入門 第３回： 決定木（１） 第４回： 決定木（２） 第５回： 決定木演習 第６回： ルール学習（１） 第７回： ルール学習（２） 第８回： ルール学習演習 第９回： アンサンブル学習 第１０回：クラスタリング（１） 第１１回：クラスタリング（２） 第１２回：サポートベクトルマシン（１） 第１３回：サポートベクトルマシン（２） 第１４回：帰納論理プログラミング 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 「データマイニングの基礎」 元田浩(他) 著 オーム社	定期試験による評価を基本としつつ、講義内の演習課題、授業態度などを総合的に加味して判断する。詳細はガイダンスで説明する。

13 年度以降	データマイニング論 b	担当者	松田　源立

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 収集された膨大なデータにひそむ、構造や関係、規則などを発見する手法を学びます。更に、演習・実習を通し、実際のデータを用い自分で分析を行えるようにします。 講義概要： この授業では、データマイニングツール Weka を利用し、与えられたデータを分析する実習を中心として、データマイニング手法を実践的に学びます。最終的には、インターネットから実際のデータを取得して、総合的な実習を行います。 前提知識： データマイニング論 a を履修済みであること。	※ガイダンスには原則として必ず出席すること 第１回：ガイダンス 第２回：データの前処理・変換（１） 第３回：データの前処理・変換（２） 第４回：知識の精度評価（１） 第５回：知識の精度評価（２） 第６回：データマイニングと知識発見 第７回：データマイニングツール Weka 第８回：決定木実習 第９回：ルール学習実習 第１０回：クラスタリング実習 第１１回：サポートベクトルマシン実習 第１２回：インターネットからのデータ取得実習 第１３回：総合実習（１） 第１４回：総合実習（２） 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 「データマイニングの基礎」 元田浩(他) 著 オーム社	実習課題による評価を基本としつつ、講義内での授業態度などを総合的に加味して判断する。詳細はガイダンスで説明する。

13年度以降	ウェブデザイン論a	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
インターネットが簡単に利用できるようになり、現在ではパソコンだけでなくスマートフォンやタブレット端末で日常的にウェブページを利用している。 このようなウェブページはどのような仕組みでできているのかを理解し、実際に簡単なウェブページを作成してサーバーにアップすることが目的である。そのための基礎知識を身に付けるとともに、様々なアプリケーションを実際に利用して、１つのテーマを決めてウェブページを作成する。 サーバーの概要、HTML、CSS、JavaScriptなどの命令を習得するとともに、デザインするための色の表現、Photoshop、Illustratorなどのアプリケーションの利用方法を学ぶ。	第１回：　インターネットとサーバーの概要 第２回：　HTMLの歴史とHTML5の概要 第３回：　簡単なタグを用いたウェブページ作成 第４回：　リンクのあるウウェブページ作成 第５回：　CSSの概要 第６回：　CSSによるデザイン 第７回：　CSSを活用したウェブページ作成 第８回：　Photoshopによる画像作成とデザイン 第９回：　Photoshopによる写真加工とデザイン 第10回：総合的なウェブページ作成 第11回：JavaScript概要 第12回：動きのあるウェブページ作成 第13回：インタラクティブなウェブページ作成 第14回：自動的に変化するウェブページ作成 第15回：デザインを考慮した総合的ウェブページ作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
エビスコム著：HTML5&CSS3デザインブック	試験　５０％ レポート　５０％

13年度以降	ウェブデザイン論b	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で学んだ基礎知識を基本に、よりよいウェブページを作成するにはどのようにすればよいかを理解するとともに、実際に利用しやすいウェブページはどのようにデザインすればよいかを講義する。 インタラクティブなウェブページを作成する場合、どのような命令が必要であるかを学び、必要に応じたデザインはどのようにすればよいか習得することを目的とする。 　サーバーの構築方法、PHP、MySQLなどの命令を習得するとともに、デザインするための Photoshop、Illustrator、Shadeなどのアプリケーションの利用方法、動きのあるページを作成するためのFlash、Premirerなどの利用方法を学ぶ。	第１回：　クライアントとサーバー 第２回：　Flashの概要 第３回：　Flashを用いたウェブページ作成 第４回：　バナー広告などのデザイン 第５回：　Premiereの概要 第６回：　映像編集 第７回：　Premiereを用いたウェブページ作成 第８回：　３D概要とShade 第９回：　３Dを用いたウェブページ作成 第10回：PHPの概要 第11回：PHPプログラミング 第12回：PHPを利用したウェブページ作成 第13回：MySQLの概要 第14回：PHPとMySQLを用いたウェブページ作成 第15回：複雑なウェブページ作成
テキスト、参考文献	**第２回：Flashの概要**
佐々木智也他（著）：現場のプロが教えるWebデザイン&レイアウトの最新常識 知らないと困るWebデザインの新ルール3、ＭＳＤ社	試験　５０％ レポート　５０％

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降	情報メディア論	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】インターネット、そしてその上で展開されたさまざまなサービス（メールやウェブ、あるいは昨今の SNS など）によって、大量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積されたりしてきた。電子的な通信メディアや記録メディアによって世界中の人々がコミュニケーションを行っているのである。しかし、情報を媒介するものは電子的なものに限らない。たとえば従来の図書や雑誌といった印刷メディアは簡単に思いつくことができるが、そのほかにどのようなメディアが存在するのだろうか。この授業では情報の「乗り物」であるメディアの体系を理解することを目的とする。また、情報の発信、収集、交換といったメディアの利活用についても関連するトピック（学校教育／図書館など）とともに学習する。 【概要】はじめに、現在までのメディアの発達と変化について検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また，メディアの分類およびそれぞれの特性について学習し、目的や状況（例：学校教育／図書館）に応じてどのようなメディアを選択すべきかを考察する。次に、情報の発信、収集、交換という３つの情報利用行動をとりあげ、それぞれの具体的なあり方を実際のメディアを用いた演習を通して理解する。そして、メディアの取り扱いについて注意すべき点を、有害性／安全性や著作権との関わりから議論し、最後に授業全体のまとめを行う。	1. 講義の概要 2. メディアの種類；高度情報社会；学校教育 3. メディアとコンピュータネットワーク 4. メディアによる情報の発信（1）ウェブの標準技術(HTTP、URI、HTML)を例として 5. メディアによる情報の発信（2）ハイパーテキスト再考 6. メディアによる情報の交換：コミュニケーションの場としてのインターネット 7. 前半のまとめ:メディアを利用した情報の発信と交換、質疑応答 8. データベースと情報検索（1）：情報収集の例として 9. データベースと情報検索（2）：簡単な検索式の作成 10. インターネットにおける情報の検索 11. 獨協大学図書館を通じて利用できる多様なデータベース；教育／学習への応用 12. 情報検索以外の情報収集：SNS、RSS など 13. 取り扱いに注意すべき情報：有害情報、個人情報 14. メディアと著作権（学校教育関連事項を含む） 15. まとめ：これからのメディアの利活用；質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。	期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。

13年度以降	地域調査論	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地域調査は、地理学や社会学、地域経済学等の実証的学問における基本的な研究手法であるとともに、地域の諸問題に実践的に取り組むためには不可欠なプロセスであるといえる。本講義では、地理学を基盤とした地域調査の方法について具体的・体験的に習得することを目的とする。 実際の地域を対象として、文献資料調査（文献資料の収集と分析、統計資料の活用、空中写真の判読、地形図の読図）および現地調査（観察、インタビュー、測定）を行っていく。 現地調査は夏季休業中に実施する。現地調査に参加できないものは履修不可。 詳細は第1回授業で説明する。	第１回：オリエンテーション 第２回：地域の選定 第３回：文献資料の収集 第４回：文献資料の分析 第５回：統計資料の活用 第６回：統計処理 第７回：地図と空中写真の入手 第８回：地図と空中写真の読解 第９回：現地調査の準備 第１０回：現地調査（１）地域の概観（観察） 第１１回：現地調査（２）自然環境の把握（測定） 第１２回：現地調査（３）土地利用図の作成―第１次産業 第１３回：現地調査（４）土地利用図の作成―第２次産業・第３次産業 第１４回：現地調査（５）聞き取り調査・アンケート調査 第１５回：まとめとレポートの作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する	課題及びレポート

（秋） （秋）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降	地理情報システム論	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理情報システムとは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を統合的に管理・加工、分析し、視覚的表現する技術である。講義では GIS の基本原理の理解と基礎的な技能を身につけることを目的とする。　GIS の原理と活用事例について解説したのちに、実際の空間データを用いて地図表現（標高図、地形断面図の作成、分布図の作成、統計地図の作成）、地域分析（オーバーレイ、バッファリング、ボロノイ分割）に関する講義と実習を行う。	第１回：オリエンテーション 第２回：GIS の原理 第３回：GIS の活用事例 第４回：GIS の活用　講義と実習（１）　地理空間データの構造（ラスターデータとベクターデータ） 第５回：GIS の活用　講義と実習（２）　DEM の活用 第６回：GIS の活用　講義と実習（３）　地形の表現-段彩図 第７回：GIS の活用　講義と実習（４）　地形の表現-断面図 第８回：GIS の活用　講義と実習（５）　気候データ（アメダスデータの活用） 第９回：GIS の活用　講義と実習（６）　統計データの処理 第１０回：GIS の活用　講義と実習（７）　統計データの表現 第１１回：GIS の活用　講義と実習（８）　ジオコーディング 第１２回：GIS の活用　講義と実習（９）　分布図の作成 第１３回：GIS の活用　講義と実習（１０）　バッファー分析・ボロノイ分割 第１４回：GIS の活用　講義と実習（１１）　オーバーレイ 第１５回：まとめとレポートの作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する	課題及びレポート

13 年度以降	Introductory Lectures	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
This class will introduce the overview, theoretical framework and empirical results on the economic development, assistance, growth and policies. The first part of this class will discuss the economic growth of the world and Japan from historical perspectives, which also includes theories and empirical studies. The second part will discuss the developing countries and assistance. It will overview the developing countries and the selected models of economic development, and examines theories and empirical works on official development assistance. Macroeconomic and financial consequences of aging in East Asia will also be discussed. The lectures and discussions in this class will be conducted in English. この科目は、経済開発・援助・成長及び政策について、その理論や実証結果を英語で紹介します。履修者の英語力に応じ、適宜日本語での解説を加えます。	1. Introduction (My CV on Economic Policies) 2. History of World Economy (Millennium and global perspective; Demography) 3. History of Japanese Economy (Edo, Meiji and Modern economic growth) 4.Economic Growth (1) (Theory and Empirical Results) 5.Economic Growth (2) (Japanese experience; from growth to lost decades) 6. Economic Growth (3) (Why did Japan stop growing?) 7. What are the Developing countries?:(Overview) 8. Comparative Economic Development 9. Economic Growth and Development (Selected Models) 10. Capital Flows and Development Assistance 11.Effective Development Assistance (1) 12. Effective Development Assistance (2) 13. Aging in East Asia (1) (Growth and Saving) 14. Aging in East Asia (2) (Pension / Financial Market) 15. Summery and Further Discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回の講義で講義内容の PPT を配布します。（参考文献）Ito, *The Japanese Economy*(1992) /Maddison *The World Economy*(2006)/ Todaro・ Smith *Economic Development* (2011) / 木原『援助ドナーの経済学』（2010）ほか	Final exam, mid-term essay on a selected issue, and class contribution are evaluated with weights of 60%, 20% and 20%.respectively. 定期試験(60%)、中間レポート（20%）講義への貢献（20%）

（秋） （秋）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	地域メディア論	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱うローカル・メディア（地域メディア）は、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo　Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここではローカル・メディアとしてとりあげたい。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、またどういった機能がそこに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期の後半は、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	１．イントロダクション ２．グローバル化とローカルコミュニティ ３．地域・地方文化の復権とメディア ４．各地のローカル・メディア（１） ５．各地のローカル・メディア（２） ６．各地のローカル・メディア（３） ７．メディアによる地域文化の創造（１） ８．メディアによる地域文化の創造（２） ９．多文化共生とローカル・メディア（１） １０．多文化共生とローカル・メディア（２） １１．災害時におけるローカル・メディアの役割 １２．受講者による発表（１） １３．受講者による発表（２） １４．受講者による発表（３） １５．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房	レポート（50%）と授業内での作品発表（50%） 【履修者多数の場合は期末テストを行う】

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	地域づくり論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 地域が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。 取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	１．イントロダクション ２．地域の発展を理解するための視座（教科書１章） ３．住民参加(participation)の意義と多義性（２章） ４．生ごみリサイクルにみる町づくりの制度構築：山形の事例（３章） ５．地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫の事例（４章） ６．つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） ７．共益から公益の創出へ：ＮＹと東京のドッグランを例として（10 章） ８．スラムとコミュニティ開発：ブラジルの事例（ビデオ） ９．地域づくりと外部者のまなざし：島根の事例（７章） 10．参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11．開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援の事例（11 章） 12．ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13．百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14．アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（８章） 15．まとめ、試験対策

テキスト、参考文献	評価方法
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	地域活性化論 特殊講義 a（地域活性化論）	担当者	尾羽沢　信一

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化、人口減少社会、少子高齢化などの影響を受け、我が国の地方の衰退が加速しています。 東京一極集中が進む中で、地方はこれからどのようにして生き残っていくことができるのかを考えます。 地方都市の中には、地域産業、観光などを基軸に活性化に成功している事例もあれば、人口減少が極度に進み消滅の危機に瀕しているところもあります。 このような状況下で、今後の我が国の地域活性化戦略をどうあるべきなのかを皆さんと一緒に考えます。	1.　講義の概要 2.　我々はどのような社会に生きているのか 3.　地域活性化を巡る課題 4.　人口減少と地域活性化 5.　経済のグローバル化と地域社会 6.　地域産業の現在 7.　地域の暮らしの変質 8.　地域は変われるか 9.　地域のイノベーション 10.　クリエイティブな都市とは何か 11.　地域活性化の事例(1) 12.　地域活性化の事例(1) 13.　地域活性化の事例(1) 14.　残された課題 15.　講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特にありません	評価方法:期末試験の結果(80%)と平常授業における積極的な発言などの実績(20%)

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な**英文ビジネスレター**さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に、英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的な**英文ビジネスレターの書き方**を指導する。また、就職活動に必要な**英文履歴書とカバーレター**の書き方を分かりやすく講義いたします。 **水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） 3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と**練習問題１&解答** 4. よく使用される表現（１―「取引の申込み」） 5. よく使用される表現（２―「引合い」）と**練習問題２** 6. よく使用される表現（３―「オファー」） 7. よく使用される表現（４－「オファーに対する応答」と**練習問題３** 8. **練習問題２＆３の解答・解説** 9. よく使用される表現（４―「信用状」） 10. よく使用される表現（５―「積出し」） 11. よく使用される表現（６―「クレーム」）と**練習問題４** 12. **練習問題４の解答・解説** 13. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方＆**練習問題５** 14. **練習問題５の解答・解説** 15. **実践英文ビジネスレター作成練習問題＆まとめ** 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著　『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則 5 回までとする。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。 **本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。**具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済問題（例えば、**ヨーロッパの経済問題、TPP 等**）について分かりやすく解説・説明していきます。 **水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. 「英字新聞の特徴について（１）」 3. 「英字新聞の特徴について（２）」 4. 「Headline の読み方実践練習（１）」 5. 「Headline の読み方実践練習（２）」 6. 「Lead の読み方実践練習（１）」 7. 「Lead の読み方実践練習（２）」 8. 「Lead の読み方実践練習（３）」 9. 「Lead の読み方実践練習（４）」 10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（３）」 13. 「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 14. 「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則 5 回までとする。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌･インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。 **本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。**具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済問題（例えば、**ヨーロッパの経済問題、TPP 等**）について分かりやすく解説・説明していきます。 **火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. 「英字新聞の特徴について（１）」 3. 「英字新聞の特徴について（２）」 4. 「Headline の読み方実践練習（１）」 5. 「Headline の読み方実践練習（２）」 6. 「Lead の読み方実践練習（１）」 7. 「Lead の読み方実践練習（２）」 8. 「Lead の読み方実践練習（３）」 9. 「Lead の読み方実践練習（４）」 10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（３）」 13. 「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 14. 「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則 5 回までとする。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても**簡単なビジネス英文メール**さえ書けないのが現状である。従って、本講義では、**「ビジネス英文メールの書き方」**を中心にして授業を進めていきます。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的に講義を説明します。初めに、**旅行会社で使用されるビジネス英文メール（営業会議のお知らせ等）**、次に、**貿易会社で使用されるビジネス英文メール（引合い、オファー、信用状決済、積出し等）**、最後に、**ホテルで使用されるビジネス英文メール（宿泊申込み、苦情、苦情への返信等）の書き方等**を分かりやすく講義し、ビジネス英語全般を学んでいきます。 **春学期の講義と併せて履修するとビジネス英語を総合的に勉強することになります。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. 英文ビジネスメールの形式 3. 旅行会社の英文メール① 4. 旅行会社の英文メール② 5. **実践練習問題①** 6. 貿易会社の英文メール① 7. 貿易会社の英文メール② 8. **実践練習問題②** 9. 貿易会社の英文メール③ 10. 貿易会社の英文メール④ 11. **実践練習問題③** 12. **実践ビジネス英文メール作成練習問題④** 13. ホテルの英文メール① 14. ホテルの英文メール② 15. **実践練習問題⑤&まとめ** 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎他著『English for Business 』（DTP 出版、２０１４年） プリント：必要に応じ随時配布する。	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則 5 回までとする。

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
近時、電子メールのやりとりによる輸出入の取引が普及し、法令によって一定期間メールは保存しなければならなくなりました。そのような状況の下で、英文メールによる円滑なコミュニケーション能力、すなわち英語の通信文を正確かつ効果的に作成し読解できるスキルの必要性がいっそう高まっています。そこで、この授業は、時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business　Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することを目標とします。木曜日4時限の同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、必要最低限の実務知識を学習し、その後で下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元における標準的な通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan)と専門語彙(technical terms）を学び、仕上げに通信文の読解と作成の訓練を行って、実務を遂行できる実力を養成します。 なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。 受講レベル：TOEIC600点以上	1. 授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。 4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。 5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。 6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。 7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。 8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。 9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。 10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。 11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。 12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。 13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。 14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。 15. 授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（三訂版)』（三恵社、2013年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009年）	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business　Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。木曜日3時限の同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。 具体的には、契約書などの法律文書に用いられる英語の特徴（法文体、legalese）についての基礎知識を学習した後、工業製品の輸出入を想定して、レター・オブ・インテント、スポット売買契約の表面約款と裏面約款、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏（特に米国）のPlain English Actを遵守して取扱説明書を作成する方法も検討します。 なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。 受講レベル：TOEIC600点以上	1.　授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2.　法律英語（legalese）の特徴および標準的な英文契約書の構成について、実例を用いて学習します。 3.－4.　レター・オブ・インテント（LOI）の意義と目的、作成上の注意点について説明した後、実際のサンプルを検討します。 5.－6.　実際の案件に基づき、LOI 作成の実習を行います。 7.－8.　スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明した後、「表面約款（個別契約条件)」および「裏面約款（一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。 9.－10.長期売買契約書の目的や作成上の注意点について説明した後、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 11.-12.　英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明した後、各種の英文難易度判定公式（readability formula）を用いて現物のサンプルを検討します。 13.-14.　“Plain English”を用いた取扱説明書作成の方略を検討し、実際に英文取扱説明書（の一部）を作成する訓練を行います。 15.　授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、いわゆるロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるよう、貿易実務についての最新の知識を正確、かつ、詳細に勉強することが目標です。 具体的には、貿易の基本概念（basic concepts）に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージ（①貿易マーケティング段階、②取引関係創設段階、③成約段階、④履行段階、⑤決済段階、⑥クレームおよびクレーム調整の段階）に区分して、右記のように、その前半の３段階（①、②、③）に属する種々のテーマを詳しく学習します。履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えただけの現物のビジネス文書に実際に触れてもらい、それらを読解し、あるいは新規に作成する訓練を行って、実務能力を養成します。さらに、税関、経済産業省、JETRO（日本貿易振興機構）などのサイトから、国際取引に関する最新の情報を入手する機会も可能な限り作るつもりです。 なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。 既修条件：英語ビジネス・コミュニケーションを既修または並行履修	1. 授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティング段階(1)：海外市場調査 7. 貿易マーケティング段階(2)：販売戦略調査 8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定、引合いなど 9. 取引関係創設段階(2)：信用調査 10. 成約段階(1)：「一般取引条件」の意義と内訳 11. 成約段階(2)：オファー、承諾、注文など 12. 成約段階(3)：品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)：価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)：船積みと保険に関する条件 15. 授業の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	評価方法
（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009年）	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	ソーシャル・ビジネス論 a 特殊講義 a（ソーシャル・ビジネス論）	担当者	尾羽沢　信一

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ発のグローバル資本主義が世界に様々なひずみを生じさせ、資本主義が終末期を迎えつつあることが指摘されている。 利潤最大化を目的とした営利企業のビジネスが行き詰まりを見せ、これに代わるものとして、社会的課題にビジネスの手法で立ち向かおうとする起業家が増加している。 ソーシャル・ビジネスの扱うテーマは、格差や貧困の解消、社会的弱者の救済、地域の活性化、文化芸術、環境問題、地域福祉など様々であり、そのビジネス手法も多岐にわたる。 本講義では、現代社会においてソーシャル・ビジネスが果たす役割と、直面する課題などについて論ずる。	1. 講義の概要 2. 終末期の資本主義の問題 3. 企業活動の変質 4. ソーシャル・ビジネス(SB)とは何か 5. グローバル資本主義と SB 6. コミュニティにおける SB 7. SB の発展過程 8. SB の抱える課題 9. SB のケーススタディ(1) 10. SB のケーススタディ(2) 11. SB のケーススタディ(3) 12. SB のケーススタディ(4) 13. SB は社会課題解決の切り札となりうるか 14. SB はビジネスとして継続可能か 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にありません	評価方法:期末試験の結果(80%)と平常授業における積極的な発言などの実績(20%)

13 年度以降 12 年度以前	ソーシャル・ビジネス論 b 特殊講義 b（ソーシャル・ビジネス論）	担当者	尾羽沢　信一

講義目的、講義概要	授業計画
「ソーシャル・ビジネス論a」に続いて、この講義では、実際にソーシャル・ビジネスに関与してみようという関心を持つ学生を対象に、具体的方法論を伝える。 講義には、対話型形式、ワークショップ形式を取り入れ、受講生がより具体的にSBに疑似的参画できるよう工夫する。	1. 講義の概要 2. SB と企業の本質 3. 社会的起業とは何か 4. 社会のニーズ、市場のニーズを把握する 5. 事業戦略を策定する 6. 事業計画を作ってみる(1) 7. 事業計画を作ってみる(2) 8. 事業計画を作ってみる(3) 9. 事業計画を作ってみる(4) 10. 各自の事業計画の評価(1) 11. 各自の事業計画の評価(1) 12. マーケティングと資金計画の重要性 13. 自分で起業するには何が必要か 14. SB のノウハウについての質疑応答 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にありません	評価方法:期末試験の結果(80%)と平常授業における積極的な発言などの実績(20%)

（春） （春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	メディア英語	担当者	小林　哲也 （コーディネイター）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は Japan Times 社と提携したメディア英語のための講座である。授業は、基本的に英語で行われる。 This course is intended to make students more familiar with English media and its role in society. After an introductory three weeks, the course will focus on the following areas: ● How Japan is presented abroad. ● Current Topics(domestic) ● Current Topics(international) Course materials will include newspaper articles, video, advertisements and social media. The goals of the course are as follows: ● To help foster students' media literacy. ● To enhance their reading comprehension and listening comprehension. ● To develop students' speaking and discussion skills. ● To learn how to gather, assess and present information. Students are expected to take an active part in discussion and other class activities.	1．Orientation / Introduction 2．Listening to and watching the news 3．Speculating about and reading the news 4．Japan from abroad: Part 1 5．Japan from abroad: Part 2 6．Japan from abroad: Part 3 7．Japan from abroad: Part 4 8．Guest speaker(a reporter from Japan Times) 9．Current Topics(Domestic): Part 1 10．Current Topics(Domestic): Part 2 11．Current Topics(Abroad): Part 3 12．Current Topics(Abroad): Part 4 13．Current Topics(Abroad): Part 5 14．Guest speaker (an editor of the Japan Times) 15．You decide! Students should have all assignments completed by each deadlines.

テキスト、参考文献	評価方法
授業中にプリントを配布する	Participation 30%, Discussion 20%, Reading 20%, Writing 30%

13 年度以降 12 年度以前	地域生態論 a 特殊講義 a（地域生態論）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
生物と環境の関係を生態系などの概念を用いて追求する自然生態学が提唱されるに及んで、地理学・地誌学は人間と環境の関係を論じる「地域生態論」であるとの主張がなされた。自然生態学にならって、人間社会をこのようなシステム概念を用いて捉えたり、気候、水、土壌、生物、人間の複雑な諸関係を物質とエネルギーの循環の観点からとらえたりする説明方法が取り入れられている。 本講義では地域差が自然環境と経済環境、および社会環境と文化環境がどのように関連して生み出されてきたのかを、地理学・地誌学の視点から地域生態システムとして明らかにする。まず、環境の諸要素を概観し、特に気候・植生の特色、成因、構造について学習する。その後、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式をスライド、ＶＴＲを用いながら説明する。基本的には、そのような資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となる。	1.　オリエンテーション－講義の概要 2.　地域生態論とは－地理学と地誌学 3.　環境の諸要素(1) 気候環境 4.　環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温 5.　環境の諸要素(3) 植生 6.　熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 7.　熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 8.　熱帯地域(3)熱帯林の保全 9.　沙漠地域(1)自然的特色 10.　沙漠地域(2) 文化的特色と伝統的経済活動 11.　沙漠地域(2)石油資源と近代化、沙漠の開発 12.　亜寒帯森林地域(1)タイガの自然と生活 13.　亜寒帯森林地域(2)タイガの森林開発 14.　亜寒帯森林地域(3)タイガの地下資源開発 15.　講義のまとめ－自然生態系と社会生態系
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房	評価方法：期末試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	地域生態論 b 特殊講義 b（地域生態論）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
「地域生態論 a」に続いて、「地域生態論 b」では人間社会をシステム概念を用いて捉え、地形の成因、構造、人間生活とのかかわりを学習し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。 地域差が自然環境と経済環境、および社会環境と文化環境がどのように関連して生み出されてきたのかを、地理学・地誌学の視点から地域生態システムとして明らかにする。その際にスライド、ＶＴＲを用いながら説明する。基本的には、そのような資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となる。地域における資源や環境の持続的な利用の仕組みを明らかにするためには、それらの資源の存在形態や存在意義を的確に捉える必要がある。	1．オリエンテーション－講義の概要 2．環境の諸要素－地形環境 3．山地地域(1)　山地の自然環境 4．山地地域(2)　高度帯の利用と伝統的生業 5．山地地域(3)　山地資源の開発と観光化 6．地中海森林地域の特性 7．地中海地域の生活様式－西欧文化の原点 8．温帯草原地域の自然特性 9．温帯草原地域の開発と環境問題 10. 温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 11. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 12. 温帯混合林地域(3) 産業の発展と都市問題 13. 世界の環境問題－地球環境問題の諸相 14. 世界の環境問題－環境破壊と保全 15. 講義のまとめ－持続可能な生活様式
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房	評価方法：期末試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	環境ビジネス論 a 特殊講義 a（環境ビジネス論）	担当者	山根　一眞

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的： 　私たちの文明は、人類史上経験したことのないほど豊かな繁栄を実現しました。しかし、その文明のありようは危機的な破綻を始めています。豊かさを維持しながら持続可能な発展を続けていくためには、まったく新しい環境を基軸にした経済システムを構築していく必要があります。それは、私たちにとってまったく新しい、わくわくするような挑戦です。1997 年、私は、ジャーナリストとしてこの問題を取材する一方で、環境を基軸にした新しい産業革命「環業革命」を提唱、国内外でその実現を訴えてきました。講義では、この環業革命をふまえながら、幅広く科学・技術分野での企業を中心とした熱い挑戦を伝えます。 授業概要： 　授業では、40 年にわたってジャーナリストとして世界各国、日本各地で取材を続けてきた映像や写真記録を投影しながら進め、「実感」をもって環境ビジネスの世界を学ぶことを目指します。また、最新の取材成果も授業で報告します。	授業計画： （以下の内容を含める予定ですが最新の取材調査成果を随時、報告、解説します） 【原子力発電所】 　福島第一原子力発電所の現場報告と廃炉ロボット企業の取り組み 【地球環境史】 　恐竜絶滅から哺乳類、人類時代と地球環境 【産業革命】 　石炭による蒸気機関が世界経済を変えた産業革命 【石油文明と地球環境】 　石油ビジネスの構図と地球温暖化 【自動車と水素社会】 　ハイブリッドカーから燃料電池カーへのトレンド 【地球資源】 　アマゾン巨大鉱山、そして製鉄メーカーのダイナミズム 【温暖化対策】 　1992年リオ地球サミットに始まった温暖化防止施策と課題 【巨大気象災害】 　集中豪雨洪水などの現場報告と地域、自治体の対応 【森林喪失】 　アマゾン&インドネシアの森林開発と日本企業のエコビジネス 【省エネ技術】 　世界一の省エネ工場やスマートシティ構築の現場報告
テキスト、参考文献	**評価方法**
『環業革命』（山根一眞著・講談社・大学内 丸善書店に在庫あり） 『文庫版・メタルカラーの時代 14・クールアースの創世記』（山根一眞著・小学館）、『メタルカラー烈伝 温暖化クライシス』（山根一眞著・小学館）	レポート

13 年度以降 12 年度以前	環境ビジネス論 b 特殊講義 b（環境ビジネス論）	担当者	山根　一眞

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的： 春学期に準じます。 授業概要： 春学期に準じます。	授業計画： 授業には、最新の取材成果を取り入れているため、 新しいテーマが随時、追加されます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じます。	春学期に準じます。

13年度以降	環境法a	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 環境に関わる紛争や立法･政策を素材に、発展途上にある環境法の現段階を明らかにしてゆくとともに、法律学が環境保全にどのような機能を果たし得る課を考察する。 〔講義概要〕 公害･環境問題の性質･歴史およびそれに対する環境法の発展を概観した上で、主として、環境紛争の法的解決の手法を素材に、環境法の救済法としての側面を検討する。	1 講義の概要 2 公害･環境問題の性質と法律学の関わり 3 公害･環境法制度の発展過程① 4 公害･環境法制度の発展過程② 5 公害民事賠償の理論と裁判例① 6 公害民事賠償の理論と裁判例② 7 環境問題と国家賠償① 8 環境問題と国家賠償② 9 民事差止めの理論と裁判例① 10 民事差止めの理論と裁判例② 11 環境行政訴訟をめぐる諸問題① 12 環境行政訴訟をめぐる諸問題② 13 被害者救済制度・紛争処理制度 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 阿部・淡路編『環境法』第4版有斐閣2011年 『環境法判例百選』第2版有斐閣2011年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13年度以降	環境法b	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 環境に関わる紛争や立法･政策を素材に、発展途上にある環境法の現段階を明らかにしてゆくとともに、法律学が環境保全にどのような機能を果たしうるかを考察する。 〔講義概要〕 環境法の原則、手法、考え方などその基礎的な構造を検討するともに、最近増加している個別的な環境保全の法制度の内容と機能を分析する。	1 講義の概要 2 環境権、自然の権利 3 環境基本法･環境基本計画 4 環境保全の法的手法 5 環境影響評価 6 公害･環境規制法① 7 公害･環境規制法② 8 公害･環境規制法③ 9 化学物質管理法 10 廃棄物･リサイクル法制① 11 廃棄物･リサイクル法制② 12 自然環境保全① 13 自然環境保全② 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 阿部・淡路編『環境法』第4版有斐閣2011年 『六訂ベーシック環境六法』第一法規2014年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13年度以降	国際環境法 a	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては３年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては２年生以上に開講される。国際教養学部の２年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。	1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年 『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13年度以降	国際環境法 b	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては３年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては２年生以上に開講される。国際教養学部の２年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。	1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題①オゾン層 4 地球大気圏・気候変動問題②気候変動枠組条約 5 地球大気圏・気候変動問題③京都議定書 6 海洋環境の保全①総論 7 海洋環境の保全②船舶起因 8 海洋環境の保全③海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射能と環境 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2011 年 『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13 年度以降 12 年度以前	国際公共政策論 a 特殊講義 a（国際公共政策論）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）国際公共政策論では、一国のみでは解決困難な経済社会問題に対して、より良い状況を生み出すために各国が広域的・地球規模で協力して行うべき政策・機関・枠組みの形成等について学びます。 国際相互依存が高まり制度・政策の調整が必要な現在、「国際公共政策論 a」では、国際公共政策に応用可能な国際政治、国際経済、公共財、経済成長などの基礎理論を学んだ上で、国際経済政策・政策協調の態様を、国際経済協力・貿易・通貨金融・環境などの普遍的・地域的国際機関や協力の枠組みに焦点をあてながら検討します。 **（講義概要）**講義形式。ただし学生への質疑応答を重視します。国際公共政策の策定・評価に用いる経済理論を復習した上で、国際公共政策の核となっている国際機関の一般的な態様について学習します。その後、貿易・通貨金融・環境など個別の国際公共政策を形成している国際機関・協力の枠組みについて学びます。担当教員の実務経験を踏まえた講義とします。	授業計画 第１回：イントロダクション 第２回：国際政治と国際公共政策 第３回：マクロ経済学と国際公共政策（国際金融論等） 第４回：ミクロ経済学と国際公共政策（国際貿易論等） 第５回：経済成長理論と国際公共政策（開発援助論等） 第６回：国際政策協調と国際機関（国際相互依存等） 第７回：国際機関概説（分類・設立動因等） 第８回：国際機関の構造・機能・意思決定 第９回：国際公共財としての国際機関 第 10 回：国際経済協力の枠組み（G20 、ASEAN+3 等） 第 11 回：貿易面の国際協調（1）（WTO 等） 第 12 回：貿易面の国際協調(2)（FTA,等） 第 13 回：通貨・金融面の国際協調(1)（IMF 等） 第 14 回：通貨・金融面の国際協調(2)（CMI、ABMI 等） 第 15 回：持続可能な成長のための国際協調（GEF 等）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは用いず､授業の各回に講義のレジメを配布する/参考文献：最上敏樹『国際機構論』、横田洋三『新国際機構論』、橋本他『国際金融論をつかむ』ほか	講義への貢献（20%）、中間レポート（２０%）、定期試験（60%）により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	国際公共政策論 b 特殊講義 b（国際公共政策論）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）国際公共政策論では、一国のみでは解決困難な経済社会問題に対して、より良い状況を生み出すために各国が広域的・地球規模で協力して行うべき政策・機関・枠組みの形成等について学びます。 アジアなど新興国が高成長を示す一方、途上国間の格差が大きくなる中、「国際公共政策論 b」では、国際公共政策の一つである開発援助に焦点を当て、開発途上国の実態、近年の国際援助潮流、ドナー間の援助協調、地球環境保全などのための国際公共財援助、内戦の経済効果と紛争後支援、東アジアへの高齢化対策支援、我が国援助の開発効果などを詳細に検討します。 **（講義概要）** 講義形式。ただし学生への質疑応答を重視します。 開発援助の概念・基礎を説明した上で、開発援助協力の各トピックについて、理論・実証結果・援助実態を理解できるようバランスよく講義します。担当教員の実務経験を踏まえた講義とします。	授業計画 第１回：開発援助概観（1）（開発途上国･開発援助って何?） 第２回：開発援助概観（2）（開発援助アキテクチュア等） 第３回：開発援助の新潮流（1）（制度政策環境の重視等） 第４回：開発援助の新潮流（2）（脆弱国支援、債務問題等） 第５回：援助協調の政治経済学（1）（援助動機、協調の理論等） 第６回：援助協調の政治経済学（2）（援助協調の実態等） 第７回：国際公共財援助（1）（国際公共財援助の理論等） 第８回：国際公共財援助（2）（地球環境、GMS 等） 第９回：内戦の開発経済学と紛争後支援（1）（理論等） 第 10 回：内戦の開発経済学と紛争後支援（2）（実証等） 第 11 回：高齢化する東アジア（1）（現状・要因、影響等） 第 12 回：高齢化する東アジア（2）（金融市場・協力等） 第 13 回：援助効果（1）（援助と成長、短期成長促進援助） 第 14 回：援助効果（2）（援助の拡散・細分化等） 第 15 回：まとめ、援助を巡る国際政治と経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：木原隆司『援助ドナーの経済学』2010 年（授業の各回に講義のレジメを配布します） 参考文献：西垣他『開発援助の経済学』（第 4 版）2009 年	講義への貢献（20%）、中間レポート（20%）、定期試験（60%）により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	国際開発論 a 特殊講義 a（国際開発論）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）国際開発論では、開発経済学のみならず開発社会学・開発政治学等を用いて経済発展に伴う開発課題を分析し、持続可能（Sustainable）ですべての人々にその恩恵が行き渡る（Inclusive）開発のための戦略・政策を検討することにより、開発途上国の経済・社会・制度上の問題と処方箋を包括的に理解します。 「国際開発論 a」では、貧困・ガバナンス・社会開発などの開発問題に対する経済学、政治学、社会学等のアプローチ手法を学ぶとともに、これらの理論や実証分析を基に、成長、貧困、格差、制度、財政、金融、資金フローなどのマクロ経済的な開発課題を検討します。 **（講義概要）**講義形式。ただし学生への質疑応答を重視します。開発途上国の概要を学んだ上で、国際開発論への経済学・政治学・社会学からのアプローチを検討し、途上国の成長・貧困・マクロ経済政策・国際金融への適用を学びます。担当教員の実務経験を踏まえた講義とします。	授業計画 第 1 回：　イントロダクション 第 2 回：開発途上国とは（一人当たり GDP,人口等） 第 3 回：国際開発論とはー開発経済学からのアプローチ（1） 第 4 回：国際開発論とはー開発経済学からのアプローチ（2） 第 5 回：国際開発論とはー開発政治学からのアプローチ 第 6 回：国際開発論とはー開発社会学からのアプローチ 第 7 回：経済成長論（1）（新古典派成長理論等） 第 8 回：経済成長論（2）（内生的成長理論等） 第 9 回：貧困と格差（1）（所得分配（ジニ係数）等） 第 10 回：貧困と格差（2）（クズネッツの逆 U 字等） 第 11 回：　マクロ経済・財政・金融システムと開発（1） 第 12 回：マクロ経済・財政・金融システムと開発（2） 第 13 回：国際金融と開発（1）（国際収支等） 第 14 回：国際金融と開発（2）（対外債務等） 第 15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは用いず､授業の各回に講義のレジメを配布します/　参考文献：大坪等『国際開発学入門』、Todaro & Smith *Economic Development* ほか	講義への貢献（20%）、中間レポート（20%）、定期試験（60%）により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	国際開発論 b 特殊講義 b（国際開発論）	担当者	木原　隆司

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）国際開発論では、開発経済学のみならず開発社会学・開発政治学等を用いて経済発展に伴う開発課題を分析し、持続可能（Sustainable）ですべての人々にその恩恵が行き渡る（Inclusive）開発のための戦略・政策を検討することにより、開発途上国の経済・社会・制度上の問題と処方箋を包括的に理解します。 「国際開発論 b」では、人口動態・都市化、農業・産業化、教育、医療保健、労働、人的資本、貿易・投資など社会セクターや開発のミクロ経済的側面のほか、環境（持続可能な開発）、紛争（内戦）、開発政策と援助などについて検討します。 **（講義概要）**講義形式。ただし学生への質疑応答を重視します。国際開発論への経済学・政治学・社会学からのアプローチを復習した後、途上国の人口動態、産業構造、人的資本、環境、貿易・投資問題への適用を学び、最後に持続可能な開発政策・援助政策を検討します。担当教員の実務経験を踏まえた講義とします。	授業計画 第 1 回：　イントロダクション 第 2 回：国際開発論へのアプローチ（前期の復習） 第 3 回：人口動態・都市化と開発（1）（人口転換等） 第 4 回：人口動態・都市化と開発（2）（人口移動等） 第 5 回：農業・産業化と開発（二重構造経済発展等） 第 6 回：人的資本と開発（1）（教育、ジェンダー等） 第 7 回：人的資本と開発（2）（保健・医療等） 第 8 回：環境と開発（1）（持続可能な開発等） 第 9 回：環境と開発（2）（都市環境、地球温暖化等） 第 10 回：貿易・投資と開発（1）（貿易構造等） 第 11 回：貿易・投資と開発（2）（直接投資等） 第 12 回：紛争と開発（内戦の開発経済学等） 第 13 回：開発政策の策定（開発戦略、MDB s 等） 第 14 回：開発援助の役割と効果（ODA 等） 第 15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは用いず､授業の各回に講義のレジメを配布します/　参考文献：Todaro&Smith *Economic Development*、大坪等『国際開発学入門』、ほか	講義への貢献（20%）、中間レポート（20%）、定期試験（60%）により評価します。

13年度以降	開発社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。 グローバルとローカルなものの対抗･交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、Ｊ.フリードマン『市民・政府・ＮＧＯ』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバーグホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』	１．講義の概要 ２．豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か ３．近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 ５．教育・学び・文化 ６．ジェンダーとフェミニズム ７．宗教と社会開発 NGO ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略 ９．開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	国際 NPO 論 a 特殊講義 a（国際 NPO 論）	担当者	長瀬　理英

講義目的、講義概要	授業計画
国際的なNPO(Non-Profit Organization：非営利組織)またはNGO(Non-Governmental Organization：非政府組織)について、世界各地の具体的な事例を基に、「Non／非」がついている意味、すなわち政府や企業の取り組みとの違いについて考察しながら理解を深めます。具体的な事例は主に、①人道支援（自然災害および紛争)、②開発協力および③マイクロファイナンス／ソーシャルビジネス／ BOPビジネスの分野からとりあげます。 国際NPO／NGOが関わるアクターには、援助する側の政府／国際機関、民間企業、市民社会などだけでなく、援助を受け取る側の政府、NGOおよび市民社会、CBO(Community-based Organization：地域社会組織)／PO(People’s Organization：民衆組織)／援助を受ける当事者がいます。これらのアクターの関係にも目を配りながら、特に当事者にとってどのような効果や影響が生じているかについて議論、検討を加えます。 そして、国際NPO／NGOが果たしている意義・役割およびその変化について、具体的な文脈から理解するとともに、「Non／非」の視点から批判的に検討していきます。	1. イントロダクション／オリエンテーション 2. 国際 NPO とは何か 3. 人道支援の実際(1)：自然災害と NPO 4. 人道支援の実際(2)：紛争と NPO 5. 人道支援の実際(3)：各アクターの取り組み比較と当事者に対する効果・影響 6. 人道支援の実際(4)：国際 NPO の取り組みに関する評価 7. 開発協力の実際(1)：メコン河流域住民の生活 8. 開発協力の実際(2)：大メコン圏(GMS)地域経済協力プログラム 9. 開発協力の実際(3)：各アクターの取り組み比較と当事者に対する効果・影響 10. 開発協力の実際(4)：国際 NPO の取り組みに関する評価 11. ソーシャルビジネスの実際(1)：フェアトレード 12. ソーシャルビジネスの実際(2)：マイクロファイナンス 13. ソーシャルビジネスの実際(3)：隣接するアプローチとの関係 - CSR と BOP 14. ソーシャルビジネスの実際(4)：NPO の意義と役割 15. 国際 NPO に関するまとめと将来展望
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリントを配布。	平常点 30%、期末レポート 70%

13 年度以降 12 年度以前	国際 NPO 論 b 特殊講義 b（国際 NPO 論）	担当者	長瀬　理英

講義目的、講義概要	授業計画
「国際 NPO 論 a」では、実際に現場で起きていることを考察しながら、国際 NPO は何かについて理解を深めますが、この講義では、具体的な事例を踏まえながらも理論的な背景について考察していきます。 すなわち、「貧困」をテーマに取り上げ、国際機関・援助国、学界、NPO を含む実践者らが「貧困」に取り組むアプローチを比較します。主なアプローチには、主流にある所得（経済成長）アプローチ、新しい枠組みを提供しているケイパビリティ・アプローチおよびこれに基づく「人間開発」や具体的な実践として国際 NPO を中心に取り組まれている「持続可能な生計」、「資産に基づくアプローチ」のほか、「権利に基づくアプローチ」があります。 また、こうした貧困層に対する直接支援のほかに、アドボカシーとして政府や企業の政策／方針に影響を与えていくアプローチも検討します。 さらに近年は、これまでのアプローチを越えて企業と協働するアプローチや、社会運動とグローバルに協働するアプローチも検討します。 これらのアプローチを比較検討するうえでは、概念的な把握だけでなく、具体的な事例を踏まえ、各々のアプローチが実際に生じている問題を解決するうえでどのように有効か、または有効でないかについて議論します。	1. イントロダクション／オリエンテーション 2. 国際 NPO とは何か、「貧困とは何か」(1)：グローバル化とアフリカ・ヴィクトリア湖周辺住民の生活① 3.「貧困とは何か」(2)：同上② 4. 所得アプローチの視点と取り組み(1)：「貧困の罠」とミレニアム・ビレッジ・プロジェクト 5. 所得アプローチの視点と取り組み(2)：国際 NPO BRAC の最貧困層へのアプローチ 6. ケイパビリティ・アプローチの視点と取り組み 7. 同上(2)および演習 8. ケイパビリティ・アプローチに基づく人間開発 9. 開発協力型国際 NPO の取り組み(1)：持続可能な生計 10. 開発協力型国際 NPO の取り組み(2)：資産に基づくアプローチ 11. 開発協力型国際 NPO の取り組み(3)：権利に基づくアプローチ 12. アドボカシー型国際 NPO の取り組み(1)：Global Call to Action against Poverty 13. アドボカシー型国際 NPO の取り組み(2)：企業の社会的責任（CSR） 14. これまでの国際 NPO を越えて(1)：ソーシャルビジネスと BOP ビジネス 15. これまでの国際 NPO を越えて(2)：世界社会フォーラム
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリントを配布。	平常点 30%、期末レポート 70%

13年度以降	国際経済法a	担当者	宗田　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済法の中核を占めるGATT/WTOについての基本的知識の習得を目的とする。 この目的を達成するために、本講義では、図、表、グラフ、等を用いて、極めて基本的な事柄から、分かり易く解説を行う。 この分野は、事例の検討が不可欠であるので、ケーススタディを積極的に取り入れる。 WTO に関連する新聞記事も頻繁に取り上げ、講義で取り扱っている事柄との関連性や重要性を指摘する。 大学のカリキュラムは、各回の講義の予習復習に4時間程度必要としている。これを前提に受講されたい。 講義に出席することは当たり前であり、これが出来ない者は、単位を取得できない可能性が大いにある。 レポートは、講義に出席していれば答えられる問題に正解できない場合には、単位を取得できないこととなるものである。	1　導入 2　GATT/WTOとは 3　GATTの誕生、ブレトンウッズ体制 4　関税とは、GATTの基本原則①（関税の譲許）I 5　GATTの基本原則①（関税の譲許）II 　GATTの基本原則②（数量制限の禁止）I 6　GATTの基本原則②（数量制限の禁止）II 7　GATTの基本原則③（最恵国待遇の原則）I 8　GATTの基本原則③（最恵国待遇の原則）II 9　GATTの基本原則④（内国民待遇の原則）I 10　GATTの基本原則④（内国民待遇の原則）II 11　貿易救済措置①（ダンピング/アンチダンピング）I 12　貿易救済措置①（ダンピング/アンチダンピング）II 13　貿易救済措置②（補助金と相殺関税）I 14　貿易救済措置②（補助金と相殺関税）II 15　貿易救済措置③（セーフガード）、総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
田村次朗『WTOガイドブック（第2版）』弘文堂2009年	レポート

13年度以降	国際経済法b	担当者	宗田　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際経済法の基本的事項の習得および、比較的詳細な事項の習得を目的とする。 この目的の達成のために、GATT/WTO の基本原則とその例外について、実際に生じた具体的なケースを取り上げて解説を行う。 解説においては、適宜、図、表、グラフ等を用いる。 WTO 関連の事例に関する最新の新聞記事も紹介して、理解の助けとする。 また､GATT/WTOと共に近年重要性を増しているFTA、EPAについても、図、グラフ等を用いて、分かり易く解説を行う。 春学期の国際経済法を受講していることが望ましいが、必須の条件ではない。 大学のカリキュラムは、各回の講義の予習復習に4時間程度必要としている。これを前提に受講されたい。 講義に出席することは当たり前であり、これが出来ない者は、単位を取得できない可能性が大いにある。 レポートは、講義に出席していれば答えられる問題に正解できない場合には、単位を取得できないこととなるものである。	1　導入～GATT/WTOの基本原則と例外～ 2　ケーススタディ①（数量制限の禁止） 3　ケーススタディ②（最恵国待遇の原則） 4　ケーススタディ③（内国民待遇の原則） 5　ケーススタディ④（アンチダンピング） 6　ケーススタディ⑤（セーフガード） 7　ケーススタディ⑥（補助金と相殺関税） 8　WTOの直接適用 9　アメリカ1914年反不当廉売法と日欧の対抗立法 10　FTA、EPA、TPP 11　アメリカ反トラスト法 12　EU競争法、日本の独禁法 13　各国・地域の独禁法の域外適用 14　各国・地域間の独禁法執行協定 15　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
田村次朗『WTOガイドブック（第2版）』弘文堂2009年	レポート

13 年度以降	国際政治経済学 a	担当者	中島　晶子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係の歴史と理論、国際政治と国際経済が連動する構造について、基本的な見方や枠組みを理解することを目的とします。 国際関係論は、大きな惨禍をもたらした第一次世界大戦の衝撃を受け、国際事象を総合的に把握するための学問として発展してきました。 国際関係の重要な課題は、1960 年代半ば頃まで冷戦構造における軍事的な安全保障でしたが、1960 年代末から冷戦構造が多極化に向かうにつれ、経済的問題の重要性が増すようになりました。 特に冷戦の終結後、国際経済秩序の再編、旧ソ連・東欧諸国の資本主義への体制移行をはじめとする多くの争点が続いて現れ、その傾向は強まりました。さらに、グローバリゼーションをめぐる議論の高まりで、国際政治と国際経済の相互作用や統合がますます国際関係の中心テーマになっています。 講義では国際関係の見方について、歴史および政治経済の連動の観点から概説します。	1. イントロダクション 2. 主権国家の誕生 3. ナショナリズムと帝国主義の時代 4. 第一次世界大戦 5. 第二次世界大戦 6. 冷戦からポスト冷戦へ(1) 7. 冷戦からポスト冷戦へ(2) 8. 地域紛争(1) 9. 地域紛争(2) 10. 国際関係学の理論(1) 11. 国際関係学の理論(2)) 12. 国際関係学の理論(3) 13. 国際政治と国際経済の連動(1) 14. 国際政治と国際経済の連動(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原彬久編『国際関係学講義［第 4 版］』（有斐閣、2011 年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。	期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。

13 年度以降	国際政治経済学 b	担当者	中島　晶子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係の諸課題、国際社会からみた日本について理解することを目的とします。 国際関係は「国と国の関係」にとどまりませんが、現在は一層多様化し、複雑さを増しています。「国際関係論 b」に続いて、この講義では、今日の国際社会における主な課題や論点を概観します。 まず、地球上の人類社会を脅かすグローバルな課題群をとりあげます。各課題については要点を絞り、相互の関連性をより重視して概説します。 つぎに、国際社会における国家以外の多様な行為主体をとりあげ、その役割について概説します。 最後に、戦後日本の国際関係の展開をみます。国際社会と自身の関わりについて考える手がかりとしてください。	1. イントロダクション 2. 安全保障と国際関係(1) 3. 安全保障と国際関係(2) 4. 地球環境と国際関係(1) 5. 地球環境と国際関係(2) 6. 第三世界と国際関係(1) 7. 第三世界と国際関係(2) 8. 国連の役割 9. 地域主義 10. 脱国家主体 11. 日本の外交(1) 12. 日本の外交(2) 13. 日本の外交(3) 14. 日本の国際協力) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原彬久編『国際関係学講義［第 4 版］』（有斐閣、2011 年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。	期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。

13年度以降	国際協力論a	担当者	片岡　貞治

講義目的、講義概要	授業計画
論理的思考に基づく理論的枠組の構築と現実の国際社会の政治現象の実証的分析とが有機的に組み合わされた形で研究が行われることが不可欠である。 国際社会とは何か、国際社会における様様なアクターとは何かを理解した上で、「国際協力」を理論的に定義し、考察していく。法学部の学生に対しては、授業を通して、国家とは何か、国際社会とは何かを理解し、国際協力に関する基本的な知識と意識を会得し、現代国際社会の様々な政治経済現象を自分なりに理解し、実証的に分析し､政治、経済の両面における現在の国際協力のあり方について自分なりの意見を持って貰うことを目的としていく。 前期は、経済面における国際協力、即ち、経済協力及び開発援助政策についての分析を行う。	①　イントロダクション ②　発展途上国問題と国際開発 ③　日本の経済協力政策の史的展開（1） ④　日本の経済協力政策の史的展開（2） ⑤　日本の経済協力政策決定形成過程 ⑥　日本の経済協力政策の今後の課題 ⑦　主要国の経済協力政策I（米国、イギリス） ⑧　主要国の経済協力政策II（フランス、EU等） ⑨　多国間開発援助の仕組み ⑩　国際社会における援助協調のあり方 ⑪　グローバリゼーションと開発 ⑫　ガバナンスと開発 ⑬　MDGsとSDGss ⑭　今後の課題 ⑮　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。	試験、授業態度等で総合的に判断する。

13年度以降	国際協力論b	担当者	片岡　貞治

講義目的、講義概要	授業計画
論理的思考に基づく理論的枠組の構築と現実の国際社会の政治現象の実証的分析とが有機的に組み合わされた形で研究が行われることが不可欠である。 国際社会とは何か、国際社会における様様なアクターとは何かを理解した上で、「国際協力」を理論的に定義し、考察していく。法学部の学生に対しては、授業を通して、国家とは何か、国際社会とは何かを理解し、国際協力に関する基本的な知識と意識を会得し、現代国際社会の様々な政治経済現象を自分なりに理解し、実証的に分析し､政治、経済の両面における現在の国際協力のあり方について自分なりの意見を持って貰うことを目的としていく。後期は、政治面の国際協力、即ち、国際平和協力、国連の集団的安全保障の問題、集団的自衛権、PKO、多発する紛争や内戦の予防・解決の試み、分析を行う予定である。	①　国連システム ②　集団的安全保障（1） ③　集団的安全保障（2） ④　集団的安全保障（3） ⑤　集団的自衛権（1） ⑥　集団的自衛権（2） ⑦　集団的自衛権と日本 ⑧　朝鮮戦争 ⑨　湾岸戦争 ⑩　湾岸戦争と日本の対応 ⑪　集団的安全保障の変形としての国連平和維持活動 ⑫　国際平和協力 ⑬　9.11テロ攻撃、イラク戦争と日本 ⑭　アフガニスタン、リビア、積極的平和主義 ⑮　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。適宜講義中に配布	試験、授業態度等で総合的に判断する。

13 年度以降	国際組織論 a	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部や経済学部の学生が履修する場合は 2 年生以上で受講することをお勧めします)。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1　はじめに 2　国際組織と国際法 3　紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4　紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5　安全保障に関わる国際組織（1） 6　安全保障に関わる国際組織（2） 7　軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8　人権問題にかかわる国際組織 9　人道・難民問題に関わる国際組織 10　国際貿易・国際金融に関わる国際組織 11　開発援助と南北問題に関わる国際組織 12　教育・文化に関わる国際組織 13　国際保健に関わる国際組織 14　海洋に関わる国際組織 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト : 大森正仁編著『よくわかる国際法（第 2 版）』(ミネルヴァ書房)	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13 年度以降	国際組織論 b	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する講義を提供することを目的とします。 〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義は、国際法や国際組織法 1 を履修していなくても履修できます(主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します)。 また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1　はじめに 2　国際組織の概念と歴史 3　国際法の基礎知識 4　国際組織の設立と解散 5　国際組織の国際法上の地位 6　国際組織の国内法上の地位 7　国際組織と加盟国 8　国際組織間の連携・協力 9　国際組織と NGO（民間団体） 10　国際公務員 11　国際組織の意思決定 12　国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13　国際組織に関する事例研究(1) 14　国際組織に関する事例研究(2) 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、参考文献として大森正仁編著『よくわかる国際法(第 2 版)』(ミネルヴァ書房, 2014 年)、杉原『基本国際法　第 2 版』(有斐閣,2014 年)、横田編『国際社会と法』(有斐閣，2010 年)等を参照してください。	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

シラバス 経済学部

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1657

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	